

平成17年度 水産庁補助事業  
水産物安全・安心消費推進対策事業  
(水産物消費嗜好動向調査)

## **水産物を中心とした消費に関する調査**

**～内食・外食・中食における消費実態とニーズ～**

平成18年3月

**社団法人 大日本水産会**

平成17年度 水産庁補助事業  
水産物安全・安心消費推進対策事業  
(水産物消費嗜好動向調査)

## 水産物を中心とした消費に関する調査

～内食・外食・中食における消費実態とニーズ～

水産物をはじめ、次に、美味しい食べていただきたい。人々の健康や満足に貢献できることを目指して、インターネットを使って全国的な規模で、幅広い調査を行いました。

この調査結果が、手前のマーケティングや流通の現場で、お役に立つことが出来れば、幸甚です。

社団法人 大日本水産会

平成18年3月

社団法人 大日本水産会

## はじめに

日本人の食生活に重要な役割を果たしてきた水産物の消費は、もっと水産物を食べたいとの人々の意識とは裏腹に伸び悩みを続けているのは何故でしょうか。

文部科学省をはじめ、政府関係機関は、いまや「食」も教育と捕らえて、いわゆる「食育」の取り組みを始めています。又、食の安全性に対する消費者の関心は益々高まってきております。この様な中で、人々に水産物をもっと沢山食べていただくためには、どうしたら良いのでしょうか？

今回は、外食、中食、内食全てにわたり、水産物に対する嗜好の動向を調査し、皆様のビジネスの参考として供するものです。

水産物をもっともっと、沢山、美味しく食べていただきて、人々の健康や満足に貢献できることを祈念して、インターネットを使って全国的な規模で、幅広い調査を行いました。

この調査報告書が、実際のマーケティングや流通の現場で、お役に立つことが出来れば、幸甚です。

社団法人 大日本水産会

## 一 目 次

### I 総合分析

調査概要 .....	3
調査結果概要 .....	4
1. 食生活における水産物の消費動向とニーズ .....	5
2. 外食・中食における水産物の消費動向とニーズ .....	12
3. 水産物消費拡大に向けて .....	17

### II ウェブアンケート調査結果

1. ウェブアンケート調査概要 .....	23
2. 調査結果 .....	24
2-1 回答者のプロフィール .....	24
2-1-1 性 .....	24
2-1-2 年齢 .....	25
2-1-3 職業 .....	26
2-1-4 小学生または中学生の子どもの有無 .....	27
2-1-5 居住地域 .....	29
2-1-6 家族構成・家族数 .....	30
2-1-7 世帯年収 .....	32
2-2 日ごろの食生活における水産物の消費実態とニーズ .....	33
2-2-1 日ごろの食生活(肉料理派か魚介料理派か) .....	33
2-2-2 日ごろの食生活における水産物の消費実態 .....	43
2-2-3 1か月の食費(食品購入費＆外食費) .....	52
2-2-4 食生活についての不満・要望 .....	55
2-2-5 今後の食生活における魚介料理の利用意向 .....	59
2-3 外食における水産物の消費実態とニーズ .....	61
2-3-1 外食の利用状況と外食費 .....	61
2-3-2 夕食の外食でよく利用する飲食店 .....	72
2-3-3 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派 .....	76
2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 .....	81
2-3-5 夕食の外食でよく食べる魚介の種類 .....	91
2-3-6 外食についての不満・要望 .....	95
2-3-7 今後の外食における魚介料理の利用意向 .....	99
2-4 中食における水産物の消費実態とニーズ .....	101
2-4-1 中食の利用状況と中食費 .....	101
2-4-2 中食の購入時によく利用する店 .....	119
2-4-3 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派 .....	122
2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 .....	127
2-4-5 中食でよく食べる魚介の種類 .....	145
2-4-6 中食についての不満・要望 .....	149
2-4-7 今後の中食における魚介料理の利用意向 .....	153
3. 資料: アンケート調査票 .....	155

# I 総合分析

## — 目次 —

調査概要 .....	3
調査結果概要 .....	4
1. 食生活における水産物の消費動向とニーズ .....	5
2. 外食・中食における水産物の消費動向とニーズ .....	12
3. 水産物消費拡大に向けて .....	17

## 調査概要

### 1. 調査の趣旨と目的

- 過去の水産物消費動向調査は、主に調査対象が「子どもがいる家庭」で、食生活の中でも「内食」に限定されていた
  - ・前年度の調査では、子どもがいる家庭における魚介消費の三大阻害要因は「肉より割高だから」、「子どもが好まないから」、「調理や後片付けが面倒だから」。
- 「国勢調査(平成12年)」によれば、「夫婦と子ども世帯」の割合は全世帯の3分の1以下に低下し、逆に単身世帯が3分の1弱まで増加している
- 「家計調査(平成16年度)」によれば、35歳未満の単身世帯では「外食」と「調理食品」の合計が食料支出の約7割を占める



- 水産物消費の実態把握のためには、「子どもがいる家庭」以外の世帯も対象とし、「内食」だけでなく「外食」や「中食」も含めた実態調査が必要である
- そこで本調査では、全世帯を対象として、「内食」「外食」「中食」における水産物の消費実態とニーズ調査を行い、その動向を明らかにすることを目的とする

\* 内食=家庭で作って食べる食事。

\* 外食=飲食店で食べる食事。出前を含む。

\* 中食=そのまま食事として食べられるように調理された惣菜・弁当等を買ってきて家庭で食べる食事

### 2. 調査実施概要

Step1 調査設計—全世帯を対象に、内食・外食・中食における水産物の消費状況とニーズの把握可能な調査票の設計

- 世帯を「単身」、「夫婦2人」、「親と子の核家族」、「親・子・孫の三世代家族」に分類
- 食生活を、「日ごろの食生活(≒内食)」、「外食」、「中食」に分類

Step2 アンケート調査実施—全世帯を対象に、内食・外食・中食における水産物の消費状況とニーズに関する調査を実施

#### アンケート実施概要

- 調査対象者:全国の18歳以上の男女
- 調査方法:gooリサーチモニターへのウェブアンケート
- 調査時期:平成17年9月
- 調査内容:
  1. 日ごろの食生活における水産物の消費実態とニーズ
  2. 外食における魚介類の消費実態とニーズの把握
  3. 中食における魚介類の消費実態とニーズの把握

- 調査項目:卷末資料参照

Step3 総合分析—調査結果をクロス集計・分析し、水産物の消費実態とニーズを把握し、前回調査と比較しつつ、その動向を明らかにする。それを踏まえ、水産物の消費拡大に向けたマーケティングの課題について考察

## 調査結果概要

### 1. まとめ

#### 【水産物消費の実態】

##### <食生活全般>

■内食・外食・中食を含めた食生活全般にわたり、肉料理派が6割前後を占め、魚介料理は1割程度と少数派である。

■外食・中食での料理の傾向は、概ね内食を反映している。また、外食・中食ともに、内食よりも肉料理派がむしろ増えている。

■食生活全般において、魚介料理派は、子どもがいる世帯よりも「単身」者と「夫婦2人」世帯の方が多い。特に、小・中学生の子どもがいる世帯で、魚介料理派が最も少ない。

■魚介料理の阻害要因は、同居の家族が「魚介料理を好まないから」がトップで、全体の約3割に上る。そのうち、小・中学生の子どもがいる世帯では「子どもが好まないから」が8割を占め、小・中学生の魚離れが目立つ。

##### <外食・中食>

■よく利用する魚介料理は、外食では「寿司」と「刺し身」が、中食では「揚げ物」の人気が高い。

■外食でよく利用する店は、子どもがいる世帯では「ファミリーレストラン」と「回転寿司」が圧倒的に多く、男性や単身者・夫婦2人世帯では「居酒屋」と「ファミリーレストラン」が多い。

■中食の購入によく利用する店は、全体ではスーパーマーケットが多いが、男性や単身者ではコンビニ多い。単身者は、中食の利用においてもコンビニを活用している実態が浮き彫りになっている。

#### 【水産物消費の意識とニーズ】

■全体的に、魚介料理は“肉より割高”で“調理が面倒”という意識が根強いものの、「栄養バランスのよいメニュー」や「安全な食材」への関心は非常に高い。

○魚介消費の三大阻害要因は前回と同様に、①家族(⇒主に「子ども」)が魚介類を好まないから、②肉より割高だから、③魚介料理は調理が面倒だから、であり、「小・中学生の子どもをもつ母親」だけでなく、男性・若年層・単身者にも「魚介料理は調理が面倒」という意識があることが明らかにされた。特に、これらの層は、外食の利用が多く、魚介料理に限らず、調理そのものを面倒と感じている様子がうかがわれ、食生活の一端が“簡易さ”や“手軽さ”に流れている実態が浮き彫りにされた。

○しかしながら、近年の健康ブームやヘルシー志向に影響を受け、「栄養バランスのよいメニューを知りたい」や「安全な食材を使いたい」という意識は強い。そして消費者は、魚介や水産物が、肉よりヘルシーで、栄養バランスに優れているという認識を持っており、今後のニーズは十分にあるといえる。特に、単身者や夫婦2人世帯でのニーズが際立っている。

### 2. 水産物消費拡大に向けて

■水産物の消費拡大に向けたマーケティングを展開するためには、内食・外食・中食別に、ターゲット層・消費実態・ニーズを把握し、それらを踏まえた商品やメニューの開発・提供、訴求・販売方法、および流通効率化を図ることが重要である。

# 1. 食生活における水産物の消費動向とニーズ

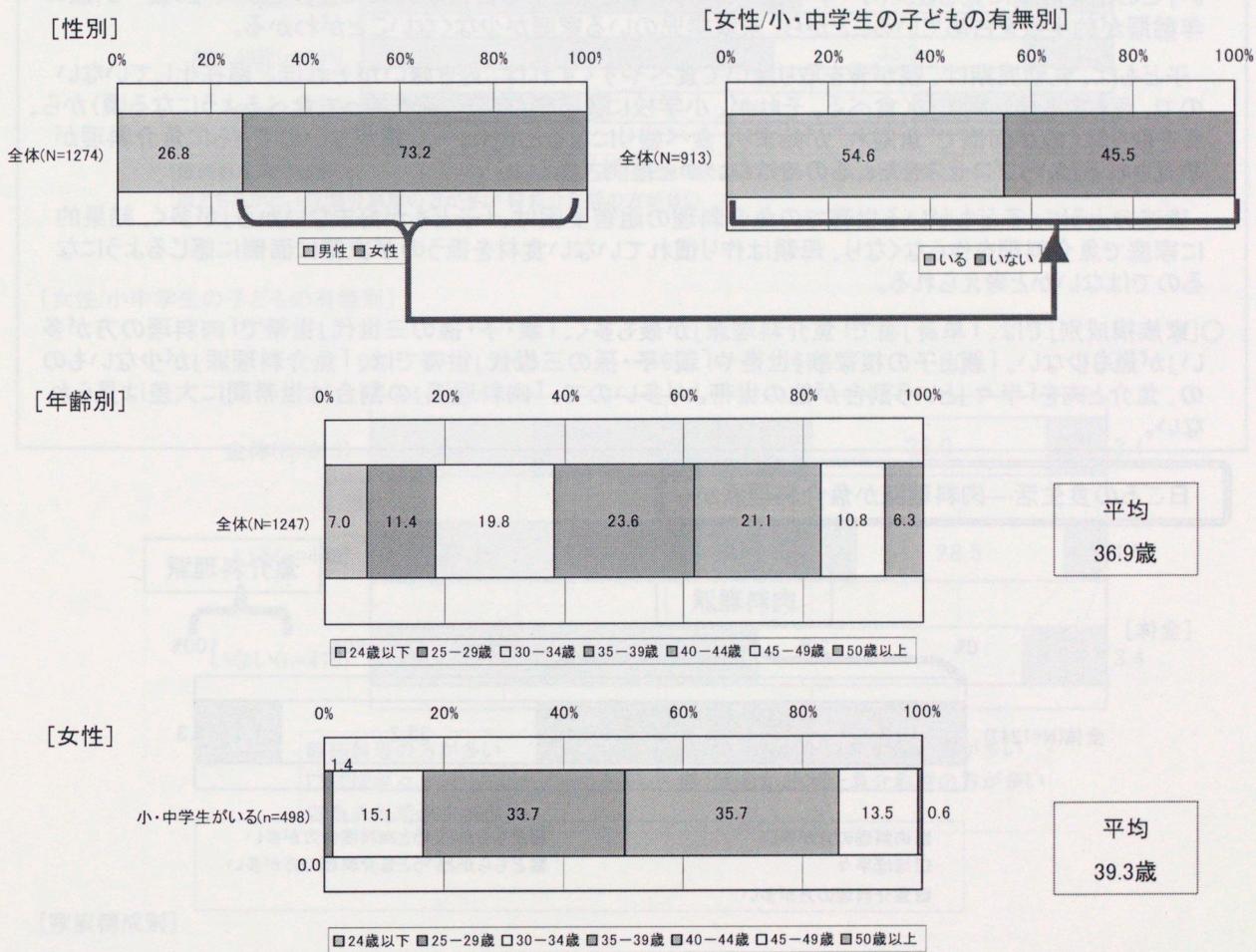
## 1-1 回答者プロフィール

■有効回答数:1,247

■回答者全体の7割以上が女性。また、「小・中学生の子どもがいる女性」が全体の約4割を占める。

■平均年齢は36.9歳。また「小・中学生の子どもがいる女性」の平均年齢は39.3歳で、前回調査(平成16年度)の平均39.8歳より若干若い。

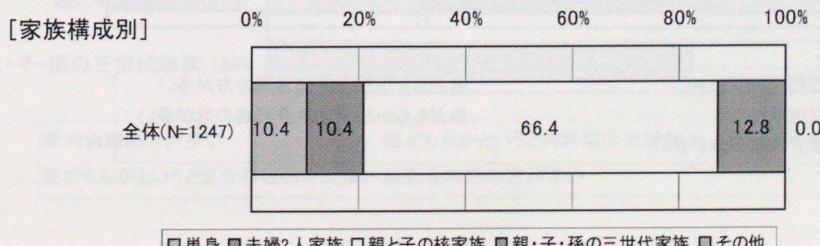
\* 以降、前回調査とは平成16年度「水産物消費動向調査」、今回調査とは平成17年度「水産物消費動向調査」を指す。



■家族構成は、「親と子の核家族」世帯が全体の7割近く、「単身」世帯、「夫婦2人」世帯とも約1割。

○平成12年度の国勢調査結果では、「夫婦と子どもの核家族」世帯が31.9%、「単身」世帯が27.6%、「夫婦2人」世帯が18.9%となっており、今回調査回答者の家族構成はわが国の実勢とは異なっている。

■同居している家族数は、平均3.5人。前回調査は4.2人。



## 1-2 日ごろの食生活—肉料理派か魚介料理派か①

■全体の6割近くが「肉料理派」で、肉料理の人気が高い。「魚介料理派」は1割強。

■女性より男性で、50歳以上の層で、また単身世帯で、「魚介料理派」が多い。

○「魚介料理派」（「どちらかというと魚介料理の方がが多い」と「魚介料理の方が多い」の合計）は、[年齢別]では30代で少なく、[女性/小・中学生の子どもの有無別]では小・中学生の子どもがいる女性の方が少ない。「小・中学生の子どもを持つ母親」(平均年齢39.8歳)のみを対象とした前回調査でも、「魚介料理派」は約5%であった。これらの結果から、家庭（「内食」）での魚介類の消費が少ないので、「小・中学生の子どもがいる」世帯であることが明らかである。

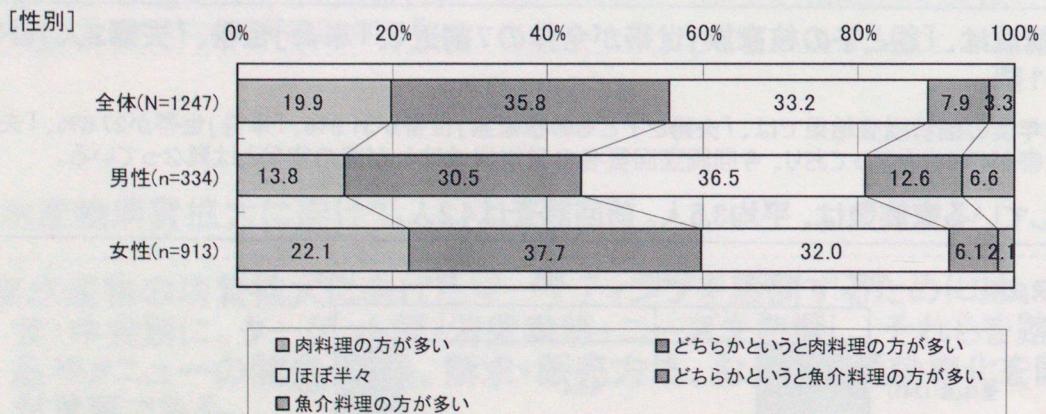
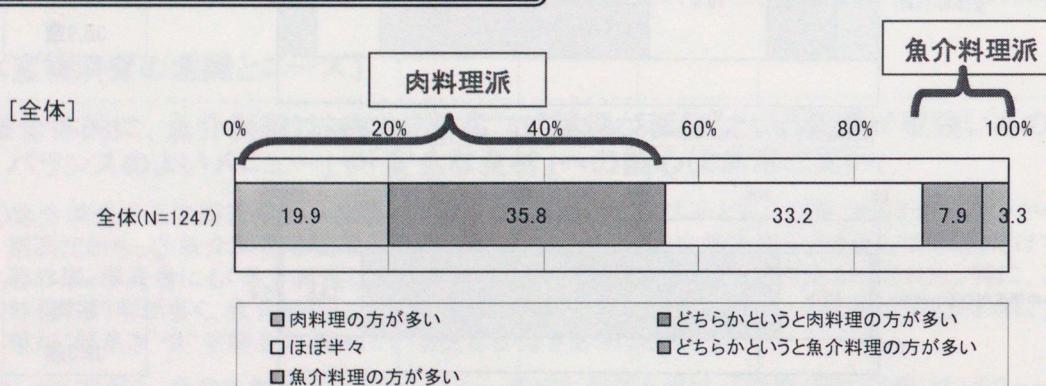
○[女性/小・中学生の子どもの有無別]では、小・中学生の子どもがいない世帯の方が「魚介料理派」が多い。この層を詳細に見ると、（小・中学生ではない）子どもがいる世帯が65%に達しており、25歳～34歳の年齢層が約半数を占めていることから、未就学児のいる家庭が少くないことがわかる。

子どもは、乳幼児期は、親が骨を取り除いて食べやすくすれば、好き嫌いがそれほど顕在化していないので、魚も肉も分け隔てなく食べる。それが、小学校に入る頃（自分で箸を持って食べるようにになる頃）から、骨を取り除くのが面倒で「魚離れ」が始まり、食べ盛りになるとボリューム感がないのでさらに魚介料理が敬遠されるというプロセスをたどるのではないかと推測される。

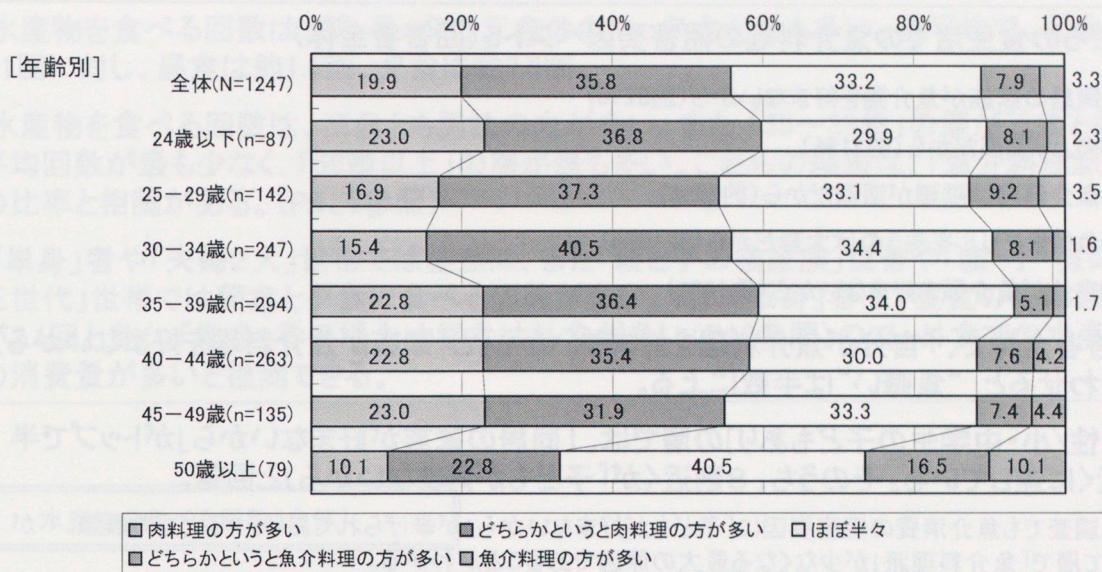
後述のように、子どもがいる世帯での魚介料理の阻害要因は、「子どもが好まないから」が多く、結果的に家庭で魚介料理を作らなくなり、母親は作り慣れていない食材を扱うのが次第に面倒に感じるようになるのではないかと考えられる。

○[家族構成別]では、「単身」者で「魚介料理派」が最も多く、「親・子・孫の三世代」世帯で「肉料理の方が多い」が最も少ない。「親と子の核家族」世帯や「親・子・孫の三世代」世帯では、「魚介料理派」が少ないものの、魚介と肉を「半々」という割合が他の世帯より多いので、「肉料理派」の割合は世帯間に大差は見られない。

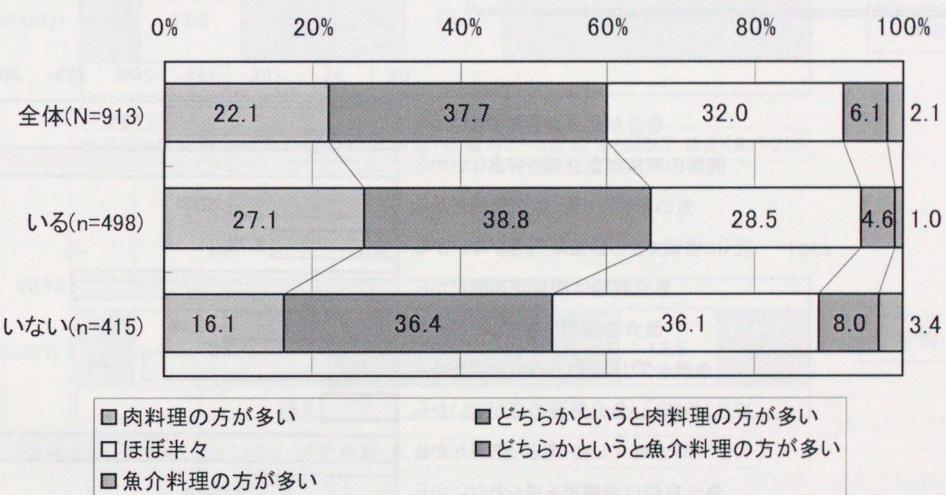
### 日ごろの食生活—肉料理派か魚介料理派か



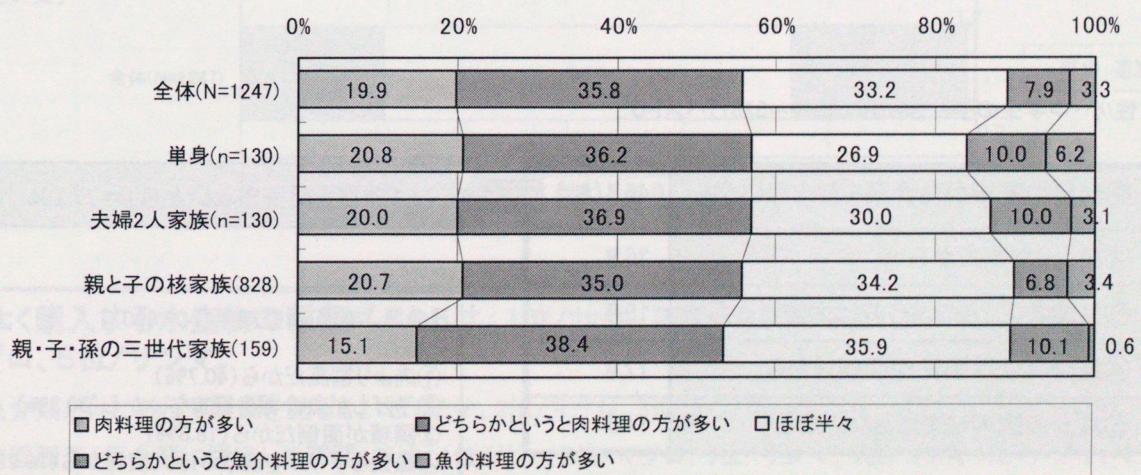
## 1-2 日ごろの食生活—肉料理派か魚介料理派か②



[女性/小中学生の子どもの有無別]



[家族構成別]



## 1-2 日ごろの食生活—魚介料理の阻害要因

### ■日ごろの食生活での魚介料理の阻害要因ベスト5(回答者全体)

- ①同居の家族が魚介類を好まないから(約32%)
- ②肉より割高だから(約31%)
- ③魚介料理は調理が面倒だから(約25%)
- ④魚焼きグリルを洗うのは大変だから(約19%)
- ⑤自分が魚介類を好まないから(約18%)

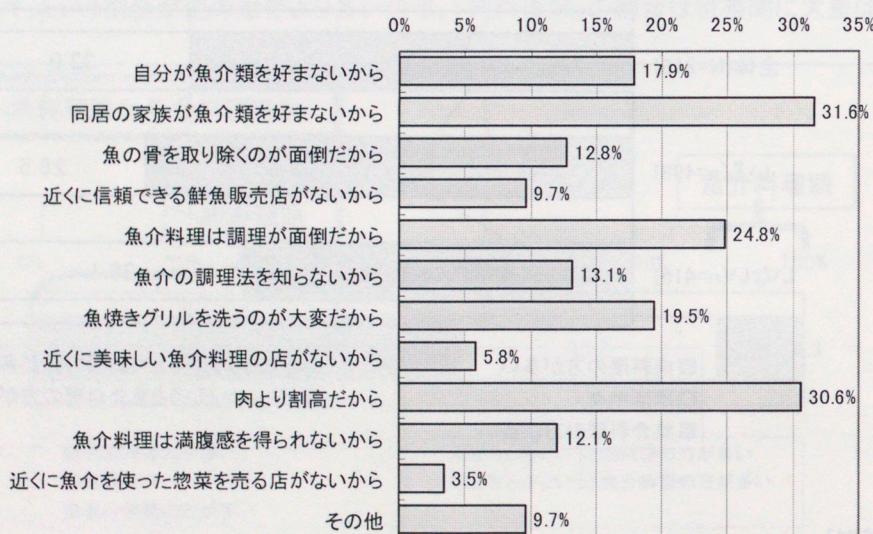
■回答者全体で、「自分が魚介料理を好まないから」と「家族が魚介料理を好まないから」を合わせると、“魚嫌い”は半数に上る。

■[女性/小・中学生の子どもあり]の層では、「同居の家族が好まないから」がトップで半数近くに達している。そのうち、8割近くが「子どもが好まないから」と回答。

○前回調査でも魚介消費の阻害要因に「子どもが好まないから」が挙げられており、“子どもの魚嫌い”が子育て層で「魚介料理派」が少なくなる最大の原因であることがわかる。

### 日ごろの食生活—魚介料理の阻害要因[全体]

(N=694、複数回答3つまで)



[女性/小・中学生の子どもありの人(N=328)]ベスト5

①同居の家族が魚介類を好まないから	45.4(%)
②肉より割高だから	36.9
③魚焼きグリルを洗うのは大変だから	19.8
④魚介料理は調理が面倒だから	17.4
⑤魚介の調理法を知らないから	14.6

「子どもが好まないから」=77.2%

【参考—前回調査結果(N=690)】

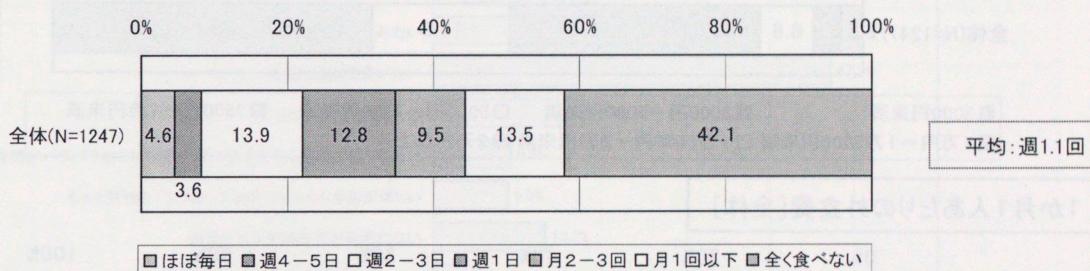
- ①肉より割高だから(40.7%)
- ②子どもが魚介類を好まないから(30.3%)
- ③調理が面倒だから(18.8%)
- ④魚焼きグリルを洗うのは大変だから(16.2%)
- ⑤魚料理は満腹感を得られないから(15.9%)

### 1-3 日ごろの食生活—水産物の利用頻度とよく購入する水産物の種類

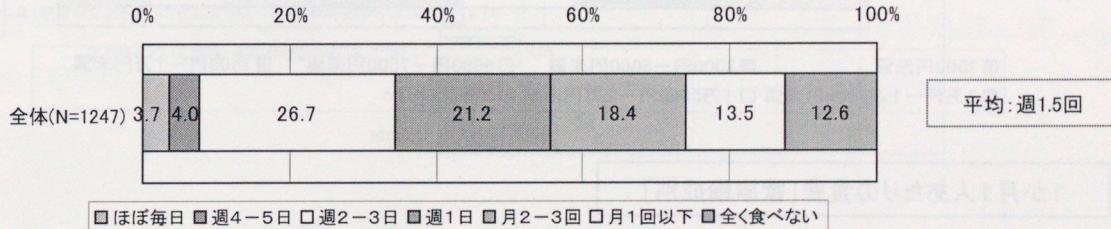
- 水産物を食べる回数は、朝・昼・夕の三食の中で、夕食が最も多い。週平均で、朝食約1.1回に対し、昼食は約1.5回、夕食は約2.6回。
- 水産物を食べる回数は、三食とも男性の方が多い。また「35～39歳」の層が三食とも平均回数が最も少なく、「50歳以上」の層が最も多い。これらの結果は、「魚介料理派」の比率と相関がある。(P6、7参照)
- 「単身」者や「夫婦2人」世帯では昼食に、また「親と子の核家族」世帯や「親・子・孫の三世代」世帯では朝食と夕食に食べる回数が多い。特に「単身」者は、昼食の平均回数が2.1回と多く、「単身」者の場合は昼食は外食が多い(P12参照)ので、外食での水産物の消費量が多いと推測できる。

水産物を食べる回数[全体]

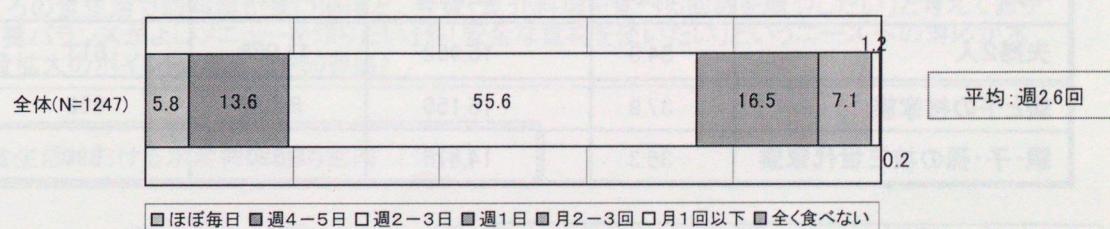
[朝食]



[昼食]



[夕食]



- よく購入する水産物の種類ベスト5は、1位/サケ、2位/ワカメ、3位/カマボコ、4位/マグロ、5位/サンマ。

○魚介類だけに絞って順位を見ると、1位/サケ、2位/マグロ、3位/サンマ、4位/サバ、5位/アジがベスト5。

○前回調査(魚介類に限定して質問)では、1位/サケ、2位/マグロ、3位/サンマ、4位/サバ、5位/アサリ、であった。上位4位までが、家庭の食卓に上る(内食)魚の定番といえよう。

## 1-4 1か月の食費—食品購入費と外食費

■1か月の食費は、1人あたりの平均で、全体では「食品購入費」が14,905円、「外食費」が9,015円。子どもがいる家庭は「内食」が中心、単身者は「外食」の利用が多い実態が浮き彫りにされている。

○「食品購入費」は「単身」者の平均金額12,525円が最も少ない。逆に、「外食費」は「単身」者が11,725円で最も多く、「親・子・孫の三世代」世帯が8,330円と最も少なくなっている。

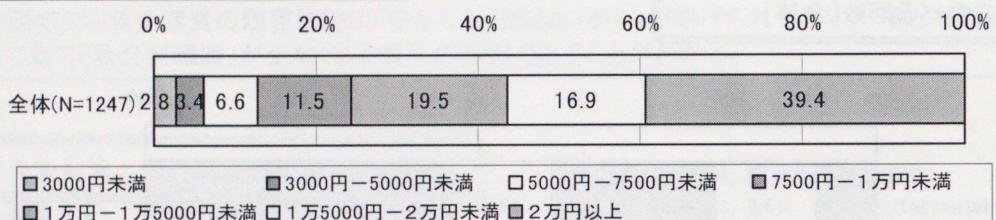
○前回調査との比較を下表「世帯あたりの平均金額」にまとめた。各項目とも今回調査の方が高くなっている。今回の回答者が比較的物価の高い都市部在住(首都圏4割、近畿圏2割)が多かったことが要因のひとつと考えられる。

【算出方法】1か月1人当たりの平均金額×平均世帯人数

[全体]食品購入費:14,905円×3.5人 外食費:9,015円×3.5人

[女性/小・中学生]食品購入費:16,040円×4.3人 外食費:8,277円×4.3人

### 1か月1人あたりの食品購入費[全体]



平均

14,905円

### 1か月1人あたりの外食費[全体]



平均

9,015円

### 1か月1人あたりの食費[家族構成別]

	平均年齢 (歳)	1人あたり平均食 品購入費(円)	1人あたり平 均外食費(円)	平均世帯年収 (万円)
単身	32.6	12,525	11,725	410
夫婦2人	34.9	15,952	11,056	613
親と子の核家族	37.9	15,159	8,400	652
親・子・孫の核三世代家族	36.3	14,676	8,330	690

### 世帯あたりの1か月の食費—前回調査との比較

	平均世帯 人数(人)	世帯あたり平均 食品購入費(円)	世帯あたり平均 外食費(円)	平均世帯年収 (万円)
今回調査 [全体]	3.5	52,168	31,553	627
[女性/小・中学生あり]	4.3	68,972	35,591	658
前回調査 [小・中学生の母親]	4.2	50,900	17,400	648

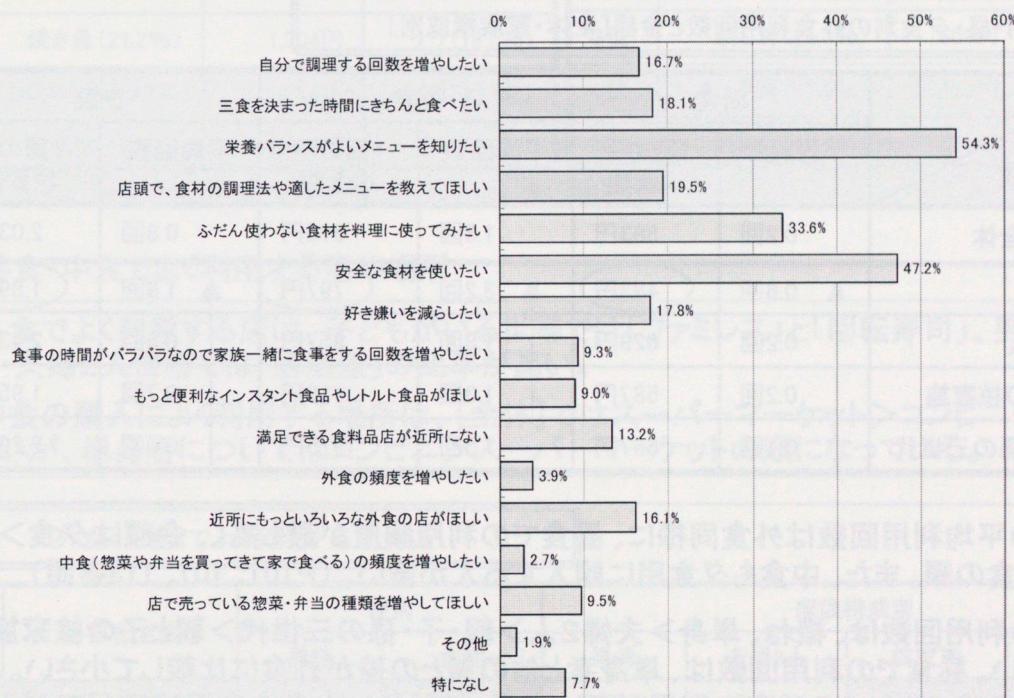
## 1-5 食生活についての不満・要望と今後の魚介料理の利用意向

■ 食生活について不満に感じることや改善したい点は、[全体]では「栄養バランスがよいメニューを知りたい」(54.3%)、次いで「安全な食材を使いたい」(47.2%)が多い。最近の健康ブームや食の安全に関する事件等が人々の意識に影響していると考えられる。

■ 男性や単身者では、上記2項目に次いで「三食をきちんと食べたい」という要望が多く、食生活の現状がそうなっていないことの裏返しと言えよう。(P56、58参照)

### 食生活についての不満・要望 [全体]

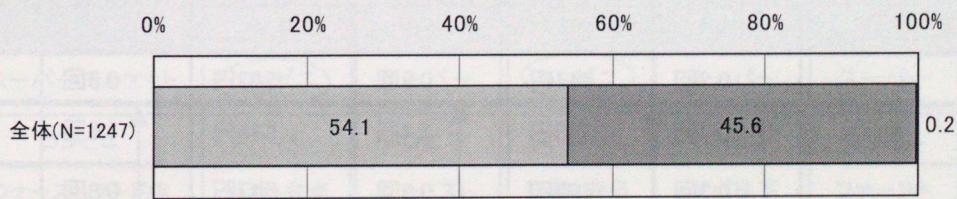
(N=1,247、複数回答)



■ 今後、魚介料理の回数を増やしたいとする割合が、[全体]では半数を超えており、魚介料理のニーズはある。

○特に、日ごろの食生活で肉料理が多い層ほど、今後「魚介料理を食べる回数を増やしたい」と考えており上記の「栄養バランスがよいメニューを知りたい」や「安全な食材を使いたい」というニーズへの対応が水産物の消費拡大のポイントとなる。(P60参照)

### 今後の食生活における水産物の利用意向 [全体]



## 2. 外食・中食における水産物の消費動向とニーズ

### 2-1 外食・中食の利用状況と費用

- 外食の利用状況は、[全体]では昼食での利用頻度が最も高いが、1回あたりの平均金額は、夕食>昼食>朝食の順。「全く外食をしない」という比率は、朝食(74%)>昼食(7.9%)>夕食(5.8%)の順に高く、夕食で外食経験のない人は少ない。(P61、64、68参照)
- 1か月の1人あたりの外食費用は、単身>夫婦2人>核家族>三世代の順に高い(P10参照)。単身者は、1回あたりの平均利用金額は少ないが利用頻度が高いので、結果的に外食費が多くなっていることがわかる。

朝・昼・夕食別の外食利用回数と金額[全体・家族構成別]

家族構成	朝食		昼食		夕食	
	平均回数	1回の平均金額	平均回数	1回の平均金額	平均回数	1回の平均金額
回答者全体	0.2回	583円	1.6回	918円	0.8回	2,039円
単身	▲ 0.6回	483円	▲ 3.2回	797円	▲ 1.9回	1,891円
夫婦2人	0.2回	629円	1.8回	957円	0.9回	2,430円
親と子の核家族	0.2回	587円	1.3回	919円	0.7回	1,957円
親・子・孫の三世代	0.1回	667円	1.5回	975円	0.6回	2,261円

- 中食の平均利用回数は外食同様に、昼食での利用頻度が最も高く、金額は夕食>昼食>朝食の順。また、中食も夕食用に購入する人が多い。(P101、107、113参照)
- 中食の利用回数は、概ね、単身>夫婦2人>親・子・孫の三世代>親と子の核家族の順に高い。昼食での利用回数は、単身者と他の層との差が外食に比較して小さい。これは単身者は、昼食での外食の利用が多いので、相対的に中食の利用頻度が下がるためと考えられる。

- また、外食の利用状況と異なり、三世代家族の中食の利用頻度が高いことが目立つ。

○三世代家族の中食の平均利用金額は三食とも最も低い。三世代家族では、子どもと高齢層の好みが違い、多種類のおかずを調理するのが面倒なため、メインメニューではなく追加の“もう一品”用に中食を購入するケースが多いのではないかと推測される。

朝・昼・夕食別の中食利用回数と金額[全体・家族構成別]

家族構成	朝食		昼食		夕食	
	平均回数	平均金額	平均回数	平均金額	平均回数	平均金額
全体	0.3回	444円	0.9回	543円	0.8回	606円
単身	▲ 0.7回	366円	▲ 1.4回	545円	▲ 1.6回	575円
夫婦2人	0.3回	409円	0.9回	547円	0.8回	643円
親と子の核家族	0.2回	464円	0.8回	547円	0.6回	617円
親・子・孫の三世代	0.3回	304円	0.8回	367円	0.7回	451円

\*回数は惣菜と弁当の利用を平均したもの、金額は弁当のみを平均したもの。

## 2-2 外食・中食でよく利用する魚介料理の種類と金額

- 外食・中食とも「寿司」の人気が高い。違いは「揚げ物」で、外食では[全体]で2割に満たないが、中食ではトップで4割以上に上る。
- 女性の方が、「パスタ料理」、「サラダ・マリネ」など洋食系の魚介料理が多い。(P83参照)

外食(夕食)でよく食べる魚介料理と魚介類[全体]

	外食(夕食)でよく食べる魚介料理		魚介類
	種類	平均支払額	
1位	寿司(73.9%)	1,885円	マグロ(56.4%)
2位	刺し身(43.2%)	1,603円	エビ(25.5%)
3位	焼き魚(21.2%)	1,204円	サケ(18.2%)
4位	パスタ料理(19.7%)	1,314円	イカ(15.1%)
5位	揚げ物(18.3%)	1,128円	タイ(9.6%)

中食(主菜)でよく食べる魚介料理と魚介類[全体]

	中食(主菜)でよく食べる魚介料理		魚介類
	種類	平均支払額	
1位	揚げ物(43.5%)	392円	マグロ(38.9%)
2位	寿司(43.2%)	674円	サケ(27.9%)
3位	刺し身(26.3%)	609円	エビ(21.6%)
4位	サラダ等(17.9%)	415円	イカ(15.4%)
5位	焼き魚(16.4%)	391円	サバ(12.8%)

\* ( )内は回答率、複数回答。中食(主菜)は惣菜単品の平均支払額。

## 2-3 外食・中食でよく利用する店や場所

- 外食でよく利用する店は、子どもがいる世帯では「ファミレス」と「回転寿司」、男性や単身・夫婦2人世帯では「居酒屋」の比率が高い。
- 中食の購入によく利用する場所は、[全体]ではスーパー・マーケット>コンビニの順に多いが、単身者についてはコンビニ>スーパー・マーケットの順になっている。

外食(夕食)でよく利用する飲食店

	回答者全体	性別		家族構成別			
		男性	女性	単身	夫婦2人	核家族	三世代
1位	ファミリーレストラン	ファミレス	ファミレス	居酒屋	居酒屋	ファミレス	回転寿司
2位	回転寿司	居酒屋	回転寿司	ファミレス	ファミレス	回転寿司	ファミレス
3位	ラーメン店	回転寿司	ラーメン店	定食屋	ラーメン店	ラーメン店	ラーメン店
4位	居酒屋	ラーメン店	焼肉・韓国	ラーメン店	回転寿司	焼肉・韓国	焼肉・韓国
5位	焼肉・韓国料理	定食屋	居酒屋	中華料理	焼肉・韓国	居酒屋	居酒屋

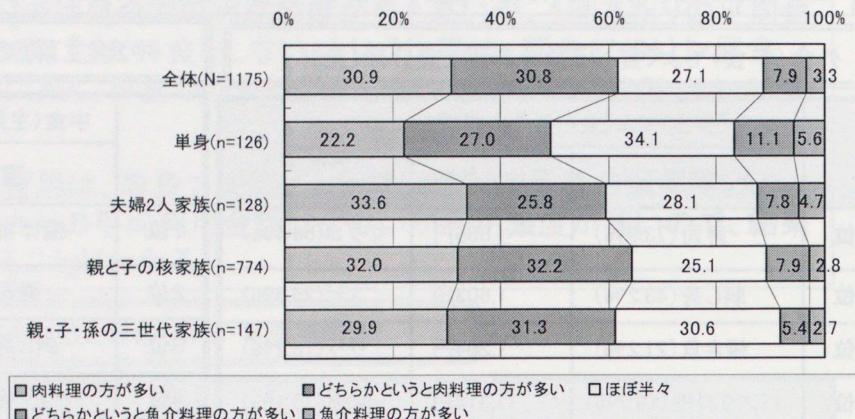
中食の購入によく利用する場所

	回答者全体	性別		家族構成別			
		男性	女性	単身	夫婦2人	核家族	三世代
1位	スーパー・マーケット	(コンビニ)	スーパー	(コンビニ)	スーパー	スーパー	スーパー
2位	コンビニ	スーパー	コンビニ	スーパー	コンビニ	コンビニ	コンビニ
3位	ファーストフード店	惣菜・弁当	ファーストフード	惣菜・弁当	デパ地下	ファーストフード	ファーストフード
4位	惣菜・弁当専門店	ファーストフード	惣菜・弁当	ファーストフード	ファーストフード	惣菜・弁当	惣菜・弁当
5位	デパ地下	デパ地下	デパ地下	デパ地下	惣菜・弁当	デパ地下	デパ地下

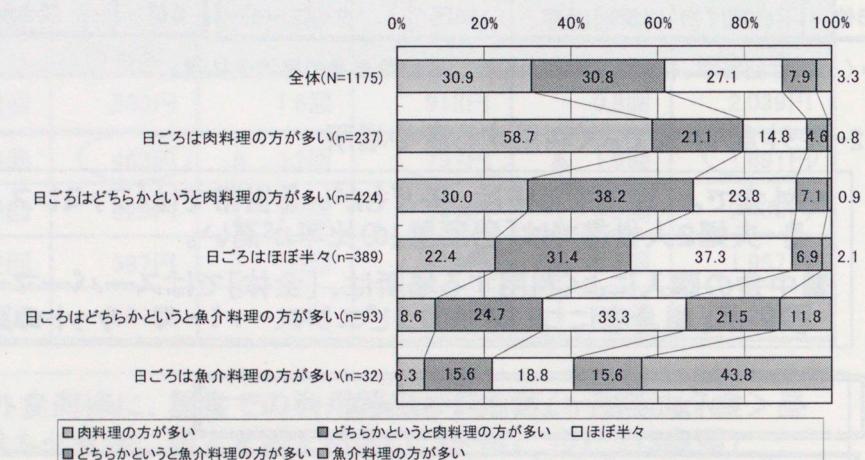
## 2-4 外食・中食でよく利用する料理の傾向—肉料理派か魚介料理派か

■外食・中食の料理の傾向は、概ね日ごろの食生活の傾向をそのまま反映し、肉料理派が多い。全体では、外食・中食とも、日ごろの食生活(内食) (P6参照)よりも肉料理派がむしろ増えており、外食や中食で魚介類が多く消費されているとはいえない。

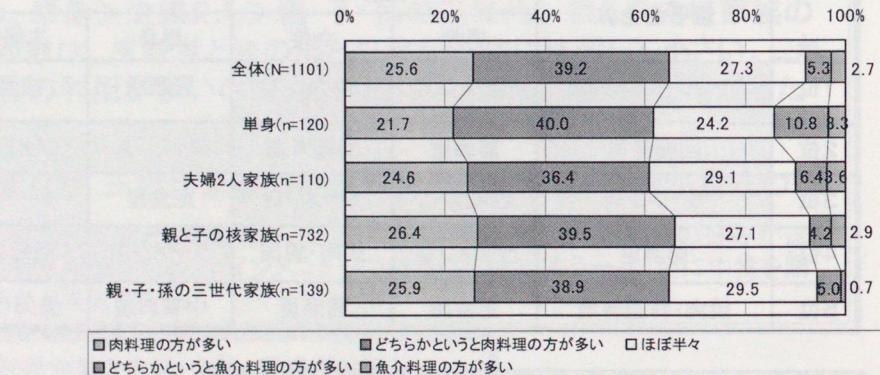
### 外食(夕食)でよく利用する料理の傾向 [全体/家族構成別]



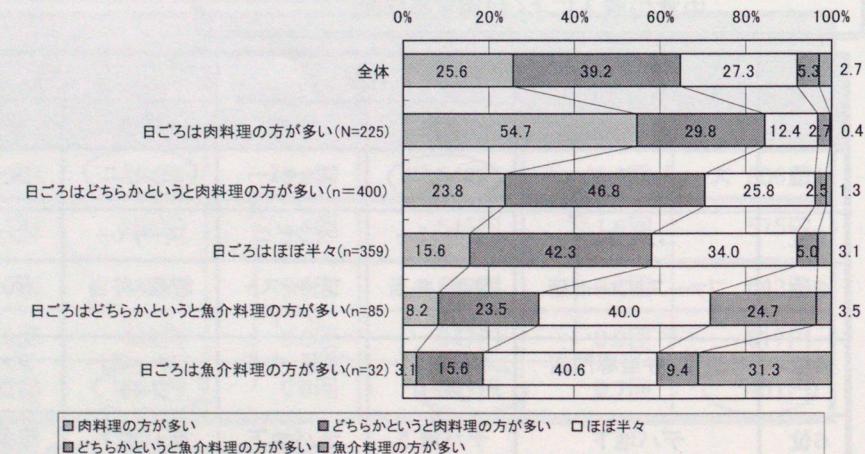
### 外食(夕食)でよく利用する料理の傾向[日ごろの食生活での肉派・魚介派別]



### 中食(主菜)でよく利用する料理の傾向 [全体/家族構成別]



### 中食(主菜)でよく利用する料理の傾向[日ごろの食生活での肉派・魚介派別]



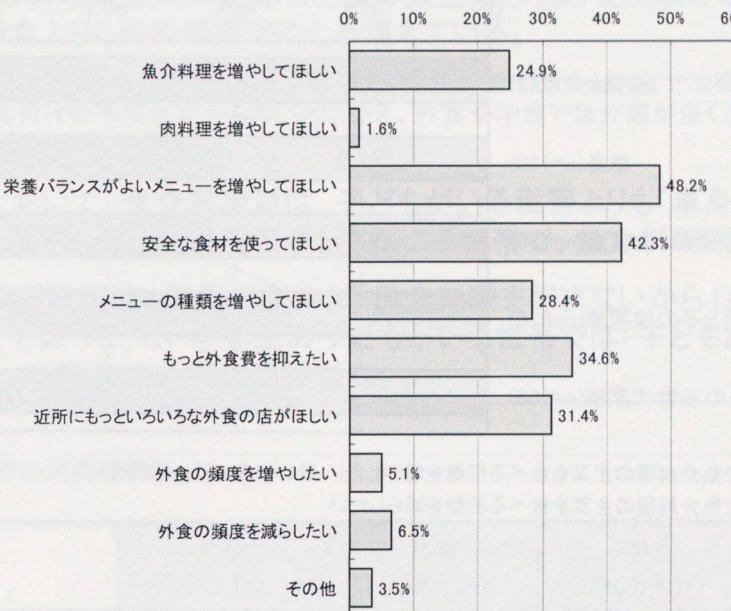
## 2-5 外食・中食についての不満・要望

■外食についても、日ごろの食生活と同様に「栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい」、「安全な食材を使ってほしい」と感じている人が多い。また「魚介料理を増やしてほしい」は約25%と、4人に1人が魚介料理メニューの増加を望んでいる。

■外食の頻度を「増やしたい」と「減らしたい」の比率に大きな差が見られない。全体として、外食の消費量は横ばいが続くと見られる。

外食についての不満・要望 [全体]

(N=1,247、複数回答)

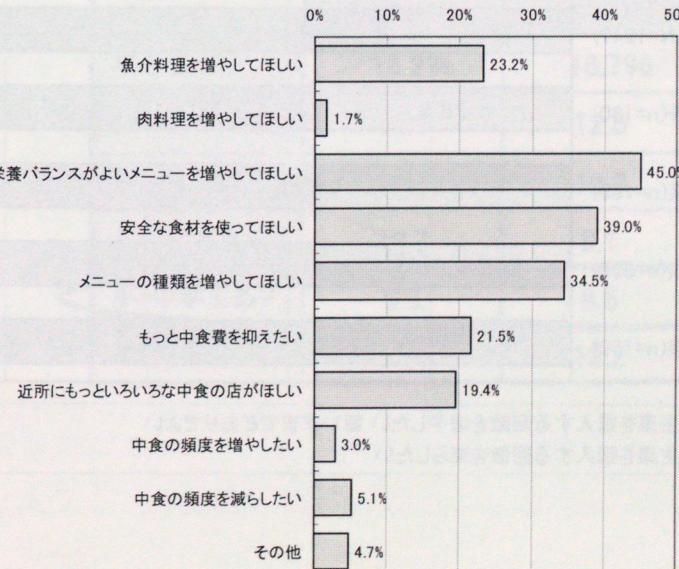


■中食についても、外食と同様に「栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい」と「安全な食材を使ってほしい」というニーズが上位である。

■外食との違いは、3位が「メニューの種類を増やしてほしい」となっており、中食のメニューが足りないと感じている人が多いことがわかる。「魚介料理を増やしてほしい」も2割強と少なくなく、魅力的メニューの種類を増やすことで消費拡大を見込めると考えられる。

中食についての不満・要望 [全体]

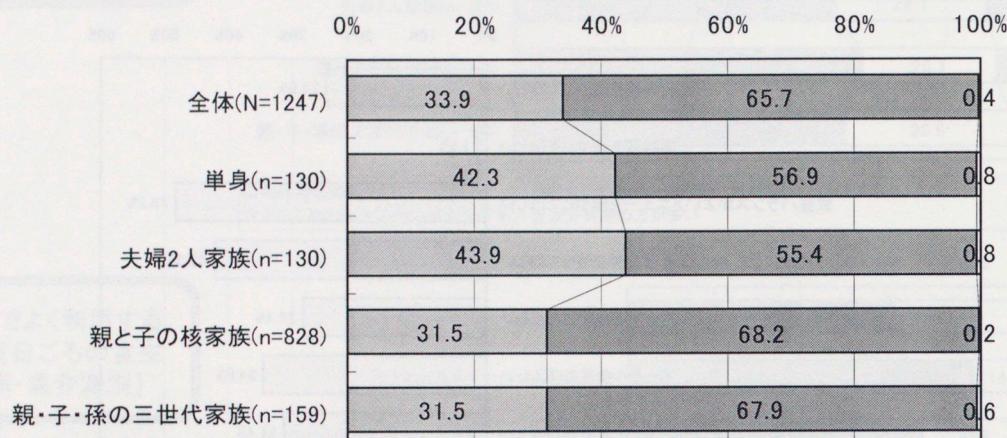
(N=1,247、複数回答)



## 2-6 外食・中食の今後の魚介料理の利用意向

■今後、外食で魚介料理の利用回数を「増やしたい」というのが3割強あり、「減らしたい」は極めて少ない。特に、「単身者」や「夫婦2人世帯」では、「増やしたい」が4割を超えており、これらの層がよく利用する「居酒屋」や「ファミリーレストラン」(P13参照)では魅力的メニューを提供することで魚介類の消費拡大が期待できると思われる。

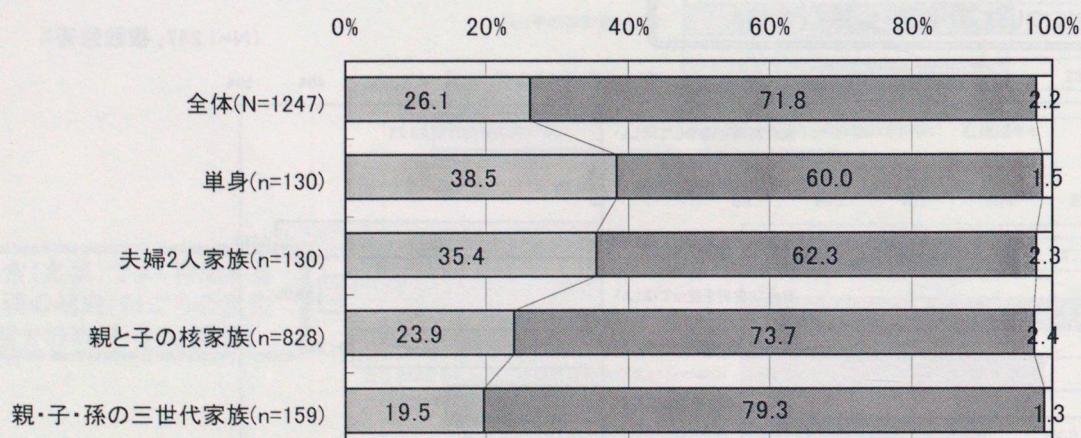
外食での今後の魚介料理の利用意向 [全体]



□外食で魚介料理の主菜を食べる回数を増やしたい □今までどおりでよい  
□外食で魚介料理の主菜を食べる回数を減らしたい

■今後の中食の利用については、[全体]では「中食での魚介料理の利用を増やしたい」は3割に満たないものの、「単身者」や「夫婦2人世帯」では4割近くに達している。高齢化の進展に伴い、今後はひとり暮らしや夫婦2人世帯が増加すると予測されるため、中食のターゲット層は拡大すると見込まれる。前ページで述べたように、多彩なメニューの開発・提供が、中食における魚介消費拡大のポイントとなろう。

中食での今後の魚介料理の利用意向 [全体/家族構成別]



□中食で魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたい □今までどおりでよい  
□中食で魚介料理の主菜を購入する回数を減らしたい

### 3. 水産物消費拡大に向けて

#### 3-1 まとめ

■内食(日ごろの食生活)・外食・中食を含めた食生活全般にわたり、肉料理派が6割前後を占め、魚介料理は1割程度と少数派である。

○「小・中学生の子どもを持つ母親」を対象とした前回調査では、内食(夕食)の料理の傾向は「肉料理派」が6割を超えていた。今回は「小・中学生の母親」に限定せず、18歳以上の男女を対象に調査を実施したが、下図に示したとおり、内食・外食・中食ともやはり肉料理派が多いことが明らかになった。

■外食・中食での料理の傾向は概ね日ごろの食生活(内食)を反映している。また、外食・中食ともに、内食よりも肉料理派がむしろ増えている。

○肉料理派は、内食よりも外食と中食で増えており、魚介料理派は外食と中食では横ばいかむしろ減少している。調理や後片付けの手間がかからないとはいえ、外食や中食で魚介類が多く消費されているわけではないという実態が浮き彫りにされた。

■食生活全般において、魚介料理派は、子どもがいる世帯よりも「単身」者と「夫婦2人」世帯の方が多い。特に、小・中学生の子どもがいる世帯で、魚介料理派が最も少ない。

■魚介料理の阻害要因は、同居の家族が「魚介料理を好まないから」がトップで、全体の約3割に上る。そのうち、小・中学生の子どもがいる世帯では「子どもが好まないから」が8割を占め、小・中学生の魚離れが目立つ。

#### 【食生活での料理の消費傾向】

	内食 (N=1,247)	外食 (N=1,175)	中食 (N=1,101)
肉料理派	55.7%	61.7%	64.8%
ほぼ半々	33.2	27.1	27.3
魚介料理派	11.2	11.2	8.0

#### 【食生活での魚介料理派の比率】

	内食 (N=1,247)	外食 (N=1,175)	中食 (N=1,101)
単身者	16.2%	16.7%	13.9%
夫婦2人家族	13.1	12.5	10.0
核家族	10.2	10.7	7.1
三世代家族	10.7	8.1	5.7
小・中学生あり	5.6	8.5	5.5
小・中学生なし	11.4	12.2	8.5

■全体的に、魚介料理は“肉より割高”で“調理が面倒”という意識が根強いものの、「栄養バランスのよいメニュー」や「安全な食材」への関心は非常に高い。

○魚介消費の三大阻害要因は前回と同様に、①家族(⇒主に「子ども」)が魚介類を好まないから、②肉より割高だから、③魚介料理は調理が面倒だからであり、「小・中学生の子どもをもつ母親」だけでなく、男性・若年層・単身者にも「魚介料理は調理が面倒」という意識があることが明らかにされた。特に、これらの層は、外食の利用が多く、魚介料理に限らず、調理そのものを面倒と感じている様子がうかがわれ、食生活の一端が“簡易さ”や“手軽さ”に流れている実態が浮き彫りにされた。

○しかしながら、近年の健康ブームやヘルシー志向に影響を受け、「栄養バランスのよいメニューを知りたい」や「安全な食材を使いたい」という意識は強い。そして消費者は、魚介や水産物が、肉よりヘルシーで、栄養バランスに優れているという認識を持っており、今後のニーズは十分にあるといえる。特に、単身者や夫婦2人世帯でのニーズが際立っている。

【今後の魚介料理の利用意向】

	内食 (N=1,247)	外食 (N=1,175)	中食 (N=1,101)
魚介料理を食べる回数を増やしたい	54.1%	33.9%	26.1%
今までどおりでよい	45.6	65.7	71.8
魚介料理を食べる回数を減らしたい	0.2	0.4	2.2



【今後、魚介料理を食べる回数を増やしたい比率】

	内食 (N=1,247)	外食 (N=1,175)	中食 (N=1,101)
単身者	59.2%	42.3%	38.5%
夫婦2人家族	66.2	43.9	35.4
核家族	52.9	31.5	23.9
三世代家族	46.5	31.5	19.5

■よく利用する魚介料理は、外食では「寿司」と「刺し身」が、中食では「揚げ物」の人気が高い。

■外食でよく利用する店は、子どもがいる世帯では「ファミリーレストラン」と「回転寿司」が圧倒的に多く、男性や単身者・夫婦2人世帯では「居酒屋」と「ファミリーレストラン」が多い。

○子どもがいる世帯では、夕食は家で作って食べることが多いが、外食する場合は「ファミレス」と「回転寿司」というパターンが多いことが明らかにされた。この層では、外食で魚介料理派が増えることはないので、ファミレスでは肉料理を食べることが多いと思われる。

■中食の購入によく利用する店は、全体ではスーパーマーケットが多いが、男性や単身者ではコンビニ多い。単身者は、中食の利用においてもコンビニを活用している実態が浮き彫りになっている。

### 3-2 水産物消費拡大に向けたマーケティングの課題

■水産物の消費拡大に向けたマーケティングを展開するためには、内食・外食・中食別に、ターゲット層・消費実態・ニーズを把握し、それらを踏まえた商品やメニューの開発・提供、訴求・販売方法、および流通効率化を図ることが重要である。

#### 内食

ターゲット層	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもがいる世帯では内食が多く、子どもがいる世帯がemainターゲットとなる。しかし“子どもの魚離れ”が目立つため、併せて子どもを魚好きにする工夫が必要である。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べやすい形態での販売</li> <li>・子どもへの食教育プログラムの開発</li> </ul> </li> </ul>
価格設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○“魚介類は肉より割高”であるという意識が強い。その意識を払拭する努力と工夫が求められる。</li> </ul>
販売形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調理の簡単な形態に加工して販売。特に、調理が面倒である感じている単身者でも購入したいと思えるほど調理の簡単な形態にすることで、ターゲット層が広がる。</li> </ul>
メニュー及び商品開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調理の簡単なメニューや商品の開発が課題である。</li> <li>○朝食での水産物の利用頻度が低いので、その頻度を上げるために、朝食用に、電子レンジで暖めるだけの手軽な水産物メニュー等を開発する。</li> </ul>
訴求ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体にわたり、「栄養バランス」と「安全な食材」へのニーズは非常に高い。消費者のニーズへの対応が求められる。</li> </ul>

#### 外食

ターゲット層	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外食の利用頻度は、単身 &gt; 夫婦2人 &gt; 核家族 &gt; 三世代の順に高いが、外食を全く利用しない人はほとんどないので、すべての層がターゲットとなる。</li> <li>○昼食用外食の主なターゲットは、単身者や会社員である。</li> <li>○夕食用外食は、単身、夫婦2人、核家族、三世代の各層ごとに、よく利用する飲食店の種類が異なっている。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・単身者や夫婦2人世帯では「居酒屋」と「ファミリーレストラン」の利用が多い</li> <li>・核家族や三世代家族では「回転寿司」と「ファミリーレストラン」の利用が多い。</li> </ul> </li> </ul>
メニュー開発・提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○飲食店種別ごとに、ターゲット層に向けたメニュー開発・提供の工夫が必要である。</li> </ul>
訴求ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外食でも、「栄養バランス」と「安全な食材」へのニーズは非常に高い。それぞれの飲食店種別に則した、訴求方法を工夫するべきである。</li> </ul>

## 中食

ターゲット層	○中食の利用頻度は、単身>夫婦2人>三世代>核家族の順に高い。 ○単身者が夕食用に利用する頻度が最も高い。しかし、三世代世帯では、メインメニューではなく追加の「もう一品」として中食を利用することが多いと考えられため、ターゲット層を単身者に限定するのではなく、全ての層を対象にするべきである。
販売形態	○単身者はコンビニでの購入が多い。コンビニでの中食の販路拡大を図るべきである。
メニュー及び商品開発	○中食のメニュー増加を望む声が多い。メニューの種類を増やす努力をする必要がある。主菜用だけでなく副菜用、高齢者向けだけでなく、子どもや若者向けと、多種多様なメニューを考案する。 ○単身者が夕食の主菜として購入しやすいメニューを開発・提供する。
訴求ポイント	○中食についても、「栄養バランス」と「安全な食材」へのニーズは非常に高い。この点の訴求は不可欠である。

## II ウェブアンケート調査結果

### － 目 次 －

1. ウェブアンケート調査概要 .....	23
2. 調査結果 .....	24
2-1 回答者のプロフィール .....	24
2-1-1 性 .....	24
2-1-2 年齢 .....	25
2-1-3 職業 .....	26
2-1-4 小学生または中学生の子どもの有無 .....	27
2-1-5 居住地域 .....	29
2-1-6 家族構成・家族数 .....	30
2-1-7 世帯年収 .....	32
2-2 日ごろの食生活における水産物の消費実態とニーズ .....	33
2-2-1 日ごろの食生活(肉料理派か魚介料理派か) .....	33
2-2-2 日ごろの食生活における水産物の消費実態 .....	43
2-2-3 1か月の食費(食品購入費&外食費) .....	52
2-2-4 食生活についての不満・要望 .....	55
2-2-5 今後の食生活における魚介料理の利用意向 .....	59
2-3 外食における水産物の消費実態とニーズ .....	61
2-3-1 外食の利用状況と外食費 .....	61
2-3-2 夕食の外食でよく利用する飲食店 .....	72
2-3-3 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派 .....	76
2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 .....	81
2-3-5 夕食の外食でよく食べる魚介の種類 .....	91
2-3-6 外食についての不満・要望 .....	95
2-3-7 今後の外食における魚介料理の利用意向 .....	99
2-4 中食における水産物の消費実態とニーズ .....	101
2-4-1 中食の利用状況と中食費 .....	101
2-4-2 中食の購入時によく利用する店 .....	119
2-4-3 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派 .....	122
2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 .....	127
2-4-5 中食でよく食べる魚介の種類 .....	145
2-4-6 中食についての不満・要望 .....	149
2-4-7 今後の中食における魚介料理の利用意向 .....	153
3. 資料：アンケート調査票 .....	155

## 1. ウェブアンケート調査概要

■調査対象者	全国の18歳(大学生)以上の男女
■調査手法	ウェブアンケート
○アンケート調査サイト「gooResearch」の登録モニターの中から、全国の18歳(大学生)以上の男女を調査対象者として抽出、アンケートへの回答を依頼	
■調査時期	平成17年9月
■調査内容	
1. 食生活における水産物の消費実態とニーズ 2. 外食における魚介類の消費実態とニーズの把握 3. 中食における魚介類の消費実態とニーズの把握	
■調査項目	
卷末資料参照	
■調査実施	
NTTレゾナント株式会社 gooリサーチグループ	

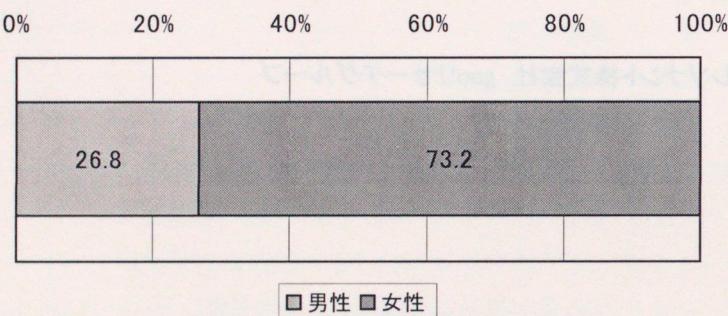
## 2. 調査結果

### 2-1 回答者のプロフィール

#### 2-1-1 性

- 有効回答数は、1,247。
- 回答者の7割以上が女性である。

性 [全体]

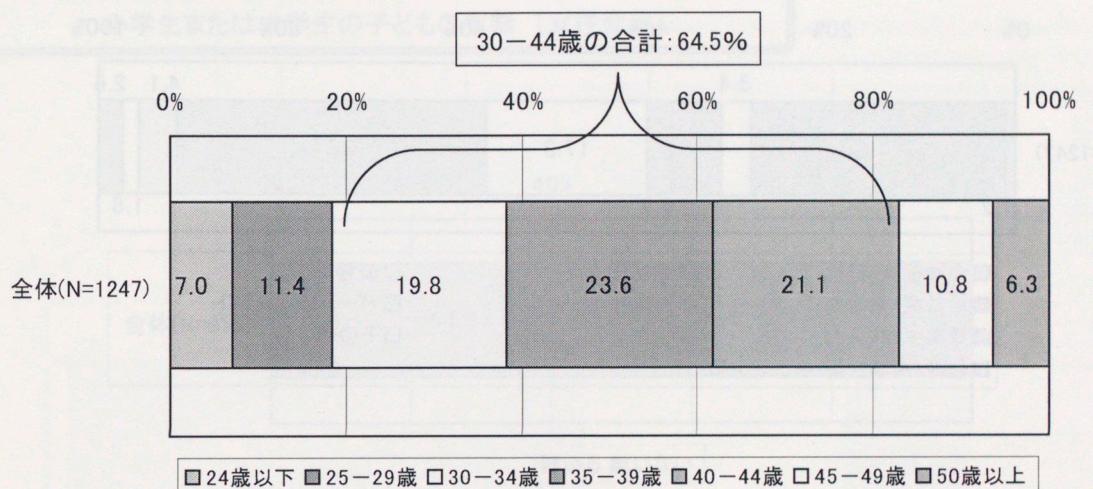


※ グラフ内のパーセンテージ数値は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、個々のデータ数値と合計値が一致しない場合がある。

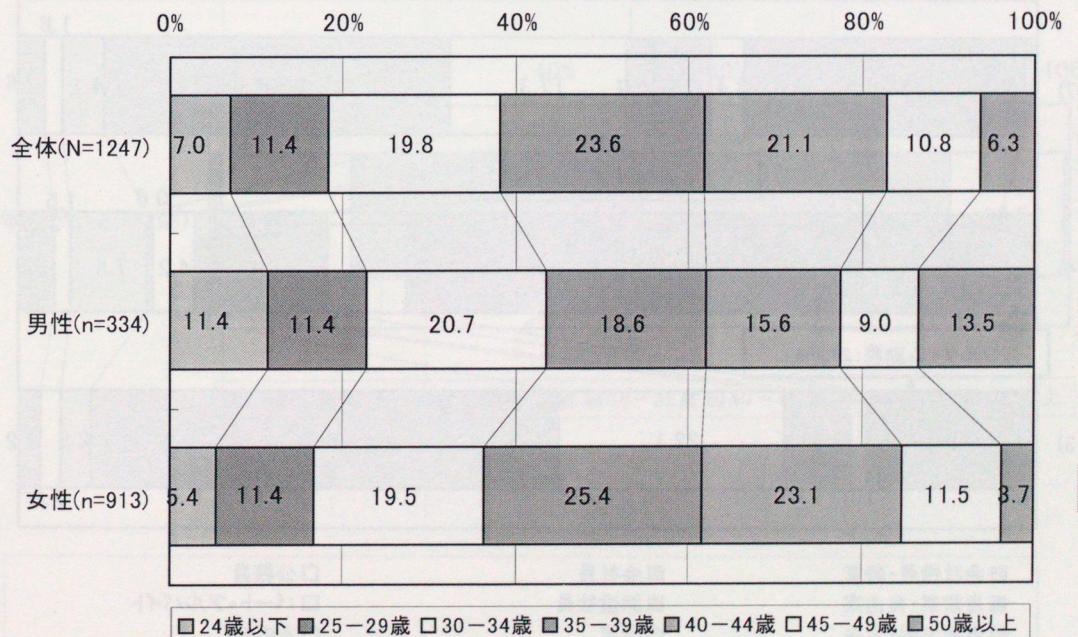
## 2-1-2 年齢

- 30—34歳、35—39歳、40—44歳を合計すると、回答者全体の64.5%を占める。平均年齢は36.9歳である。  
○[性別]に見ると、特に女性の、30—44歳の回答者が多いことがわかる。女性と比較し男性は24歳以下と50歳以上の回答者が多い。

### 年齢 [全体]



### 年齢 [性別]

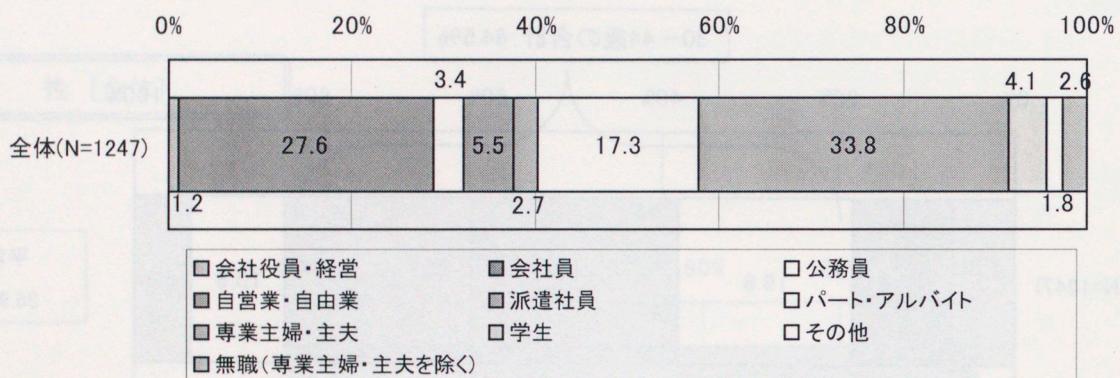


## 2-1-3 職業

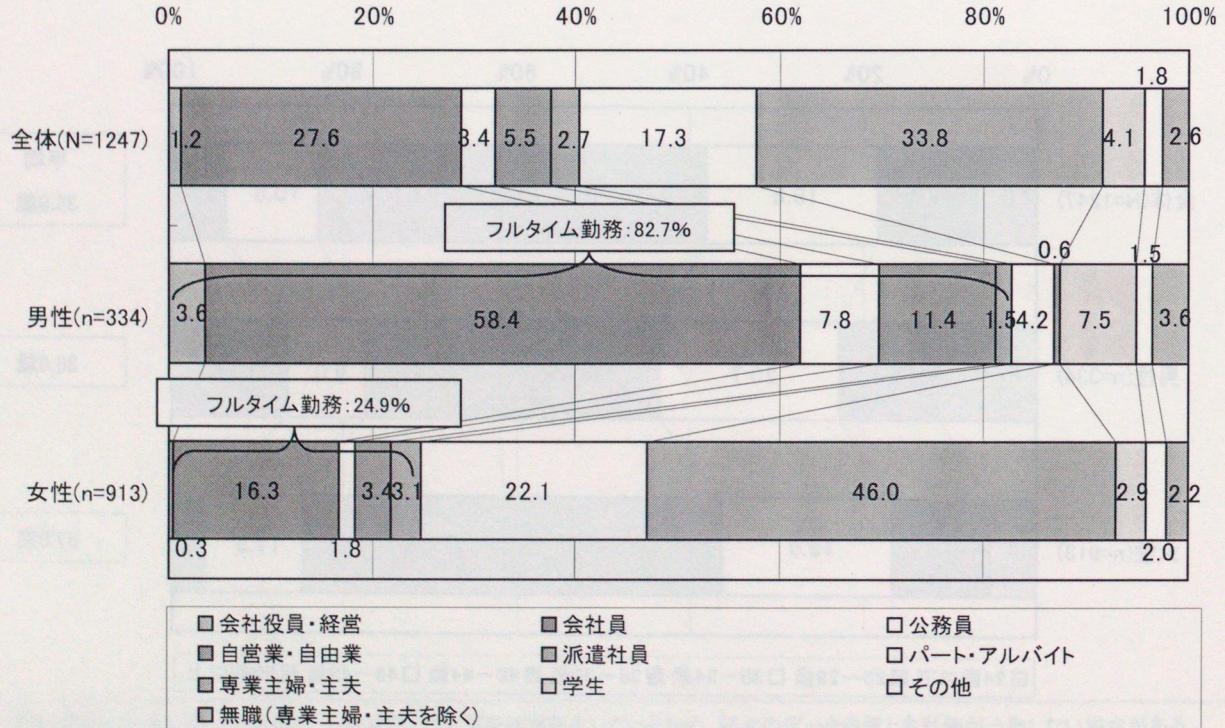
○回答者全体の7割が女性であるため、専業主婦(夫)が全体の33.8%と多い。

○[性別]に見ると、男性は、58.4%が会社員であり、フルタイムの職に就く人(パート・専業主夫・学生・無職以外)の合計は82.7%に達する。一方女性は、46.0%が専業主婦であり、フルタイムの職に就く人(パート・専業主婦・学生・無職以外)の合計は24.9%と、女性全体の約4分の1にとどまる。

### 職業 [全体]



### 職業 [性別]



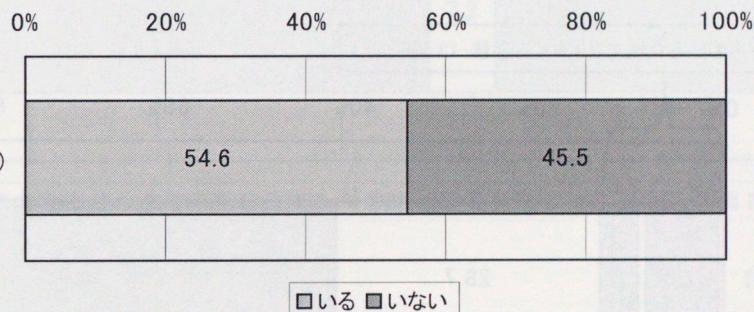
## 2-1-4 小学生または中学生の子どもの有無

※この設問は、前回調査（「小学生または中学生の子どものいる母親」のみを対象として実施）と比較するため、女性のみに限定して設定※

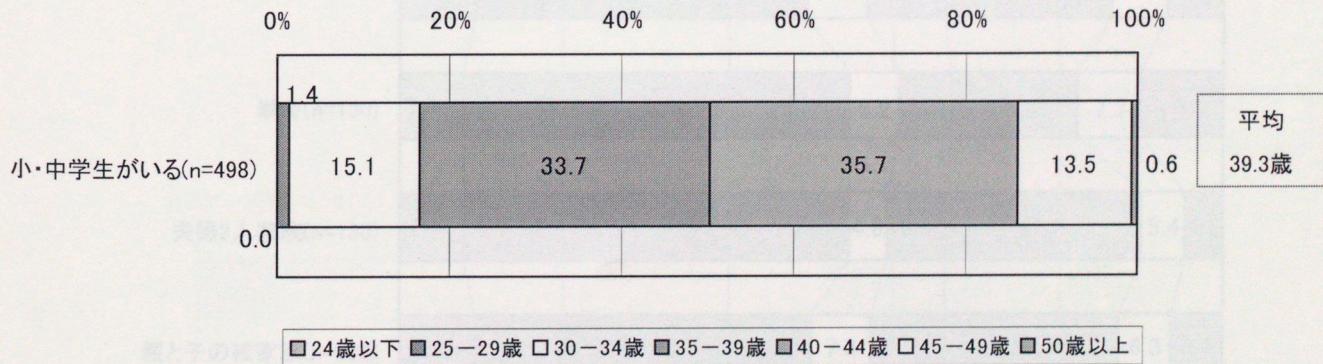
○小学生または中学生の子どものいる女性は、女性全体の54.6%である。未就学児および高校生以上の子どもを持つ女性の数を合わせると、子どもを持つ女性の割合はさらに高くなる。

○小・中学生の子どものいる女性の年齢構成について見ると、35—39歳、40—44歳の合計が69.4%と約7割を占め、平均年齢は39.3歳である。前回調査は、30—34歳12.5%、35—39歳38.8%、40—44歳35.8%、平均年齢39.8歳であった。これと比較すると、今回は30—34歳の割合が増えたため、平均年齢が若干下がっている。

### 小学生または中学生の子どもの有無 [女性全体]



### 小学生または中学生の子どものいる女性の年齢構成

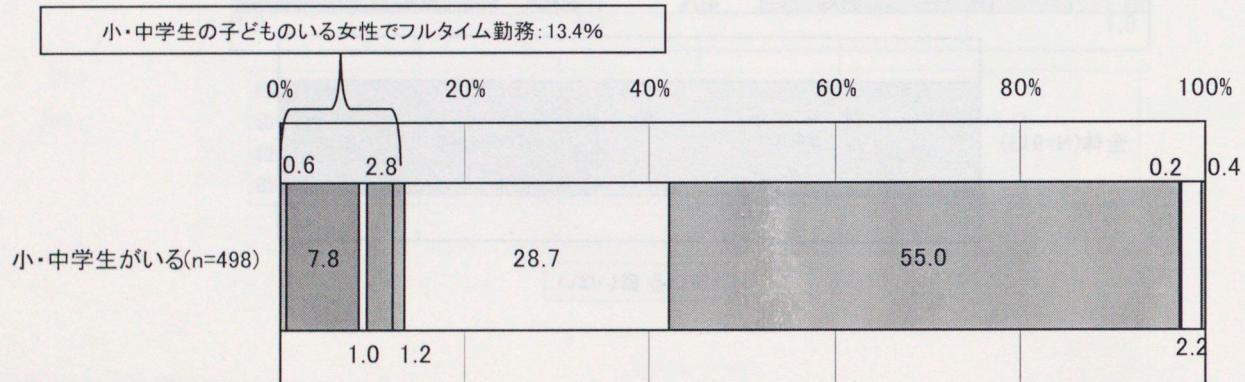


## 2-1-4 小学生または中学生の子どもの有無 つづき

※この設問は女性のみに限定※

- 小・中学生の子どものいる女性の職業について見ると、55.0%と半数以上が専業主婦で、パート・アルバイト従事者は28.7%。フルタイムの職(会社役員・会社員・公務員・自営業・自由業・派遣社員)に就きつづく小・中学生の子どものいる女性は13.4%であり、小・中学生の子どものいる女性全体の5分の1以下にとどまる。
- 前回調査は、専業主婦は57.5%、パート・アルバイト従事者は27.2%、フルタイムの職に就く人は14.4%であった。よってこれと比較すると、今回は専業主婦とフルタイムの職に就く人の割合が若干少なく、パート・アルバイト従事者が多い。

### 小学生または中学生の子どもを持つ女性の職業



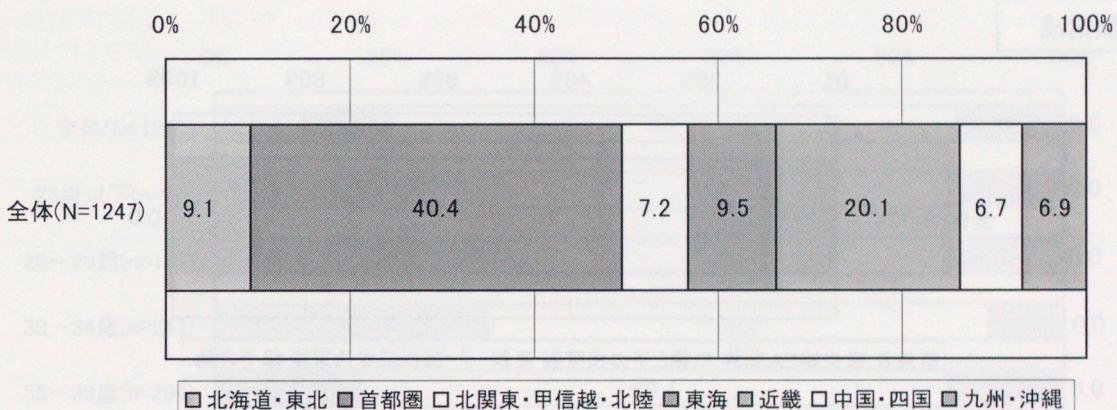
- | 職業             | 割合    |
|----------------|-------|
| 会社役員・経営        | 7.8%  |
| 会社員            | 55.0% |
| 自営業・自由業        | 2.8%  |
| 派遣社員           | 1.0%  |
| 学生             | 1.2%  |
| パート・アルバイト      | 28.7% |
| 公務員            | 0.6%  |
| その他            | 0.4%  |
| 無職(専業主婦・主夫を除く) | 0.2%  |

## 2-1-5 居住地域

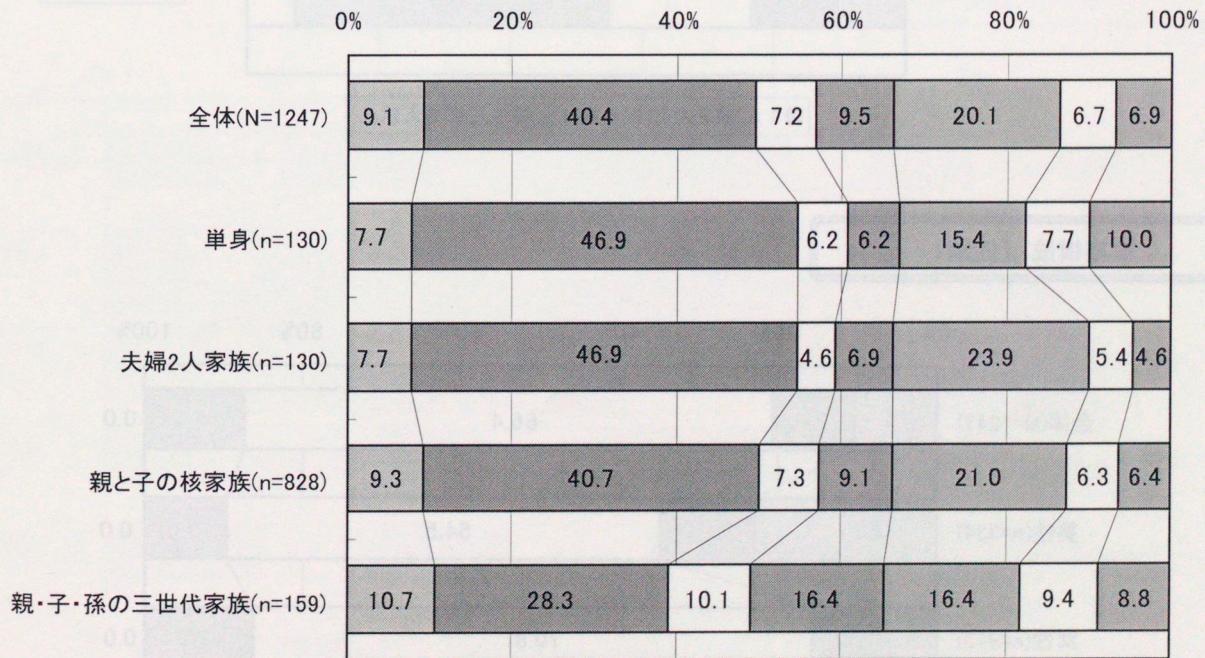
○首都圏40.4%、近畿20.1%と都市部居住者が60.5%を占める。

○[家族構成別]に見ると、単身者・夫婦2人家族は、都市部居住者（「首都圏」および「近畿圏」の合計）がそれぞれ62.3%、70.8%と高い（「首都圏」のみではいずれも46.9%）。逆に、親と子の核家族、親・子・孫の三世代家族の「首都圏」在住者は、それぞれ40.7%、28.3%となっており、とりわけ親・子・孫の三世代家族での「首都圏」居住者の割合が低い。

### 居住地域 [全体]



### 居住地域 [家族構成別]



## 2-1-6 家族構成・家族数

○「親と子の核家族」の割合が66.4%と多い。また、家族を構成する人数を見ると4人家族が最も多く、平均人数は3.5人であった。

○家族構成を[性別]に見ると、男性では「単身」が23.1%であり、女性「単身」5.8%に比較し著しく高い割合となっている。

### 家族構成・家族数 [全体]

#### 家族構成

0% 20% 40% 60% 80% 100%

10.4	10.4	66.4	12.8	0.0
------	------	------	------	-----

□単身 □夫婦2人家族 □親と子の核家族 □親・子・孫の三世代家族 □その他

#### 家族数

0% 20% 40% 60% 80% 100%

10.4	13.1	21.6	34.8	12.8	7.4
------	------	------	------	------	-----

平均  
3.5人

□1人 □2人 □3人 □4人 □5人 □6人以上

### 家族構成 [性別]

10.4	10.4	66.4	12.8	0.0
------	------	------	------	-----

23.1	12.0	54.5	10.5	0.0
------	------	------	------	-----

5.8	9.9	70.8	13.6	0.0
-----	-----	------	------	-----

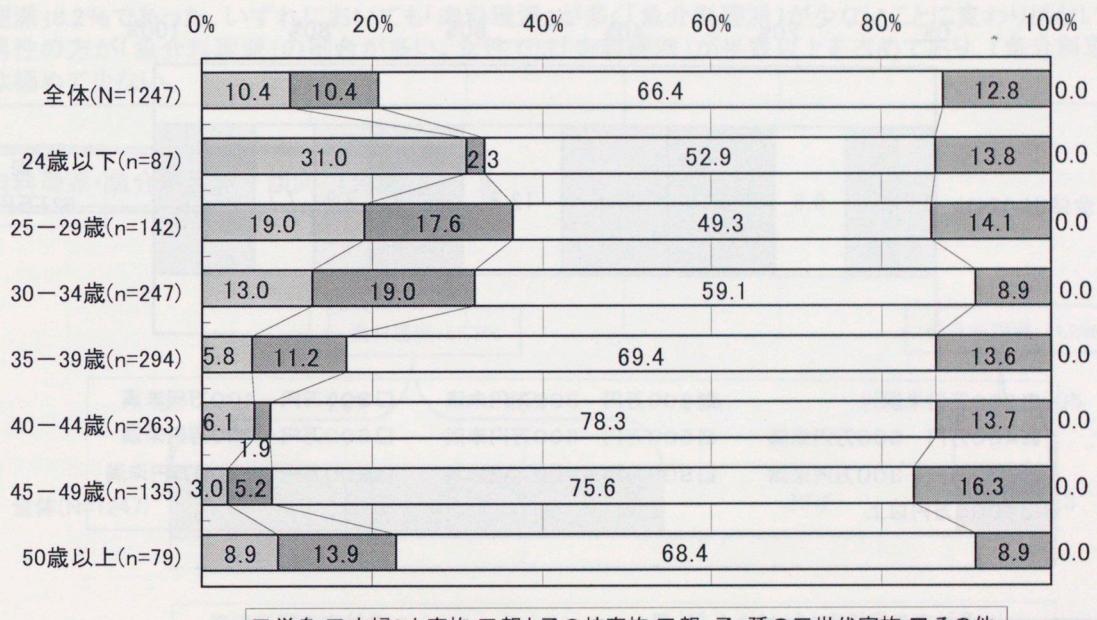
□単身 □夫婦2人家族 □親と子の核家族 □親・子・孫の三世代家族 □その他

## 2-1-6 家族構成・家族数 つづき

参考資料 第二回

○[年齢別]に見ると、45-49歳では「親と子の核家族」の割合が少なくなり、逆に「夫婦2人家族」の割合が多くなっている。50歳以上ではそれがさらに顕著になり、「単身」者も増加している。子どもの独立や配偶者の離別が背景にあると考えられる。

家族構成 [年齢別]



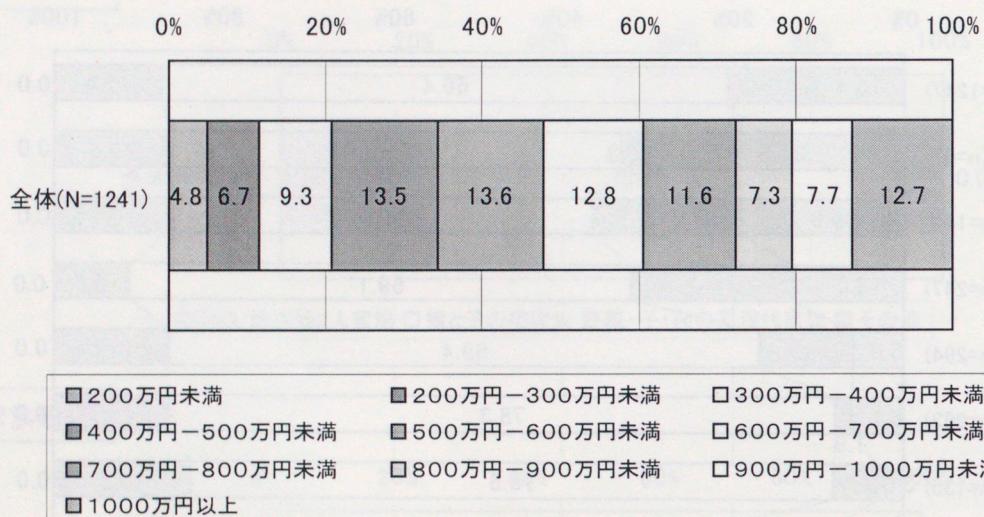
□ 単身 □ 夫婦2人家族 □ 親と子の核家族 □ 親・子・孫の三世代家族 □ その他

## 2-1-7 世帯年収

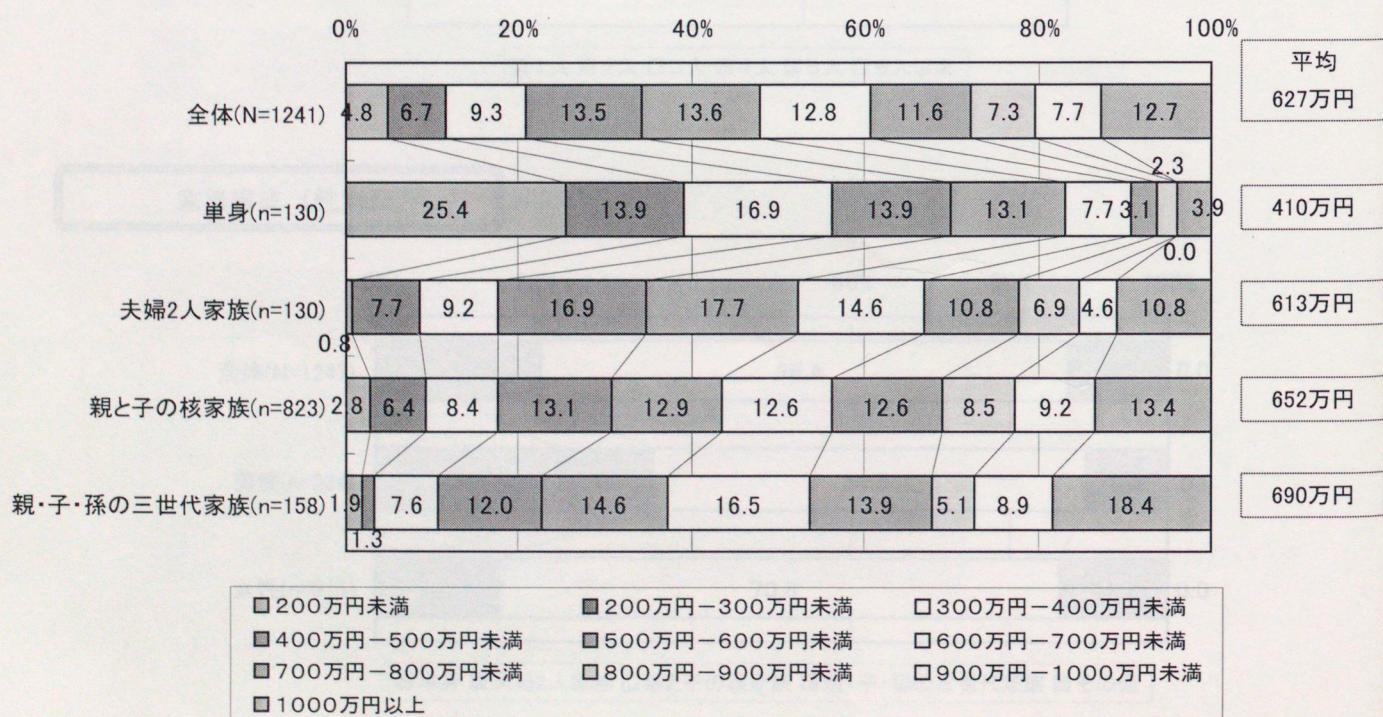
○特にボリュームゾーンとなる世帯年収層はない。平均金額は627万円であった。

○[家族構成別]に見ると、平均金額が、「単身」者は410万円であり、他と比較し200万円以上の差があるが、一人あたりで算出すると、「単身」者が低いとは言えない。

世帯年収 [全体]



世帯年収 [家族構成別]



## 2-2 日ごろの食生活における水産物の消費実態とニーズ

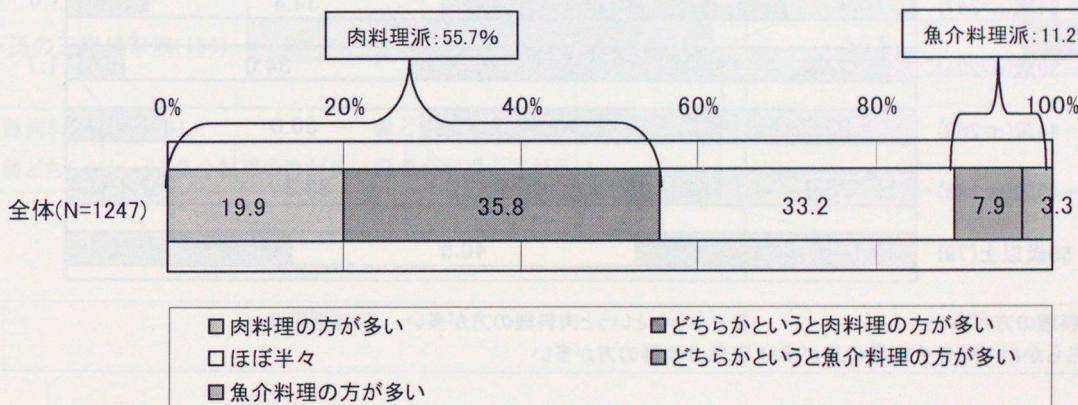
### 2-2-1 日ごろの食生活(肉料理派か魚介料理派か)

#### 2-2-1(1) 肉料理派・魚介料理派一傾向

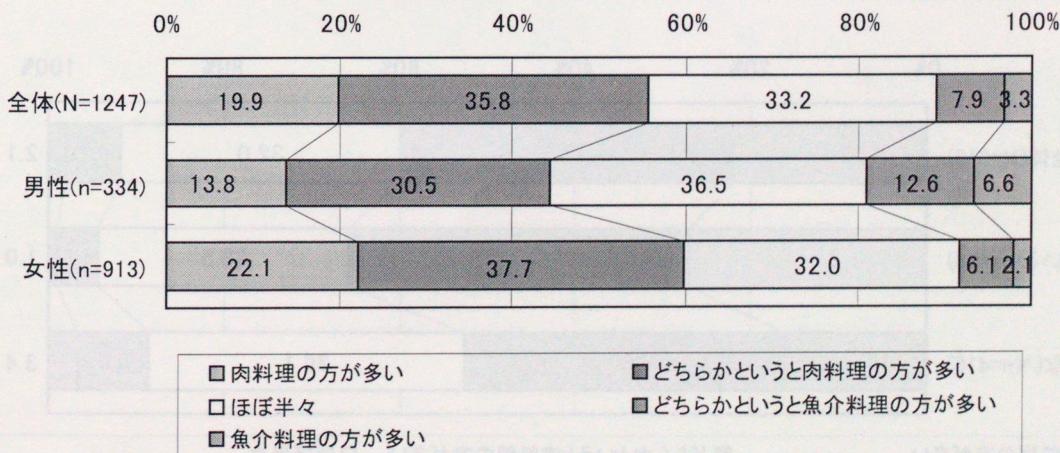
○日ごろの食生活で肉料理と魚介料理のどちらが多いかを尋ねたところ、肉料理派(「肉料理の方が多い」と「どちらかというと肉料理の方が多い」の合計)が55.7%と半数以上を占め、魚介料理派(「魚介料理の方が多い」と「どちらかというと魚介料理の方が多い」の合計)は11.2%にとどまった。圧倒的に肉料理派が多い。

○[性別]に見ると、男性は、「肉料理派」44.3%、「魚介料理派」19.2%、女性は「肉料理派」59.8%、「魚介料理派」8.2%であった。いずれにおいても「肉料理派」が多く「魚介料理派」が少ないと変わらないが、男性の方が「魚介料理派」の割合が多い。女性では「肉料理派」が半数以上を占めており、「魚介料理派」は極めて少ない。

#### 肉料理派・魚介料理派一傾向 [全体]



#### 肉料理派・魚介料理派一傾向 [性別]

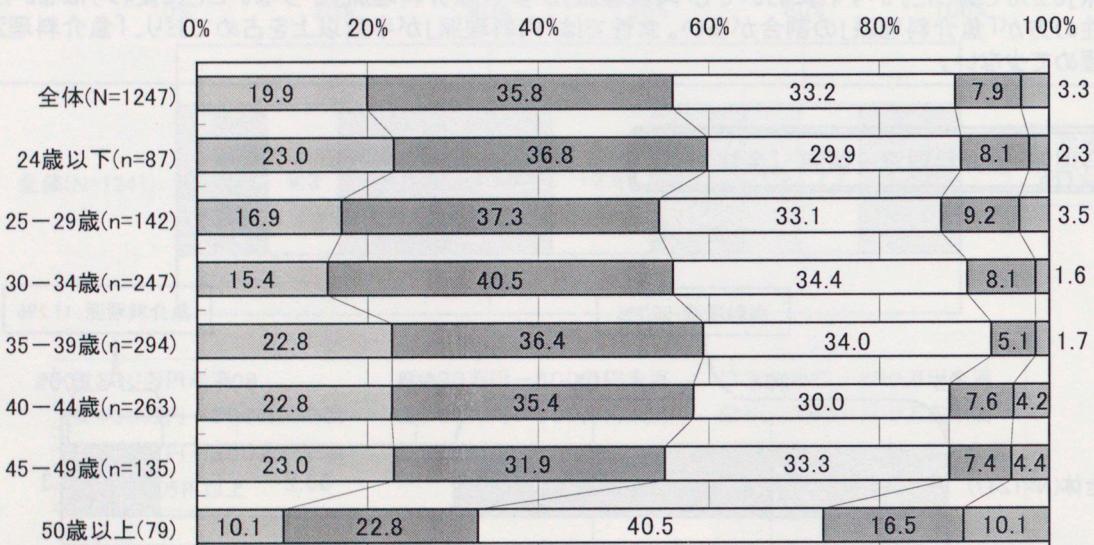


## 2-2-1(1) 肉料理派・魚介料理派一傾向 つづき

○[年齢別]に見ると、50歳以上で「魚介料理派」が26.6%と、各年代の中で最も「魚介料理派」の割合が多い。24歳以下と35-39歳、40-44歳では「肉料理派」の割合が多く、特に35-39歳では「魚介料理派」が6.8%と極めて少ない割合である。

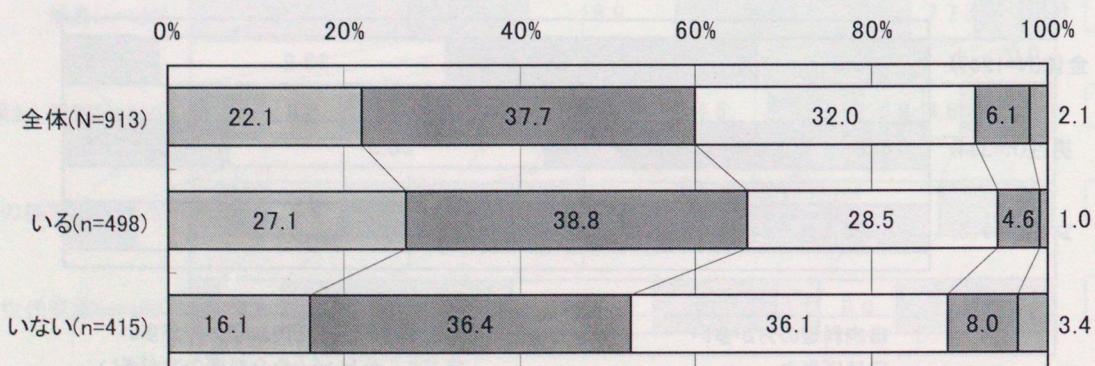
○[女性／小・中学生の子どもの有無別]に見ると、小・中学生の子どものいる女性で「肉料理派」の割合が65.9%と多く、6割以上に達している。一方、小・中学生の子どものいない女性の場合は「肉料理派」52.5%であった。

肉料理派・魚介料理派一傾向 [年齢別]



□肉料理の方が多い ■どちらかというと肉料理の方が多い □ほぼ半々  
■どちらかというと魚介料理の方が多い □魚介料理の方が多い

肉料理派・魚介料理派一傾向 [女性／小・中学生の子どもの有無別]

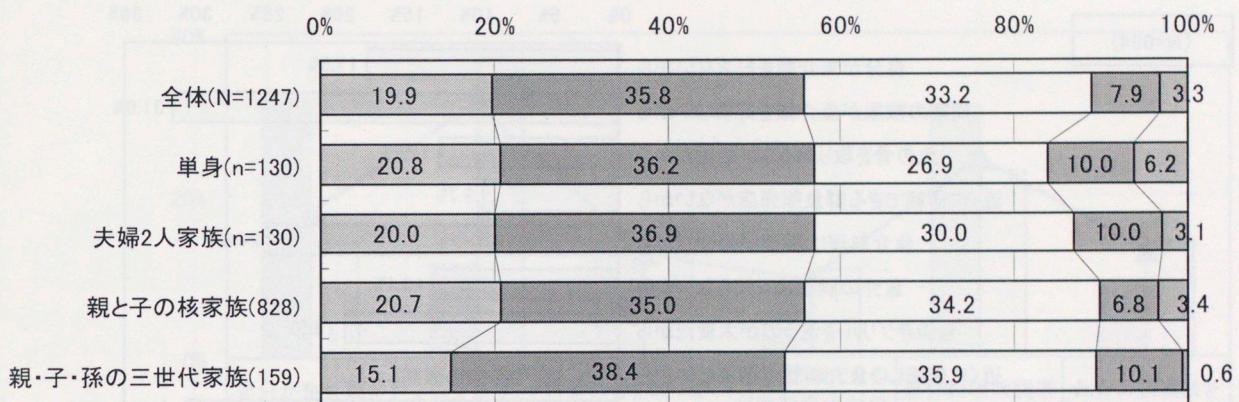


□肉料理の方が多い ■どちらかというと肉料理の方が多い □ほぼ半々  
■どちらかというと魚介料理の方が多い □魚介料理の方が多い

## 2-2-1(1) 肉料理派・魚介料理派一傾向 つづき

○[家族構成別]に見ると、「魚介料理派」は、単身者の16.2%が最も多く、逆に親と子の核家族では10.2%と最も低い。また、親・子・孫の三世代家族では、「肉料理派」が53.5%と、他に比べ少なくなっており、「肉料理の方が多い」という項目に限って見れば、他とは約5ポイントの差がある。祖父母が肉料理に偏った食生活を好まないためと考えられる。

### 肉料理派・魚介料理派一傾向 [家族構成別]



□ 肉料理の方が多い ■ どちらかというと肉料理の方が多い □ ほぼ半々

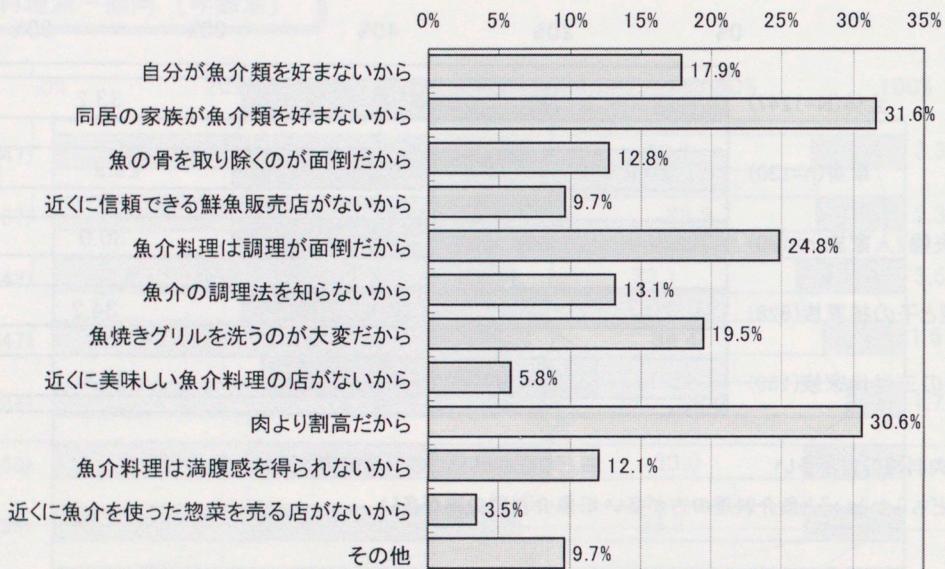
■ どちらかというと魚介料理の方が多い □ 魚介料理の方が多い

## 2-2-1(2) 肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因

○肉料理派の人（「肉料理の方が多い」または「どちらかというと肉料理の方が多い」と回答）に、その理由を尋ねると、1位「同居の家族が魚介類を好まないから」31.6%、2位「肉より割高だから」30.6%、3位「魚介料理は調理が面倒だから」24.8%となっており、家族の好み、金銭的問題、手間（時間）の問題、と魚介料理離れの原因として、大きく3つの理由が挙げられた。

肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 [肉料理派の人全体] (複数回答3つまで)

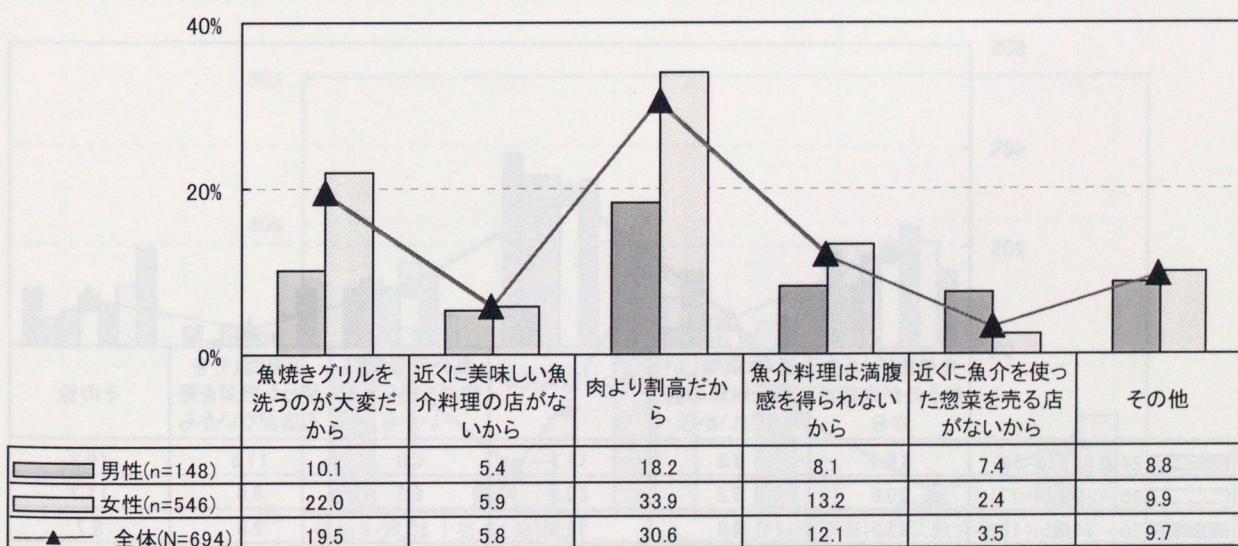
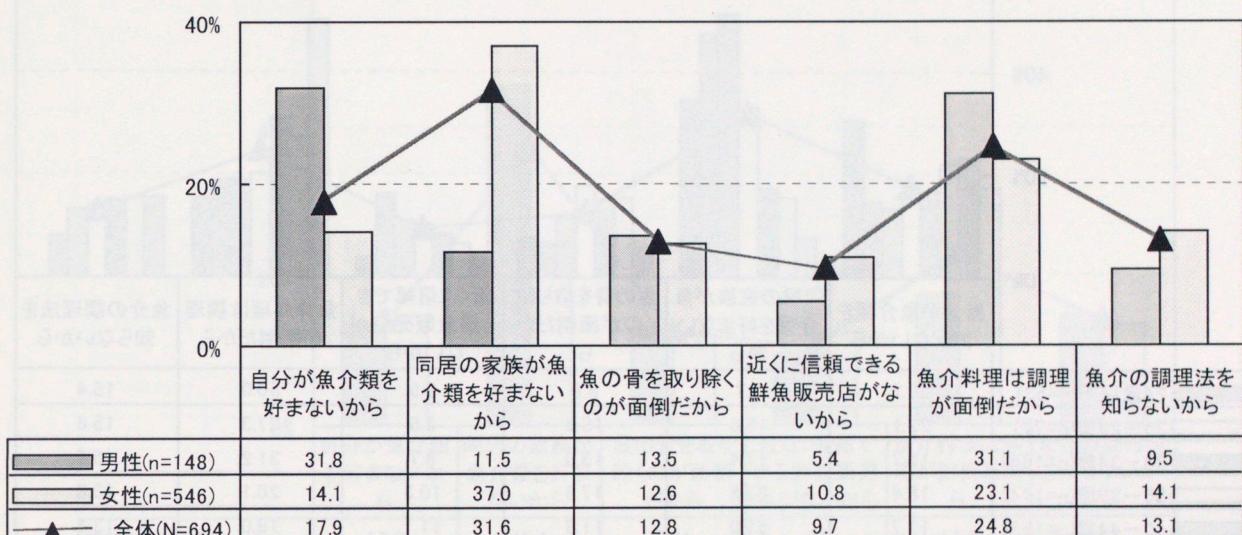
(N=694)



## 2-2-1(2) 肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 つづき

○[性別]に見ると、男性は、1位「自分が魚介類を好まないから」31.8%、2位「魚介料理は調理が面倒だから」31.1%、3位「肉より割高だから」18.2%、と本人主体の理由が上位を占める。一方女性は、1位「同居の家族が魚介類を好まないから」37.0%、2位「肉より割高だから」33.9%、3位「魚介料理は調理が面倒だから」23.1%、となっており、自分の好みよりも、家族の好みや金銭的・時間的問題により影響されていることがわかる。

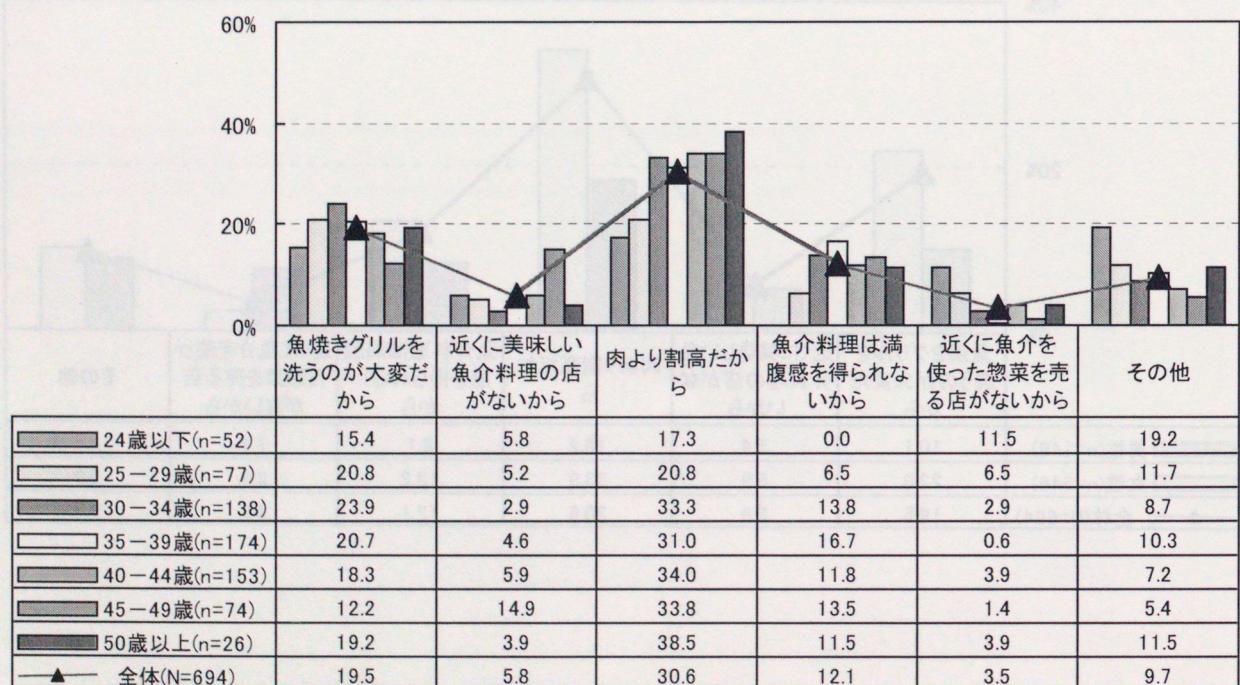
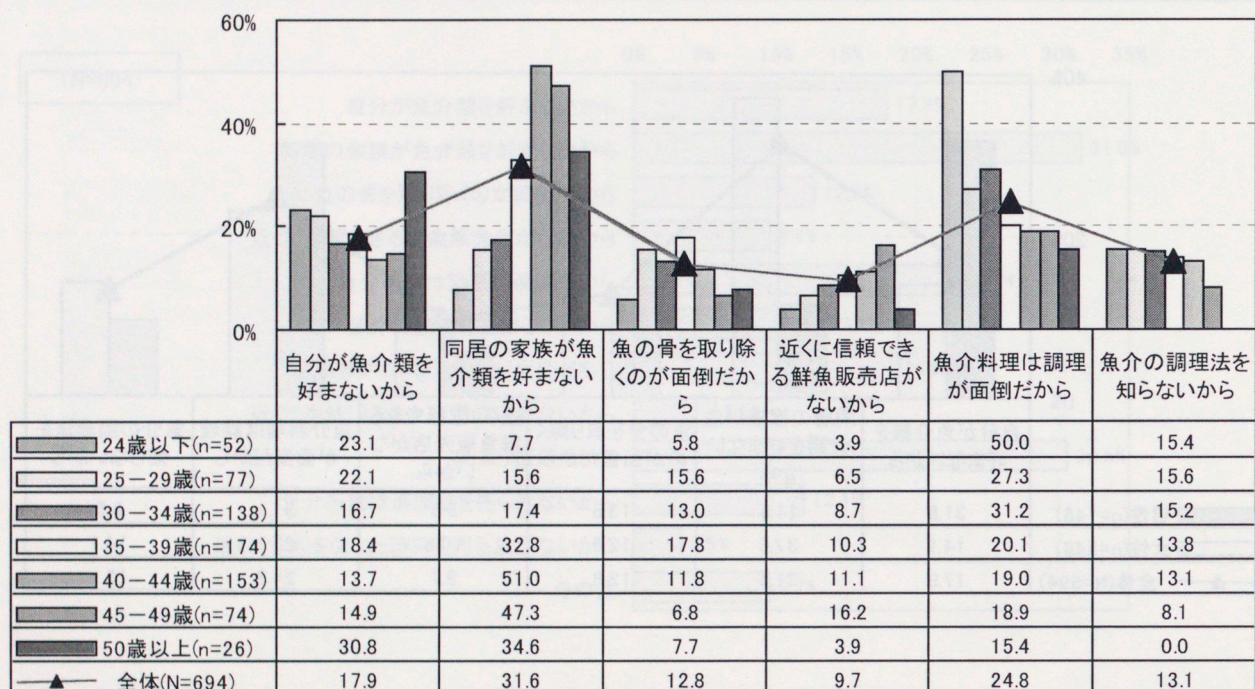
肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 [性別] (複数回答3つまで)



## 2-2-1(2) 肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 つづき

○[年齢別]に見ると、24歳以下、25-29歳は、1位「魚介料理は調理が面倒だから」(それぞれ50.0%、27.3%)、2位「自分が魚介類を好まないから」(それぞれ23.1%、22.1%)と本人主体の理由が上位にある。30-34歳は、1位「肉より割高だから」33.3%であり、35-39歳、40-44歳、45-49歳ではいずれも、1位「同居の家族が魚介類を好まないから」(それぞれ、32.8%、51.0%、47.3%)であった。またこれらの年代は、「肉より割高だから」の数値も高く、家族の好みおよび金銭的理由の回答率が高い。

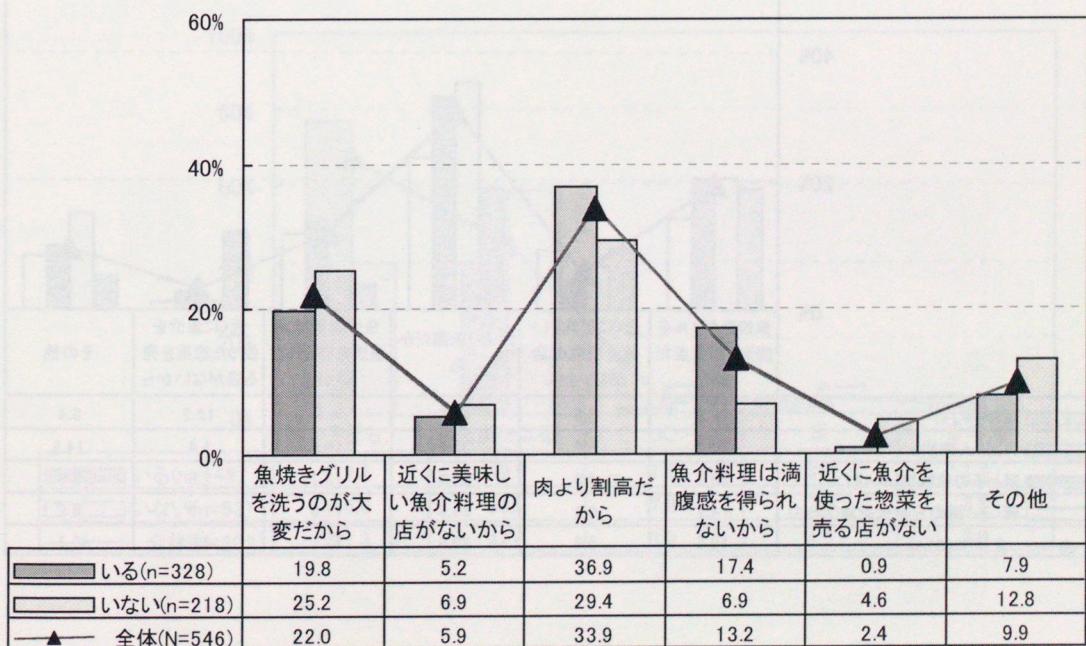
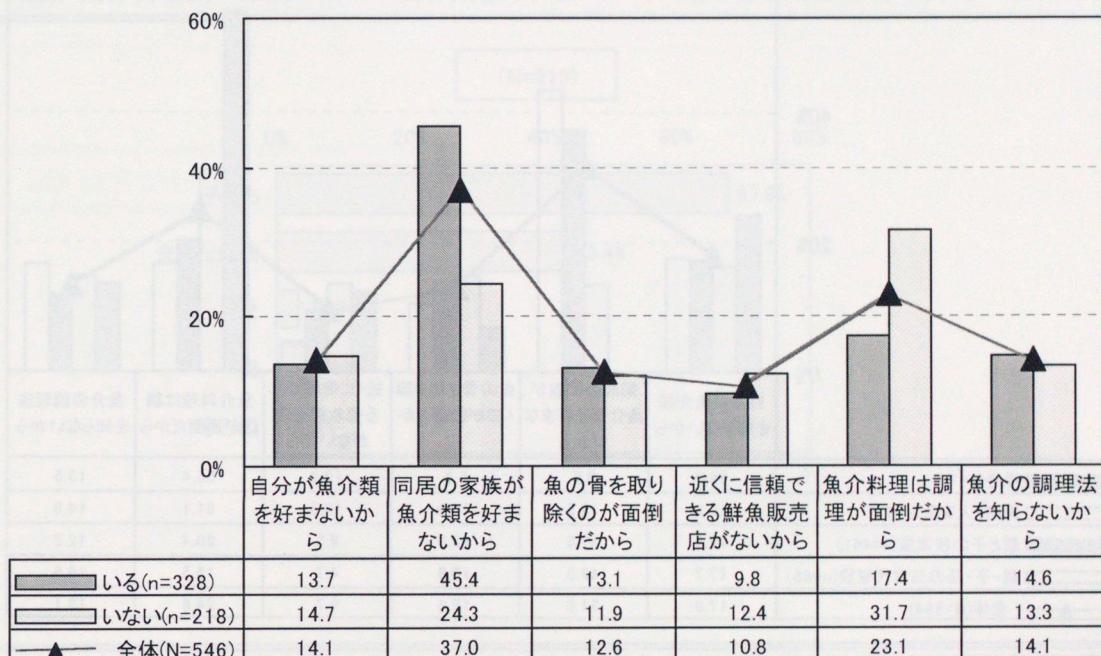
肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 [年齢別] (複数回答3つまで)



## 2-2-1(2) 肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 つづき

○[女性／小・中学生の子どもの有無別]に見ると、小・中学生の子どものいる女性は、1位「同居の家族が魚介類を好まないから」45.4%、2位「肉より割高だから」36.9%の2つが上位にある。食べ盛りの子どもの都合に合わせざるを得ない状況がうかがえる。一方、小・中学生の子どものいない女性は、「魚介料理は調理が面倒だから」31.7%が1位であった。

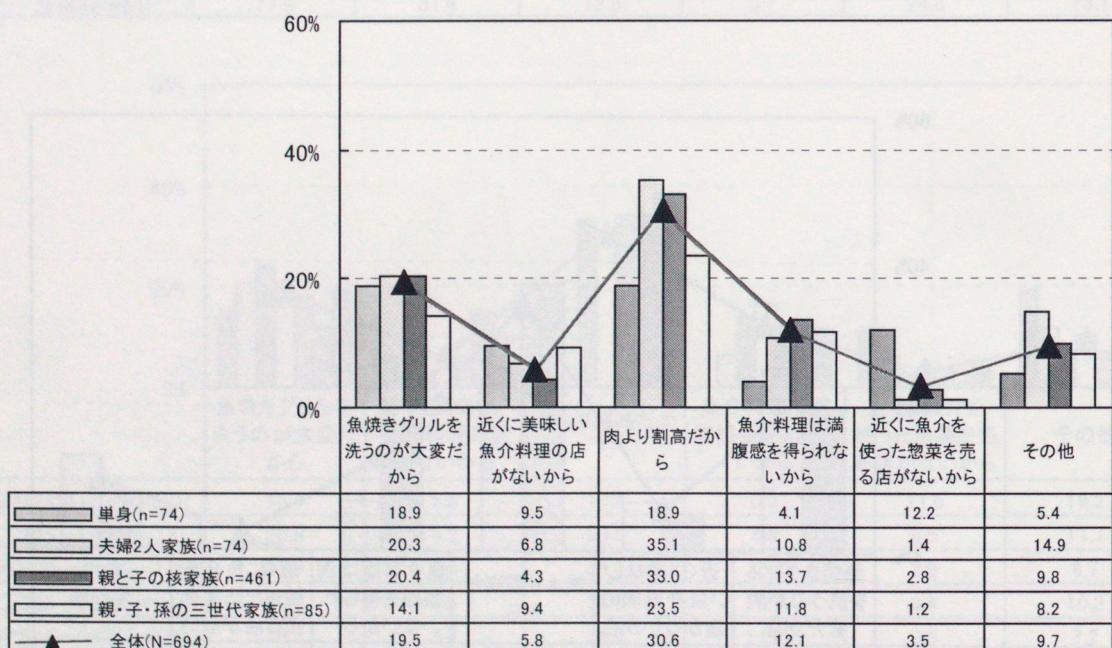
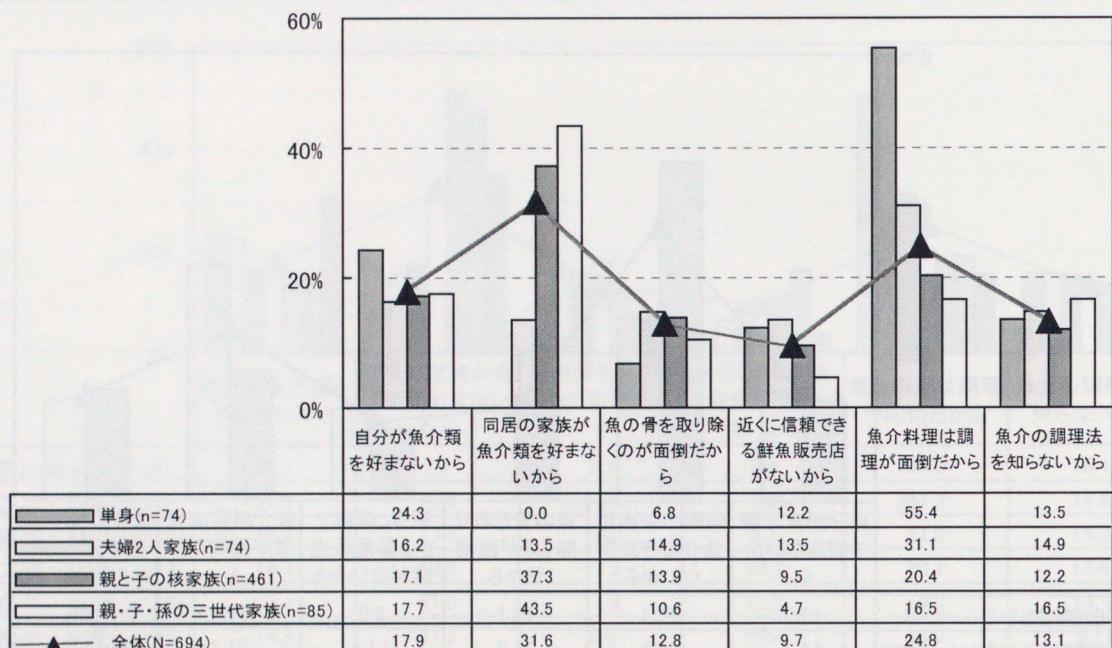
肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 [女性／小・中学生の子どもの有無別] (複数回答3つまで)



## 2-2-1(2) 肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 つづき

○[家族構成別]に見ると、子どものいる世帯（「親と子の核家族」および「親・子・孫の三世代家族」）では、1位「同居の家族が魚介類を好まないから」、2位「肉より割高だから」である。ただし、1位の「同居の家族が魚介類を好まないから」は、親と子の核家族が37.3%、親・子・孫の三世代家族が43.5%であり、[小・中学生の子どももあり]と比較すると、やや低い回答率となっている（P39参照）。

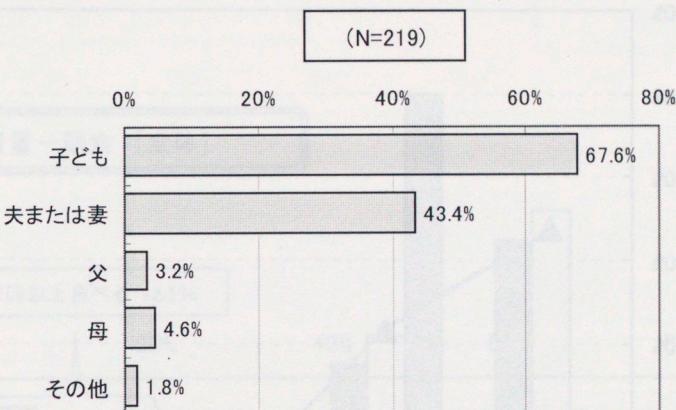
肉料理派・魚介料理派－魚介料理の阻害要因 [家族構成別]（複数回答3つまで）



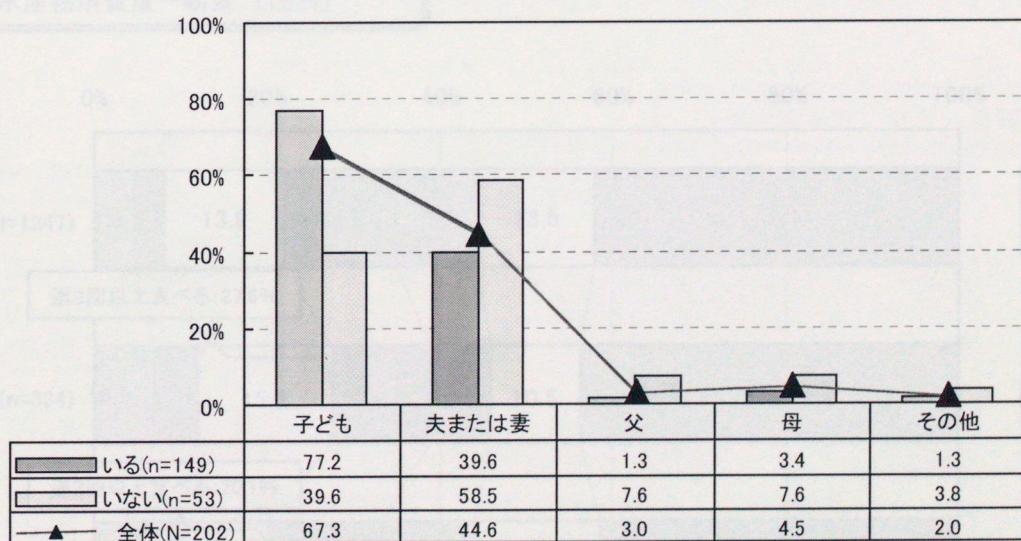
### 2-2-1(3) 肉料理派・魚介料理派－家族のだれが魚介類を好まないか

- 肉料理派の理由として「同居の家族が魚介類を好まないから」を選んだ人に、同居の家族のだれが魚介類を好まないのかを尋ねた。すると、全体では「子ども」が67.6%と圧倒的に多い。
- [女性／小・中学生の子どもの有無別]で見ると、小・中学生の子どものいる場合は、「子ども」77.2%であり、[全体]の「子ども」67.6%よりも回答率が高く、小・中学生の子どものいない場合で「子ども」と答えた人（つまり子どもが未就学児か高校生以上）は39.6%であった。よって小・中学生は、未就学児および高校生以上と比較し、より魚を好まないことがわかる。

#### 肉料理派・魚介料理派－家族のだれが魚介類を好まないか [同居の家族と答えた人全体] (複数回答)



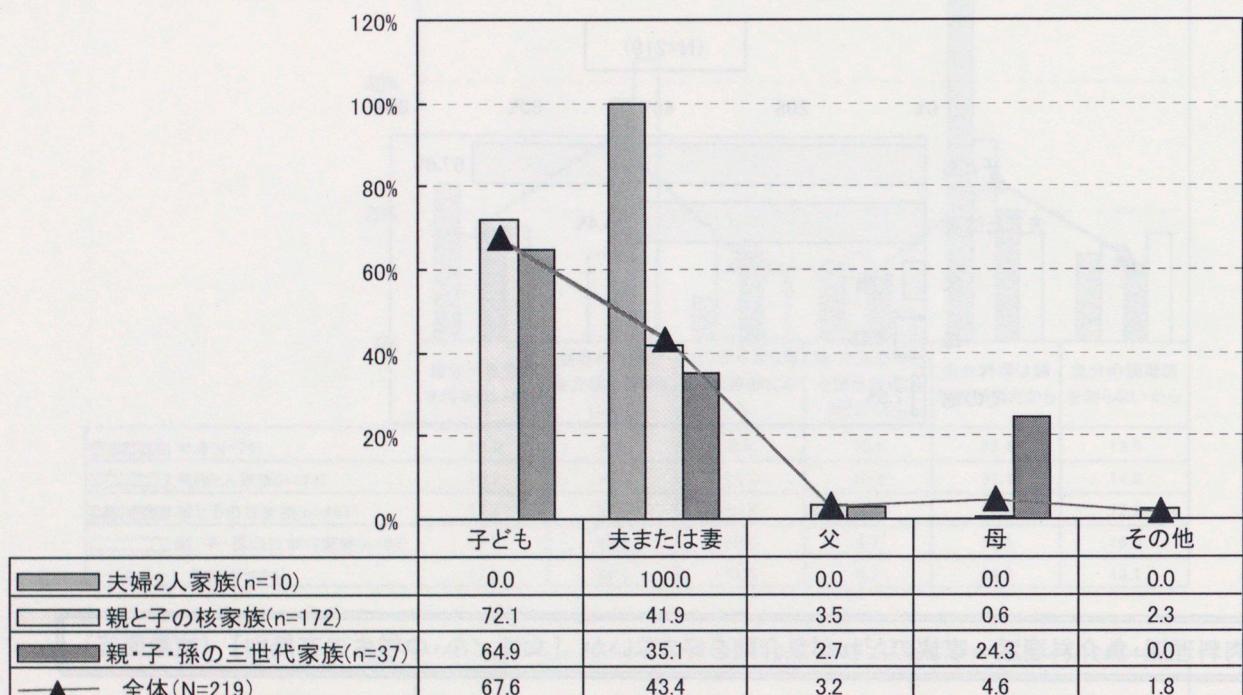
#### 肉料理派・魚介料理派－家族のだれが魚介類を好まないか [女性／小・中学生の有無別] (複数回答)



### 2-2-1(3) 肉料理派・魚介料理派－家族のだれが魚介類を好まないか つづき

○[家族構成別]に見ると、親と子の核家族では「子ども」が72.1%、親・子・孫の三世代家族では「子ども」が64.9%であり、祖父母と同居している場合は子どもの魚嫌いの比率が下がる。祖父母との同居で、魚介料理が食卓に登場する機会が多いいためと考えられる。

肉料理派・魚介料理派－家族のだれが魚介類を好まないか [家族構成別] (複数回答)



## 2-2-2 日ごろの食生活における水産物の消費実態

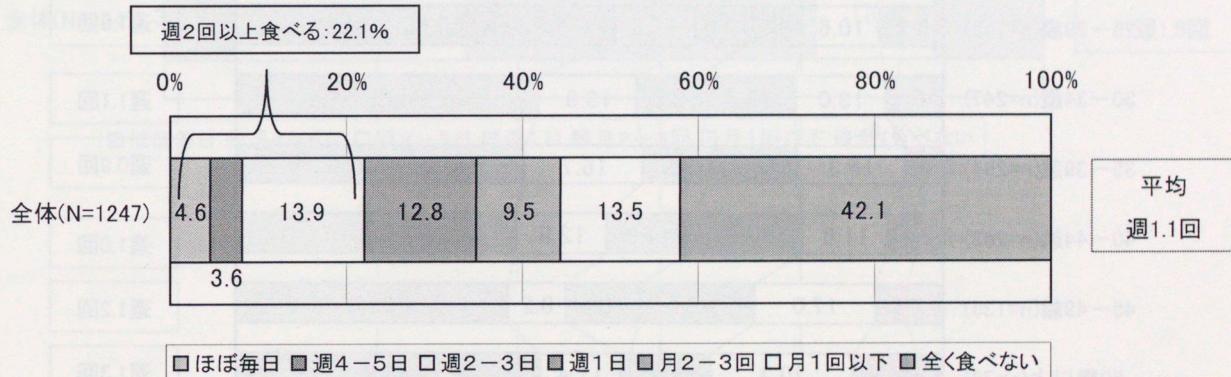
### 2-2-2(1) 水産物消費量－朝食

○朝食に水産物を食べる回数の平均は、全体では週あたり1.1回であり、週2回以上食べる人（「ほぼ毎日」「週4-5回」「週2-3回」の合計）の割合は、22.1%である。なお「全く食べない」42.1%には、朝食そのものを食べない人も含まれるため、朝食を毎日食べる人のみに限定すると、若干割合は高くなると考えられる。

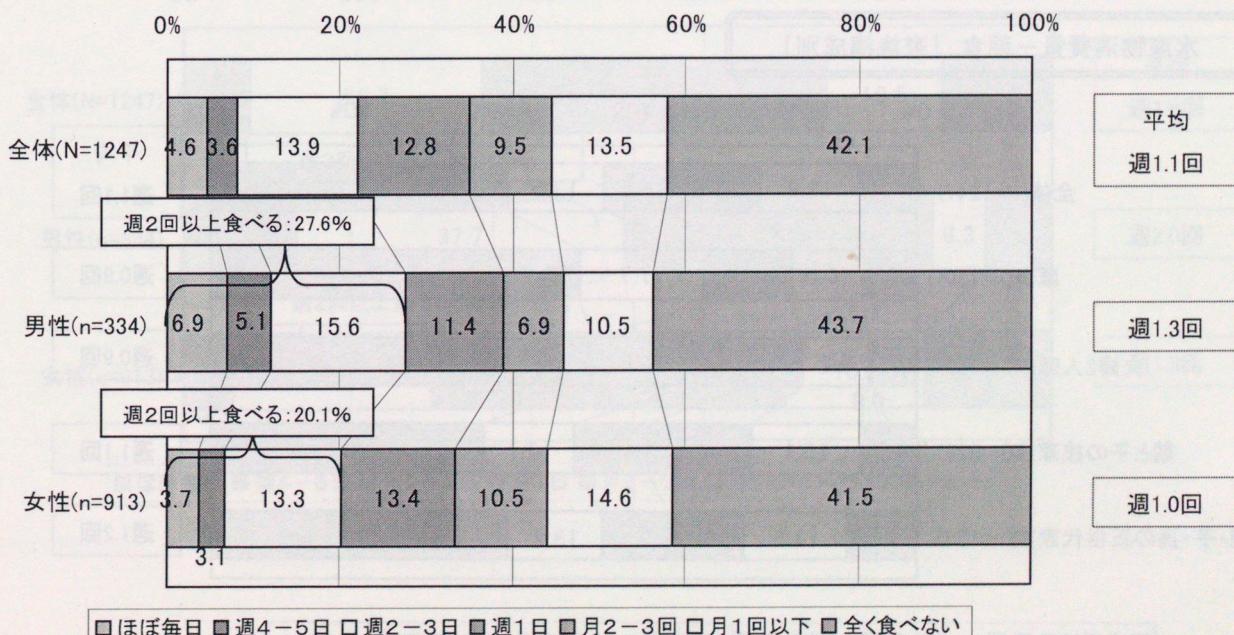
\* 回数の平均値は「全く食べない」も含めて算出。（以下同）

○[性別]に見ると、男性の方が朝食によく水産物を食べることがわかる。男性の方が魚介料理派が多いことと一致している。朝食に水産物を食べる回数の平均は、男性が1.3回、女性が1.0回であり、週に2回以上食べる人の割合は、男性が27.6%であるのに対し女性は20.1%と、女性全体の5分の1にとどまる。

水産物消費量－朝食 [全体]



水産物消費量－朝食 [性別]



## 2-2-2(1) 水産物消費量－朝食 つづき

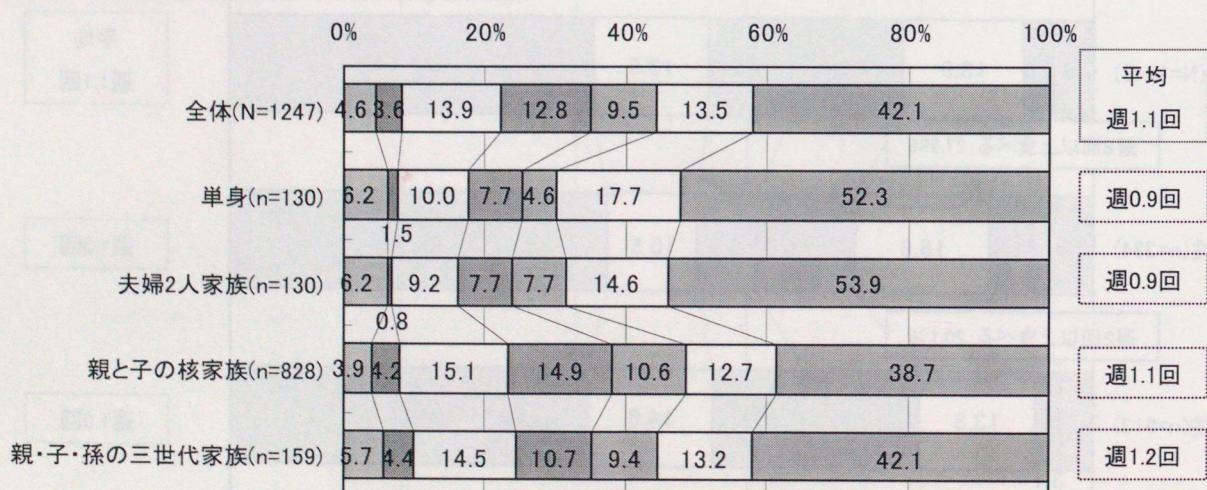
○[年齢別]に見ると、45—49歳、50歳以上が朝食に水産物をよく食べていることがわかる。週2回以上朝食に水産物を食べる人の割合が、45—49歳では26.7%、50歳以上では32.9%であり、それぞれの平均が週1.2回、週1.3回で全体の平均を上回った。それ以外の年代では大きな差異は見られないが、25—29歳で「全く食べない」が半数以上に達した。

○[家族構成別]に見ると、週2回以上朝食に水産物を食べる人の割合は、単身で17.7%、夫婦2人家族で16.2%、親と子の核家族で23.2%、親・子・孫の三世代家族で24.5%であり、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族での割合が多い。単身者および夫婦2人家族では、朝食そのものを食べない、あるいは、パンとコーヒーや牛乳だけなど簡単なもので済ませる、など別の理由もあると考えられる。

水産物消費量－朝食 [年齢別]



水産物消費量－朝食 [家族構成別]



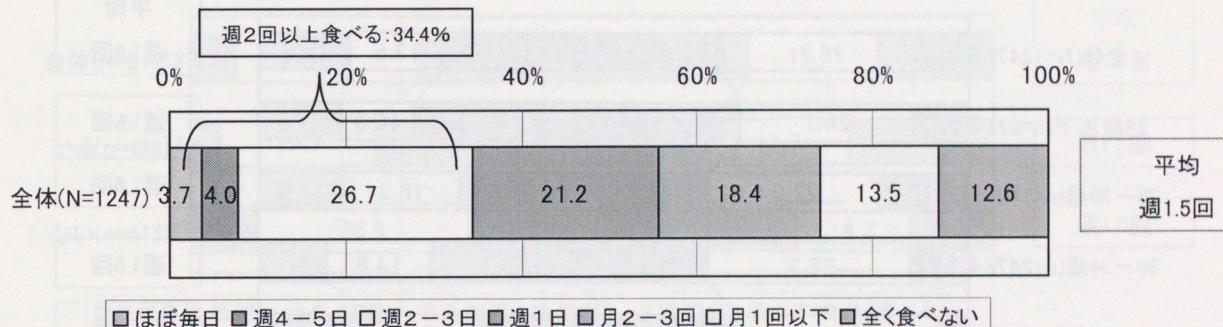
## 2-2-2(2) 水産物消費量一昼食

○水産物の消費量について、調査結果を示す。

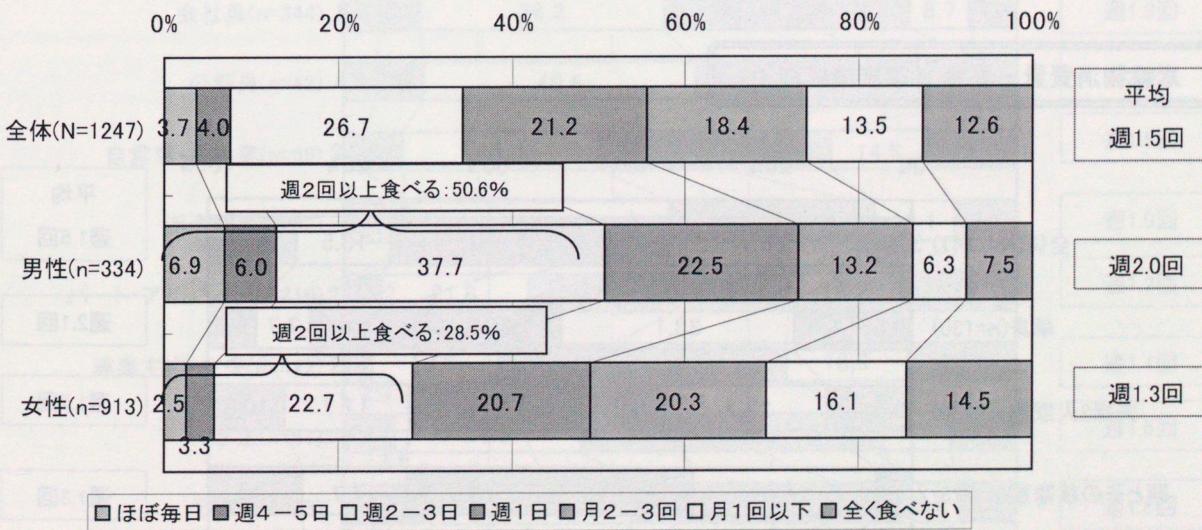
○昼食に水産物を食べる回数は、全体では週あたり平均1.5回であり、朝食に比較すると多くなっている。「週2-3回」食べる人の割合が26.7%と最も多く、昼食に週2回以上水産物を食べる人（「ほぼ毎日」「週4-5日」「週2-3日」の合計）は34.4%であった。

○[性別]に見ると、ここでもやはり男性の方がよく水産物を食べることがわかる。週あたりの平均回数は、男性が2.0回、女性が1.3回であり、昼食に週2回以上水産物を食べる人の割合は、男性が50.6%と半数以上に達しているのに対し、女性は28.5%にとどまり、性別により大きく差が出た。後述するとおり、男性は昼食での外食利用が多く、外食で水産物を消費していると考えられる。

### 水産物消費量一昼食 [全体]



### 水産物消費量一昼食 [性別]



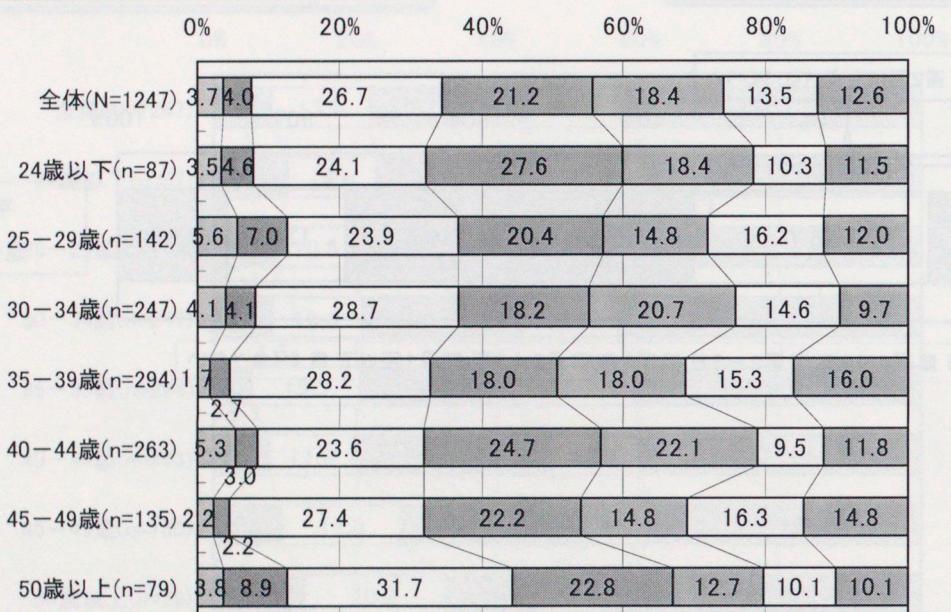
## 2-2-2(2) 水産物消費量一昼食 つづき

水産物消費量一昼食 (3) まとめ

○[年齢別]に見ると、昼食に週2回以上水産物を食べる人は、50歳以上では44.4%で、平均回数も1.8回と、他の年代と比較し多い。なお、昼食に水産物を週2回以上食べるのは、30~34歳、35~39歳がそれぞれ4割で、50歳以上に次いで多い。

○[家族構成別]に見ると、昼食に週2回以上水産物を食べる人は、単身者では50.1%と半数に達する。その他では大きな差異は見られず、夫婦2人家族で34.6%、親と子の核家族で31.1%、親・子・孫の三世代家族で39.0%であった。単身者では、平均回数も週あたり2.1回と、全体の平均を大きく上回っており、外食(後述するとおり、単身者は昼食での外食利用が非常に多い)で水産物を食べていることがわかる。

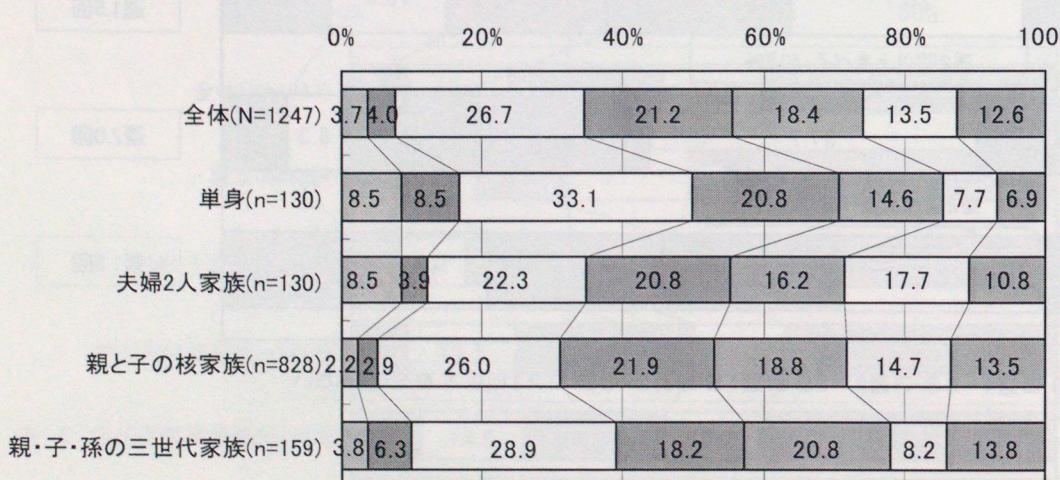
水産物消費量一昼食 [年齢別]



平均
週1.5回
週1.5回
週1.6回
週1.5回
週1.3回
週1.5回
週1.3回
週1.3回
週1.8回

□ほぼ毎日 ■週4~5日 □週2~3日 ■週1日 □月2~3回 □月1回以下 □全く食べない

水産物消費量一昼食 [家族構成別]



平均
週1.5回
週2.1回
週1.7回
週1.3回
週1.6回

□ほぼ毎日 ■週4~5日 □週2~3日 ■週1日 □月2~3回 □月1回以下 □全く食べない

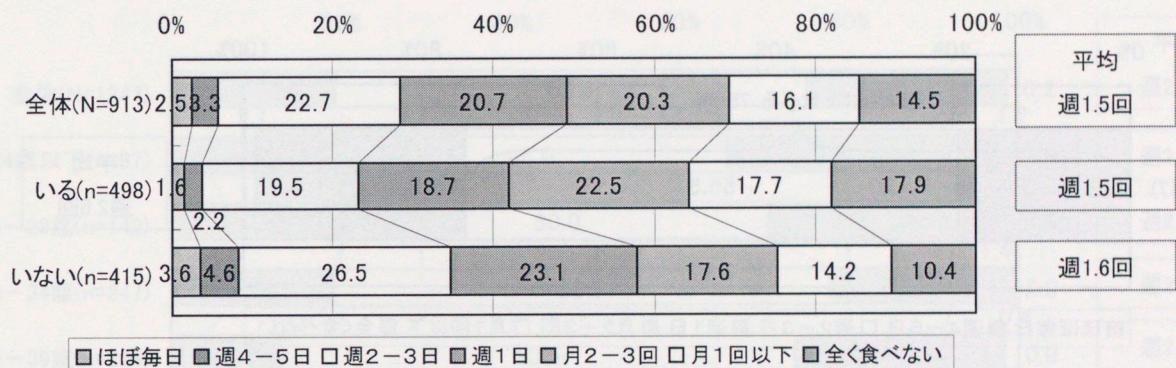
## 2-2-2(2) 水産物消費量一昼食 つづき

支那一覧表の意味 (2) 2-2-2

○[女性／小・中学生の子どもの有無別]に見ると、昼食に週2回以上水産物を食べる人は、小・中学生の子どものいる人では23.3%、一方小・中学生の子どものいない人では34.7%と、約10ポイントの差がある。小・中学生の子どものいる人は、日ごろの食生活においても魚介料理派が少なく、子どもと一緒にとらなりであろう昼食においても、やはり水産物を食べていないことがわかる。

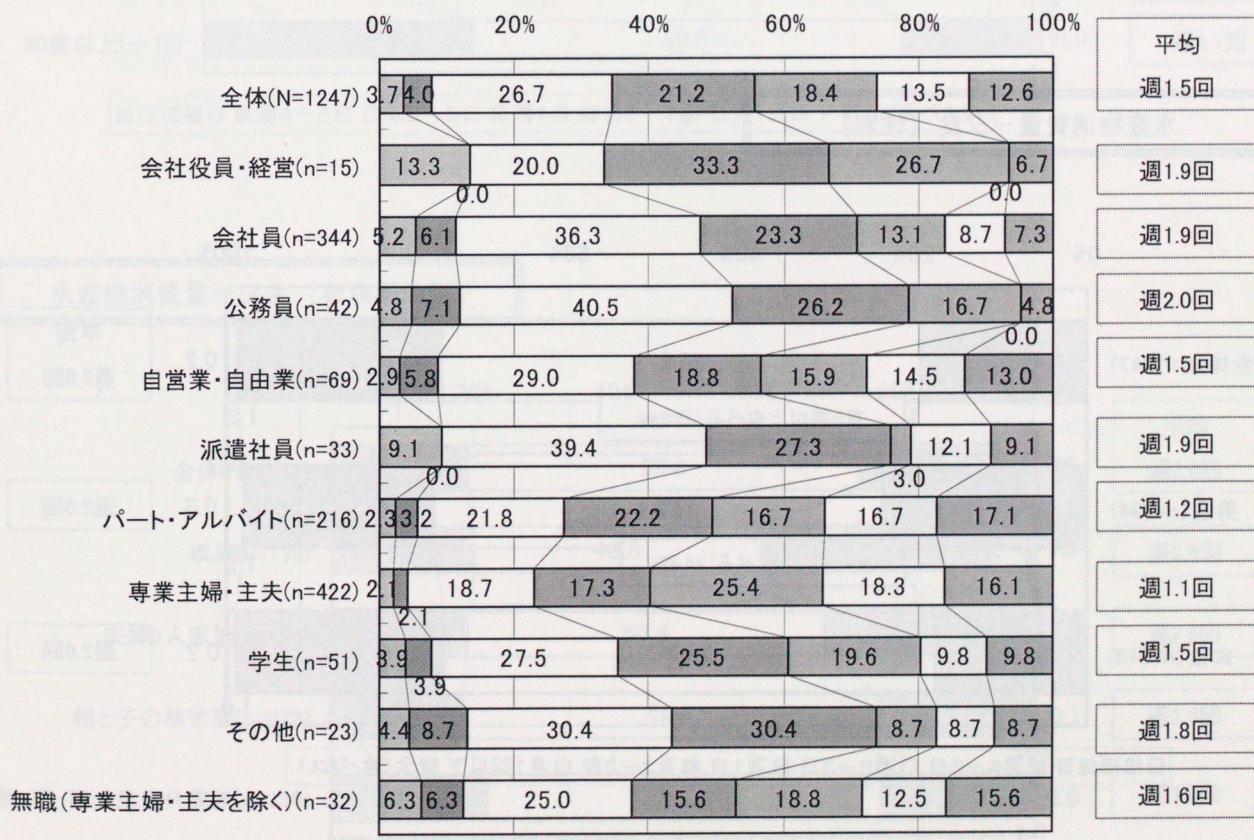
○[職業別]に見ても、専業主婦(夫)が昼食に水産物を食べる回数が極めて低いことがわかる。

水産物消費量一昼食 [女性／小・中学生の子どもの有無別]



□ほぼ毎日 ■週4-5日 □週2-3日 ■週1日 □月2-3回 □月1回以下 □全く食べない

水産物消費量一昼食 [職業別]



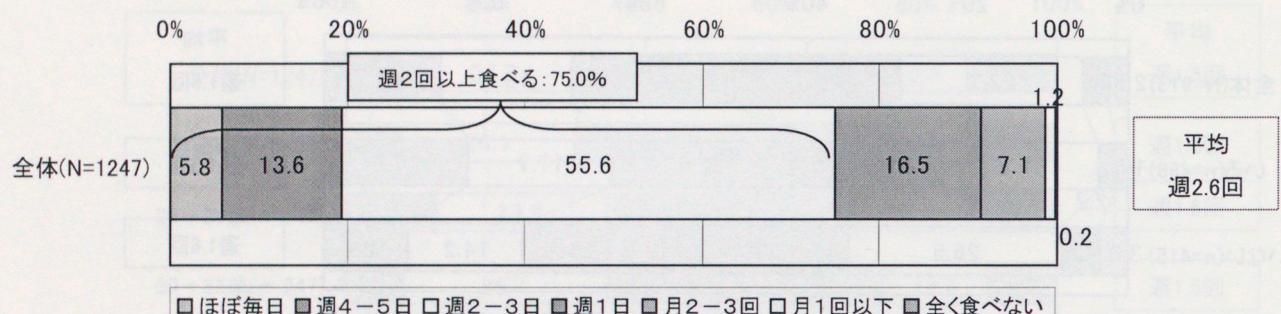
□ほぼ毎日 ■週4-5日 □週2-3日 ■週1日 □月2-3回 □月1回以下 □全く食べない

## 2-2-2(3) 水産物消費量－夕食

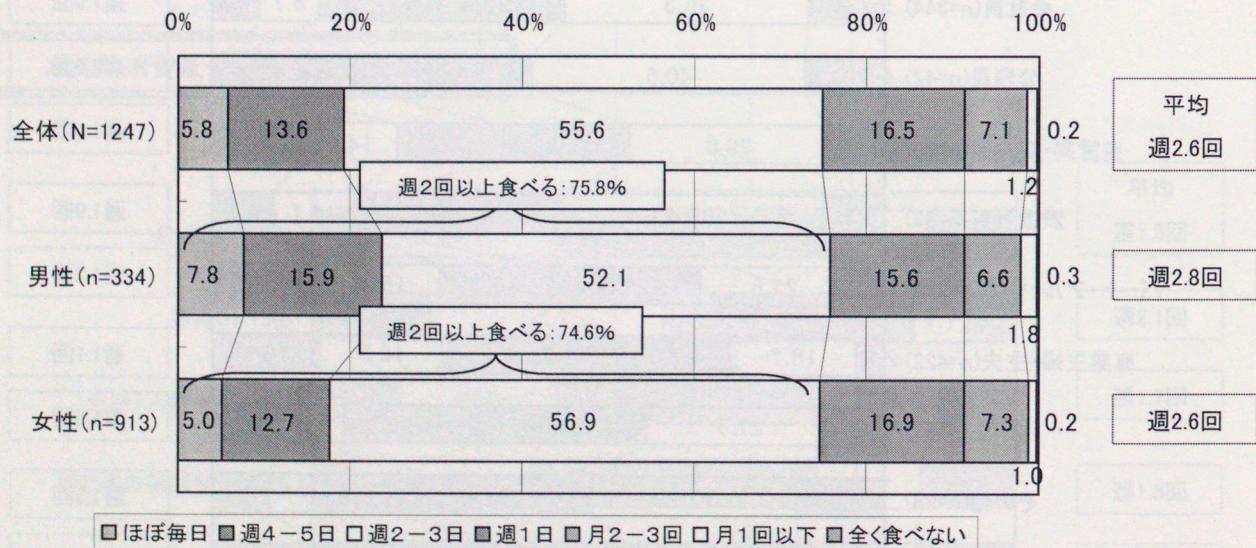
○夕食に水産物を食べる回数は、全体では週あたり平均2.6回と、朝食・昼食と比較し回数が多く、三食の中で最も水産物が消費されることがわかる。また、夕食に「週2～3回」水産物を食べる人が55.6%と半数以上を占め、週2回以上の合計は75.0%に達する。

○[性別]に見ると、夕食に「週4～5回」水産物を食べる人が、男性は15.9%、女性は12.7%とやや差があるが、朝食・昼食と比較してその差は少ない。週あたりの平均回数は、男性は2.8回、女性は2.6回であり、週2回以上食べる人の割合も、男性は75.8%、女性は74.6%となっており、朝食・昼食ほどの差はない。

水産物消費量－夕食 [全体]



水産物消費量－夕食 [性別]

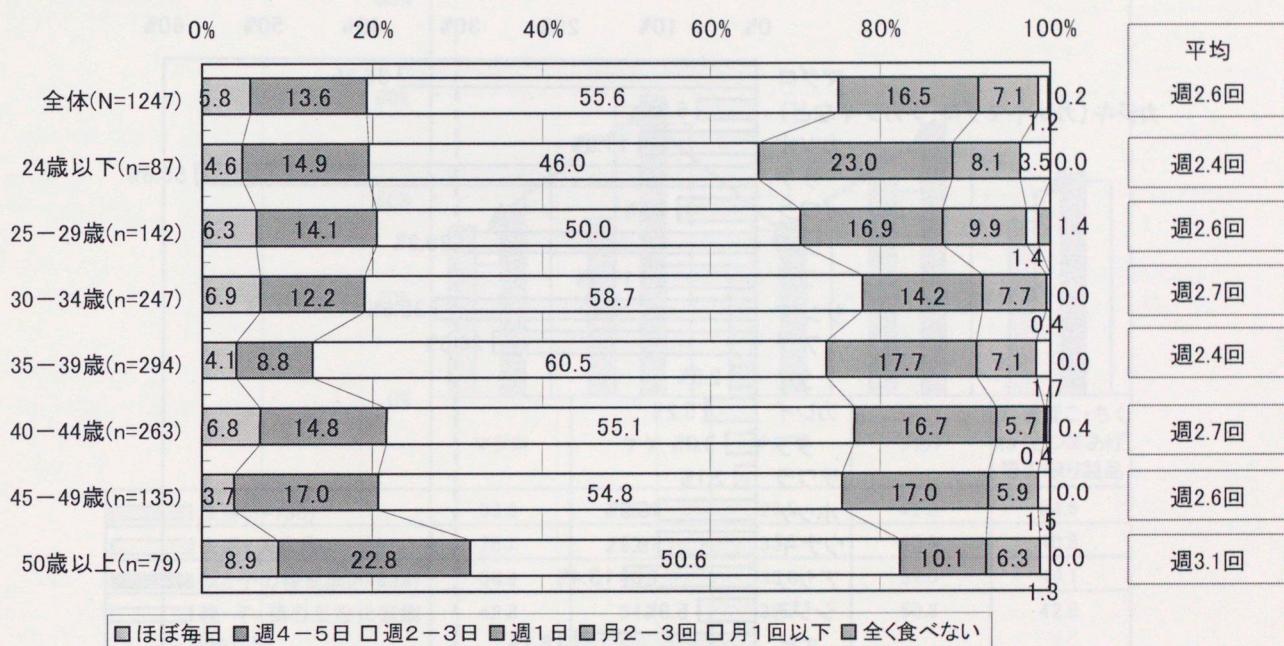


### 2-2-2(3) 水産物消費量－夕食 つづき

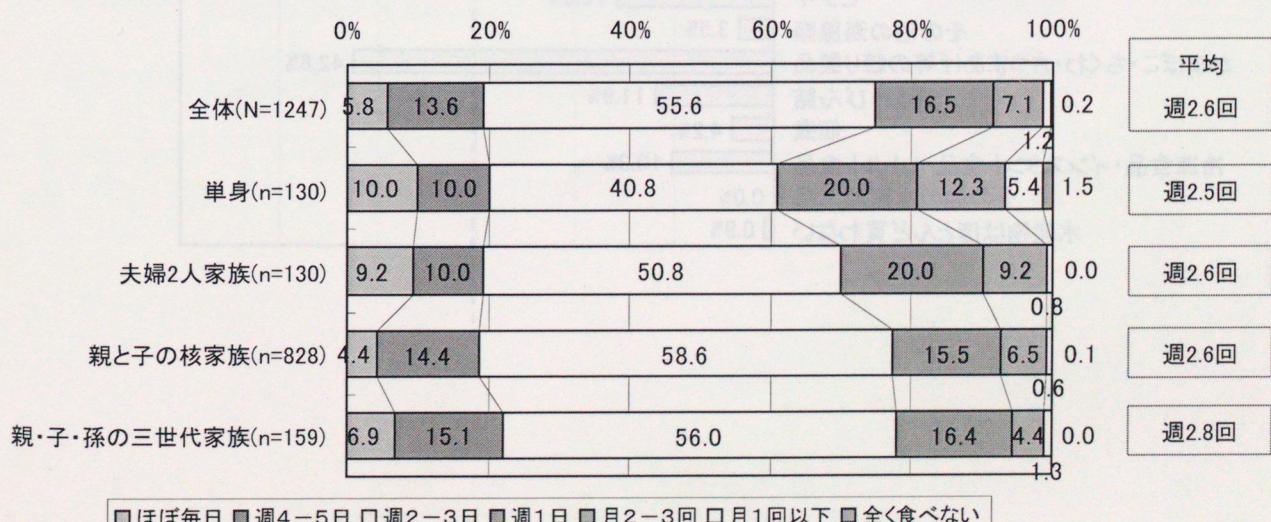
○[年齢別]に見ると、50歳以上では、夕食に週2回以上水産物を食べる人が82.3%と多く、平均回数も3.1回と、他の年代と差がある。それ以外の年代でも6～7割が、夕食に週2回以上水産物を食べており、朝食・昼食に比べると食べる回数が多い。唯一24歳以下で、週2回以上食べる人の割合が6割台であり、平均回数も最も少ない。

○[家族構成別]に見ると、単身者は平均回数が週2.5回であり、唯一全体の平均回数を下回った。昼食では単身者が最も水産物を食べていたことから、夕食で食べない分を昼食で賄っていることも考えられる。

水産物消費量－夕食 [年齢別]



水産物消費量－夕食 [家族構成別]

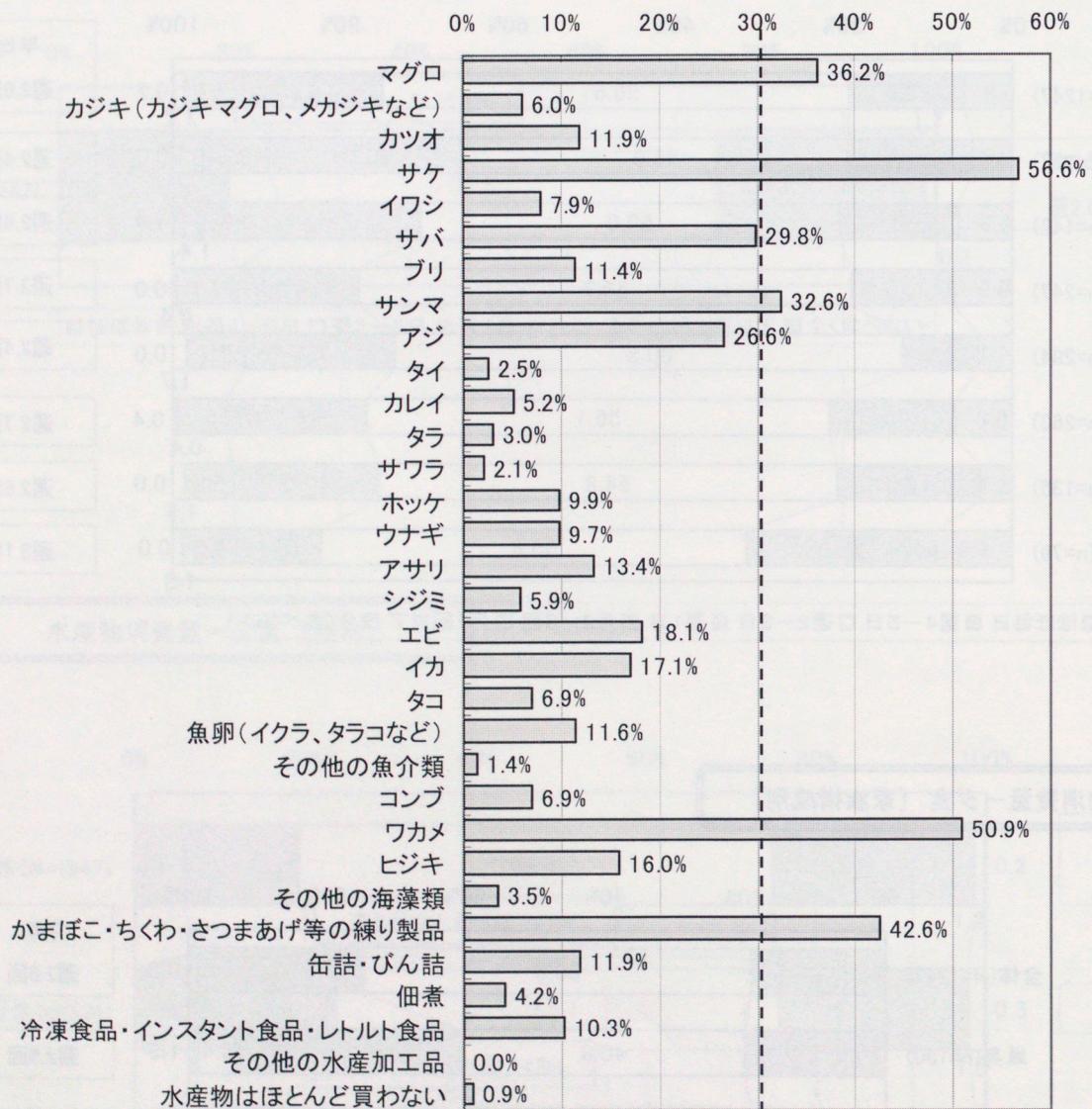


## 2-2-2(4) 水産物消費量－よく購入する水産物

○日ごろ、よく購入する水産物を尋ねると、魚介類では「サケ」「マグロ」「サンマ」が上位3位で、海藻類では「ワカメ」が、水産加工品では練り製品がそれぞれ1位だった。調査実施は9月であったため、旬も多少影響していると思われる。

水産物消費量－よく購入する水産物 [全体] (複数回答5つまで)

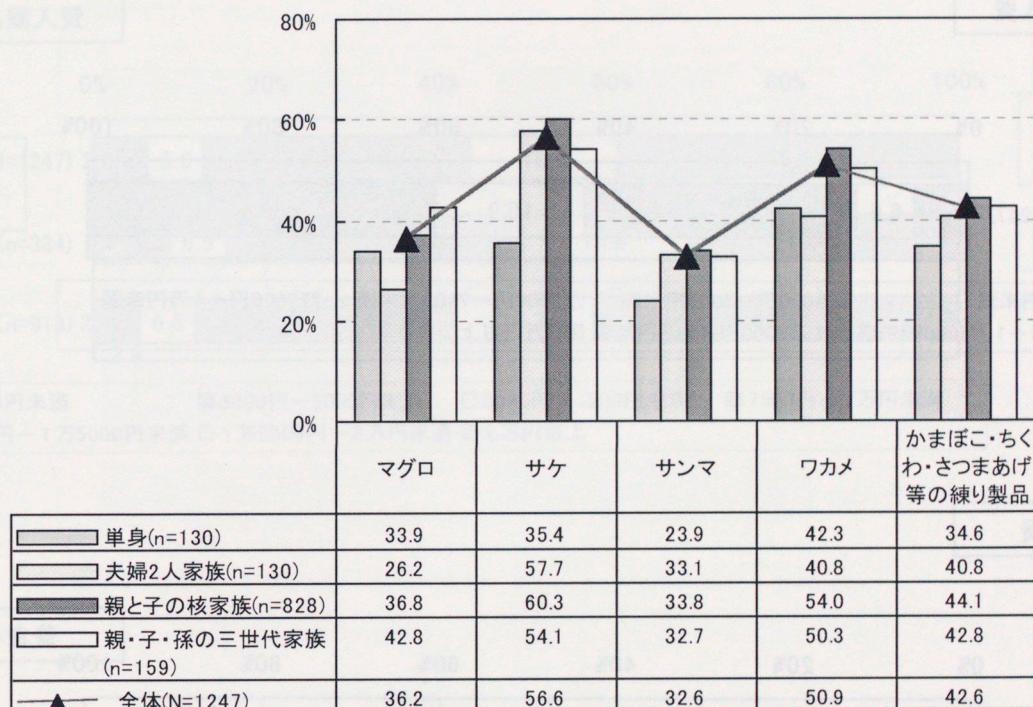
(N=1247)



## 2-2-2(4) 水産物消費量—よく購入する水産物 つづき

○[全体]で30.0%以上に達していた「マグロ」「サケ」「サンマ」「ワカメ」「かまぼこ・ちくわ・さつまあげ等の練り製品」の5品について(前ページ参照)、[家族構成別]に見ると、単身者はマグロとサケがほぼ同率であるが、他ではサケの比率が高くなっている。

水産物消費量—よく購入する水産物 [家族構成別] (複数回答上位5位)

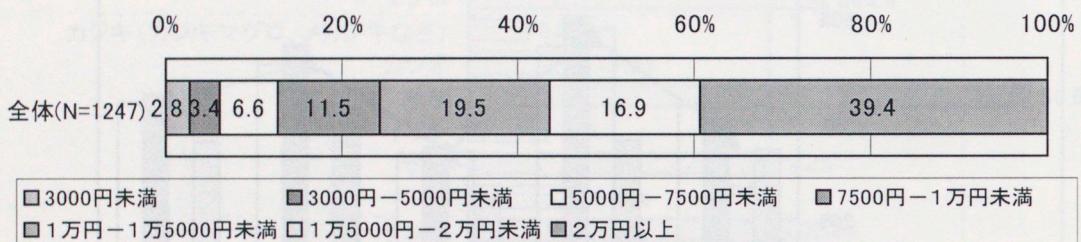


## 2-2-3 1か月の食費(食品購入費&外食費)

○1か月の食費について尋ねると、[全体]では1人あたりの食品購入費の平均額は14,905円、1人あたりの外食費の平均額は9,015円であった。食品購入費は2万円以上が4割近くを占め、一方、外食費は3000円未満が2割弱と最も多い。

### 1か月の食費 [全体]

#### 食品購入費



#### 外食費

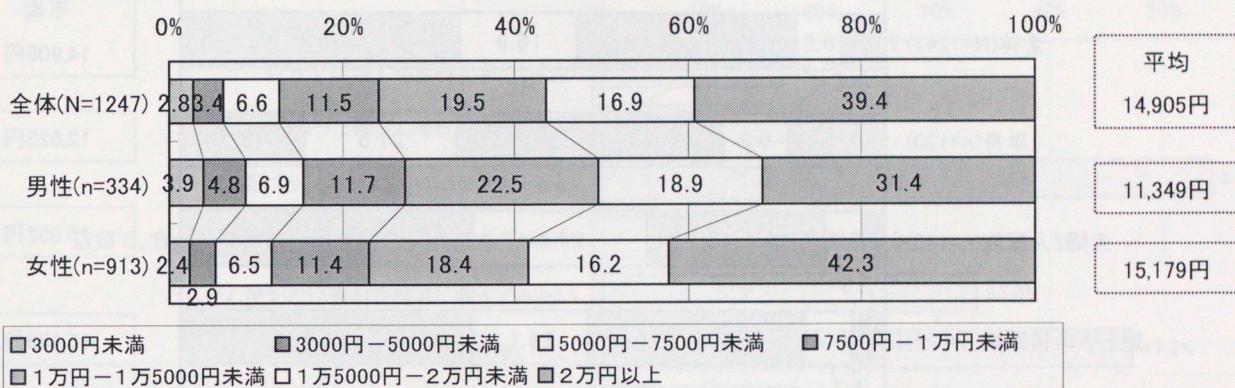


## 2-2-3 1か月の食費(食品購入費&外食費) つづき

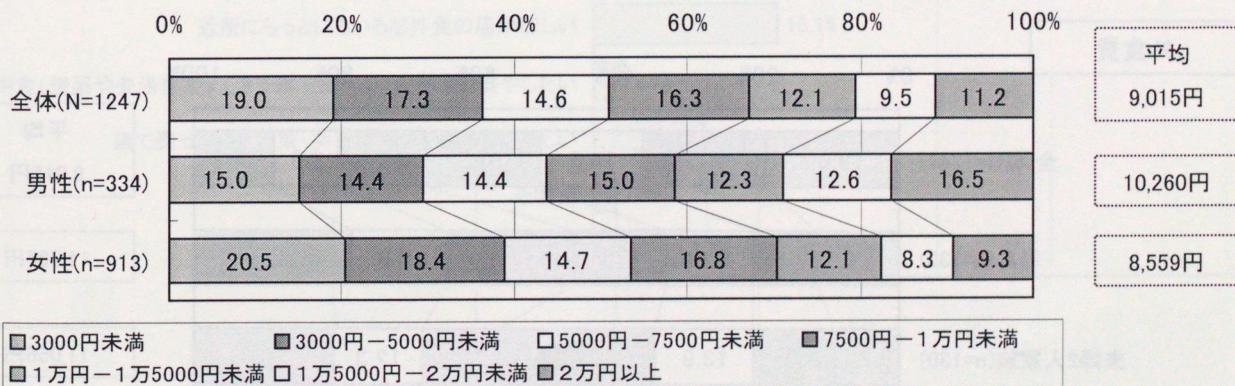
○[性別]に見ると、食品購入費については、平均額が女性は15,179円であり、男性の11,349円と比較し4,000円近くも高くなっている。一方、外食費については、男性は10,260円、女性は8,559円であり、女性の方が自炊する人が多く、一方男性は外食を利用する人の割合が多いためと考えられる。

1か月の食費 [性別]

食品購入費



外食費

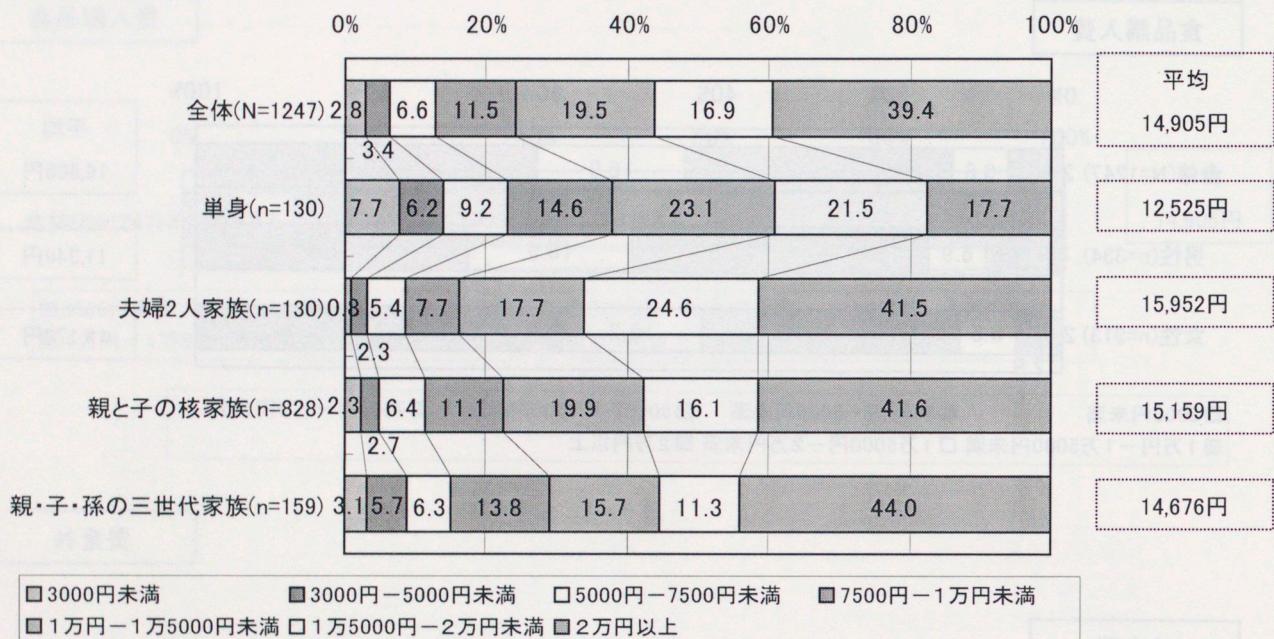


## 2-2-3 1か月の食費(食品購入費&外食費) つづき

○[家族構成別]に見ると、単身者では食品購入費が平均よりも低く、逆に外食費が他と比較して最も高くなっている。また、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族では、外食費が他と比較して低い額となつており、平均額を下回る。

1か月の食費 [家族構成別]

食品購入費



外食費

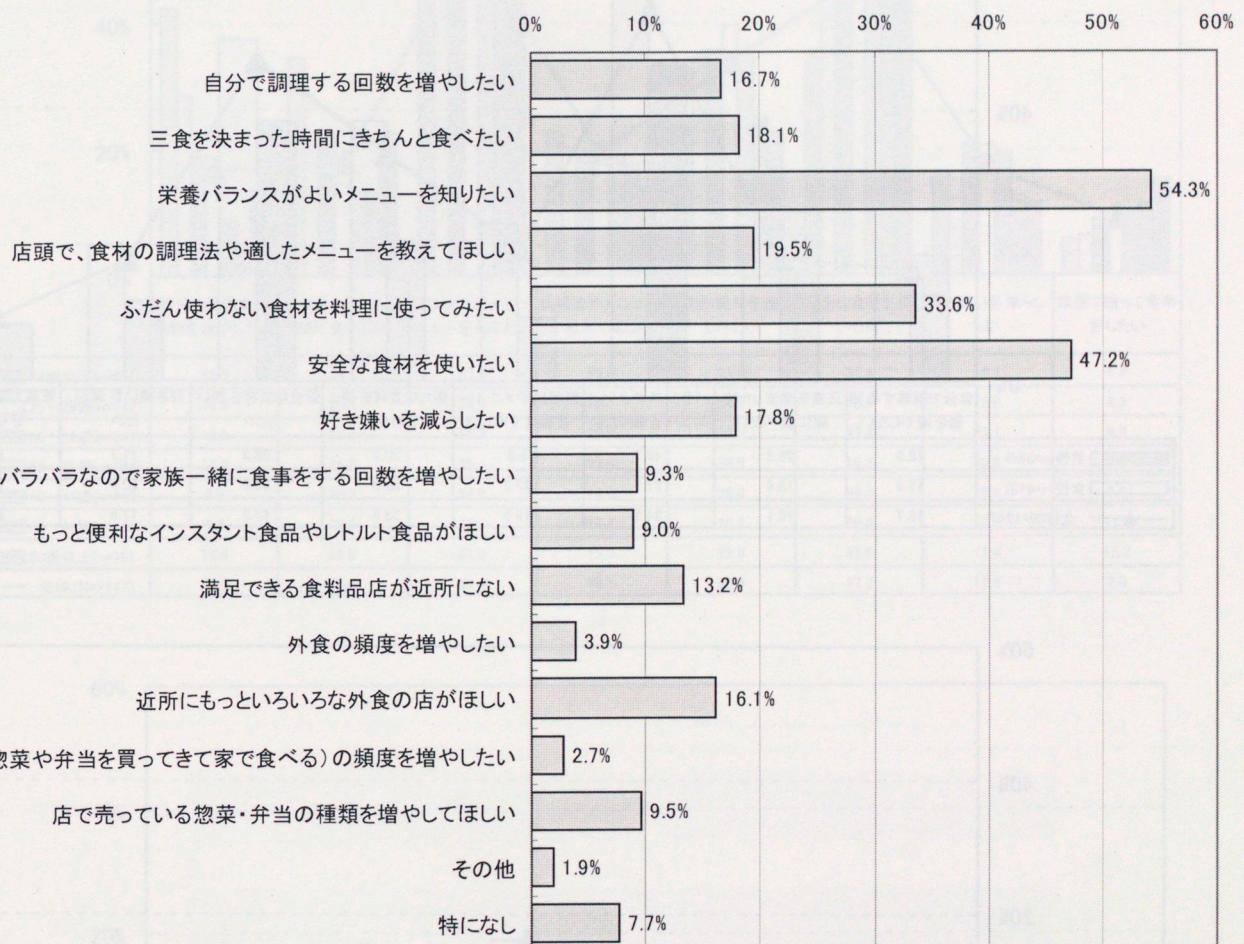


## 2-2-4 食生活についての不満・要望

○日ごろの食生活について、不満に感じることや改善したいことについて尋ねると、1位「栄養バランスがよいメニューを知りたい」54.3%、2位「安全な食材を使いたい」47.2%、3位「ふだん使わない食材を料理に使ってみたい」33.6%が、回答率30%以上であった。近年の健康ブームや、食の安全に関する事件等が人々の意識に影響していると考えられる。

食生活についての不満・要望 [全体] (複数回答)

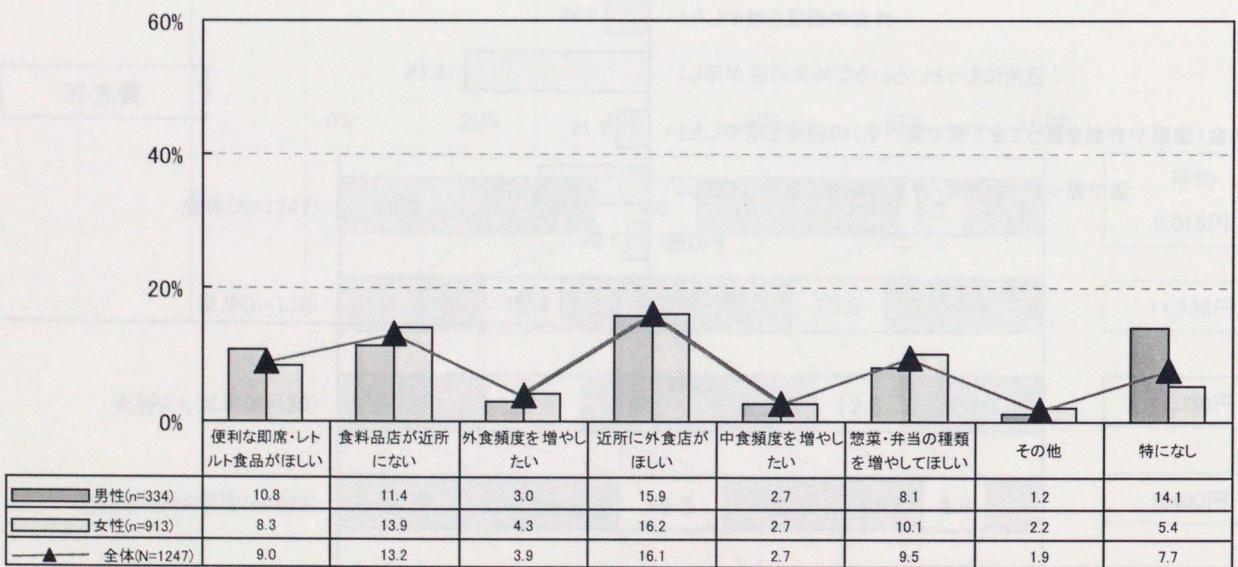
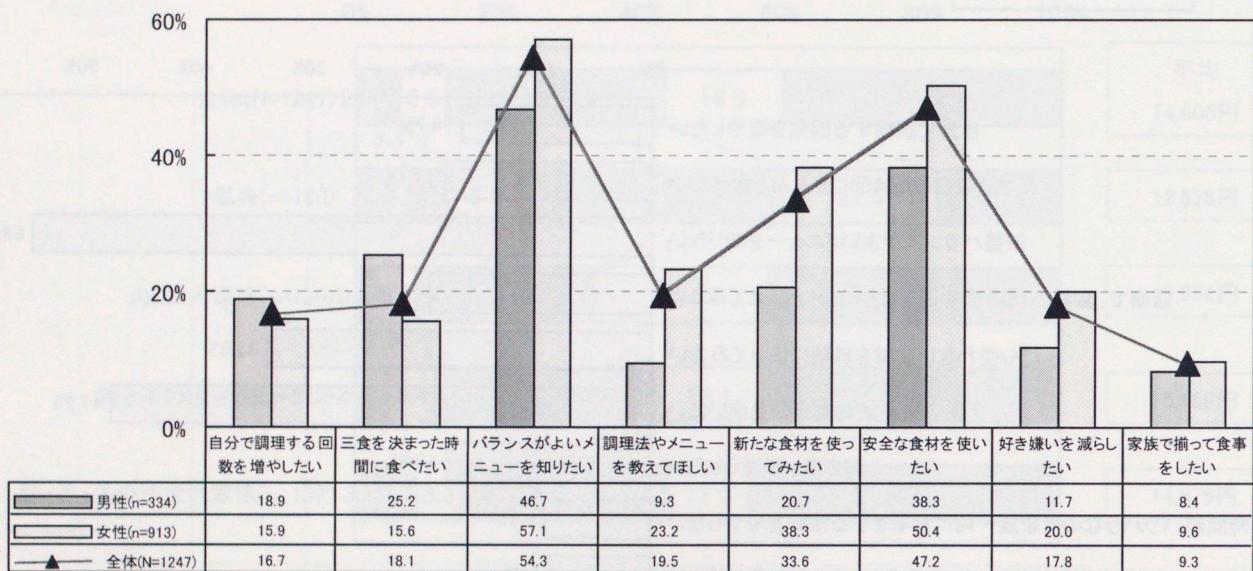
(N=1247)



## 2-2-4 食生活についての不満・要望 つづき

○[性別]に見ると、女性の方が栄養のバランスや安全な食材に関心が高いことがわかる。また、「ふだん使わない食材を料理に使ってみたい」(グラフ上では「新たな食材を使ってみたい」と表記)は、男性20.7%に対し、女性は38.3%であり、性別によって料理することへの関心の違いが表れた。さらに、男性では「三食を決まった時間にきちんと食べたい」が女性と比較し高い回答率である。

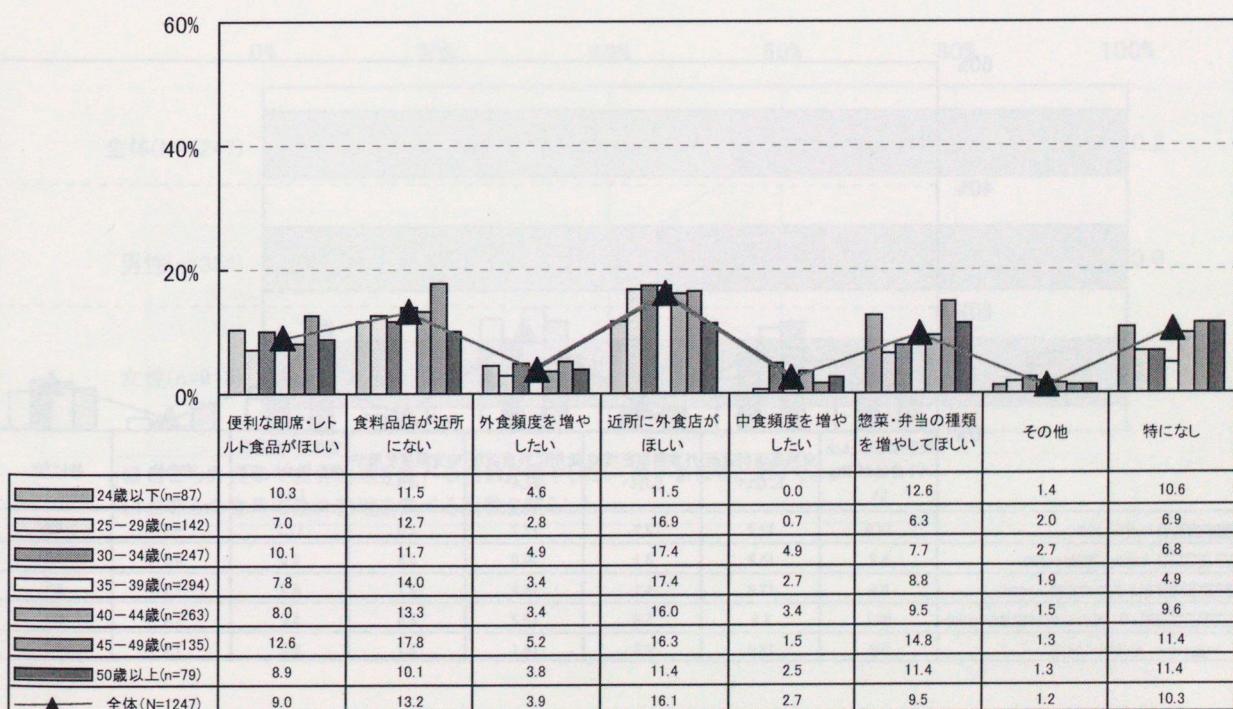
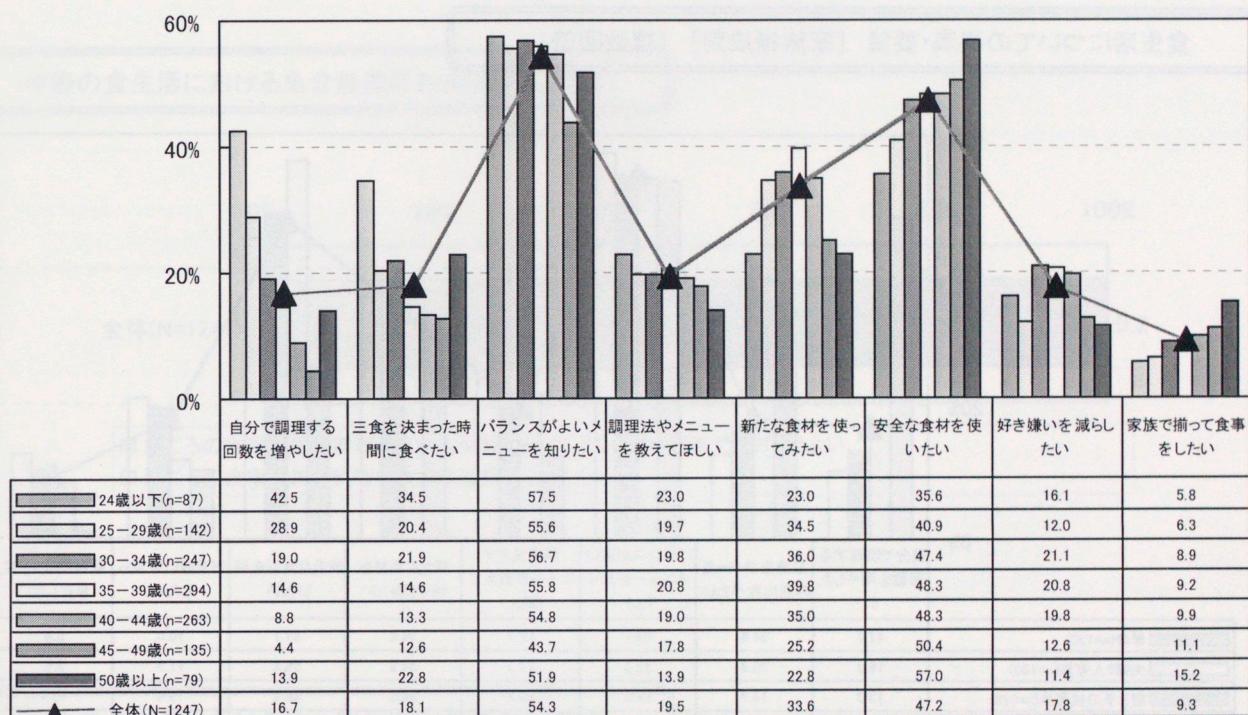
食生活についての不満・要望 [性別] (複数回答)



## 2-2-4 食生活についての不満・要望 つづき

○[年齢別]に見ると、安全な食材への関心は、年齢が上がるにつれて次第に高くなっていることがわかる。また、35-39歳の層では、他と比較して「ふだん使わない食材を料理に使ってみたい」(グラフ上では「新たな食材を使ってみたい」と表記)の割合が高くなっている。

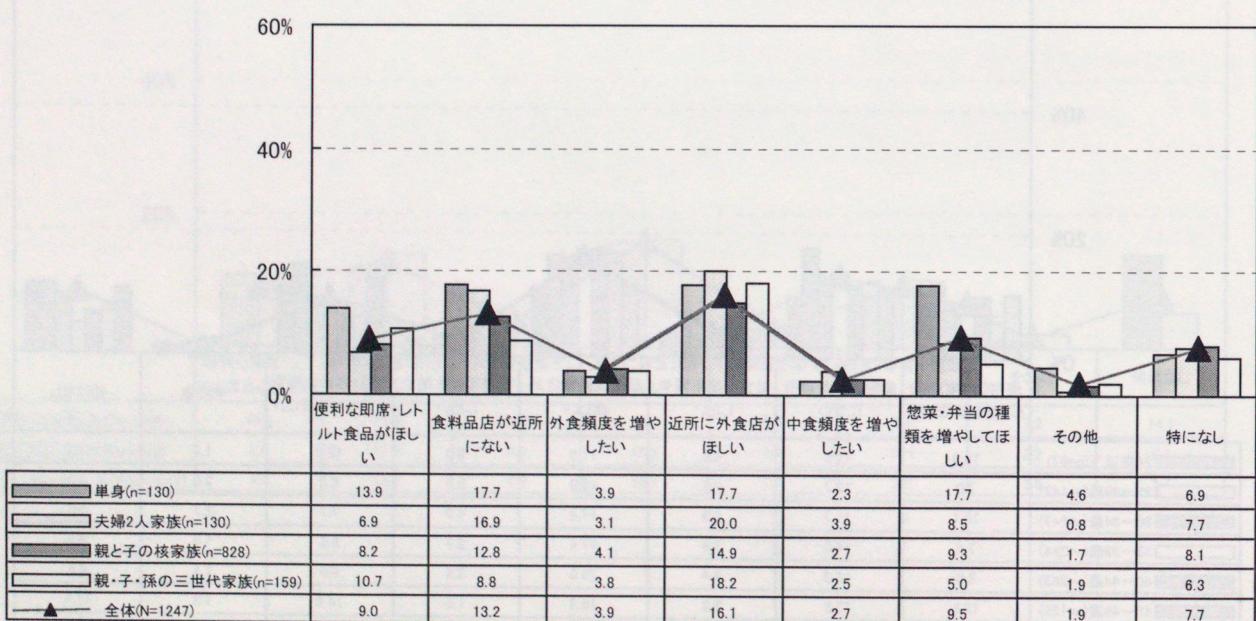
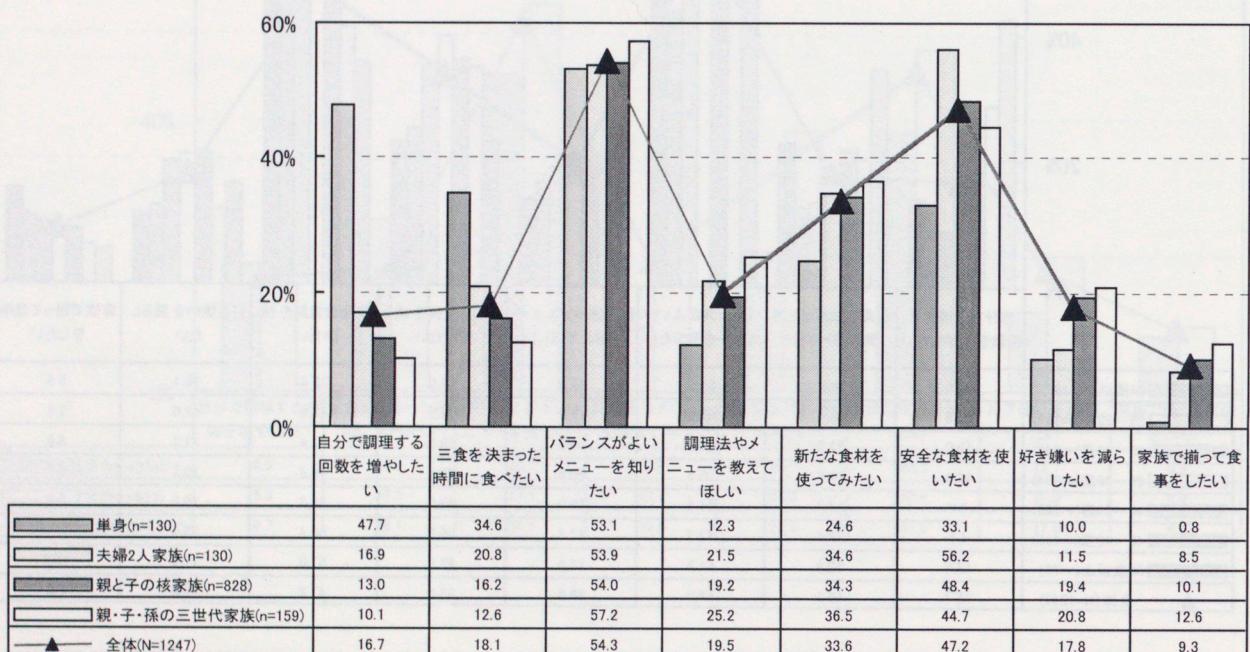
食生活についての不満・要望 [年齢別] (複数回答)



## 2-2-4 食生活についての不満・要望 つづき

○[家族構成別]に見ると、どの世帯でも「栄養のバランス」と「安全な食材」についての関心が高い。その他特色としては、単身者の「自分で調理する回数を増やしたい」「三食を決まった時間にきちんと食べたい」が他と比較して格段に高い。

食生活についての不満・要望 [家族構成別] (複数回答)

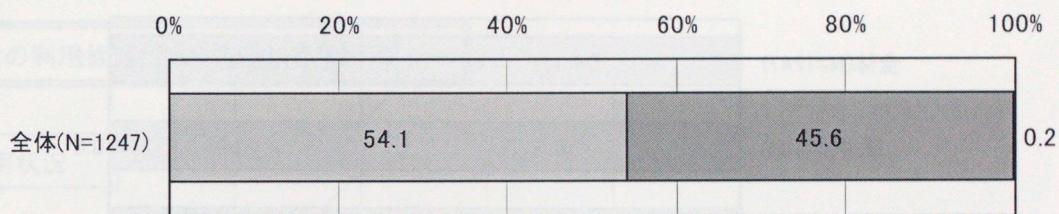


## 2-2-5 今後の食生活における魚介料理の利用意向

○今後日ごろの食生活において魚介料理を食べる回数を増やしたいか否かを尋ねたところ、「日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を増やしたい」は54.1%と半数以上に達し、逆に「日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を減らしたい」は0.2%と極めて少ない。

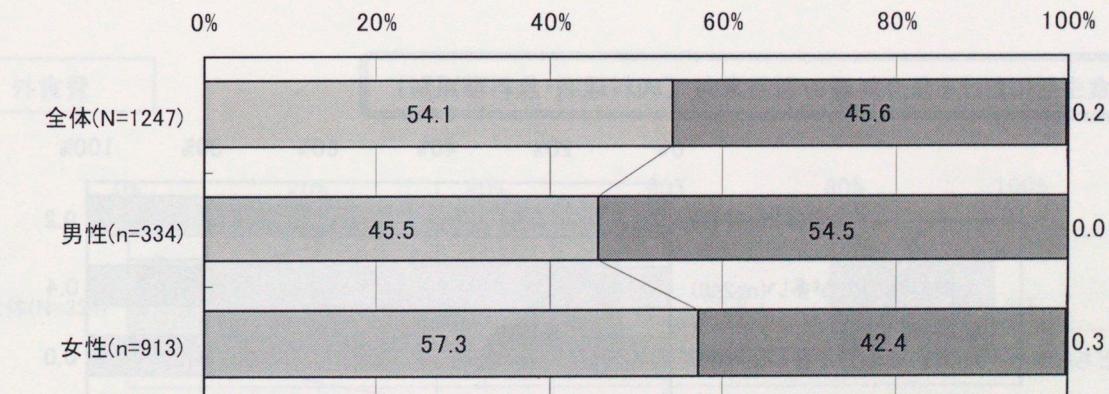
○[性別]に見ると、女性は「日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を増やしたい」が57.3%と6割近くに達し、男性と比較して水産物を消費していない現状の裏返しで、魚介料理へのニーズは高い。

### 今後の食生活における魚介料理の利用意向 [全体]



□ 日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を増やしたい ■ 今までどおりでよい  
□ 日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を減らしたい

### 今後の食生活における魚介料理の利用意向 [性別]

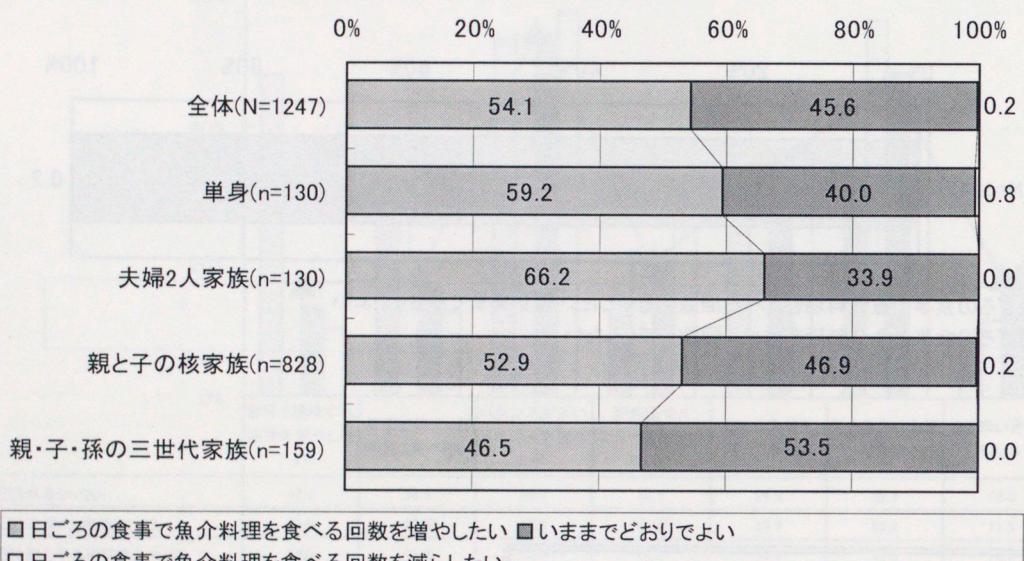


□ 日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を増やしたい ■ 今までどおりでよい  
□ 日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を減らしたい

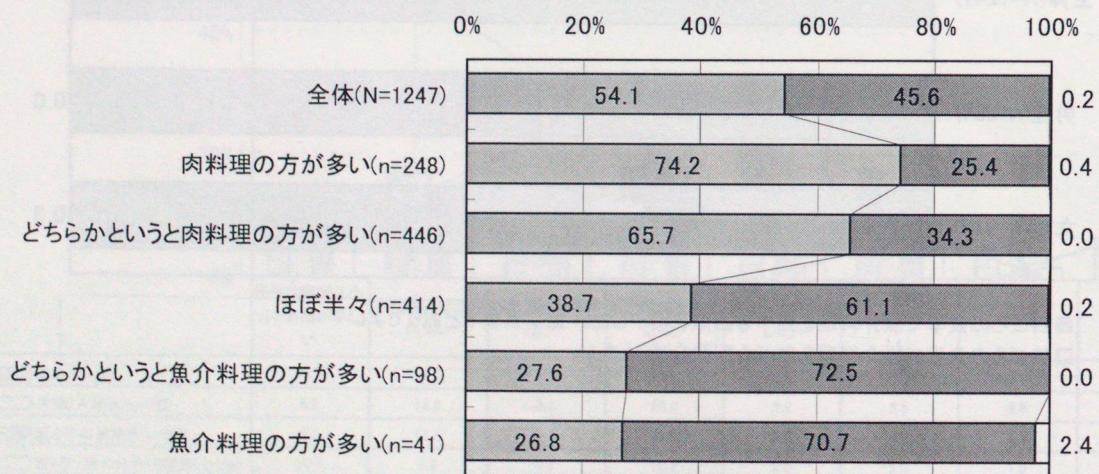
## 2-2-5 今後の食生活における魚介料理の利用意向 つづき

- [家族構成別]に見ると、夫婦2人家族で最も魚介料理への意向が高く、次いで単身者の利用意向が高い。また、親・子・孫の三世代家族では「日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を増やしたい」46.5%より、「今までどおりでよい」53.5%が多く、親と子の核家族と逆の比率になっているが、これはもともと親と子の核家族より日ごろから魚介料理を食べる機会が多いことも影響していると考えられる。
- [肉料理派・魚介料理派別]に見ると、日ごろの食生活で肉料理の方が多い人では、74.2%が今後「日ごろの食生活で魚介料理を食べる回数を増やしたい」と回答している。「どちらかというと肉料理の方が多い」も65.7%であり、肉料理派の今後の魚介料理の利用意向は高い。

### 今後の食生活における魚介料理の利用意向 [家族構成別]



### 今後の食生活における魚介料理の利用意向 [肉料理派・魚料理派別]



## 2-3 外食における水産物の消費実態とニーズ

### 2-3-1 外食の利用状況と外食費

#### 2-3-1(1) 外食の利用状況と外食費－朝食

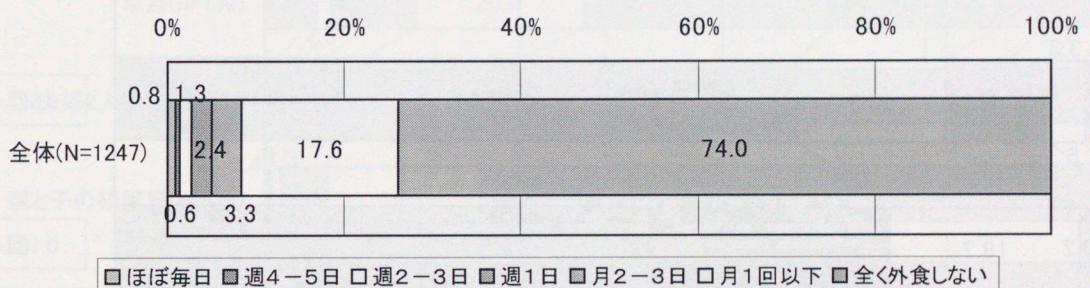
○日ごろの食生活において、どのくらい外食を利用しているかを朝・昼・夕食別に尋ねた。

○朝食の外食利用状況について、「全体」では利用回数の平均は、週あたり0.2回。「ほぼ毎日」から「月1回以下」までを合計しても26.0%にとどまる。「全く外食しない」には朝食そのものを食べないという人も含まれるが、朝食で外食する人はごく一部といえる。

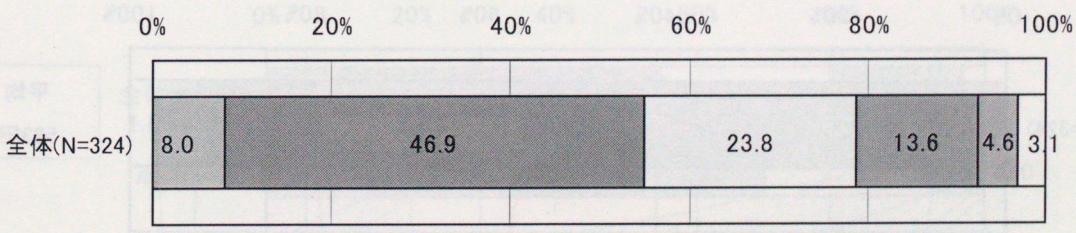
○朝食に外食を利用する場合の金額については、平均額が583円であり、300—500円未満が全体の半数近くを占める。(金額の平均値は「全く外食しない」を除いて算出。以下同。)

#### 外食の利用状況と外食費－朝食 [全体]

##### 利用状況



##### 外食費



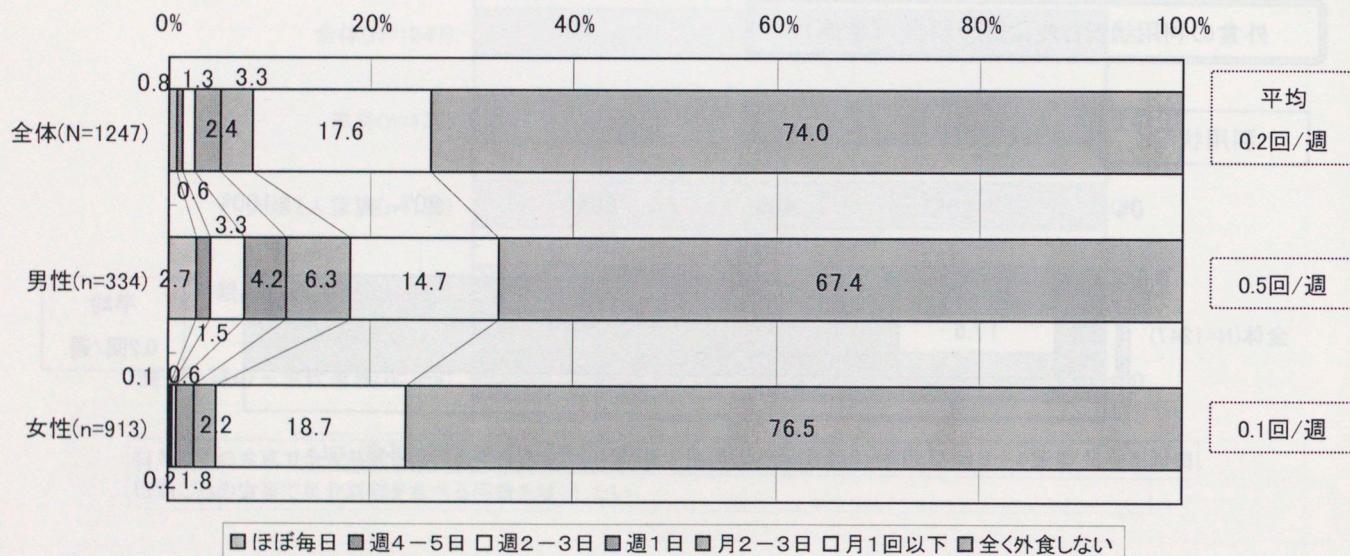
## 2-3-1(1) 外食の利用状況と外食費－朝食 つづき

○[性別]に見ると、朝食に外食を利用する人の割合は男性の方が多く、平均回数も週あたり0.5回と、大きく女性に差をつけた。

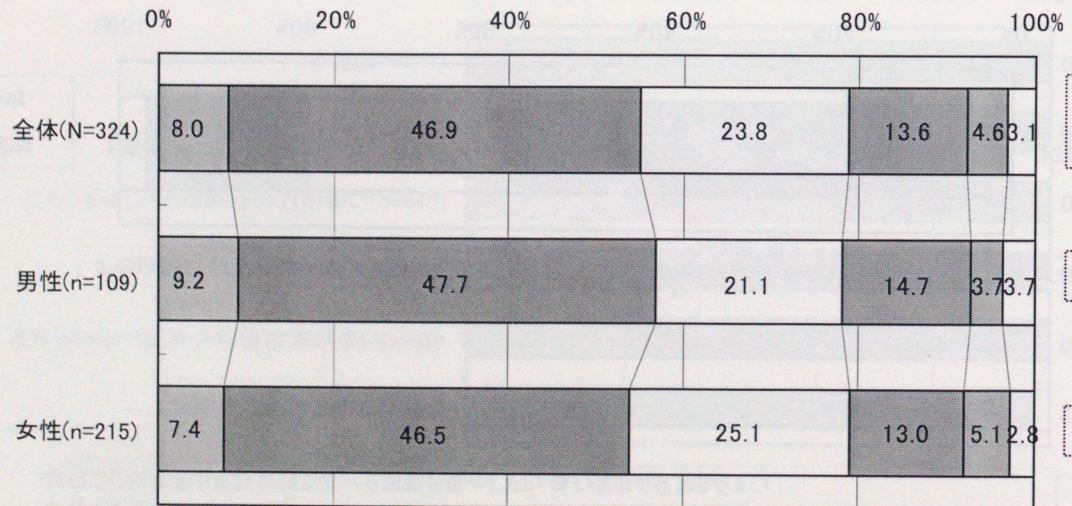
○金額については、平均額が男性580円、女性585円とほぼ同じである。

### 外食の利用状況と外食費－朝食 [性別]

#### 利用状況



#### 外食費



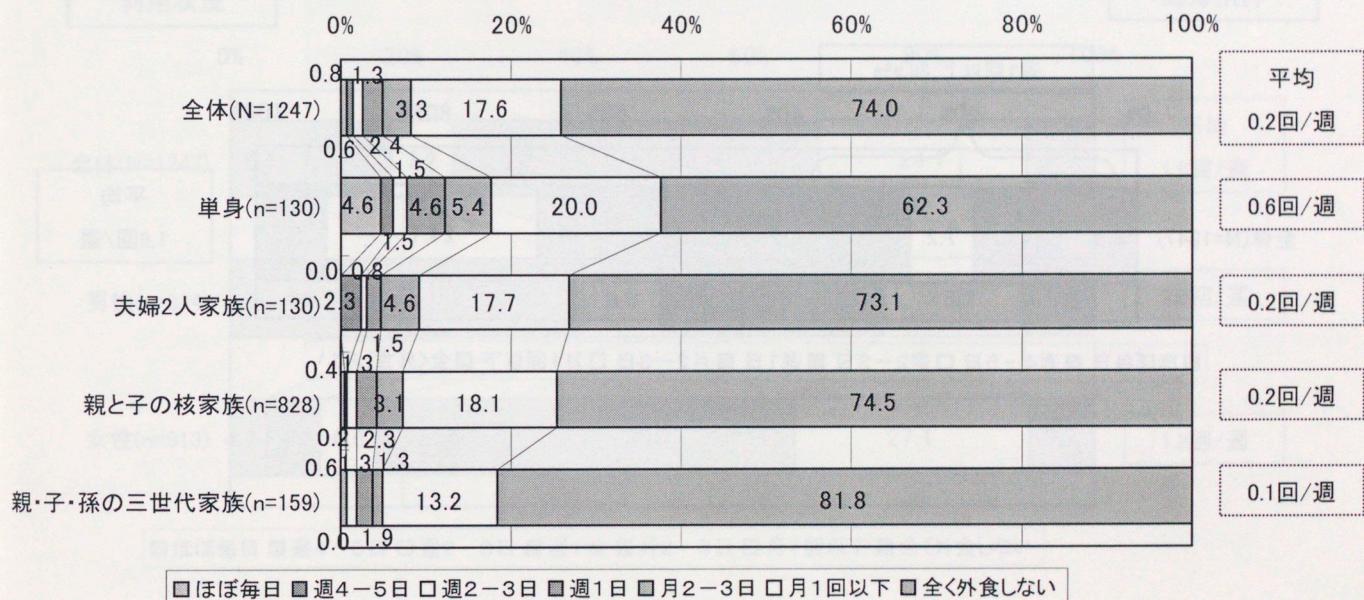
□ 300円未満 ■ 300-500円未満 □ 500-750円未満 ■ 750-1000円未満 □ 1000-1500円未満 □ 1500円以上

## 2-3-1(1) 外食の利用状況と外食費－朝食 つづき

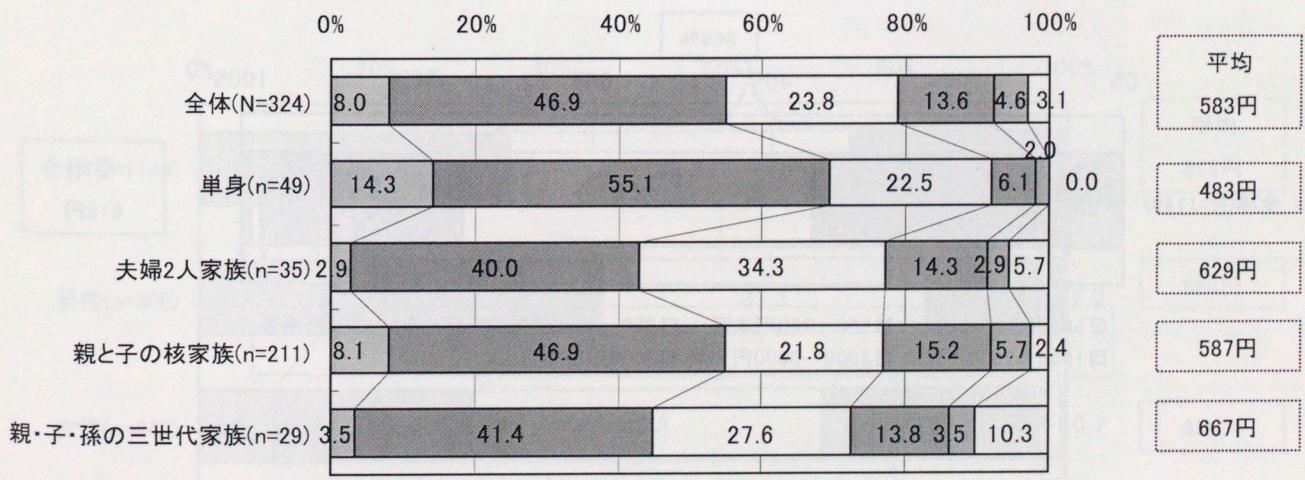
- [家族構成別]に見ると、単身者での朝食の外食利用が多く、全体の平均回数を大きく上回る。
- 金額については、夫婦2人家族と親・子・孫の三世代家族での平均額が600円台と高くなっている。普段朝食での外食利用が多い単身者では平均額483円と、全体の平均額を100円下回る。

外食の利用状況と外食費－朝食 [家族構成別]

### 利用状況



### 外食費



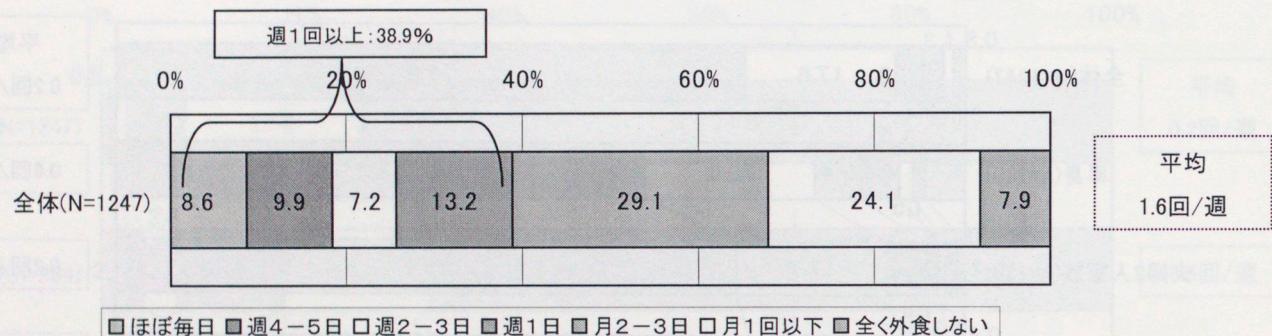
## 2-3-1(2) 外食の利用状況と外食費一昼食

○昼食での外食利用状況は、[全体]では週あたり1回以上（「ほぼ毎日」「週4-5日」「週2-3日」「週1日」の合計）の利用が38.9%と4割近くに達し、平均は週あたり1.6回であった。逆に昼食で外食を全くしない人の割合は7.9%にとどまる。

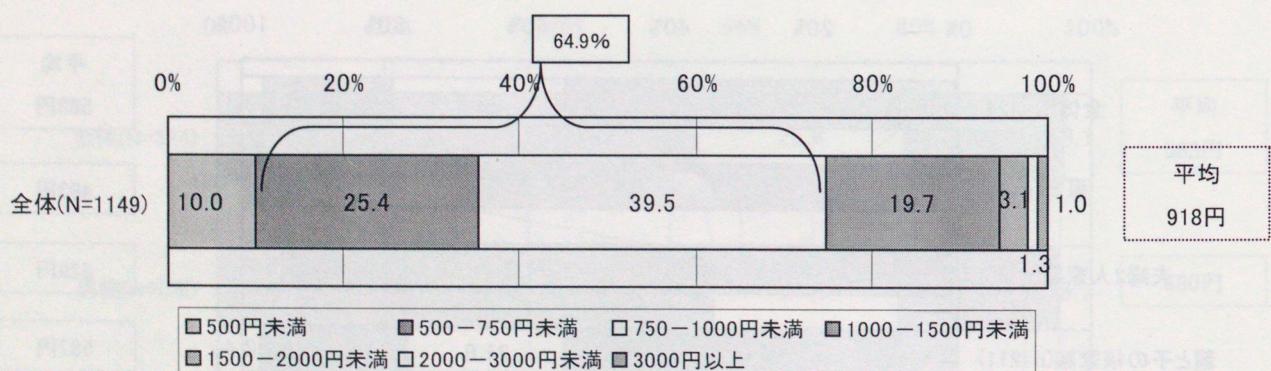
○金額については、平均918円。750-1000円が最も多く、500円から1000円未満の人の合計が64.9%と大部分を占める。

### 外食の利用状況と外食費一昼食 [全体]

#### 利用状況



#### 外食費



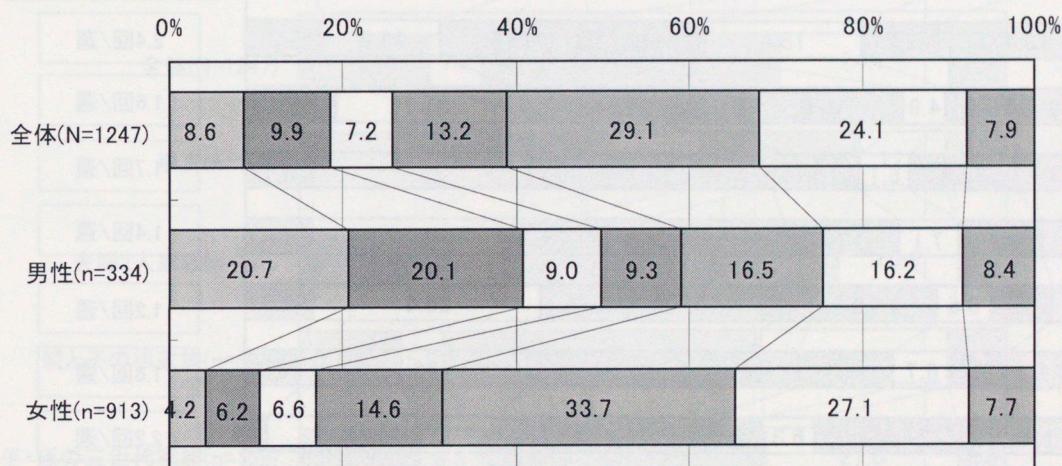
## 2-3-1(2) 外食の利用状況と外食費－昼食 つづき

○[性別]に見ると、昼食に週1回以上外食を利用する人は、男性では59.1%と6割近くに達するのに対し、女性は31.6%にとどまる。平均回数を見ても、男性は週あたり2.8回であり、女性の1.2回の2倍以上に達している。これは、男性はフルタイム勤務者が多く、逆に女性は専業主婦が多いためと考えられる。

○平均金額は、男性863円、女性938円であり、女性の方が高めである。男性と比較し、1000円以上払っている割合も28.2%と高い。昼食で外食する回数は少ないが、1回にかける金額は女性の方が高い。

### 外食の利用状況と外食費－昼食 [性別]

#### 利用状況

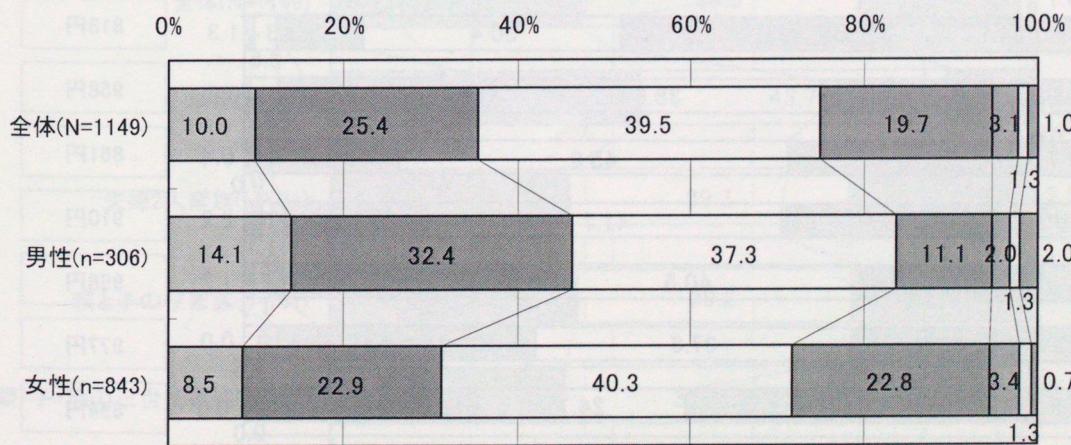


平均  
1.6回/週

2.8回/週

1.2回/週

#### 外食費



平均  
918円

863円

938円

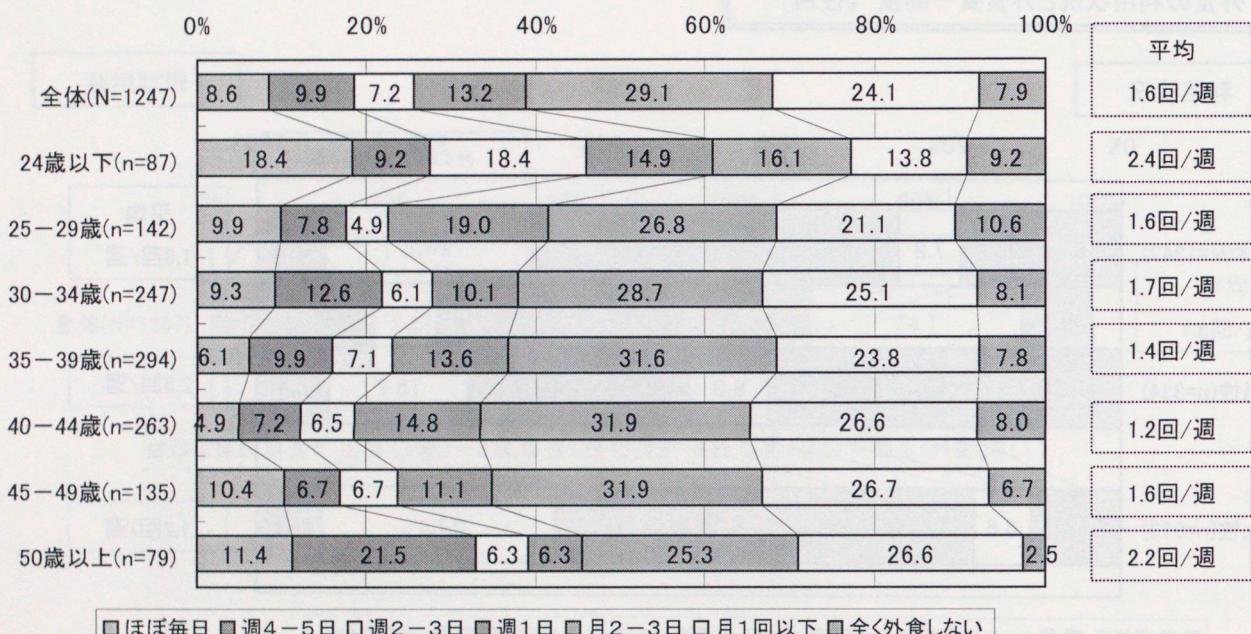
## 2-3-1(2) 外食の利用状況と外食費一昼食 つづき

○[年齢別]に見ると、24歳以下と50歳以上で昼食に外食を利用する人の割合が多い。特に50歳以上では「ほぼ毎日」と「週4~5日」の合計が32.9%に達し、他の年代より高い。

○金額については、昼食に外食を利用する回数の多い24歳以下と50歳以上で、750円未満の割合が高く、平均額も800円台と他の層より低くなっている。それ以外は特に年代による大きな差は見られない。

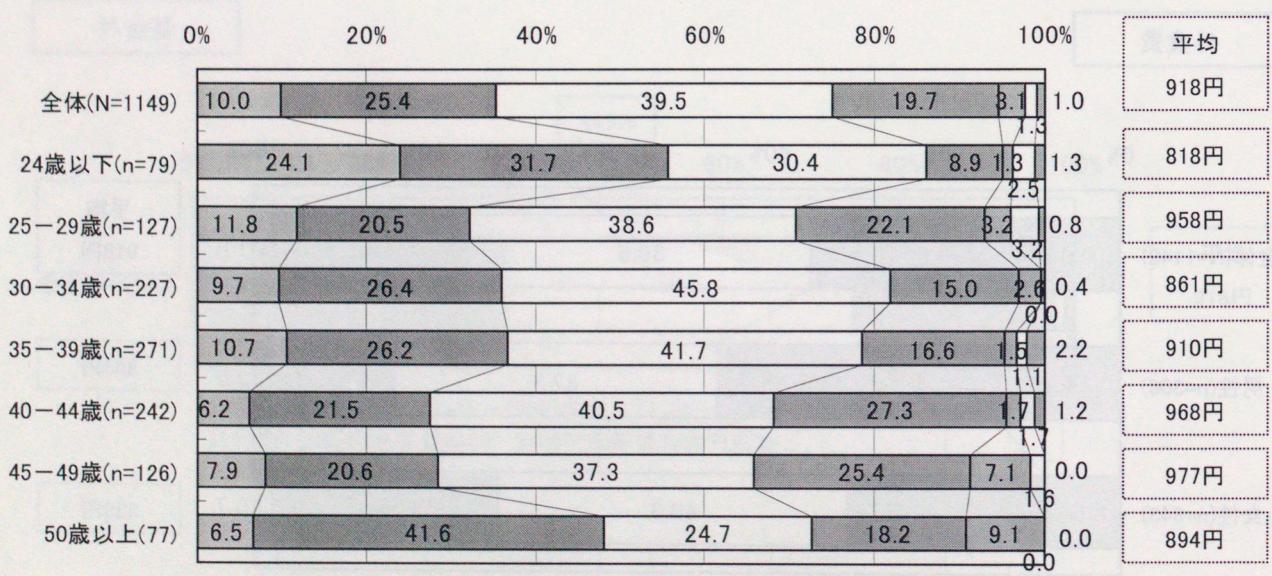
### 外食の利用状況と外食費一昼食 [年齢別]

#### 利用状況



□ほぼ毎日 ■週4~5日 □週2~3日 ■週1日 □月2~3日 □月1回以下 ■全く外食しない

#### 外食費



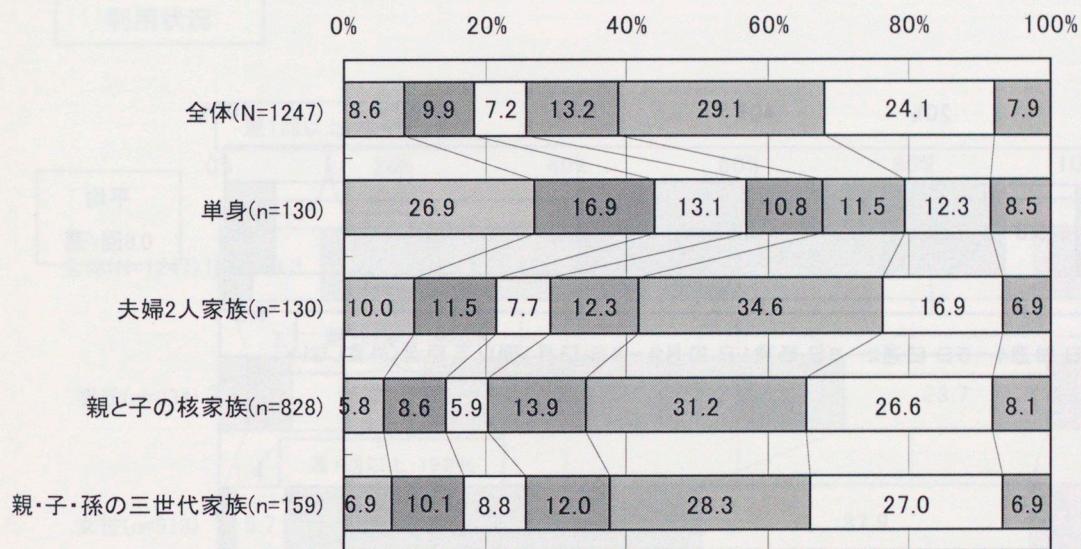
□500円未満 ■500~750円未満 □750~1000円未満 ■1000~1500円未満  
■1500~2000円未満 □2000~3000円未満 ■3000円以上

## 2-3-1(2) 外食の利用状況と外食費－昼食 つづき

- [家族構成別]に見ると、単身者は昼食に週1回以上外食を利用する人が67.7%を占め、平均も週あたり3.2回となっている。週の半分を昼食に外食を利用している計算となる。親と子の核家族と親・子・孫の三世代家族では、週あたりの平均回数が少ない。
- 金額については、昼食に外食を利用する機会が圧倒的に多い単身者で、平均額が全体平均を大きく下回っている。

### 外食の利用状況と外食費－昼食 [家族構成別]

#### 利用状況



平均  
1.6回/週

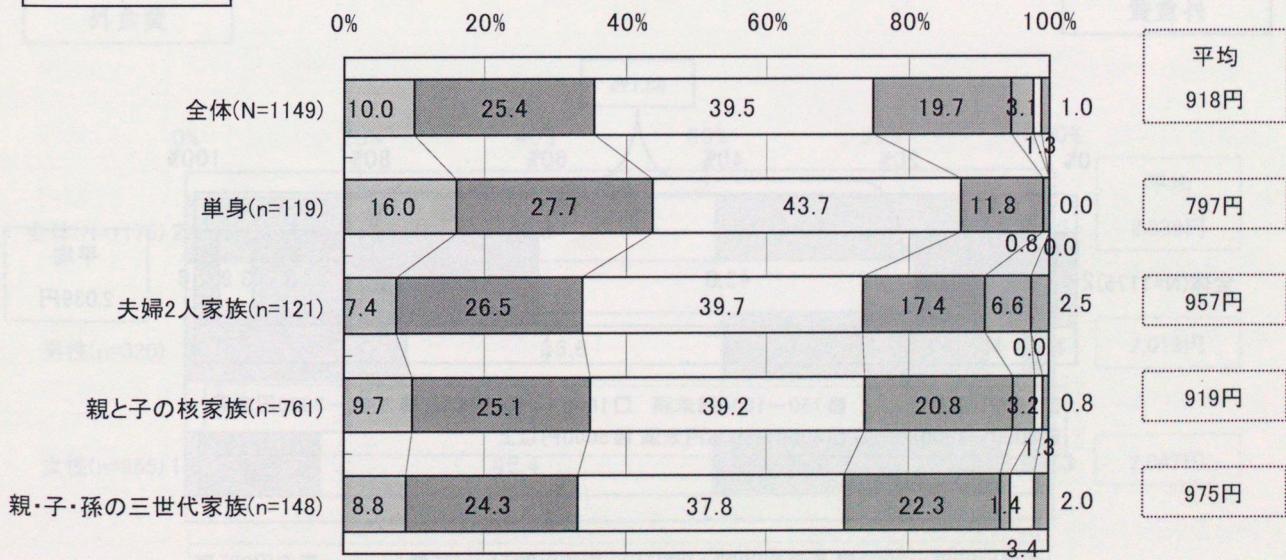
3.2回/週

1.8回/週

1.3回/週

1.5回/週

#### 外食費



平均  
918円

797円

957円

919円

975円

□500円未満 ■500-750円未満 □750-1000円未満 ■1000-1500円未満  
■1500-2000円未満 □2000-3000円未満 □3000円以上

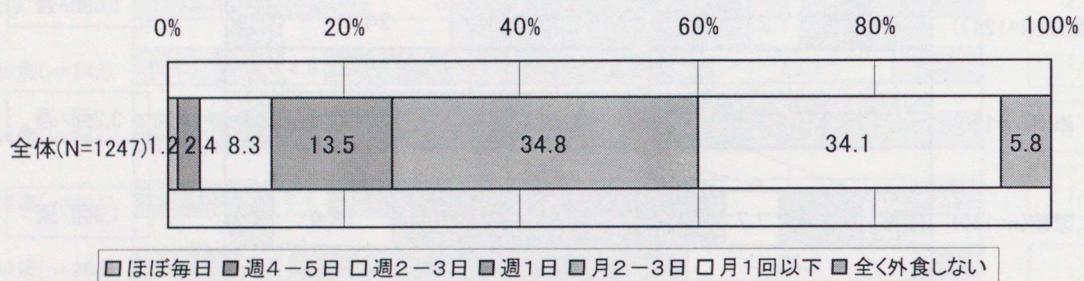
### 2-3-1(3) 外食の利用状況と外食費－夕食

○夕食での外食利用状況は、[全体]では週あたり0.8回であり、朝食ほど少なくはないが、昼食と比較すると夕食での外食利用頻度は低い。しかし、朝食・昼食で多かった「全く外食しない」の割合は夕食が最も低くなっている。

○平均金額は2,039円。「1000円－2000円未満」と「2000－3000円未満」の合計が63.1%と大部分を占める。

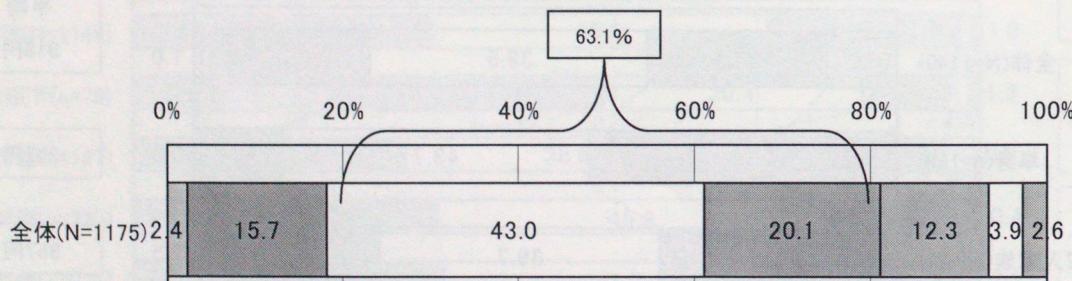
#### 外食の利用状況と外食費－夕食 [全体]

##### 利用状況



□ほぼ毎日 □週4-5日 □週2-3日 □週1日 □月2-3日 □月1回以下 □全く外食しない

##### 外食費



□750円未満 ■750-1000円未満 □1000-2000円未満 ■2000-3000円未満  
■3000-4000円未満 □4000-5000円未満 ■5000円以上

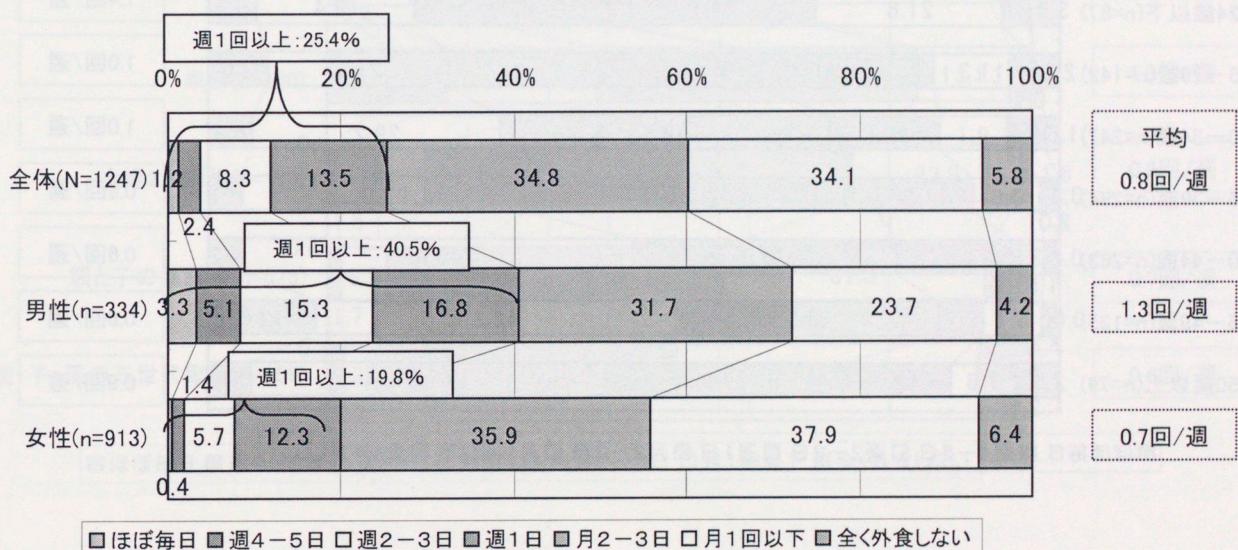
### 2-3-1(3) 外食の利用状況と外食費－タ食 つづき

○[性別]に見ると、夕食に週1回以上外食を利用する人は、男性が40.5%と4割を超え、女性19.8%の約2倍である。平均回数も、男性は週あたり1.3回であり、女性0.7回の2倍近い。

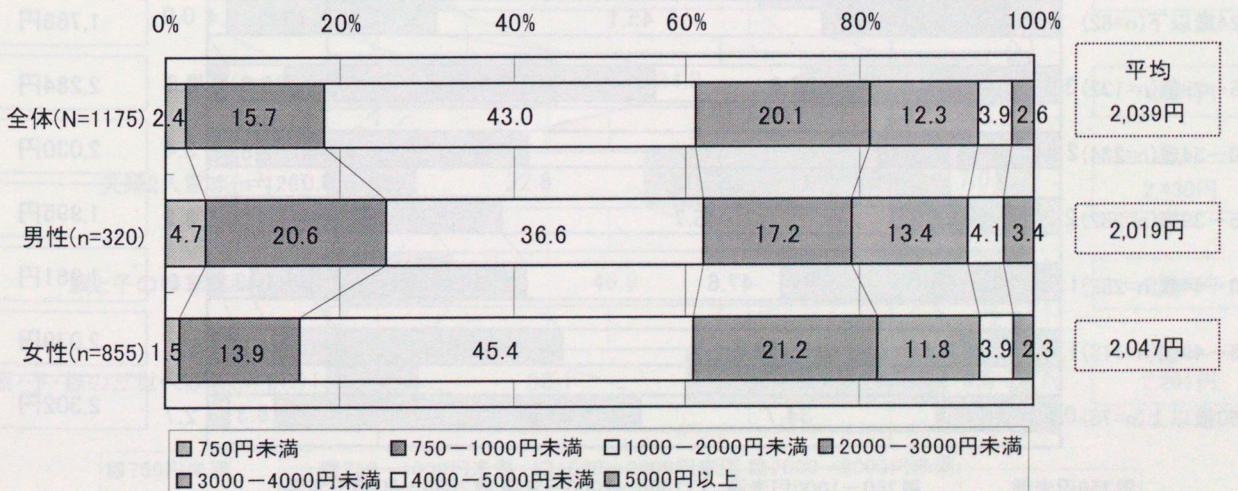
○平均金額は、男性2,019円、女性2,047円であり、ほぼ同じである。

#### 外食の利用状況と外食費－タ食 [性別]

##### 利用状況



##### 外食費



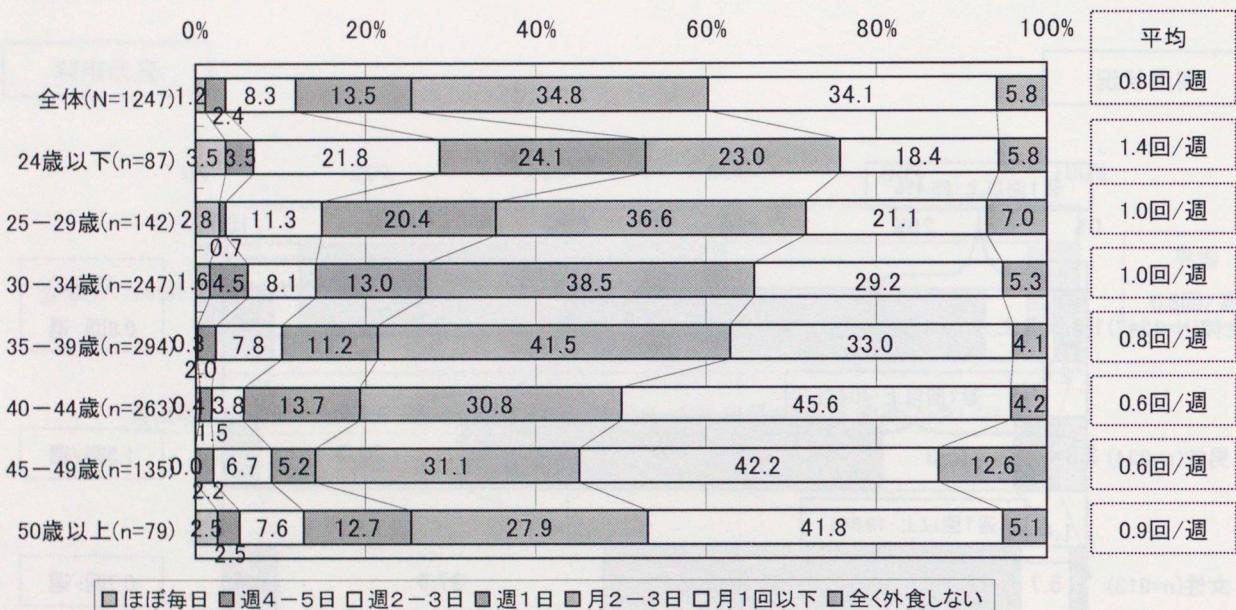
### 2-3-1(3) 外食の利用状況と外食費－夕食 つづき

○[年齢別]に見ると、若年層ほど夕食に外食を利用する人の割合が多くなっており、45-49歳までは徐々に夕食に外食を利用する割合が下がっている。とりわけ45-49歳では、「全く外食しない」が他の年代に比較して12.6%と多い。しかし、50歳以上で再び夕食に外食を利用する人の割合が多くなっており、これは昼食の場合とほぼ同じ傾向となっている。

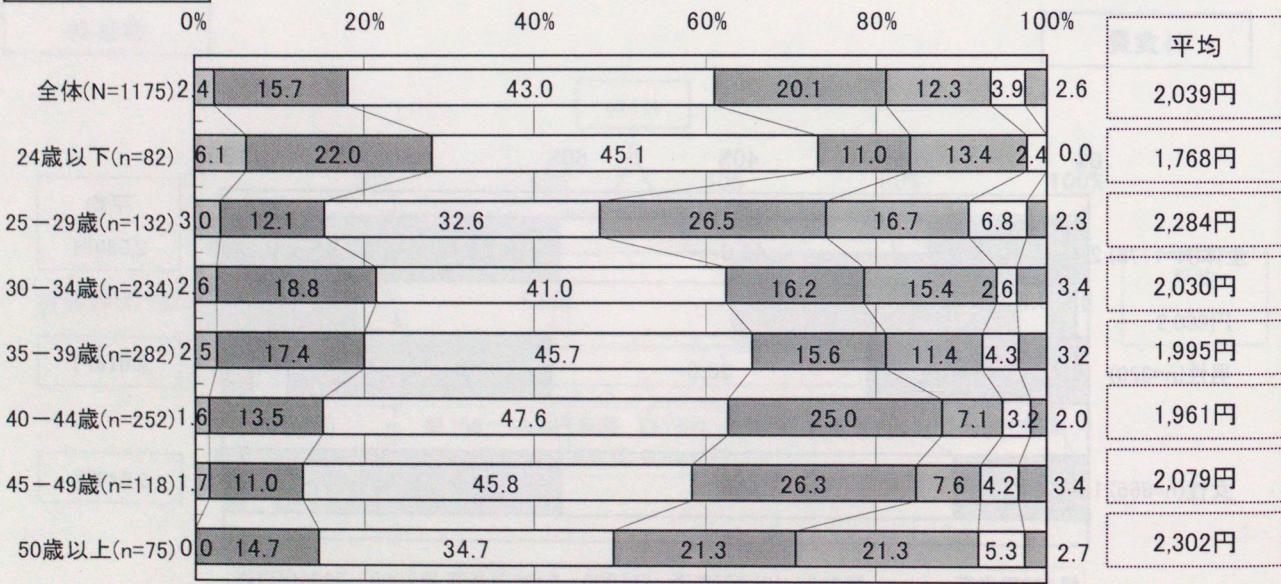
○平均金額は、24歳以下、35-39歳、40-44歳の各層で2000円未満だが、いずれの年代も1000-2000円が最も高い比率である。

外食の利用状況と外食費－夕食 [年齢別]

利用状況



外食費

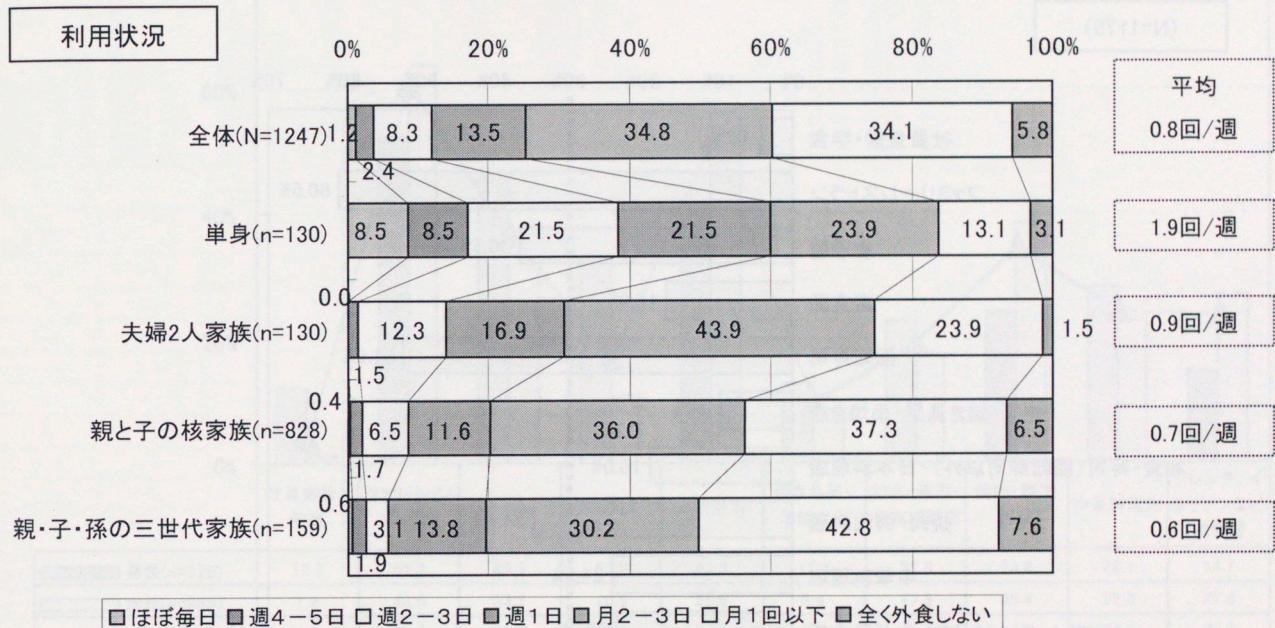


### 2-3-1(3) 外食の利用状況と外食費－夕食 つづき

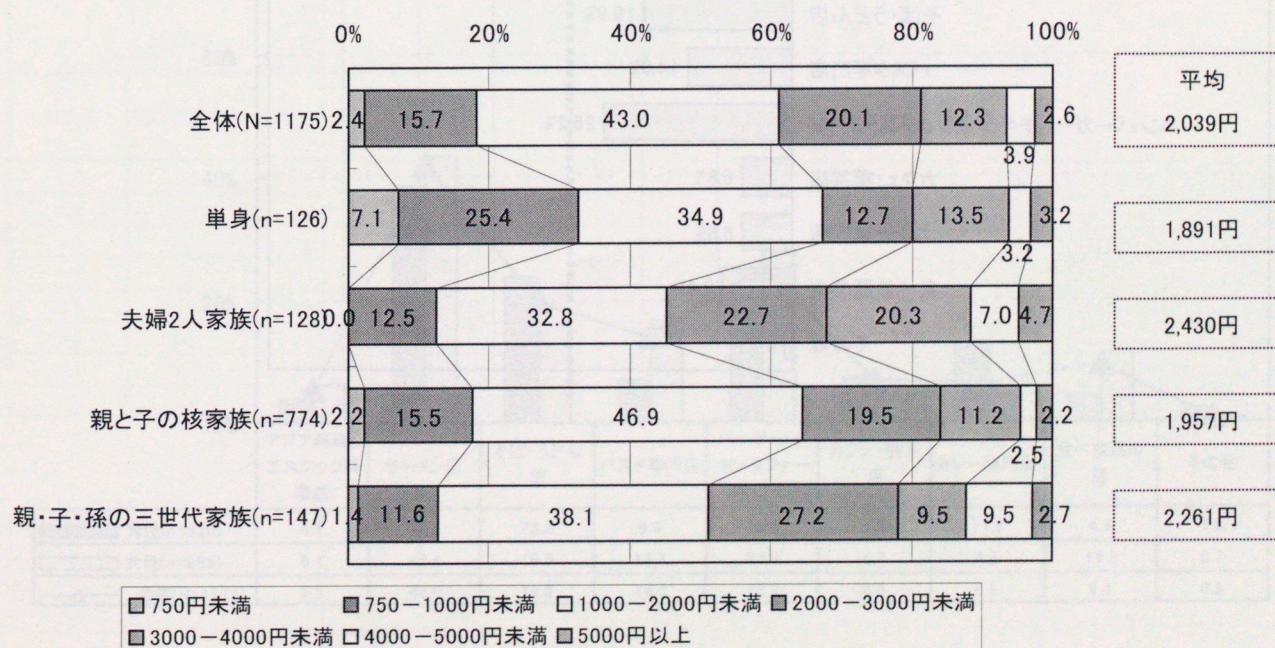
○[家族構成別]に見ると、単身者では夕食に週1回以上外食を利用する人が60.0%を占め、平均回数も1.9回と全体平均の2倍以上である。一方、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族の子どもがいる家庭では、外食の利用が少ない。

○金額については、夕食に外食を多く利用する単身者で2,000円未満の比率が高く、とりわけ「750—1000円未満」が25.4%と他と比較して多く、平均額も1,891円と低い。次いで、親と子の核家族での金額が低い。

外食の利用状況と外食費－夕食 [家族構成別]



外食費

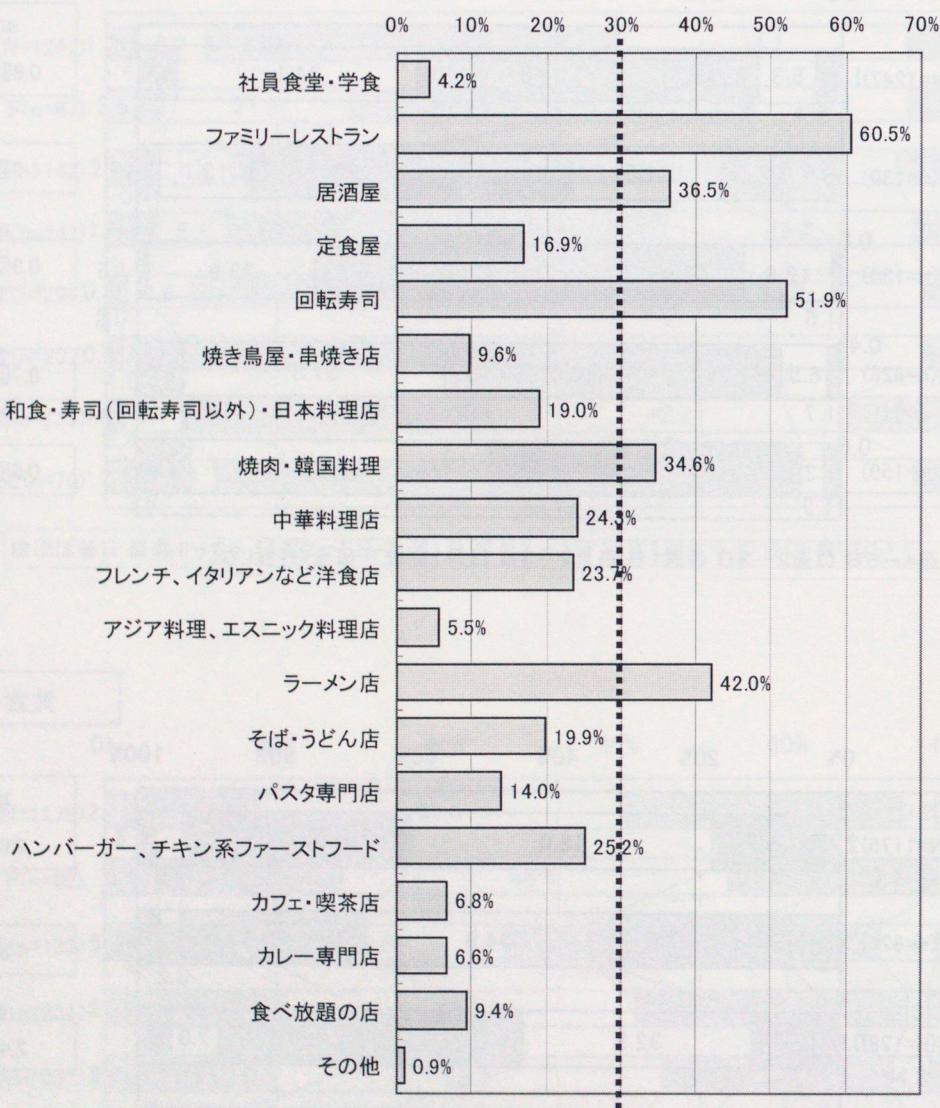


## 2-3-2 夕食の外食でよく利用する飲食店

○夕食の外食でよく利用する飲食店について尋ねたところ、「ファミリーレストラン」60.5%、「回転寿司」51.9%、「ラーメン店」42.0%、「居酒屋」36.5%、「焼肉・韓国料理」34.6%が、それぞれ3割を超える上位を占めた。

夕食の外食でよく利用する飲食店 [外食をする人全体] (複数回答5つまで)

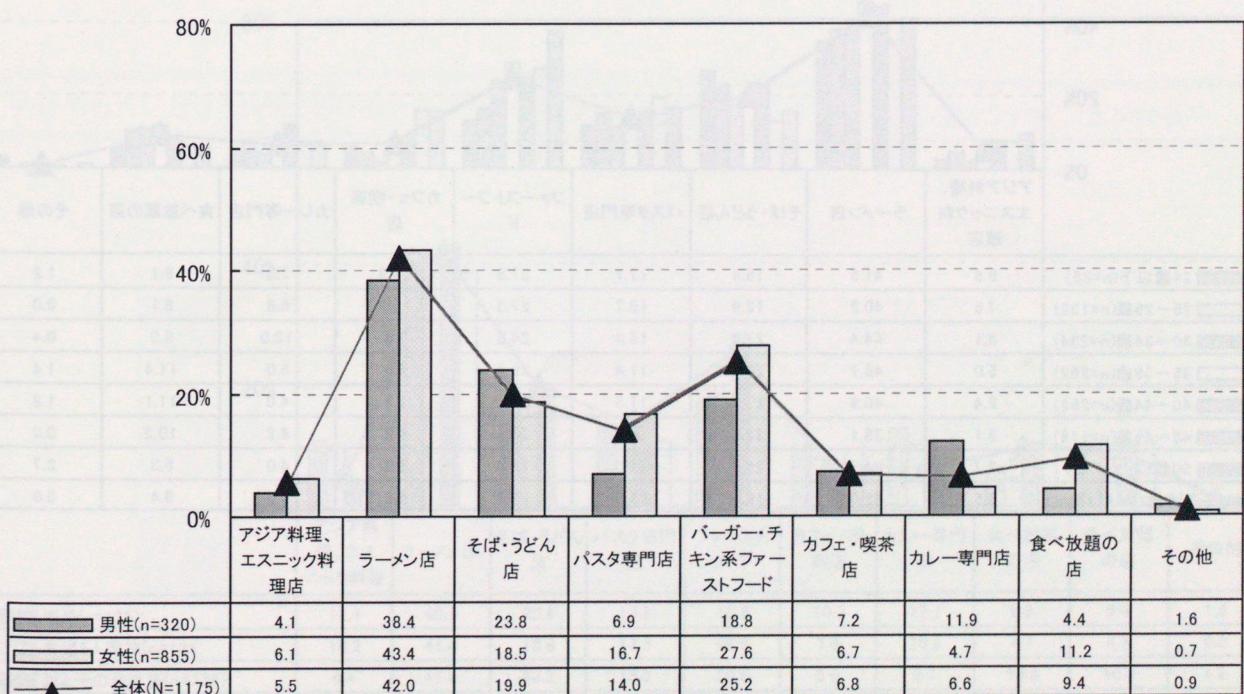
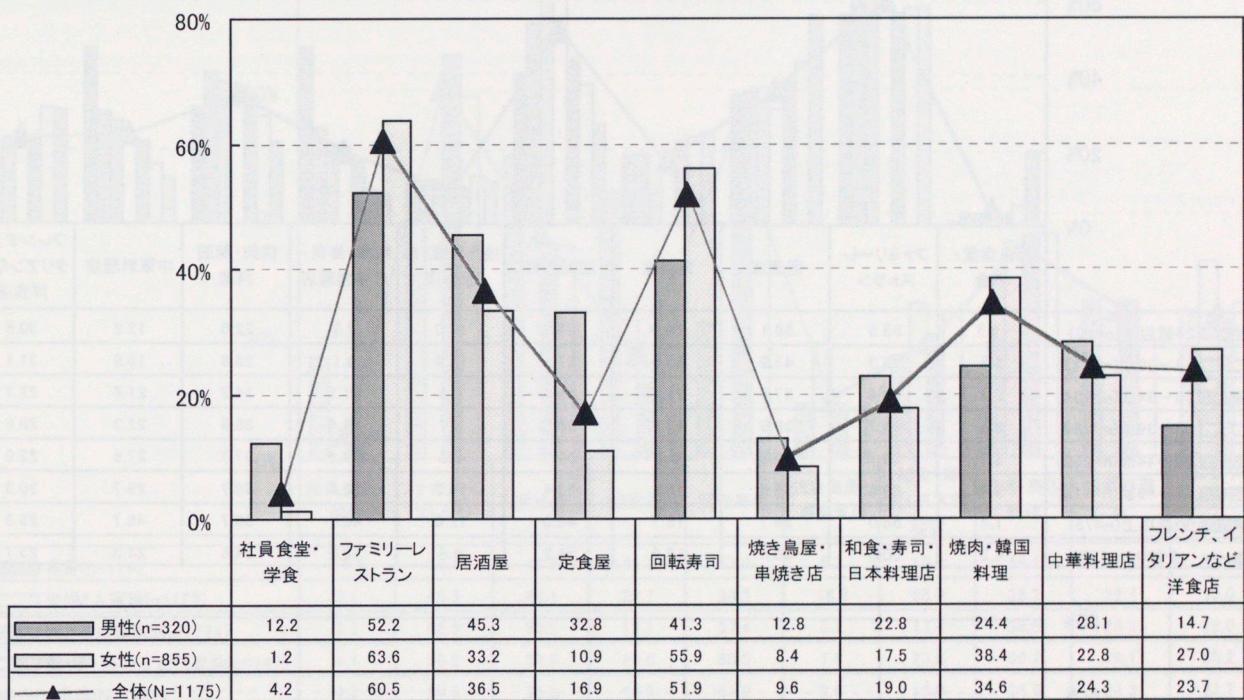
(N=1175)



## 2-3-2 夕食の外食でよく利用する飲食店 つづき

○[性別]に見ると、男性では、「社員食堂・学食」、「居酒屋」、「定食屋」等が女性と比較して利用頻度が高くなっている。一方女性では、「ファミリーレストラン」、「回転寿司」、「焼肉・韓国料理」等が男性と比較して利用頻度が高い。

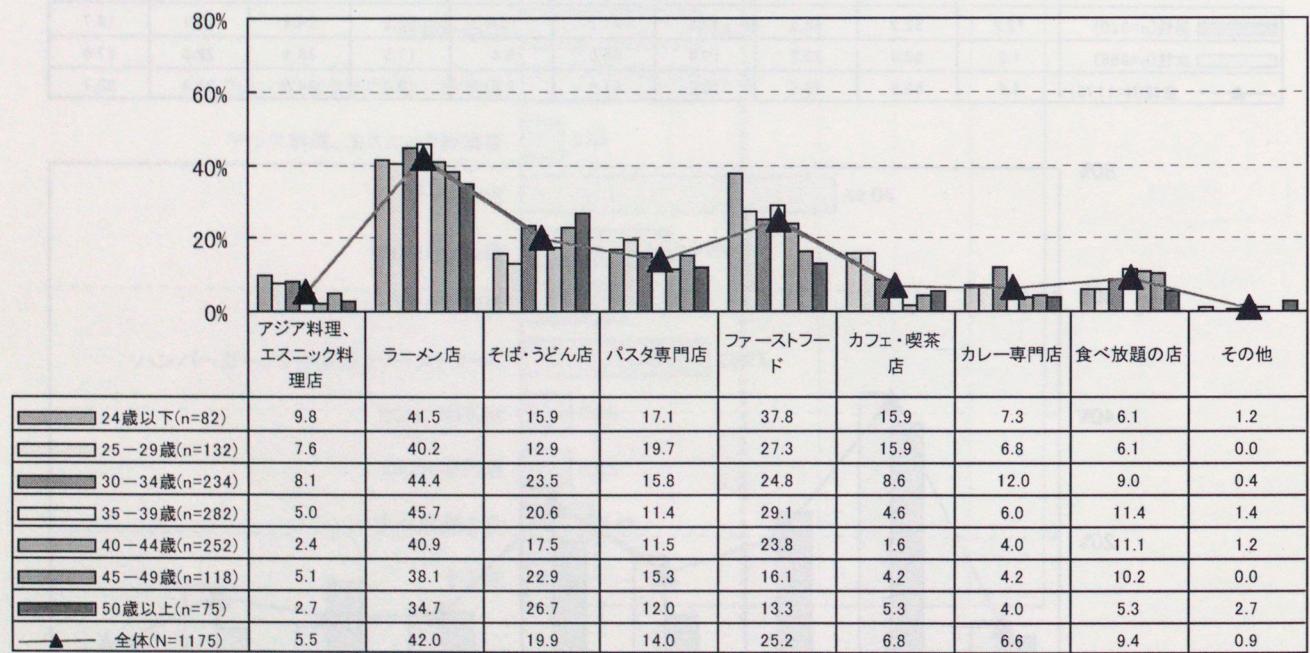
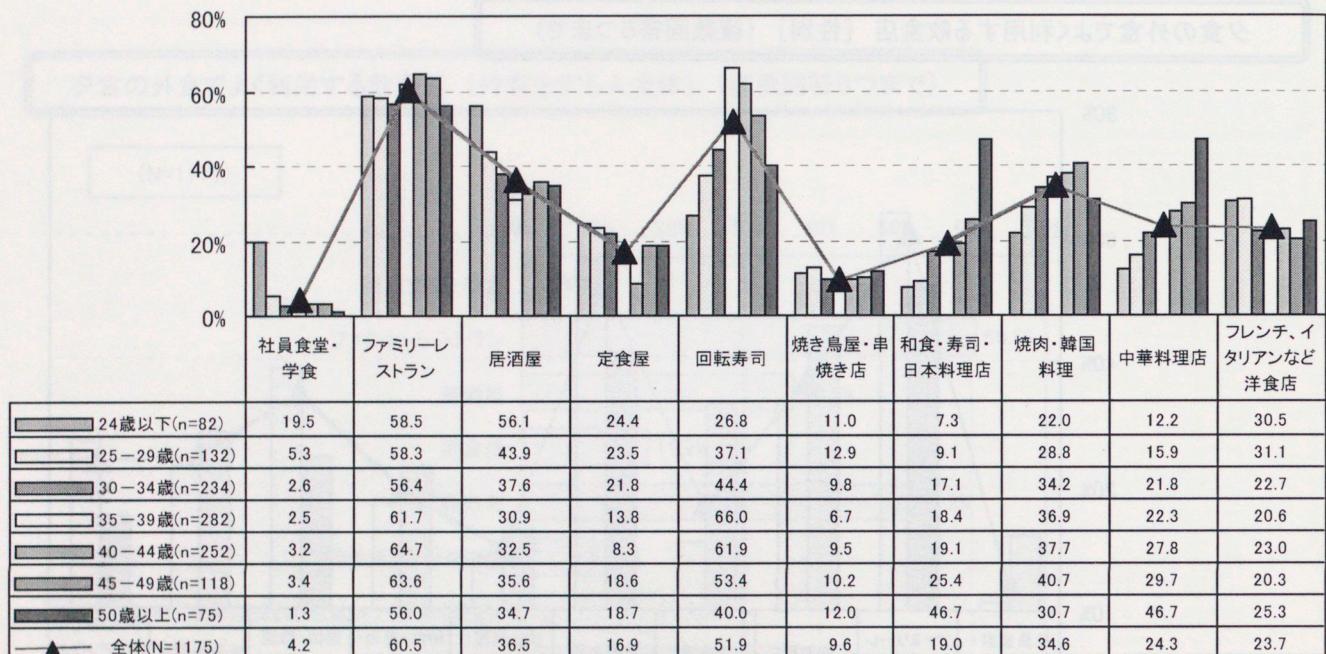
夕食の外食でよく利用する飲食店 [性別] (複数回答5つまで)



## 2-3-2 夕食の外食でよく利用する飲食店 つづき

○[年齢別]に見ると、35-39歳、40-44歳で「回転寿司」の割合が他の年代と比較すると高くなっている。  
[家族構成別]とあわせて見ると、子育て世代では、外食先が子ども優先で決められることがわかる。

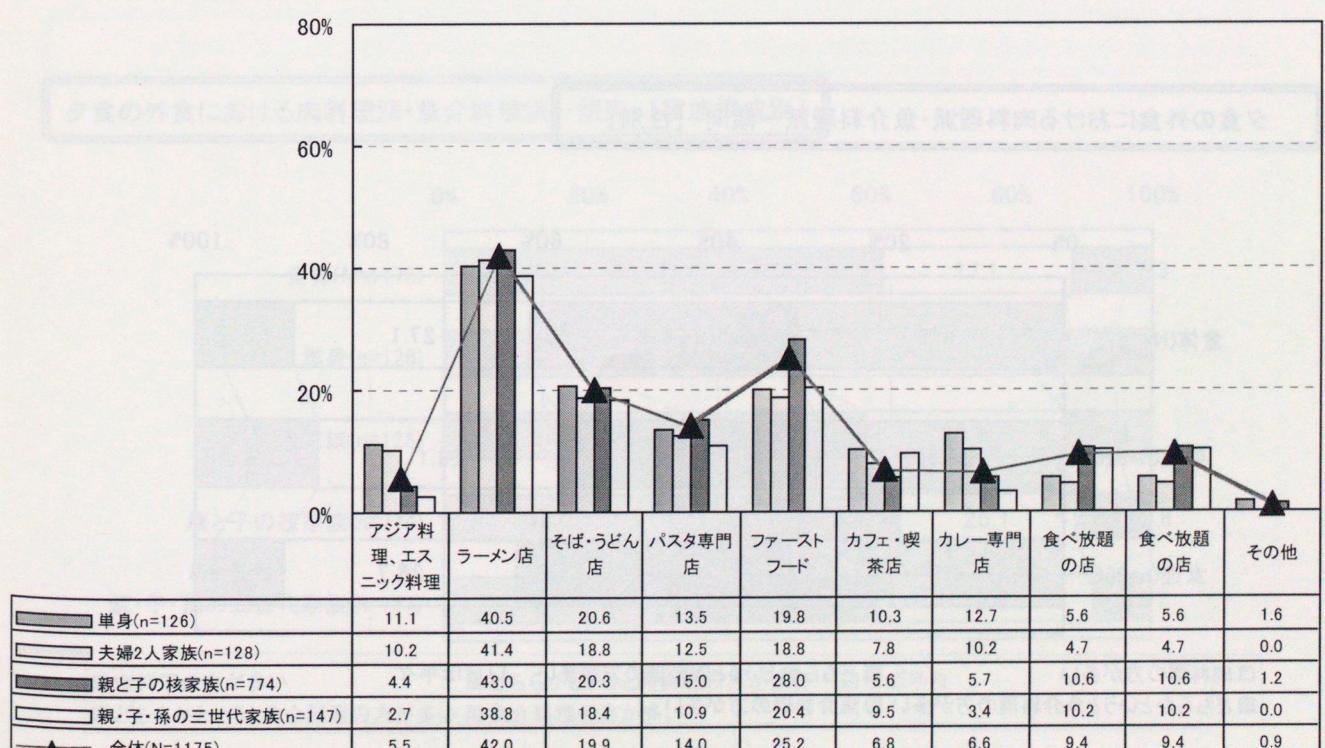
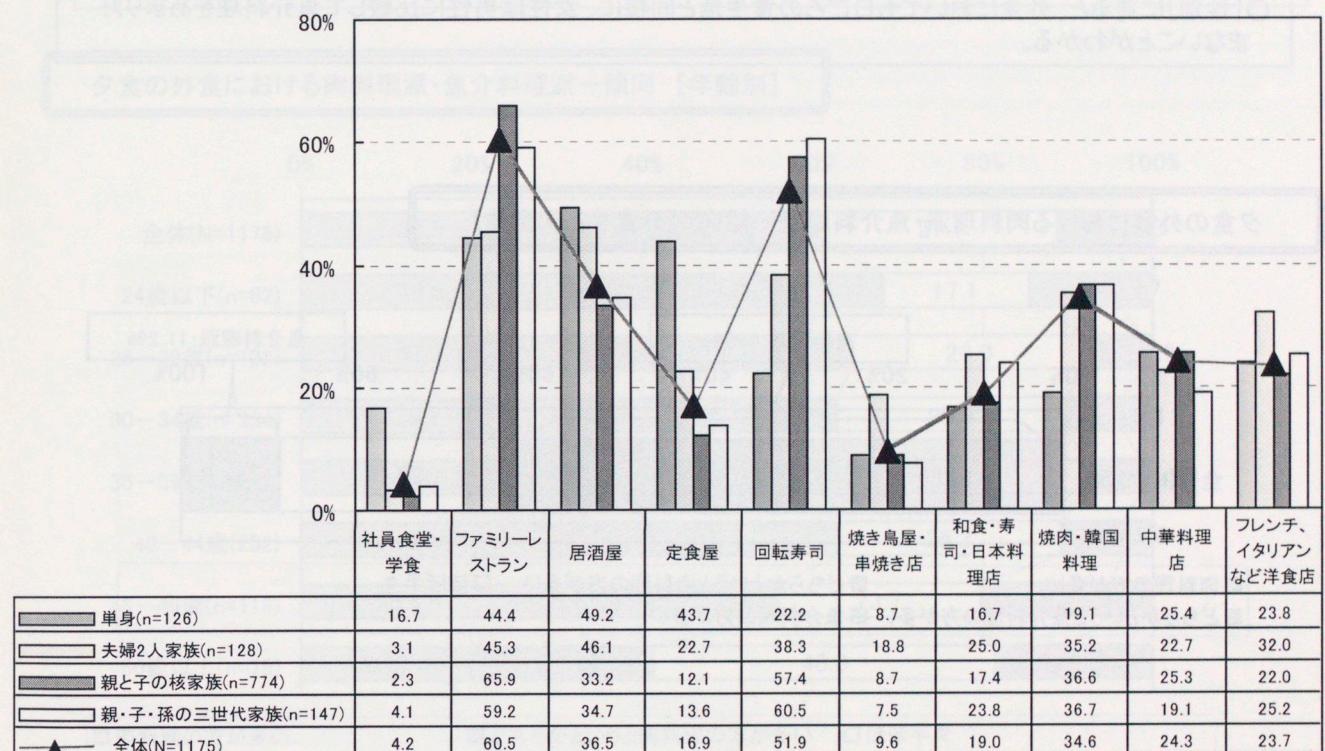
夕食の外食でよく利用する飲食店 [年齢別] (複数回答5つまで)



## 2-3-2 夕食の外食でよく利用する飲食店 つづき

○[家族構成別]に見ると、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族の子どものいる家庭では、「ファミリーレストラン」「回転寿司」の利用が、他と比較して高くなっています。この2つが子どもに人気があることが浮き彫りにされています。

夕食の外食でよく利用する飲食店 [家族構成別] (複数回答5つまで)



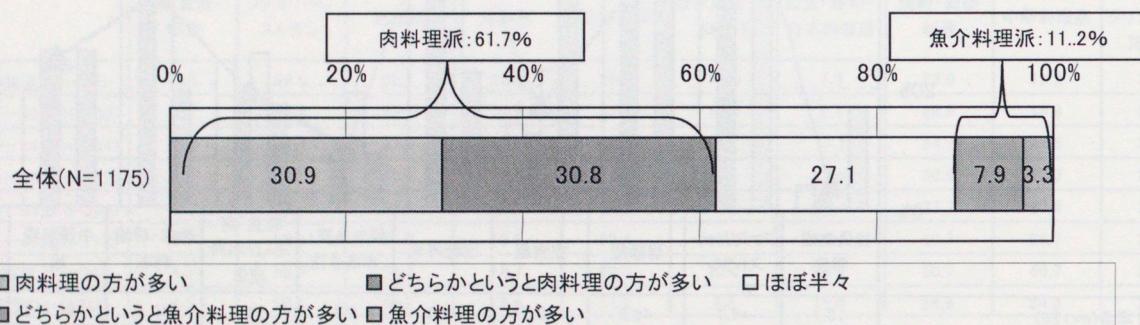
### 2-3-3 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派

#### 2-3-3(1) 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-傾向

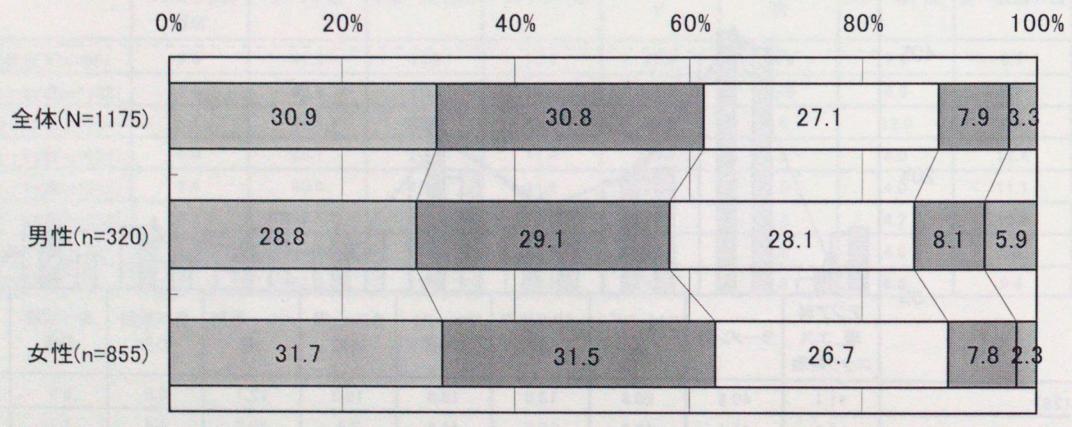
○外食(夕食)するときに肉料理と魚介料理のどちらが多いかを尋ねたところ、肉料理派(「肉料理の方が多い」または「どちらかというと肉料理の方が多い」と回答した人の合計)が61.7%と6割を超える。日ごろの食生活の傾向と比較すると(P33参照)、外食の方が肉料理派が増えており、魚介料理派は同率である。したがって、外食のほうが魚介料理を多く食べるとはいえない。

○[性別]に見ると、外食においても日ごろの食生活と同様に、女性は男性に比較して魚介料理をあまり好みないことがわかる。

#### 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-傾向 [外食する人全体]



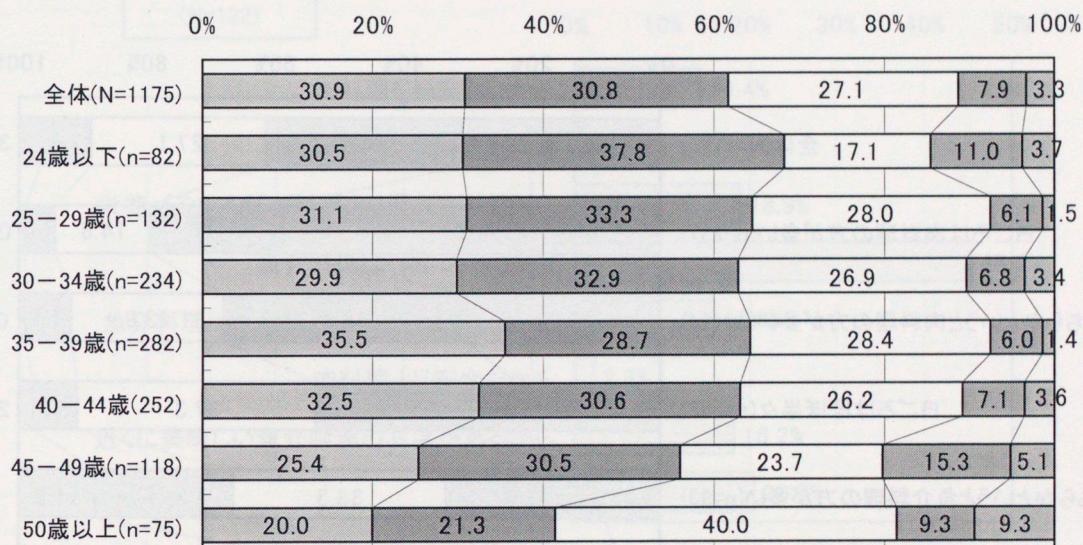
#### 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-傾向 [性別]



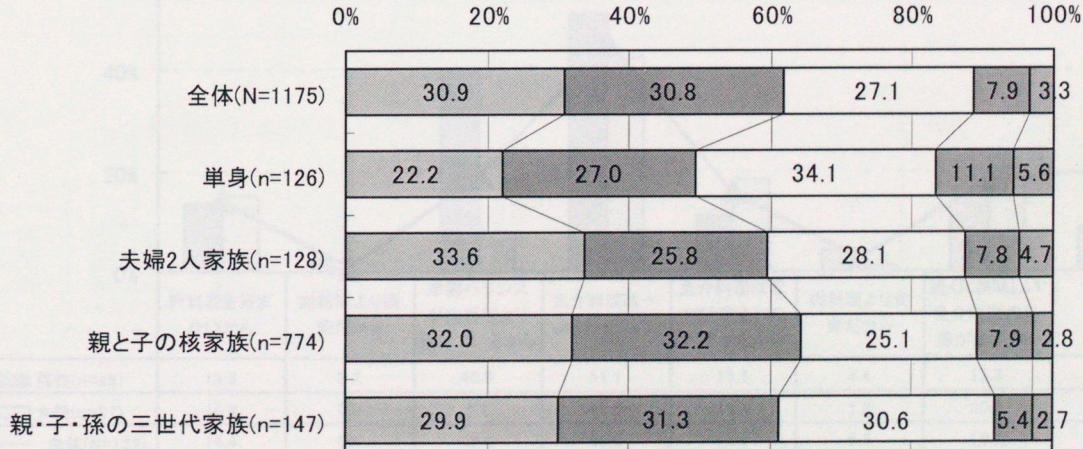
## 2-3-3(1) 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-傾向 つづき

- [年齢別]に見ると、24歳以下では「ほぼ半々」の割合が低く、肉料理派・魚介料理派のそれぞれが他の年代に比較し多い。この年代は、“子どもの好み”に合わせる必要がなく、本人の好みで選択できるので、傾向がはっきりと表れたものと考えられる。45-49歳では、日ごろの食生活では魚介料理派が11.8%と少なかったが(P34参照)、外食では魚介料理派が20.4%と多くなっている。
- [家族構成別]に見ると、単身者で最も魚介料理派が多い。また、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族の子どものいる世帯では、日ごろの食生活と比較すると(P35参照)、さらに肉料理派が増え、6割に達している。

夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-傾向 [年齢別]



夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-傾向 [家族構成別]

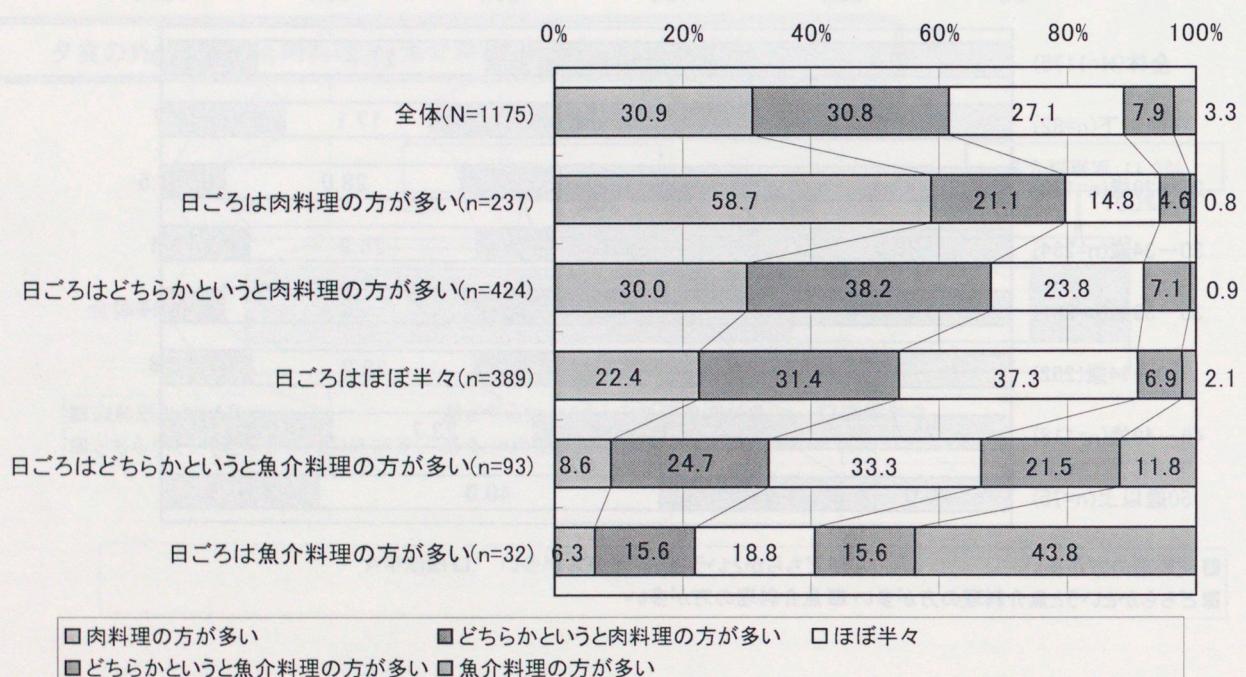


77

### 2-3-3(1) 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-傾向 つづき

○[日ごろの食生活別]に見ると、日ごろの食生活における肉料理派（「日ごろは肉料理の方が多い」および「日ごろはどちらかというと肉料理の方が多い」）は、外食においても肉料理を好む傾向にあり、また、日ごろはほぼ半々である人も、外食では「肉料理が多い」22.4%、「どちらかというと肉料理が多い」31.4%となっている。一方、日ごろの食生活における魚介料理派（「日ごろは魚介料理の方が多い」または「日ごろはどちらかというと魚介料理の方が多い」）が、外食では肉料理派に転じる割合が2割以上に達しており、逆に、日ごろ肉料理派である人が外食で魚介料理派に転じる割合が1割に満たないことと比較すると、外食においてはより肉料理の利用が一層増すことがわかる。

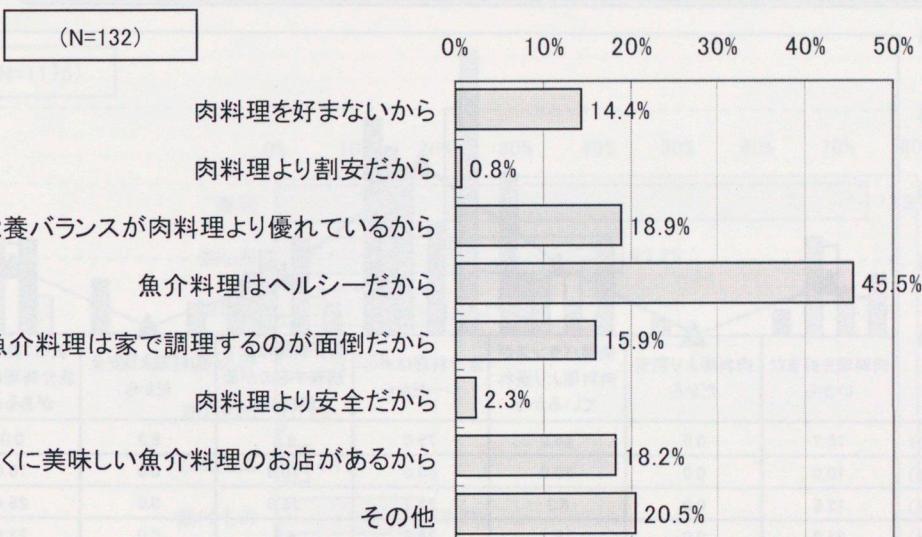
夕食の外食における肉料理派・魚介料理派一傾向 [日ごろの食生活別]



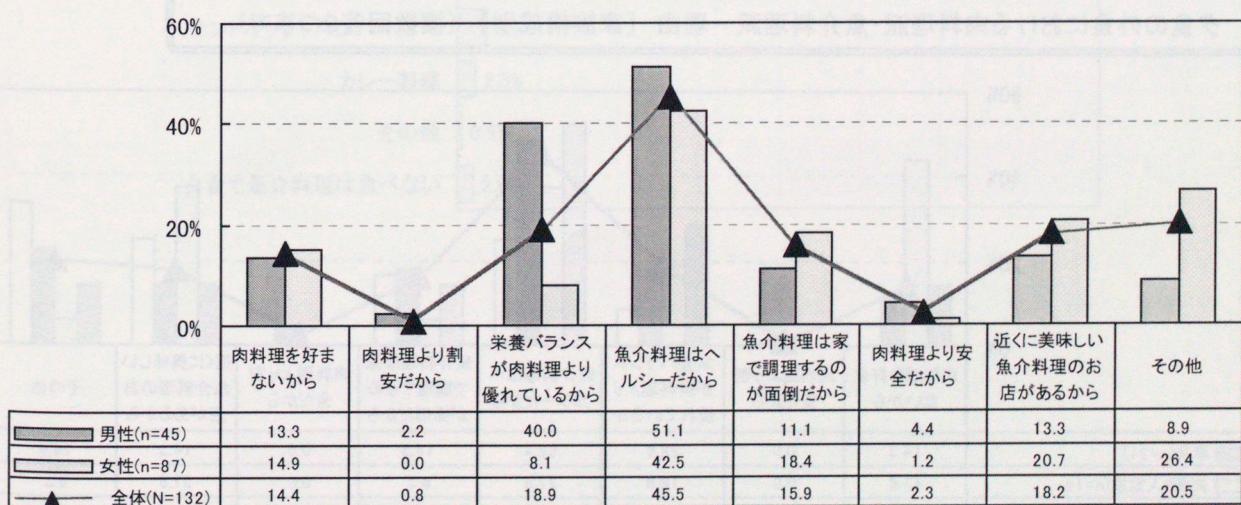
## 2-3-3(2) 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-理由

- 外食(夕食)で魚介料理派(「魚介料理の方が多い」または「どちらかというと魚介料理の方が多い」と回答した人の合計)の人にその理由を尋ねると、「魚介料理はヘルシーだから」45.5%が、他の項目と比較し圧倒的に多かった。
- [性別]に見ると、男性で「栄養のバランスが肉料理より優れているから」が女性と比較し多い。一方女性では、「魚介料理は家で調理するのが面倒だから」が男性と比較し多く、家で調理をする機会は女性の方が多いことが反映されていると考えられる。

夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-理由 [外食は魚介料理派の人全体] (複数回答2つまで)



夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-理由 [性別] (複数回答2つまで)

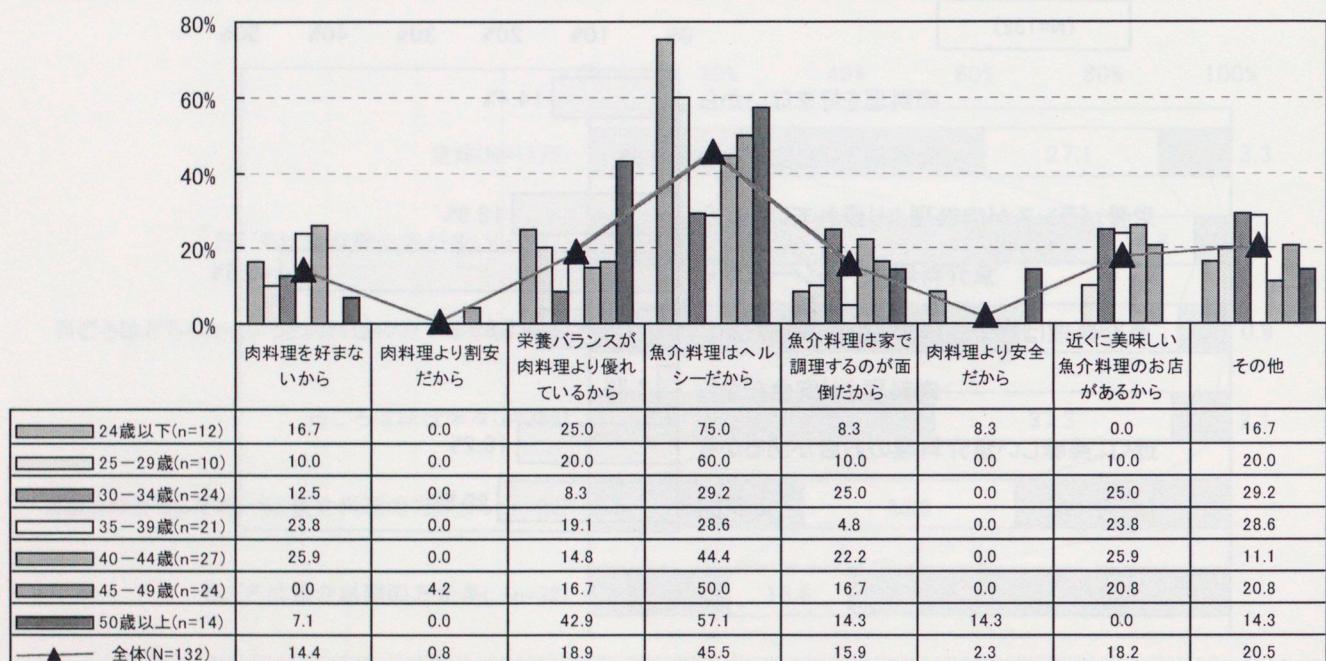


## 2-3-3(2) 夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-理由 つづき

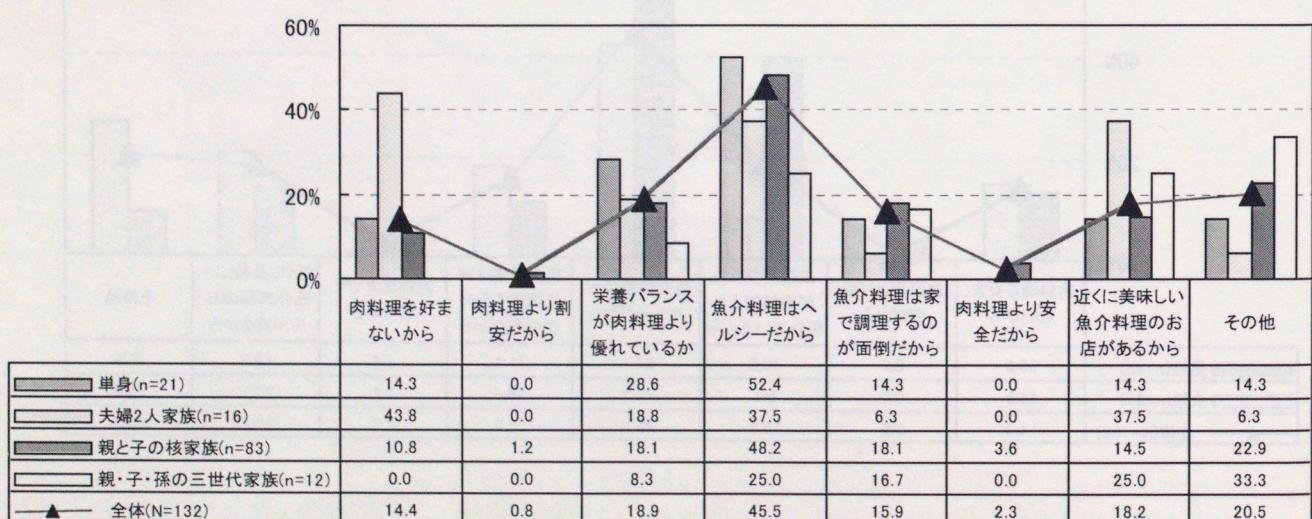
○[年齢別]に見ると、24歳以下で「魚介料理はヘルシーだから」が他の年代に比較し多い。この年代は日ごろの食生活が不規則になりがちであるため、外食(夕食)では極力健康によいものを心がけているのではないかと推察される。一方、30-34歳、35-39歳では、項目間での差が少なく、「魚介料理は家で調理するのが面倒だから」など、より現実的な回答が上位にきている。

○[家族構成別]に見ると、単身者では栄養や健康のことをより意識していることが表れており、日ごろの食生活のあり方の裏返しと考えられる。また、夫婦2人家族では、より好みに重きをおいている。

夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-理由 [年齢別] (複数回答2つまで)



夕食の外食における肉料理派・魚介料理派-理由 [家族構成別] (複数回答2つまで)



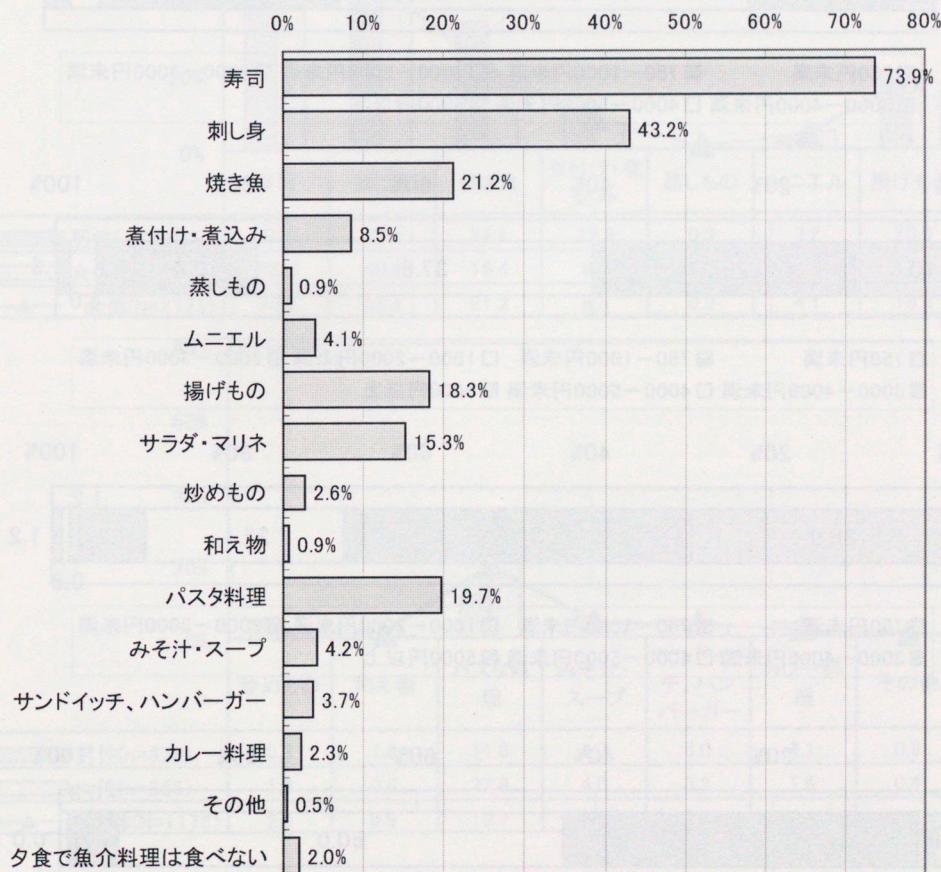
## 2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額

○外食(夕食)でよく食べる魚介料理を尋ねると、1位「寿司」の回答が多く、次いで2位「刺し身」、3位「焼き魚」、4位「パスタ料理」、5位「揚げ物」の順だった。「パスタ料理」が4位に入っているが、魚介料理は洋食よりも和食でよく消費されることがわかる。

夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 [外食する人全体] (複数回答3つまで)

### よく食べる魚介料理

(N=1175)



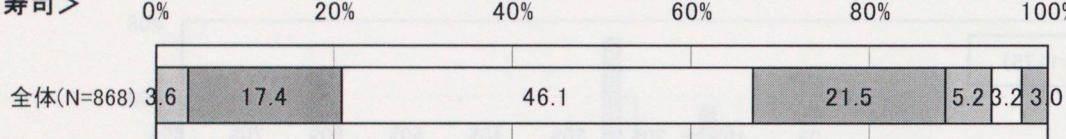
## 2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 つづき

○外食(夕食)でよく食べる魚介料理の上位5位までについて、その料理を食べるときの支払い金額を見る  
と、1位の「寿司」では、「1000-2000円未満」が半数弱であり、平均額が1,885円。

### 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 [外食する人全体] (複数回答3つまで)

#### 上位5位までの金額

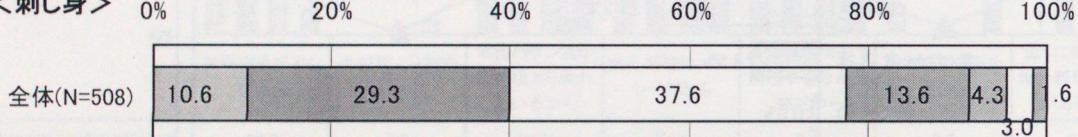
##### 1位<寿司>



平均支払額  
1,885円

□ 750円未満 ■ 750-1000円未満 □ 1000-2000円未満 ■ 2000-3000円未満  
■ 3000-4000円未満 □ 4000-5000円未満 ■ 5000円以上

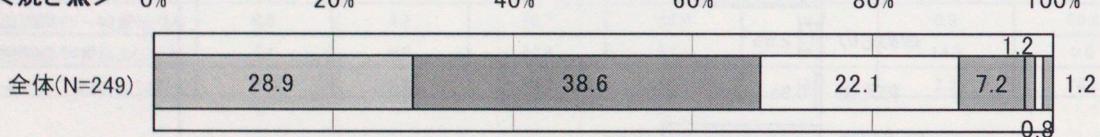
##### 2位<刺し身>



1,603円

□ 750円未満 ■ 750-1000円未満 □ 1000-2000円未満 ■ 2000-3000円未満  
■ 3000-4000円未満 □ 4000-5000円未満 ■ 5000円以上

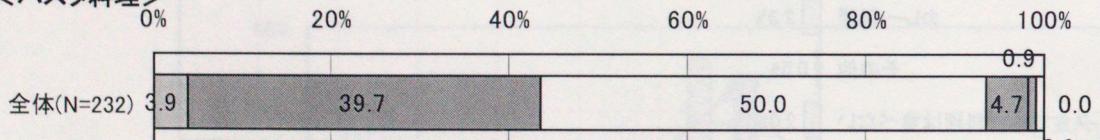
##### 3位<焼き魚>



1,205円

□ 750円未満 ■ 750-1000円未満 □ 1000-2000円未満 ■ 2000-3000円未満  
■ 3000-4000円未満 □ 4000-5000円未満 ■ 5000円以上

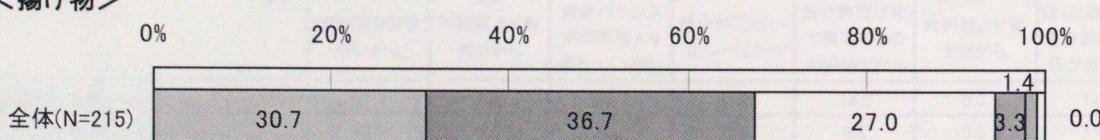
##### 4位<パスタ料理>



1,314円

□ 750円未満 ■ 750-1000円未満 □ 1000-2000円未満 ■ 2000-3000円未満  
■ 3000-4000円未満 □ 4000-5000円未満 ■ 5000円以上

##### 5位<揚げ物>



1,128円

□ 750円未満 ■ 750-1000円未満 □ 1000-2000円未満 ■ 2000-3000円未満  
■ 3000-4000円未満 □ 4000-5000円未満 ■ 5000円以上

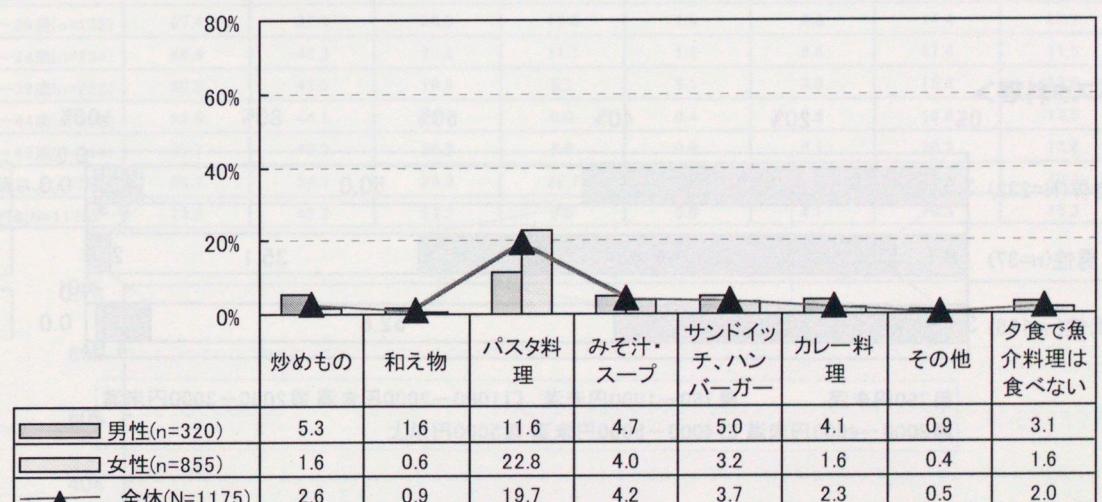
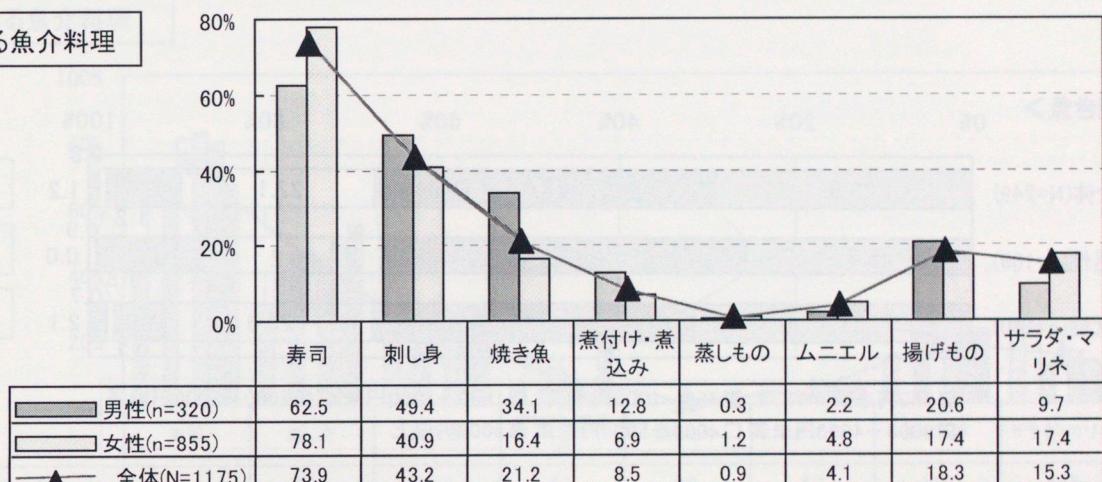
## 2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 つづき

○[性別]に見ると、男性は、1位「寿司」、2位「刺し身」、3位「焼き魚」であり、女性は、1位「寿司」、2位「刺し身」、3位「パスタ料理」であった。また、女性の方が「サラダ・マリネ」や「ムニエル」など、洋食系の魚介料理を外食(夕食)でよく食べていることがわかる。

○外食でよく食べる魚介料理上位5位の支払い金額を[性別]に見ると、1位「寿司」は、平均支払い額が男性2,497円、女性1,827円と670円の差があったが、それ以外では大差は見られない。

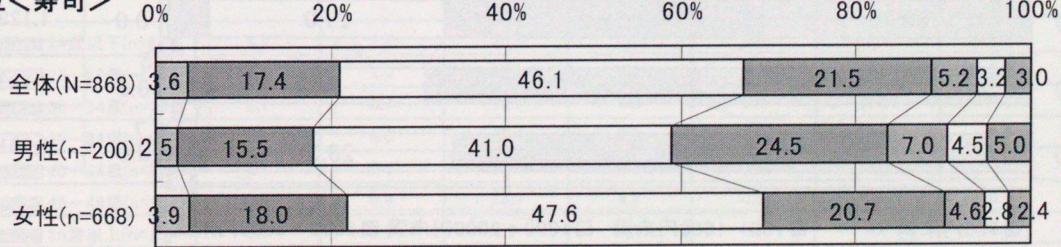
夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 [性別] (複数回答3つまで)

よく食べる魚介料理



上位5位までの金額

1位<寿司>



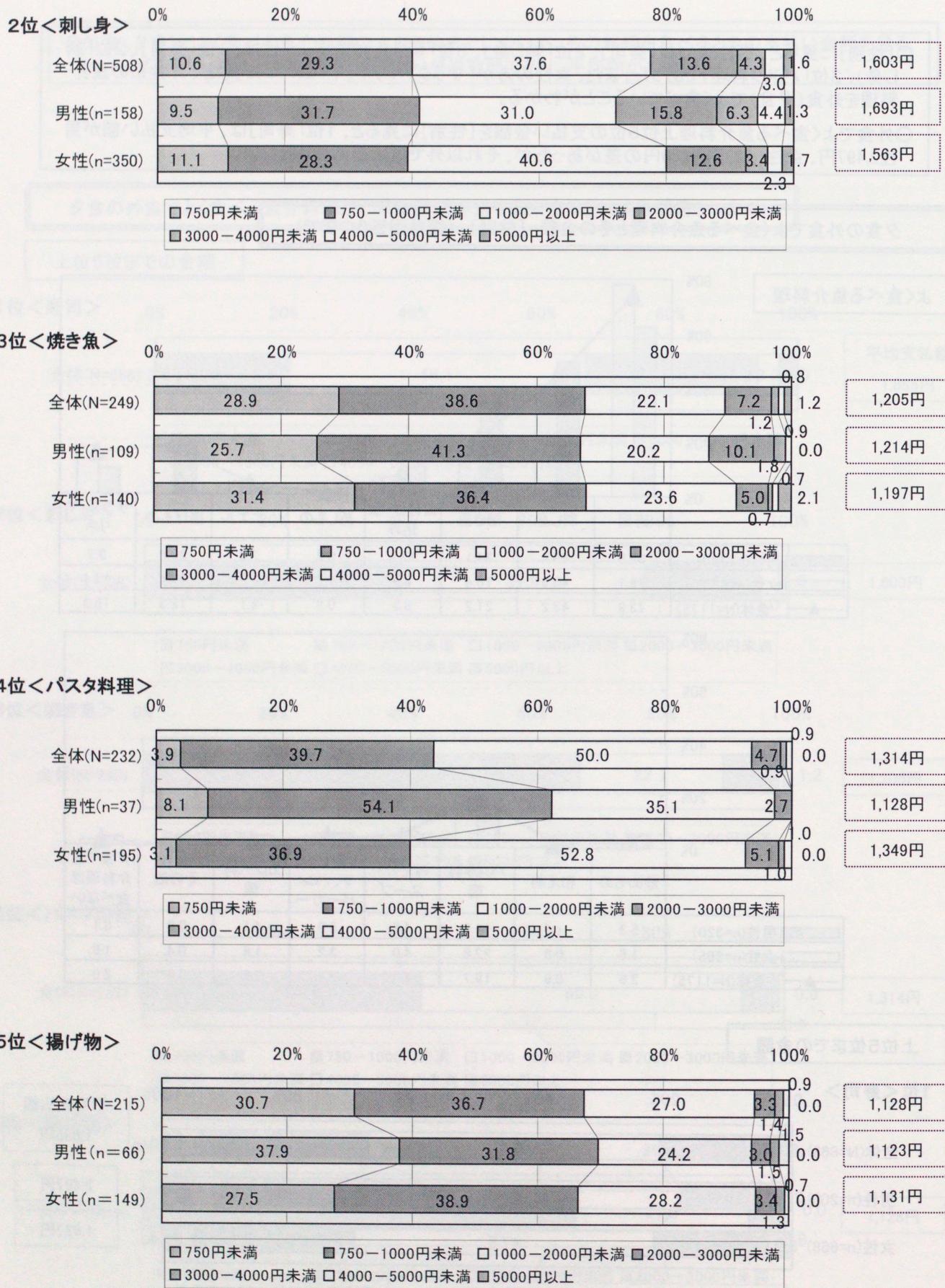
平均支払額

1,885円

2,497円

1,827円

□ 750円未満 ■ 750-1000円未満 □ 1000-2000円未満 □ 2000-3000円未満  
■ 3000-4000円未満 □ 4000-5000円未満 □ 5000円以上

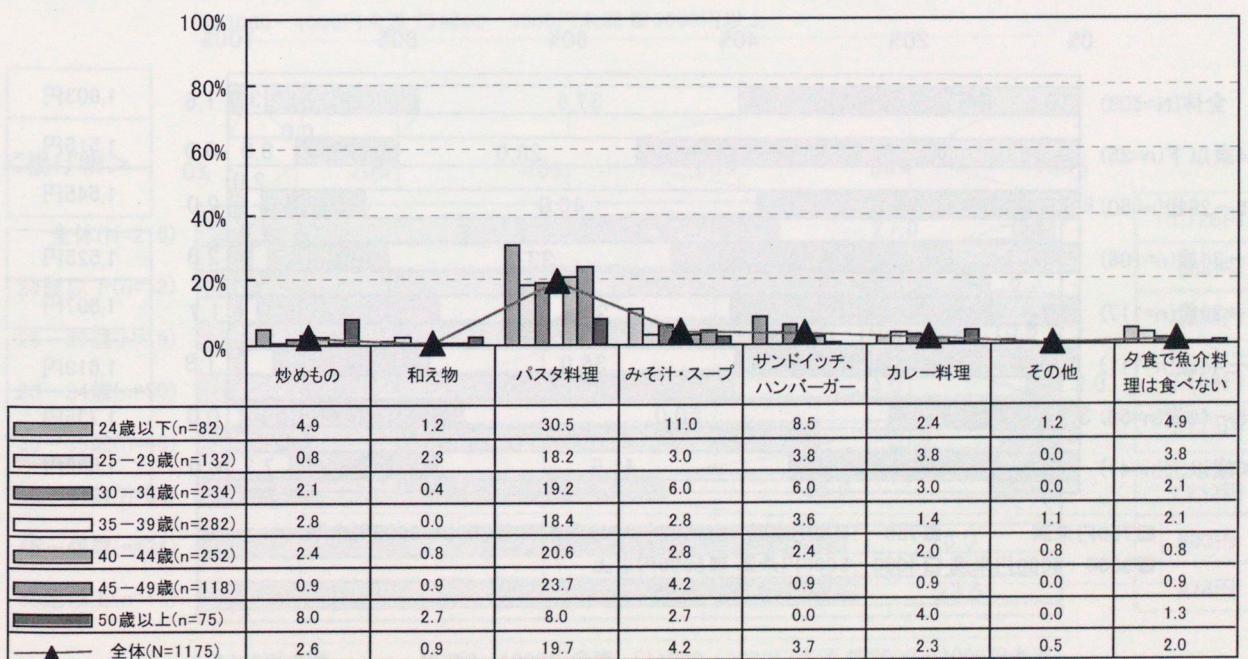
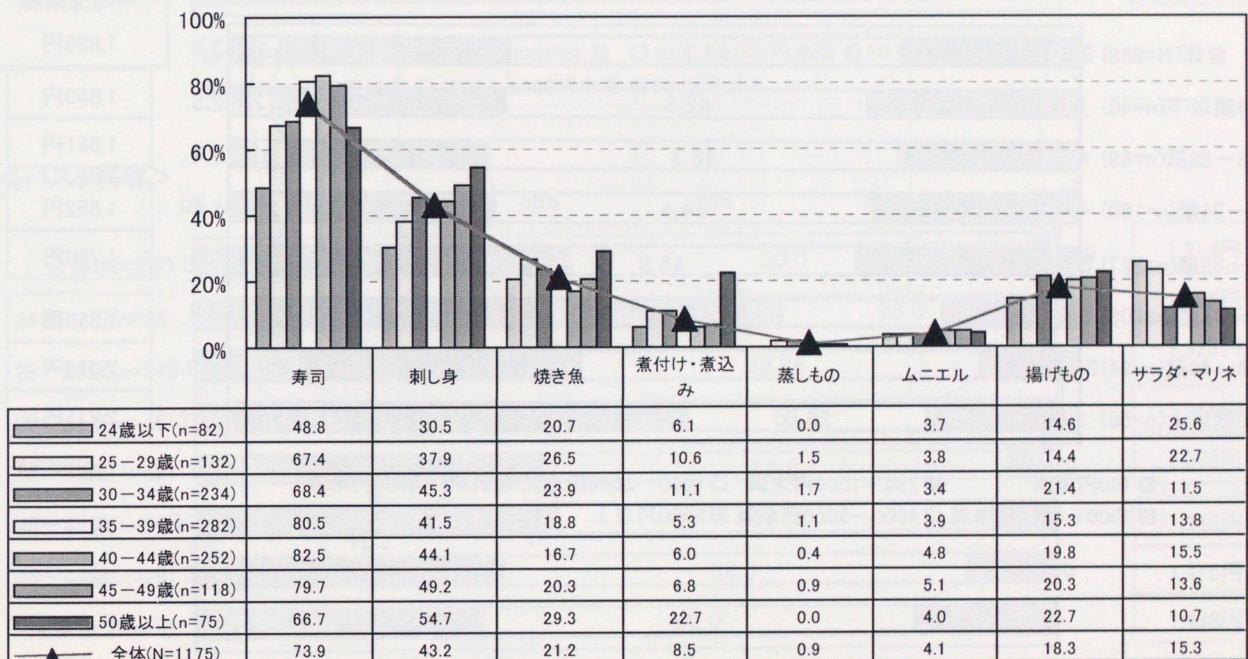


## 2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 つづき

○[年齢別]に見ると、24歳以下では他の年代に比較して食べる料理に偏りが少ないことがわかる。一方、35-39歳、40-44歳、45-49歳では「寿司」の回答率が高い。「刺し身」については概ね年代が上がるにつれて消費も増えている。

夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 [年齢別] (複数選択3つまで)

### よく食べる魚介料理

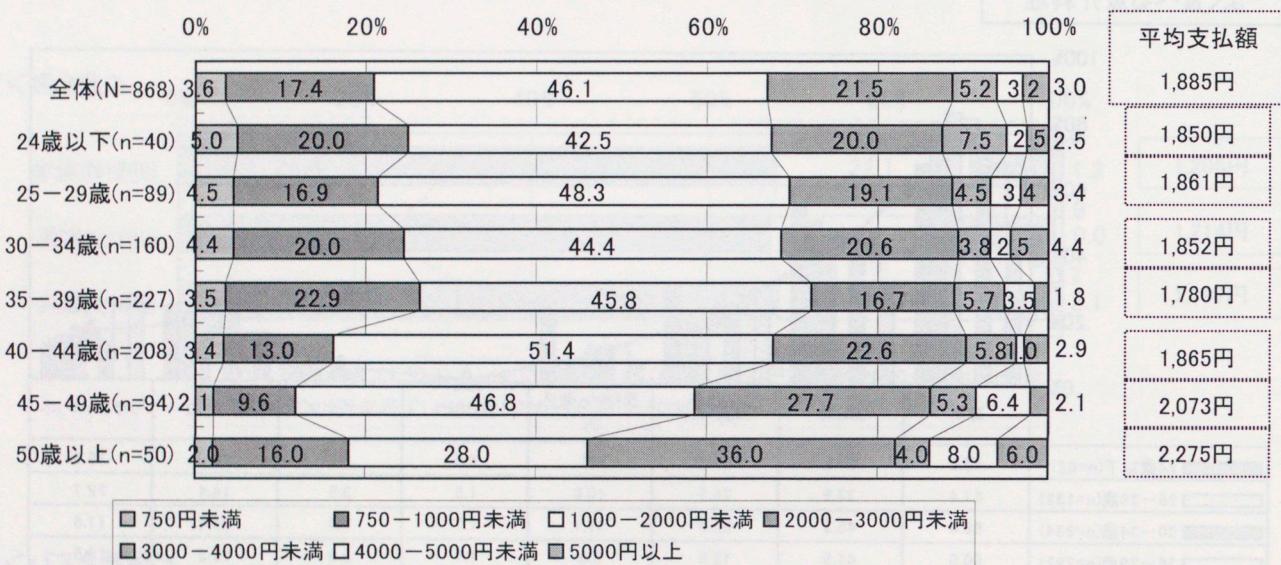


## 2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 つづき

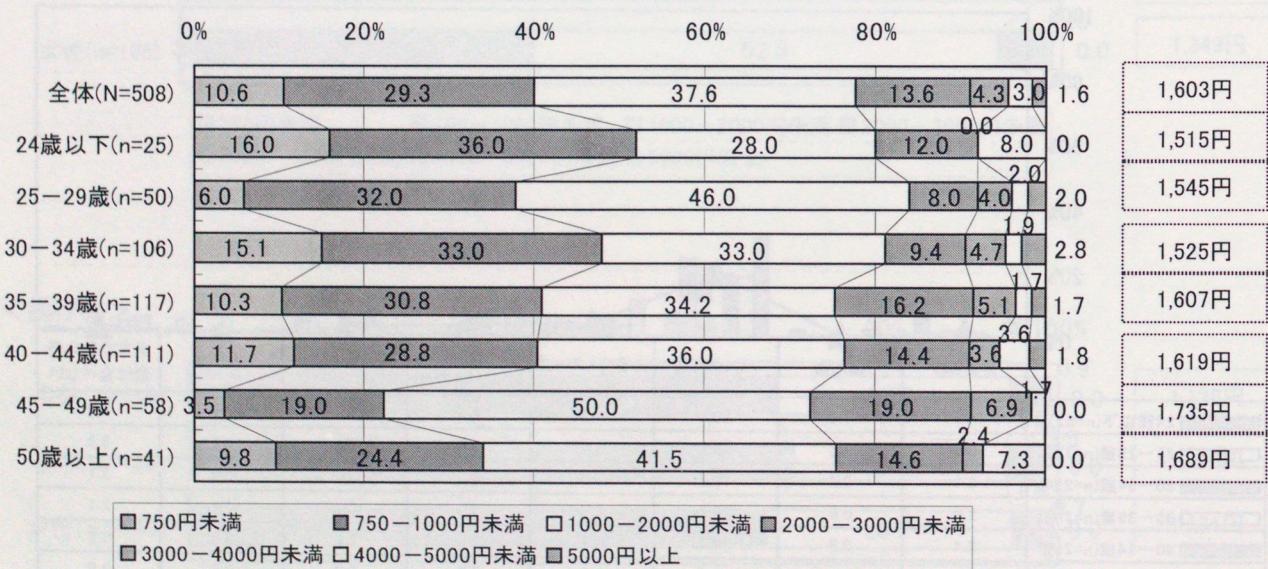
○外食でよく食べる魚介料理上位5位の支払い金額を[年齢別]に見ると、1位「寿司」では、35-39歳で1,780円と最も金額が少ない。45-49歳、50歳以上では2,000円を超えており、とりわけ50歳以上では、全体の平均支払い額より、約400円高くなっている。

### 上位5位までの金額

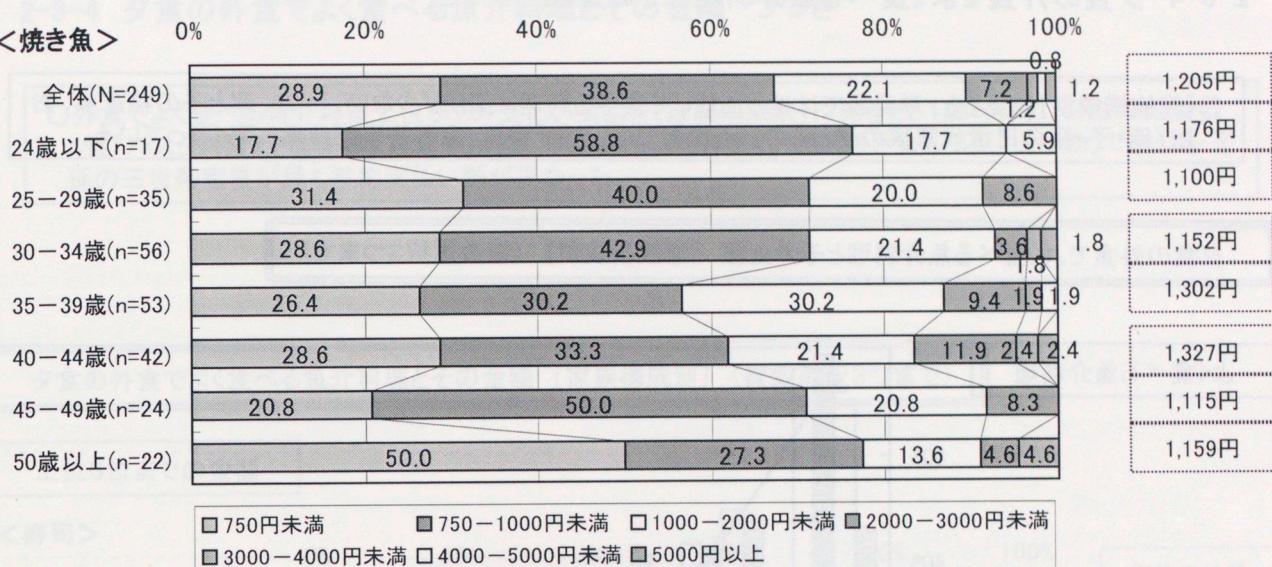
#### 1位<寿司>



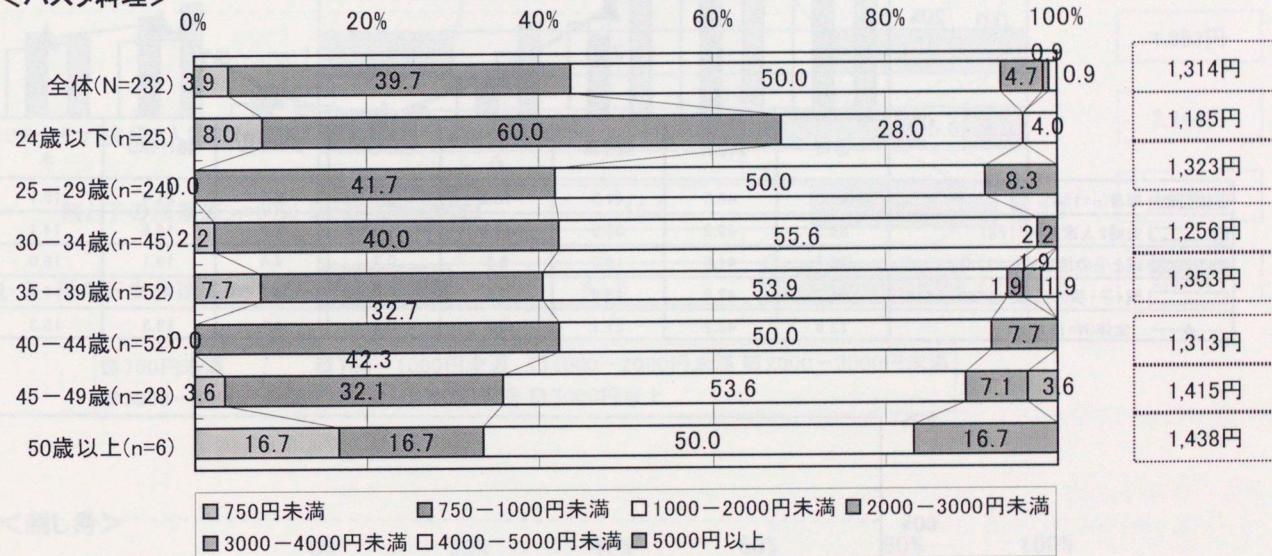
#### 2位<刺し身>



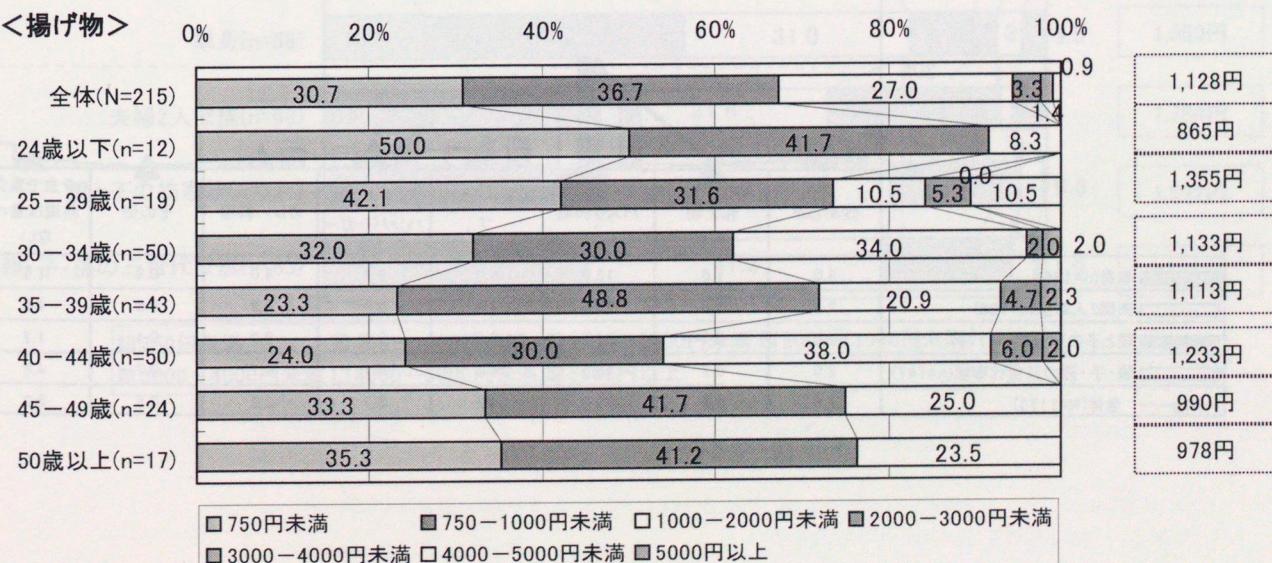
### 3位<焼き魚>



### 4位<パスタ料理>



### 5位<揚げ物>

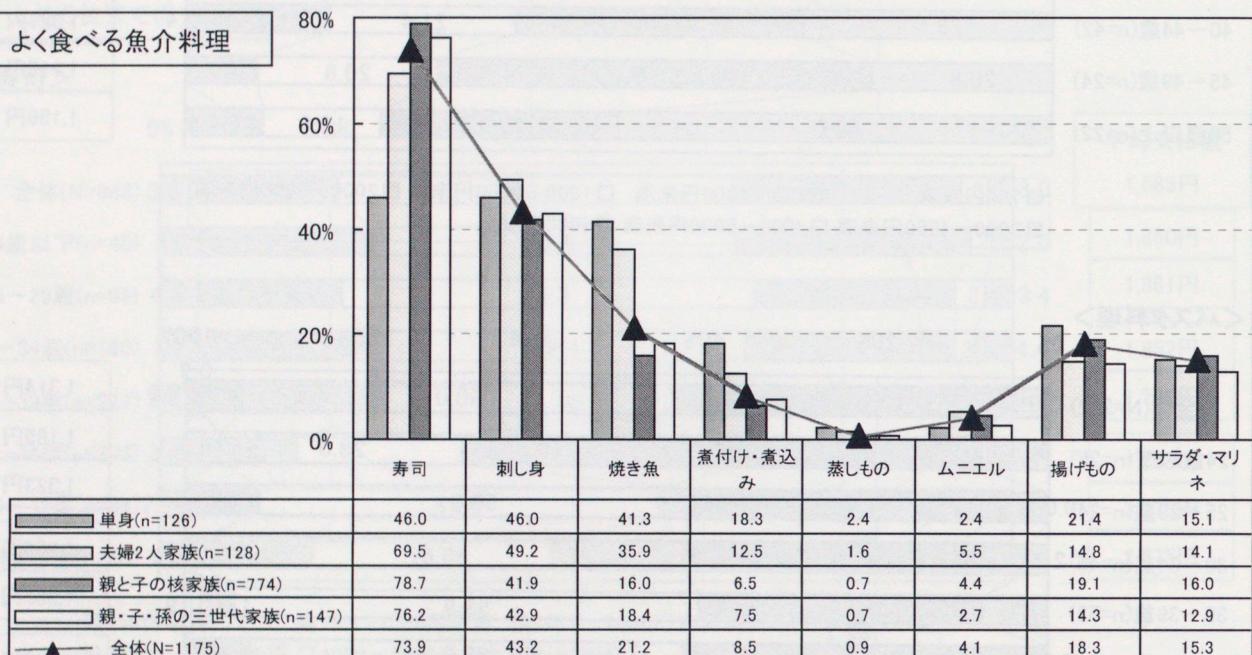


## 2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 つづき

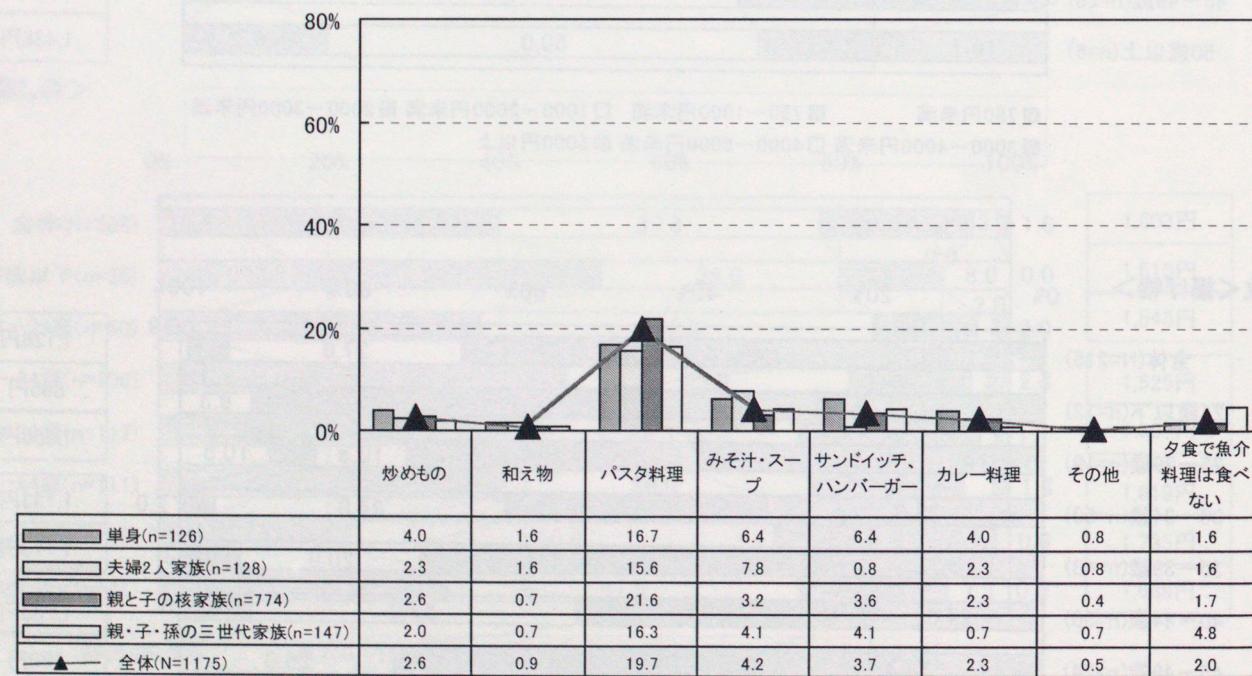
○[家族構成別]に見ると、単身者では他と比較して食べる料理に偏りが少ない。一方、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族の子どものいる世帯では、1位「寿司」の回答率が非常に高くなっている。

夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 [家族構成別] (複数選択3つまで)

よく食べる魚介料理



よく食べる魚介料理



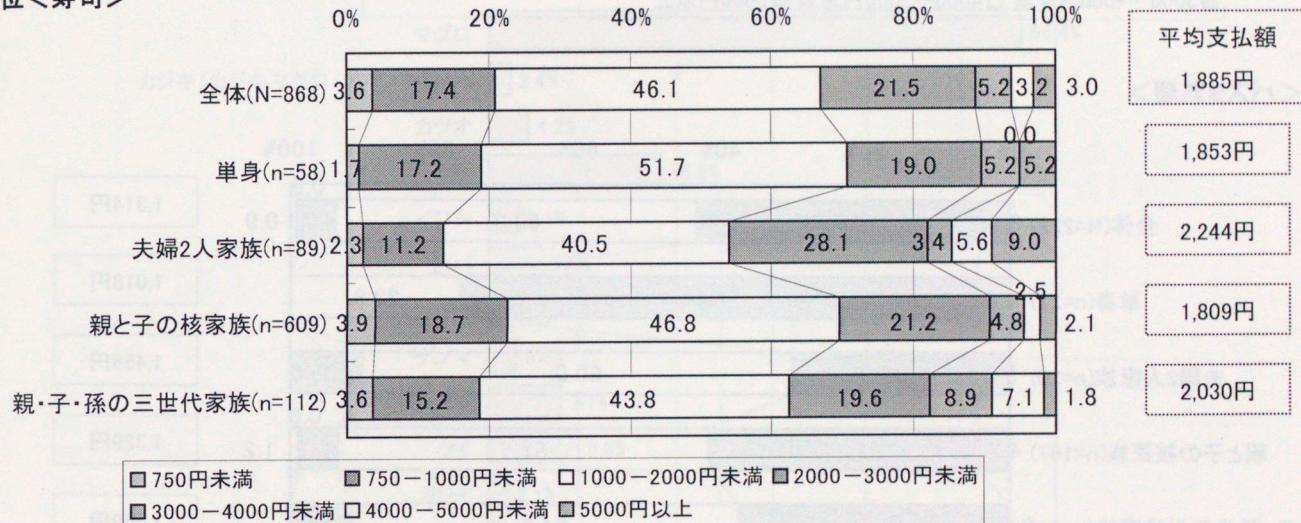
## 2-3-4 夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 つづき

○外食でよく食べる魚介料理上位5位の支払い金額を[家族構成別]に見ると、1位「寿司」、2位「刺し身」、4位「パスタ料理」では夫婦2人家族が最も平均支払い額が高く、3位「焼き魚」、5位「揚げ物」では、親・子・孫の三世帯家族が最も平均支払い額が高かった。

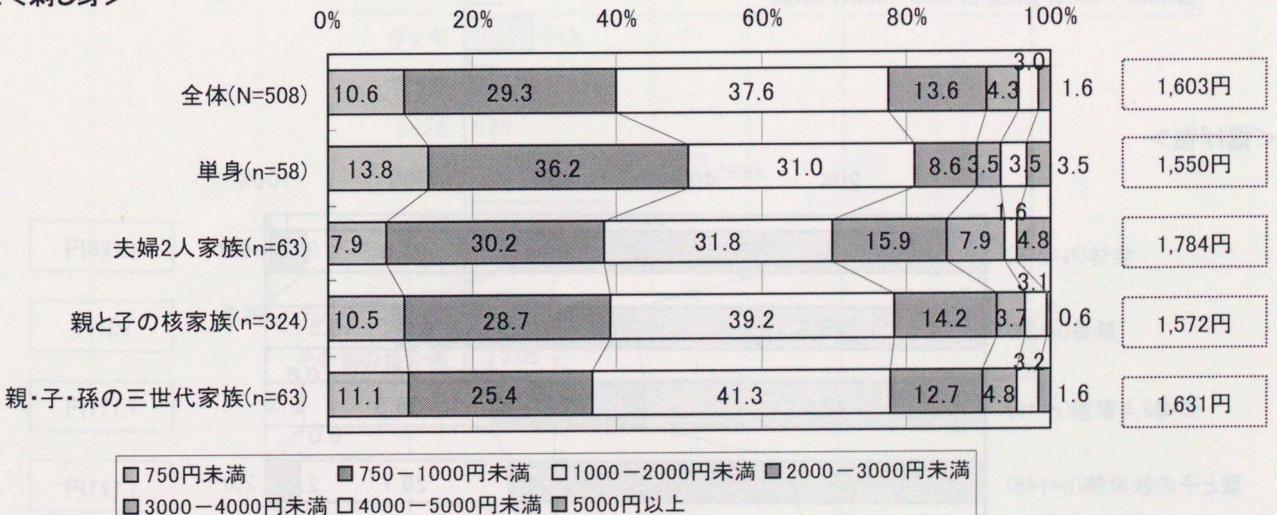
夕食の外食でよく食べる魚介料理とその金額 [家族構成別] (複数選択3つまで)

### 上位5位までの金額

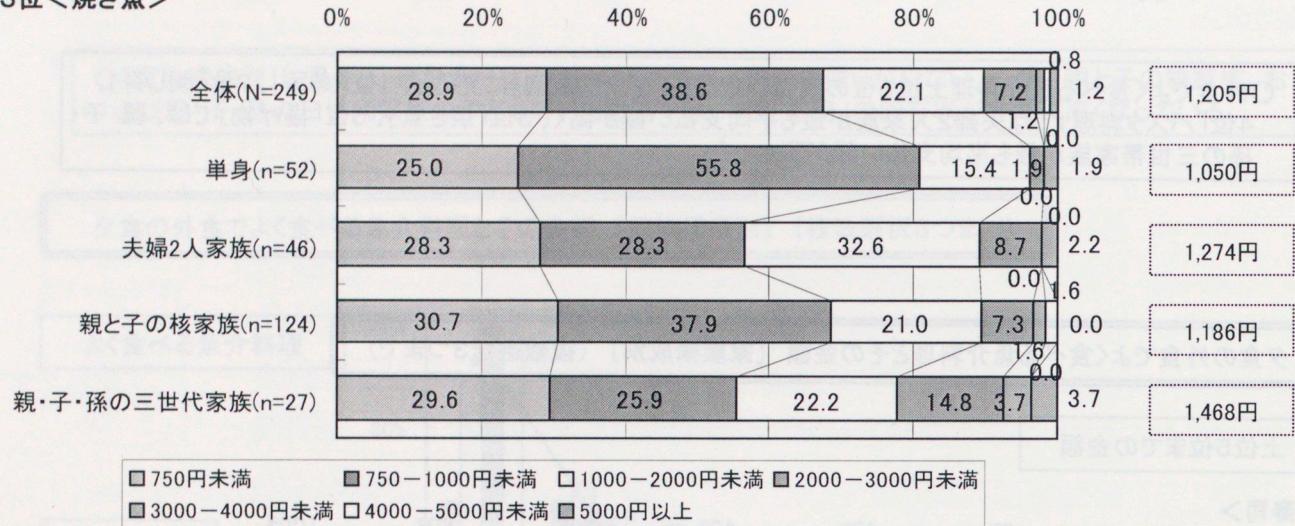
#### 1位<寿司>



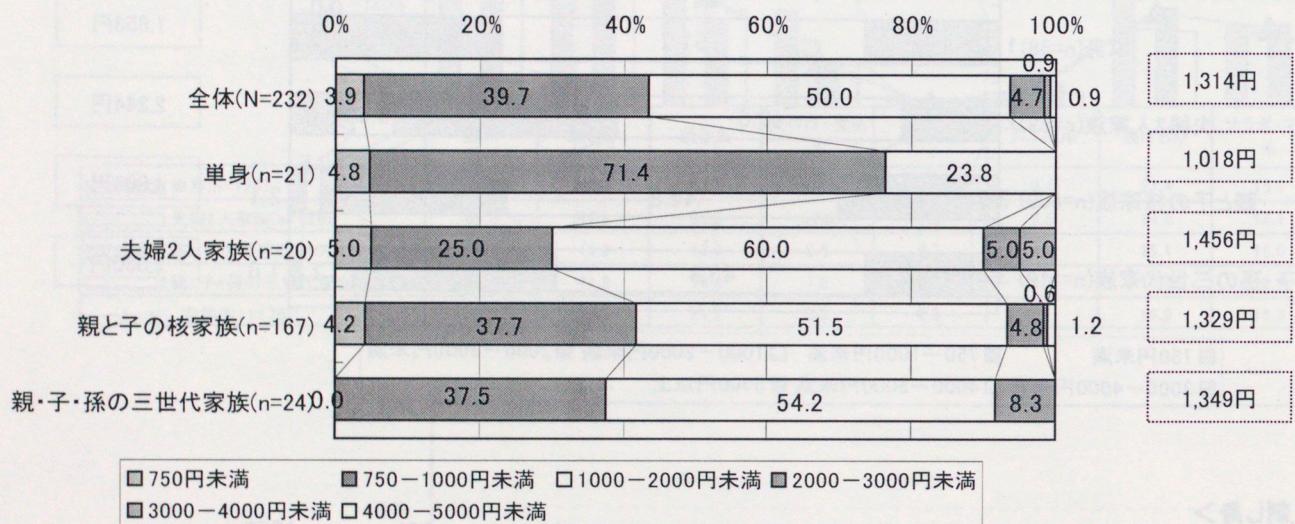
#### 2位<刺し身>



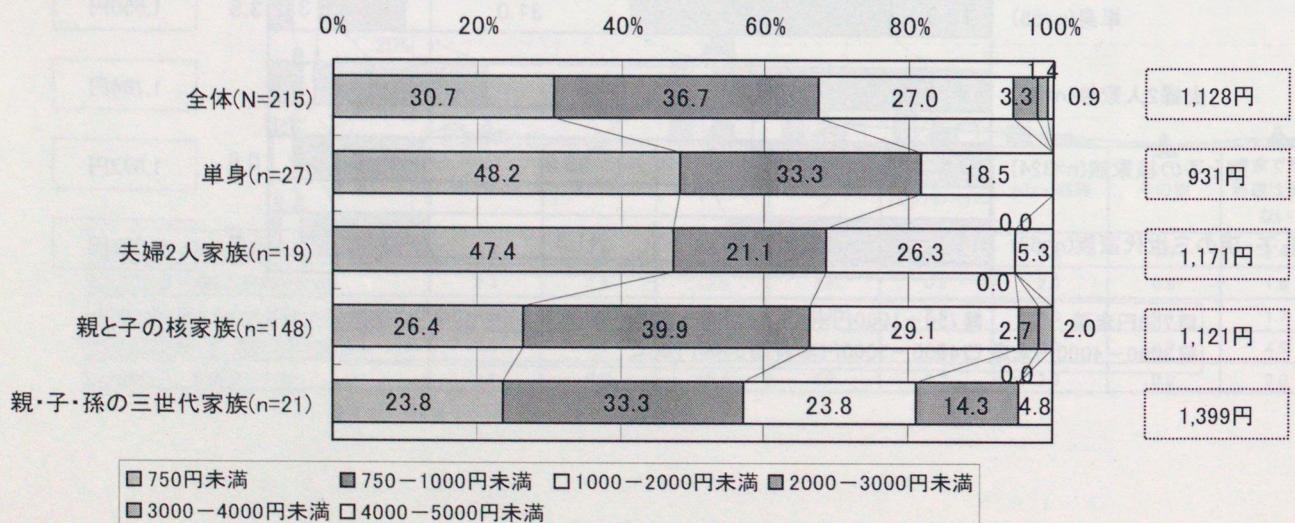
### 3位<焼き魚>



### 4位<パスタ料理>



### 5位<揚げ物>



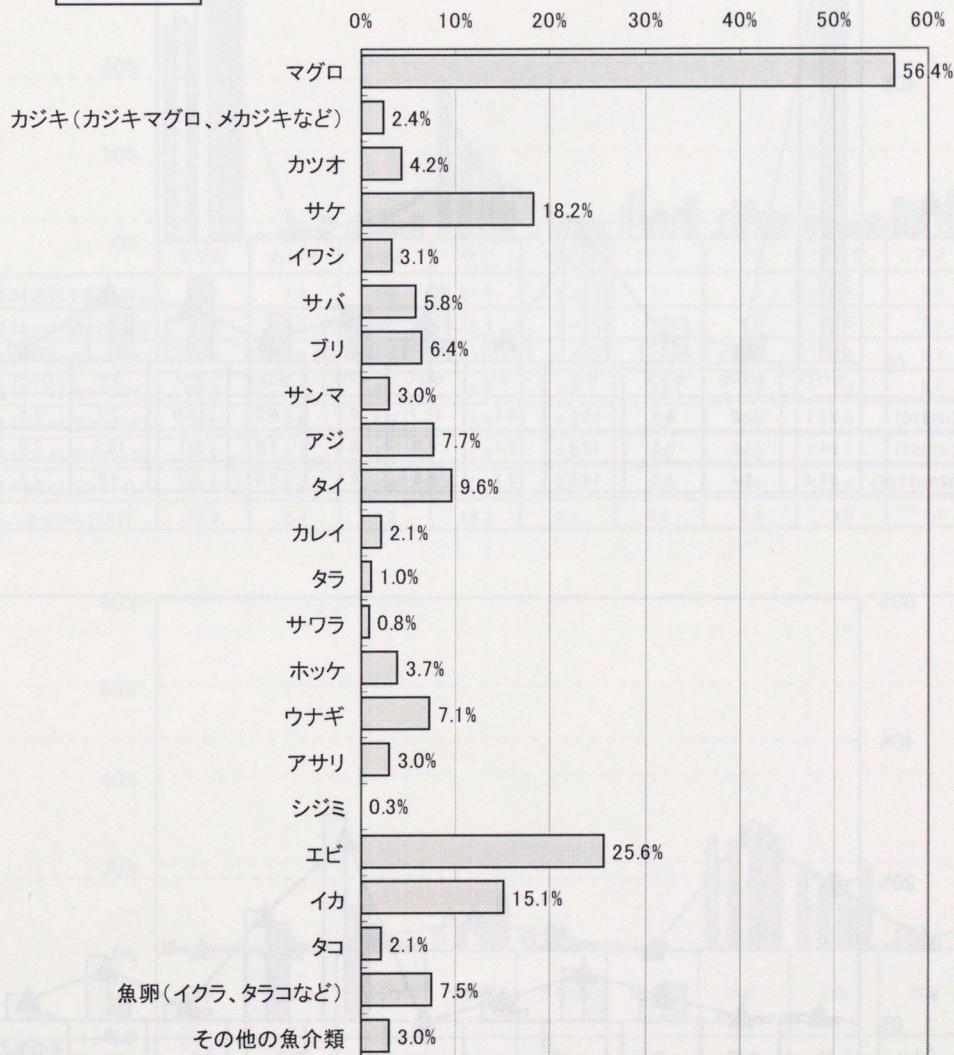
## 2-3-5 夕食の外食でよく食べる魚介の種類

○外食(夕食)でよく食べる魚介の種類を尋ねると、1位の「マグロ」から、2位「エビ」、3位「サケ」、4位「イカ」までが10%を超えた。日ごろよく購入する水産物と比較すると(P50参照)、外食では「マグロ」、「エビ」、「イカ」がよく消費されていることがわかる。

夕食の外食でよく食べる魚介の種類 [全体] (複数回答2つまで)

よく食べる魚介の種類

(N=1151)

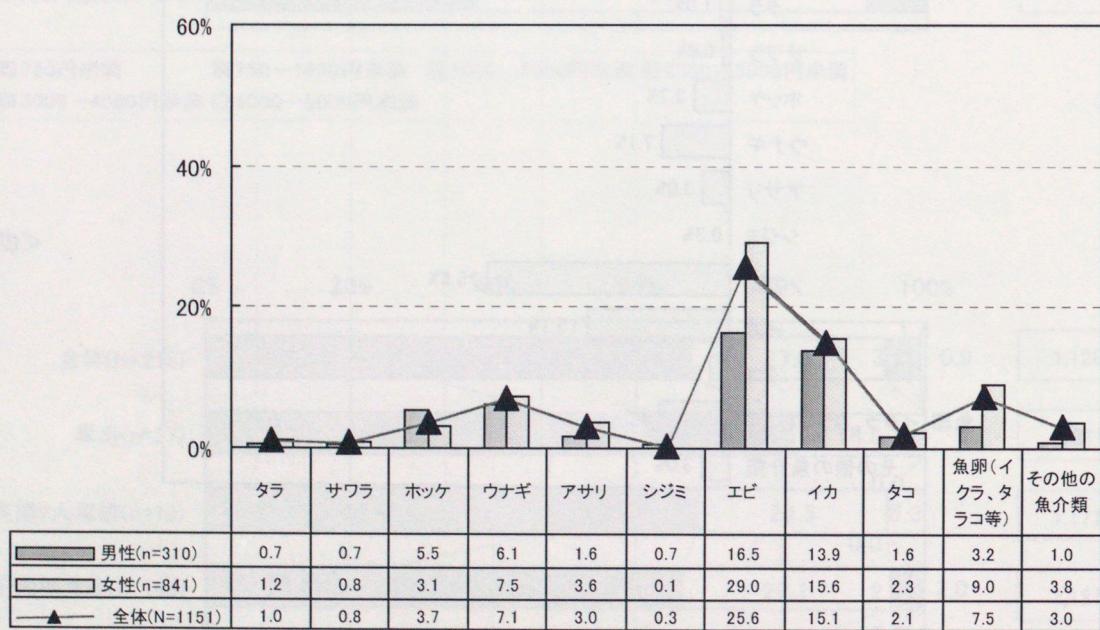
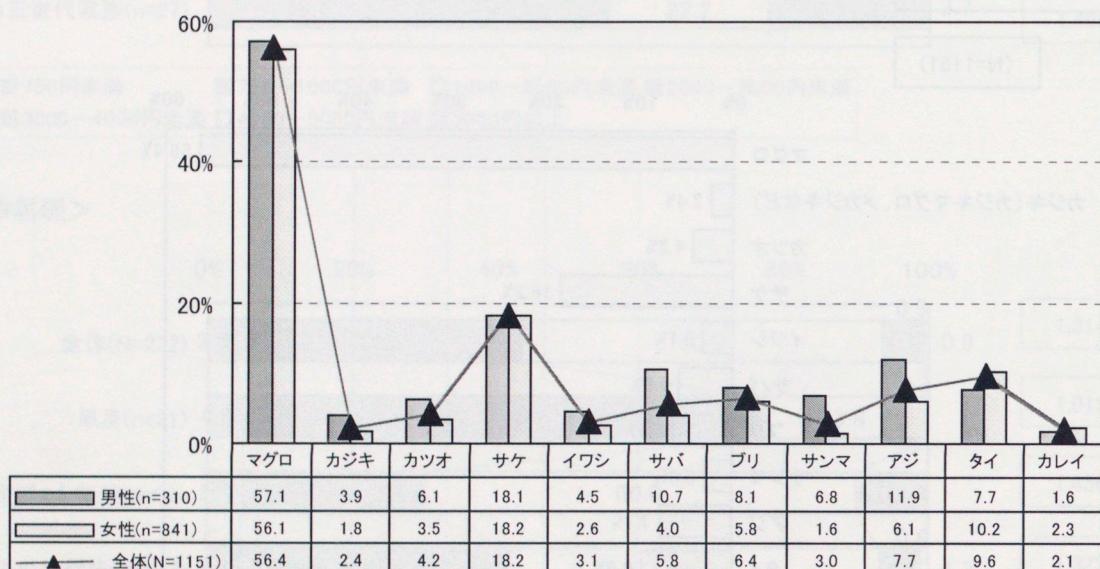


### 2-3-5 夕食の外食でよく食べる魚介の種類 つづき

○[性別]に見ると、女性は「エビ」を食べる割合が男性よりも多いのが目立つ。

夕食の外食でよく食べる魚介の種類 [性別] (複数回答2つまで)

よく食べる魚介の種類

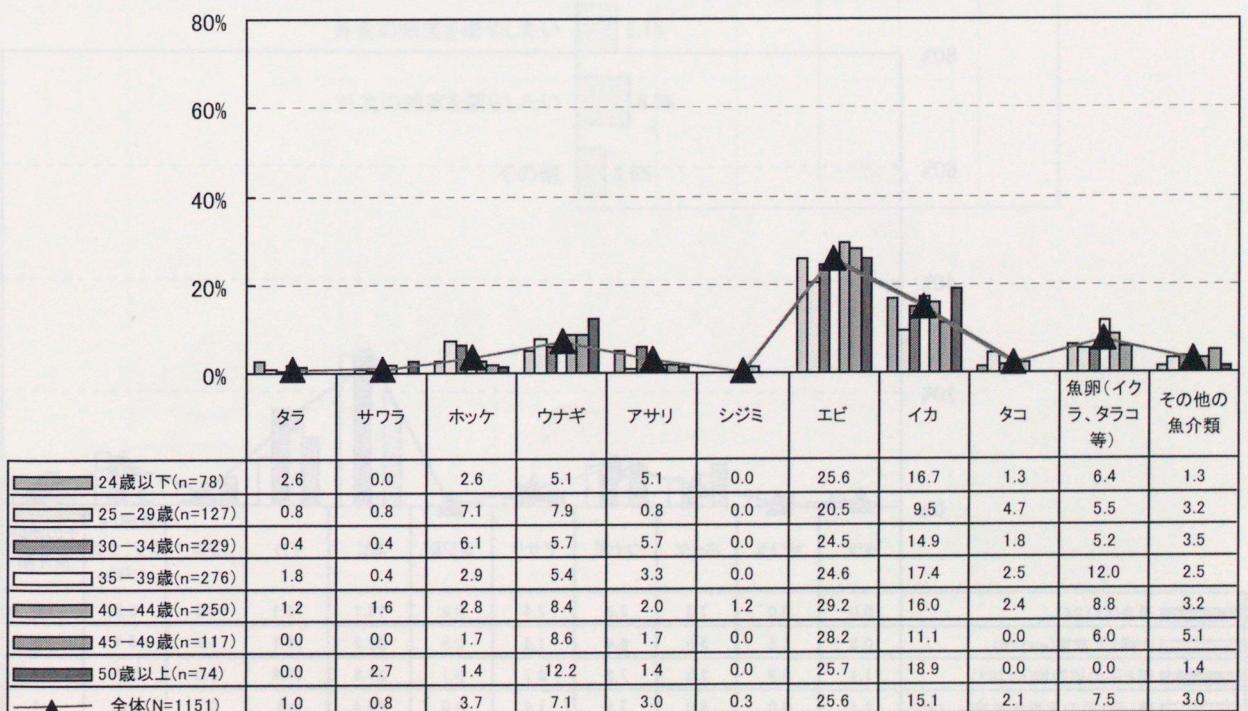
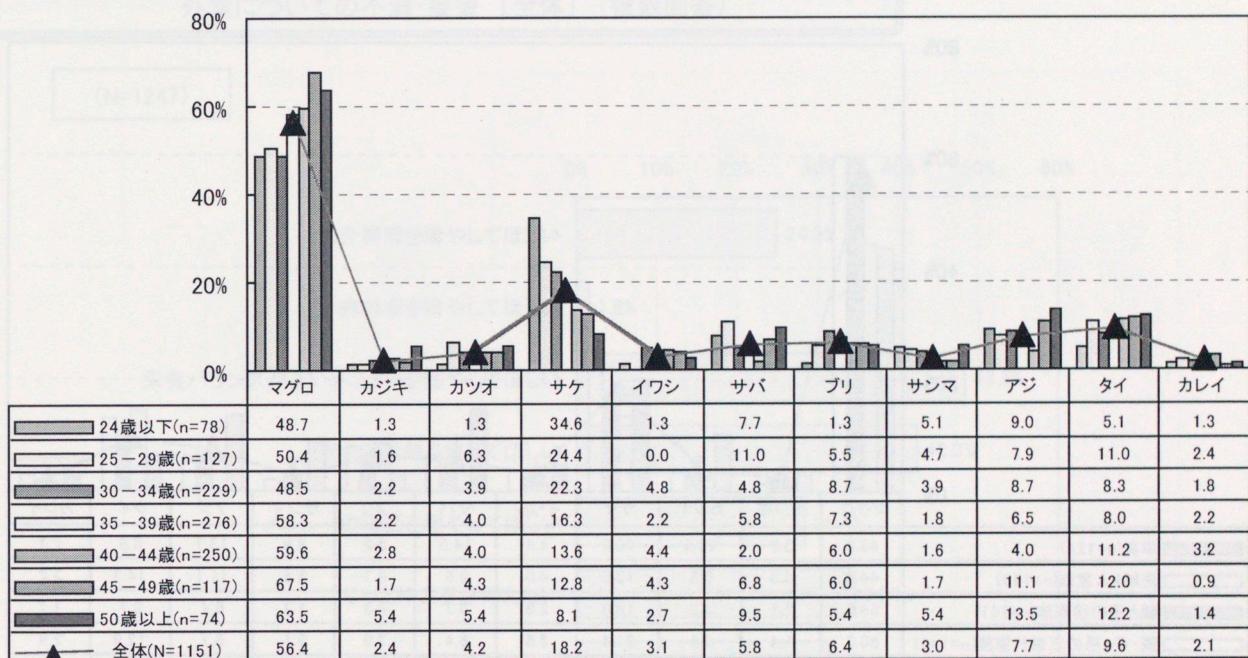


## 2-3-5 夕食の外食でよく食べる魚介の種類 つづき

○[年齢別]に見ると、「サケ」は年齢が若い層ほどよく食べていることがわかる。

夕食の外食でよく食べる魚介の種類 [年齢別] (複数回答2つまで)

よく食べる魚介の種類

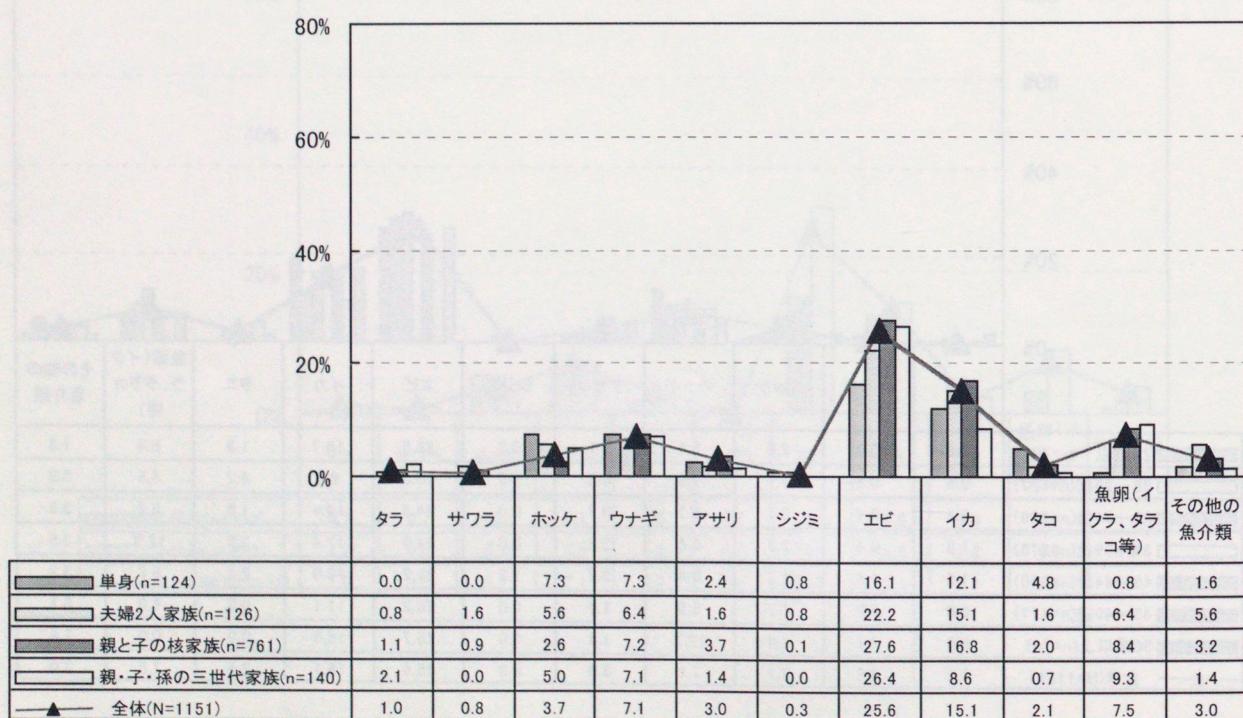
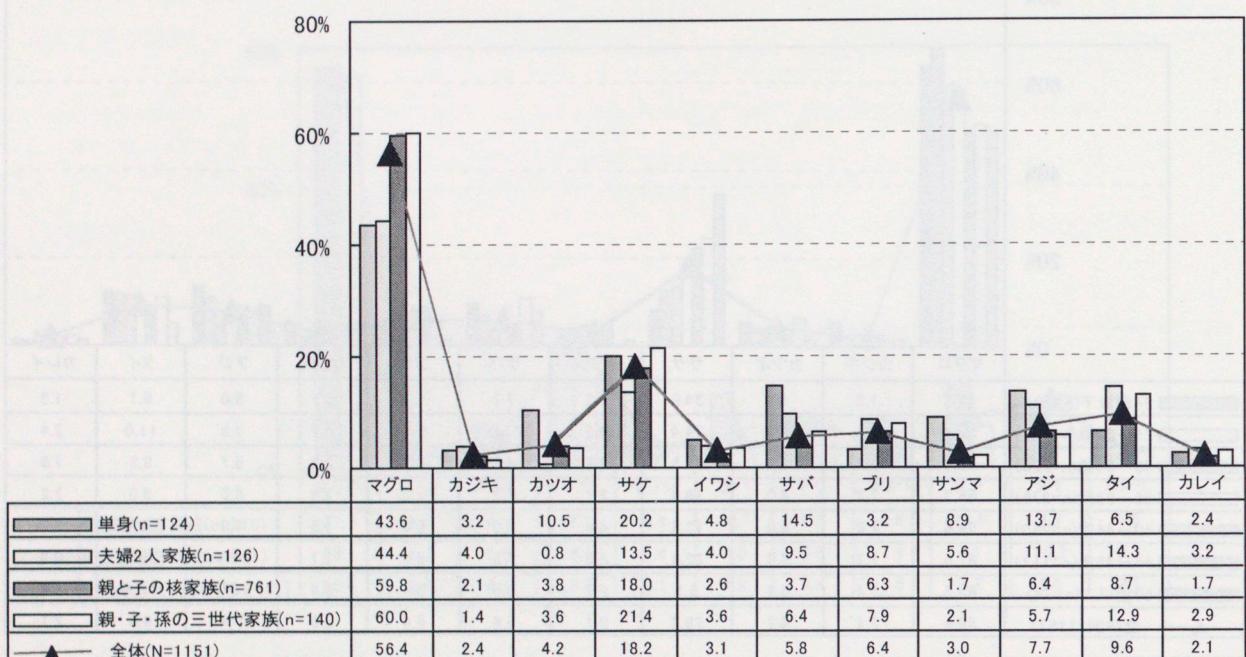


## 2-3-5 夕食の外食でよく食べる魚介の種類 つづき

○[家族構成別]に見ると、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族では、比較的「マグロ」と「エビ」をよく食べており、一方、単身者・夫婦2人家族は、いろいろな種類の魚を食べていることがわかる。

夕食の外食でよく食べる魚介の種類 [家族構成別] (複数回答2つまで)

よく食べる魚介の種類

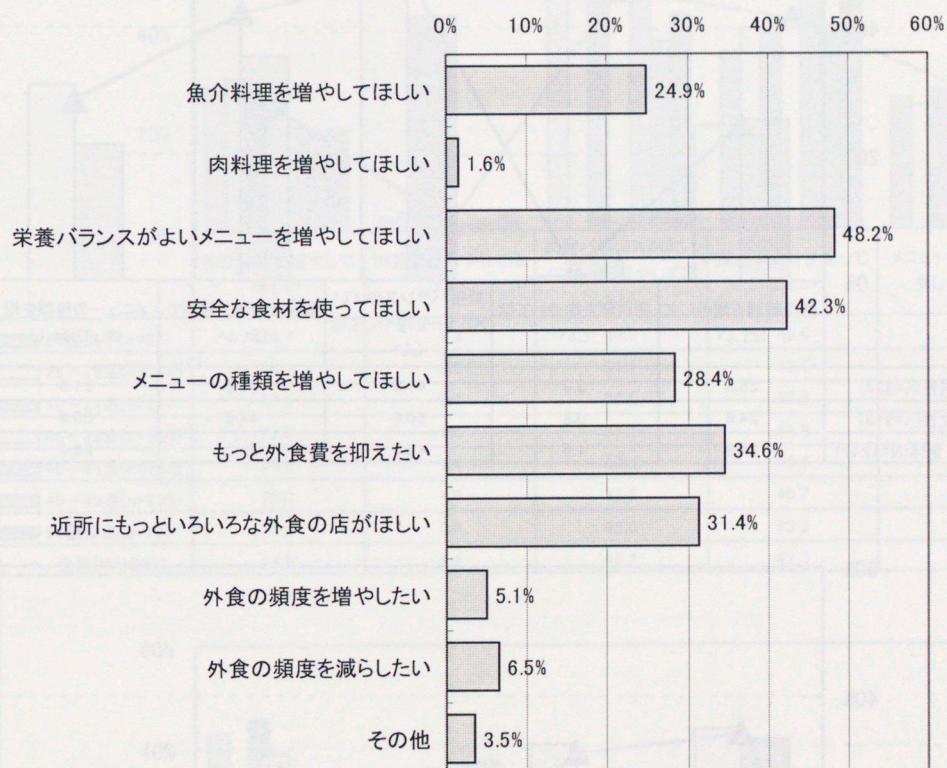


### 2-3-6 外食についての不満・要望

○外食についての不満・要望を尋ねると、1位「栄養バランスのよいメニューを増やしてほしい」と、2位「安全な食材を使ってほしい」が、4割を超える高い回答率であり、日ごろの食生活と同じく外食についても栄養バランスや安全な食材を望む声が強い(P55参照)。また、「魚介料理を増やしてほしい」が24.9%と高く、「肉料理を増やしてほしい」1.6%と比較すると15倍近い回答率であり、外食における魚介料理へのニーズの高さが表れている。

外食についての不満・要望 [全体] (複数回答)

(N=1247)

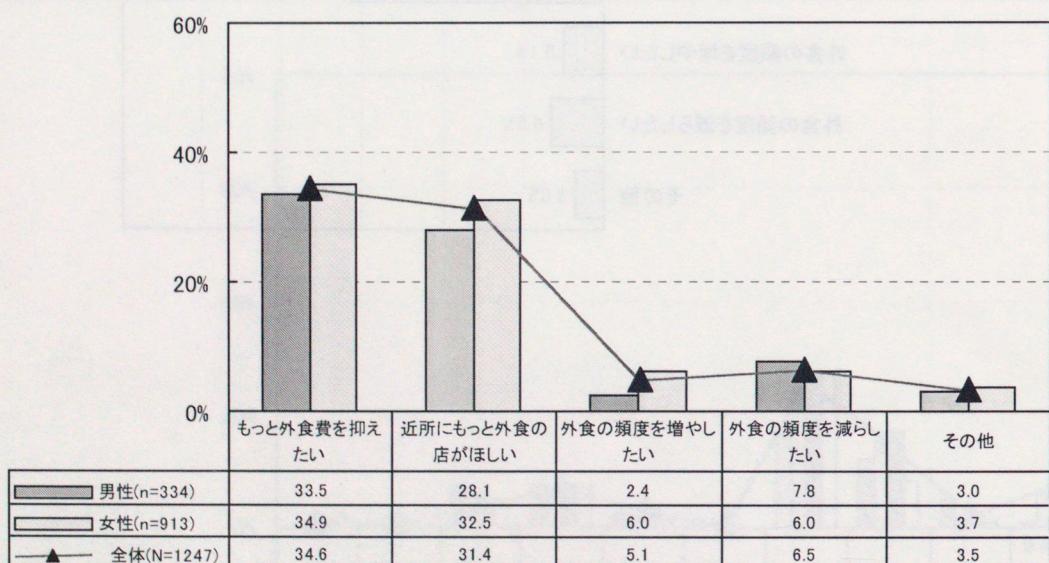
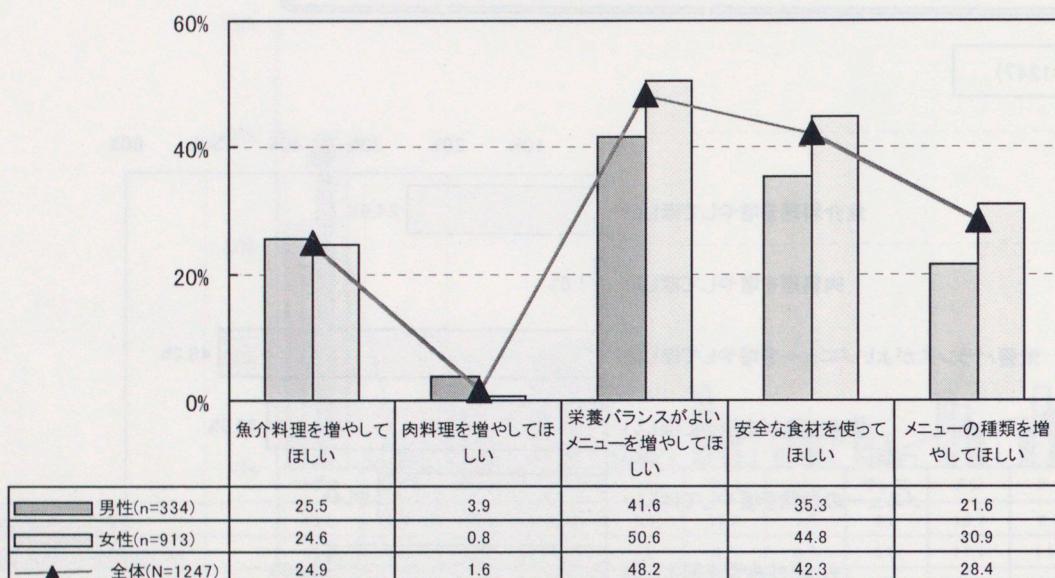


## 2-3-6 外食についての不満・要望 つづき

調査 結果の分析と考察 2-3-5

○[性別]に見ると、女性の方が「栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい」と「安全な食材を使ってほしい」の比率が高い。また、「魚介料理を増やしてほしい」の回答率は、女性の方がやや低く、女性は日々の食生活においても外食においても魚介料理派が少なく、男性の方がより魚介料理を好んでいることがここにも表れている。

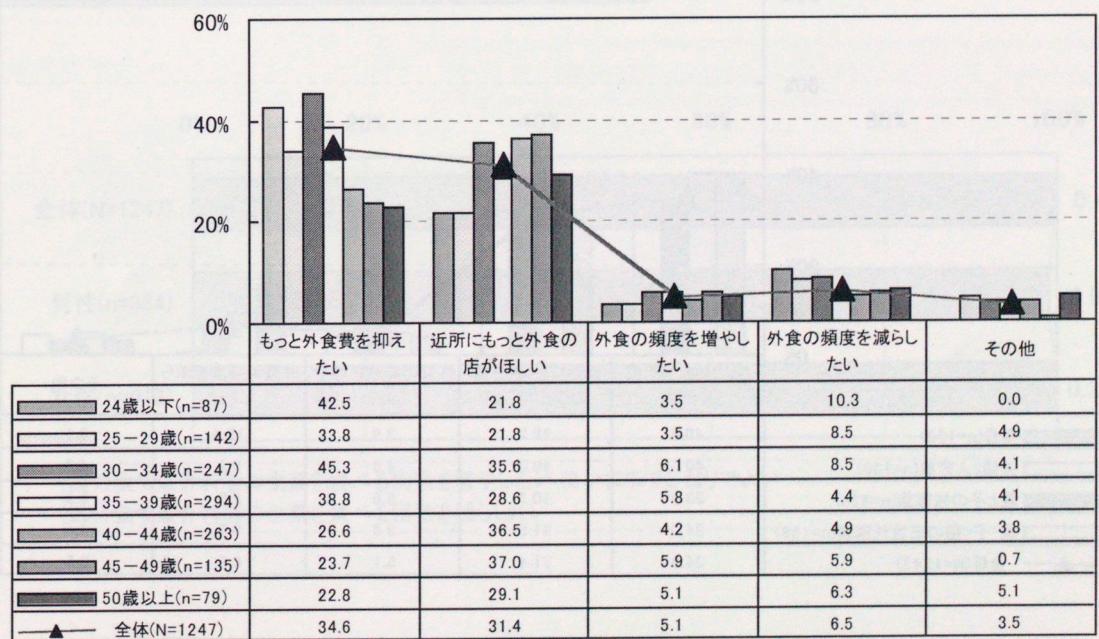
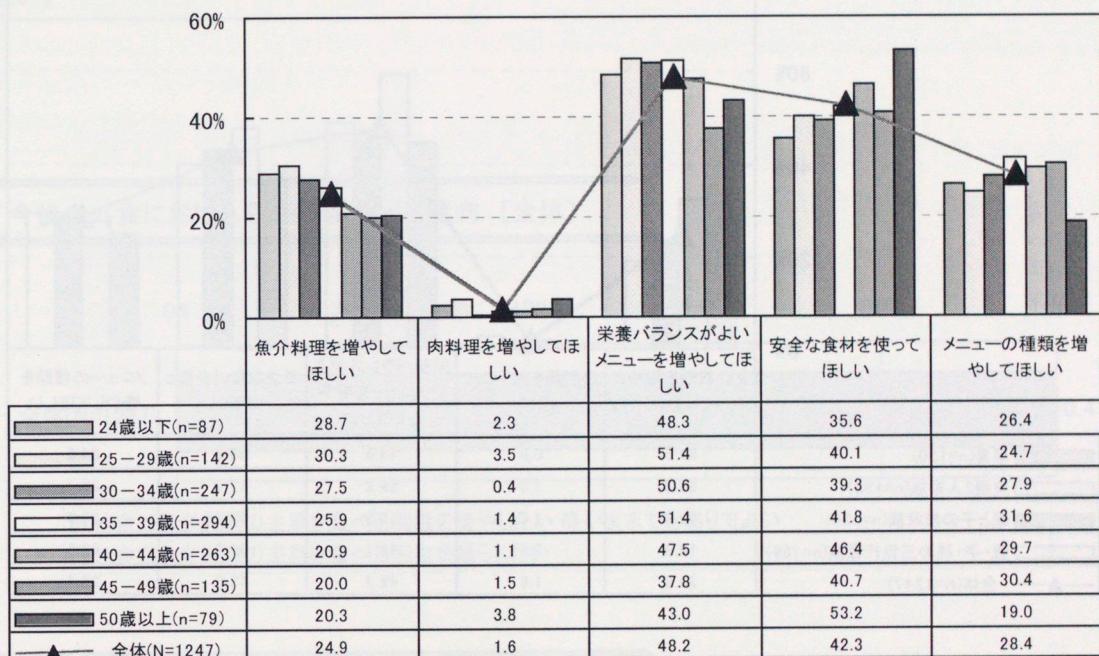
外食についての不満・要望 [性別] (複数回答)



### 2-3-6 外食についての不満・要望 つづき

○[年齢別]に見ると、45—49歳と50歳以上では、1位が「安全な食材を使ってほしい」、2位が「栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい」となっており、[全体]での順位と逆転している。また、24歳以下と30—34歳では、「もっと外食費を抑えたい」が2位となっている。外食の回数が多い24歳以下については、当然の結果と言える。

外食についての不満・要望 [年齢別] (複数回答)

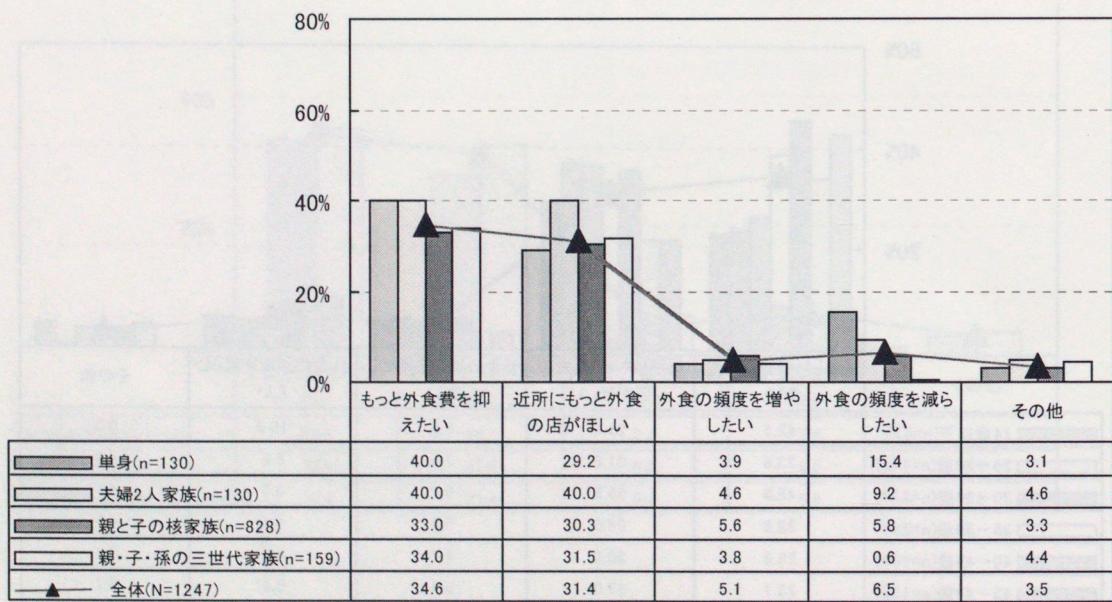
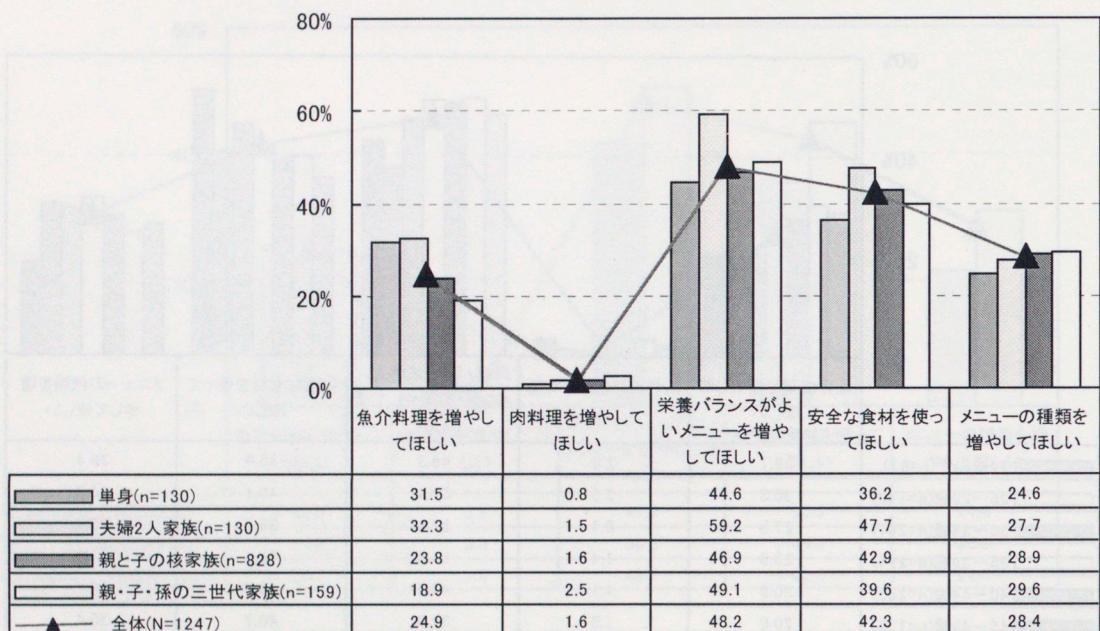


## 2-3-6 外食についての不満・要望 つづき

次に、外食についての不満・要望について見ます。

○[家族構成別]に見ると、夫婦2人家族において「栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい」と「安全な食材を使ってほしい」の回答率が高かった。また、「もっと外食費を抑えたい」は外食の利用頻度が高い単身者と夫婦2人家族で多い。なお、「魚介料理を増やしてほしい」は、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族の子どものいる世帯で低めになっており、外食においても肉料理を好んでいる様子がうかがえる。

外食についての不満・要望 [家族構成別] (複数回答)

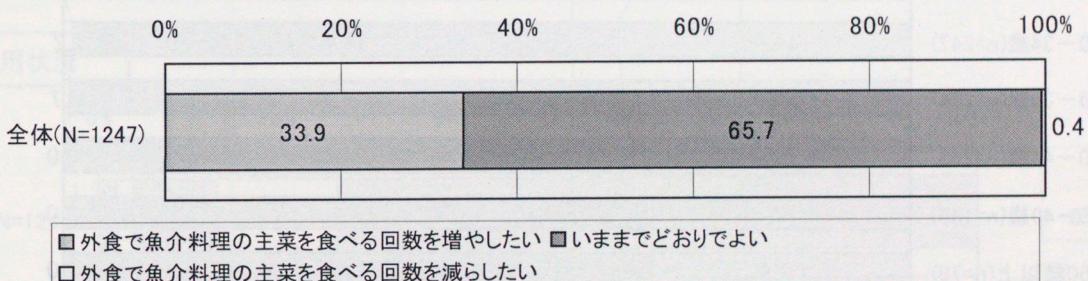


## 2-3-7 今後の外食における魚介料理の利用意向

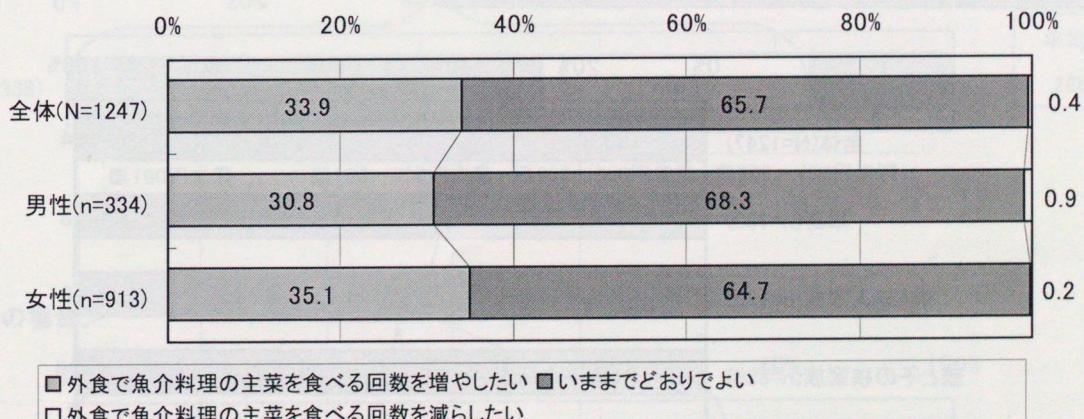
○今後の外食において、主菜として魚介料理を食べる回数を増やしたいかどうかを尋ねた。[全体]では、33.9%が「外食で魚介料理の主菜を食べる回数を増やしたい」と回答しており、逆に「外食で魚介料理の主菜を食べる回数を減らしたい」は0.4%だった。外食での魚介料理のニーズがないわけではないが、日ごろの食生活(P59参照)では、「魚介料理を食べる回数を増やしたい」が54.1%であったことと比較すると割合が少ない。一方、「今までどおりでよい」は65.7%と、日ごろの食生活の「今までどおりでよい」45.6%より多くなっている。今後の外食での魚介料理へのニーズは、日ごろの食生活よりは低くなっている。

○[性別]に見ると、「外食で魚介料理の主菜を食べる回数を増やしたい」が男性は30.8%と女性より低くなっているが、これは、普段から女性よりも外食で魚介料理をよく食べているためと考えられる。ただし、[全体]と同様に、男女とも日ごろの食生活での意向(P59参照)と比較すると、外食での魚介料理へのニーズが低い。

今後の外食における魚介料理の利用意向 [全体]



今後の外食における魚介料理の利用意向 [性別]

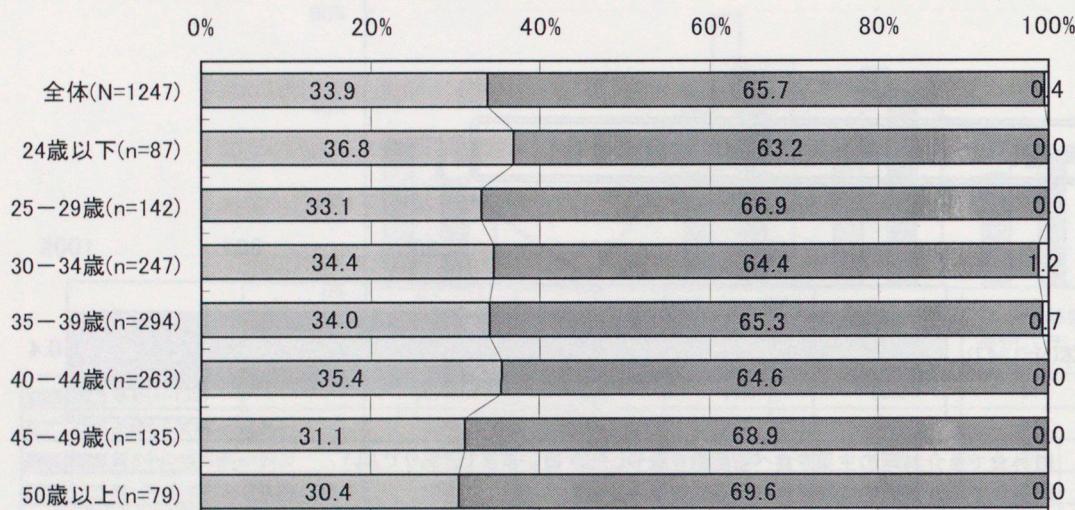


## 2-3-7 今後の外食における魚介料理の利用意向 つづき

○[年齢別]に見ると、24歳以下で魚介料理の今後の利用意向が高く、次いで40-44歳が高くなっている。24歳以下では、現状の外食での魚介料理派も45-49歳、50歳以上に次いで多かったため(P77参照)、この年代における外食での魚介料理のニーズは高めだとわかる。

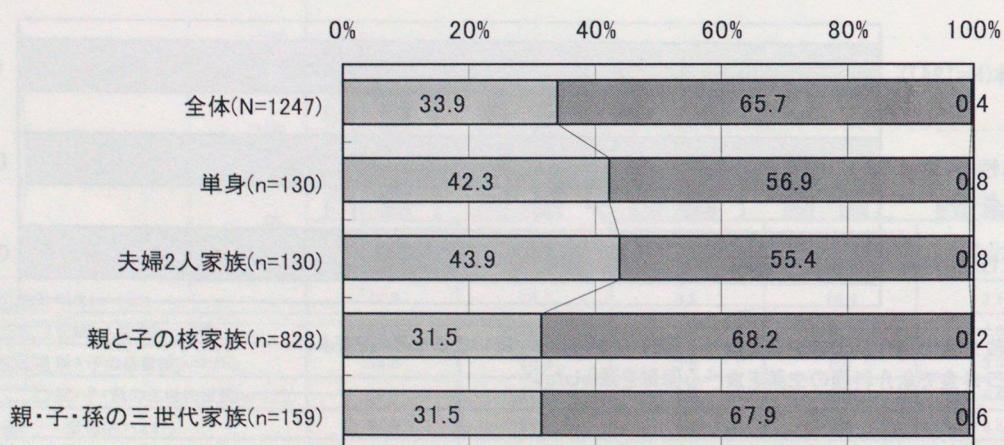
○[家族構成別]に見ると、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族では、外食での魚介料理の利用の現状(P77参照)、今後のニーズともに、他の層と比較して低くなっている。ニーズが高いのは、夫婦2人家族および単身者である。

### 今後の外食における魚介料理の利用意向 [年齢別]



外食で魚介料理の主菜を食べる回数を増やしたい 今までどおりでよい  
外食で魚介料理の主菜を食べる回数を減らしたい

### 今後の外食における魚介料理の利用意向 [家族構成別]



外食で魚介料理の主菜を食べる回数を増やしたい 今までどおりでよい  
外食で魚介料理の主菜を食べる回数を減らしたい

## 2-4 中食における水産物の消費実態とニーズ

### 2-4-1 中食の利用状況と中食費

#### 2-4-1(1) 中食の利用状況と中食費－朝食

○日ごろの食生活において、どのくらい中食を利用しているかを朝・昼・夕食別に尋ねた。

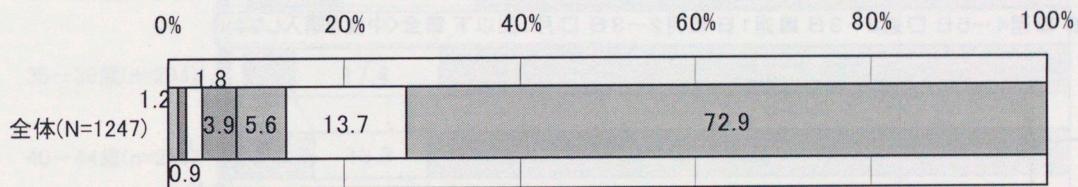
○朝食での中食利用の平均回数は週あたり0.3回であり、外食に比較するとやや高い割合となっている（P61参照）が、「全く中食を購入しない」は7割以上であり（この中には朝食そのものを食べない人も含まれる）、朝食での中食利用は少ない。

○朝食で中食を利用する場合の金額については、惣菜単品では500円未満、弁当では750円未満が大半を占める。平均購入額は、惣菜単品の場合は286円、弁当の場合は444円であり、朝食での外食費の平均支払い額583円より低い額となっている。

（※中食の平均購入額は「惣菜（または弁当）は購入しない」も含めて算出。以下同。）

#### 中食の利用状況と中食費－朝食 [全体]

##### 利用状況

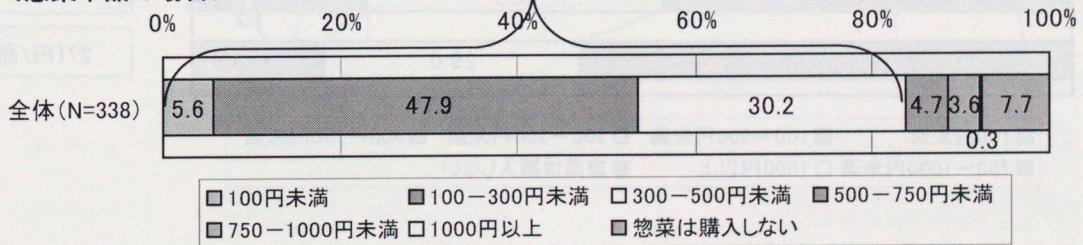


平均  
0.3回/週

□ほぼ毎日 ■週4-5日 □週2-3日 ■週1日 □月2-3日 □月1回以下 □全く中食を購入しない

##### 中食費

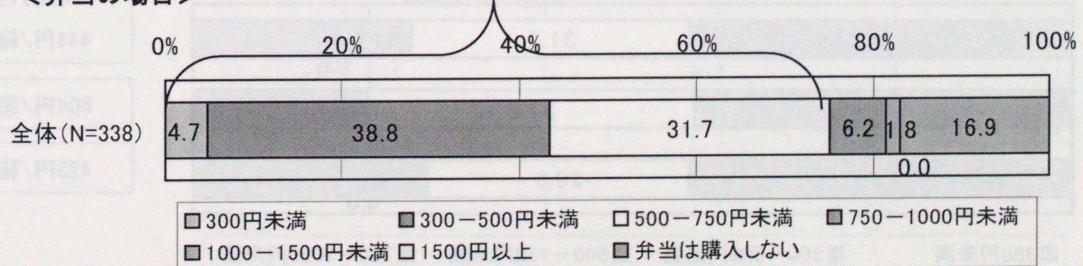
###### <惣菜単品の場合>



平均購入額  
286円/品

□100円未満 ■100-300円未満 □300-500円未満 ■500-750円未満  
■750-1000円未満 □1000円以上 □惣菜は購入しない

###### <弁当の場合>



444円/箱

□300円未満 ■300-500円未満 □500-750円未満 ■750-1000円未満  
■1000-1500円未満 □1500円以上 □弁当は購入しない

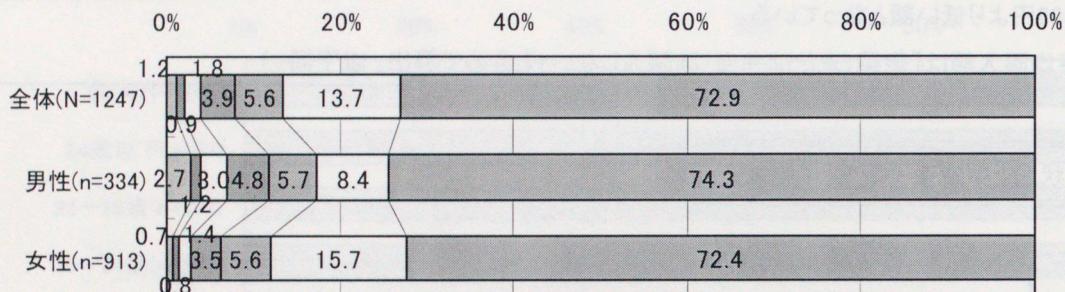
## 2-4-1(1) 中食の利用状況と中食費－朝食 つづき

○[性別]に見ると、朝食での中食利用は、平均回数では男性の方が0.4回と多い。ただ、「全く中食を購入しない」は女性の方が少ない割合となっており、利用者数そのものは、女性の方が若干多い。

○金額について[性別]に見ると、惣菜単品・弁当ともに、男性の方が平均購入額が高い。

### 中食の利用状況と中食費－朝食 [性別]

#### 利用状況



平均  
0.3回/週

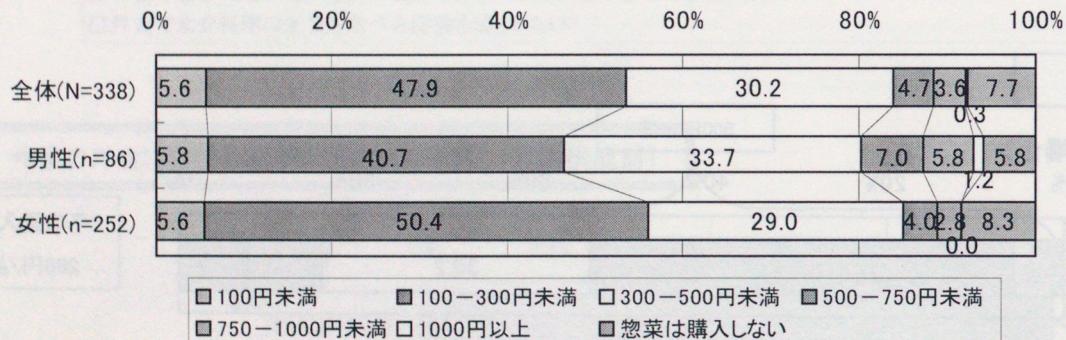
0.4回/週

0.2回/週

□ ほぼ毎日 □ 週4~5日 □ 週2~3日 □ 週1日 □ 月2~3日 □ 月1回以下 □ 全く中食を購入しない

#### 中食費

##### <惣菜単品の場合>

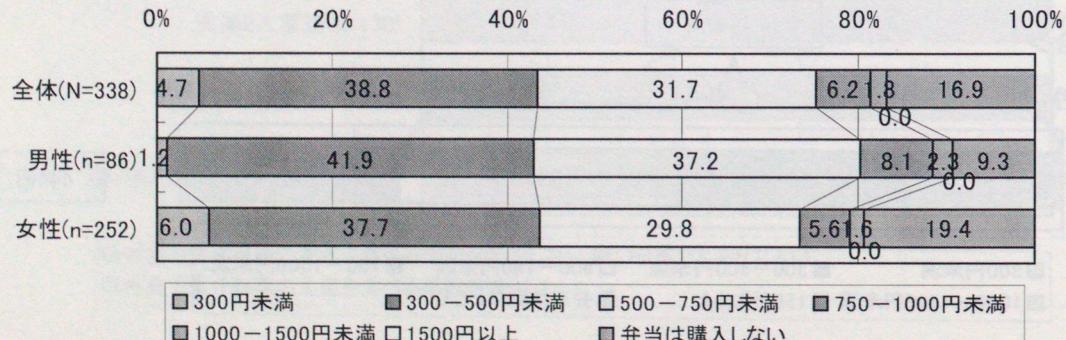


平均購入額  
286円/品

328円/品

271円/品

##### <弁当の場合>



平均購入額  
444円/箱

504円/箱

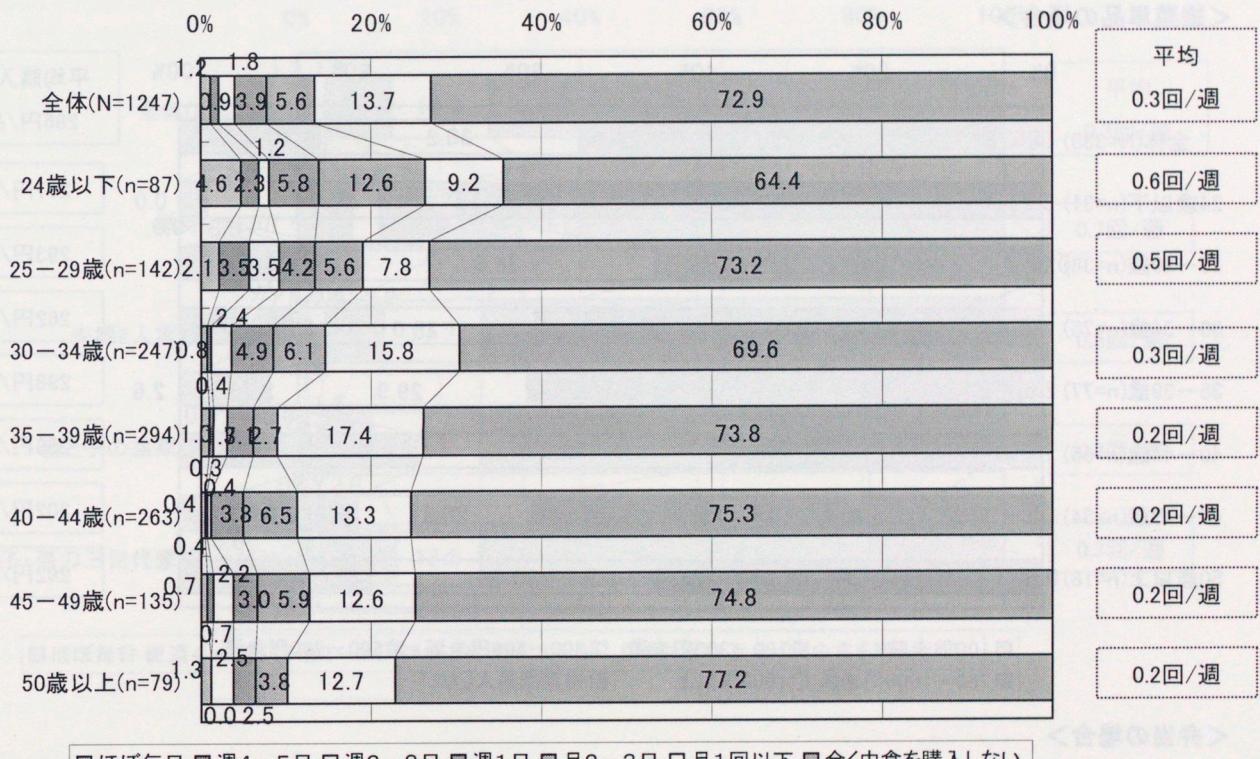
423円/箱

## 2-4-1(1) 中食の利用状況と中食費－朝食 つづき

○[年齢別]に見ると、朝食での中食利用は、24歳以下では週あたり0.6回であり、平均回数の2倍と高くなっている。年齢が上がるにつれて、朝食での中食利用は少なくなっていることがわかる。

中食の利用状況と中食費－朝食 [年齢別]

利用状況



□ほぼ毎日 ■週4-5日 □週2-3日 ■週1日 □月2-3日 □月1回以下 □全く中食を購入しない

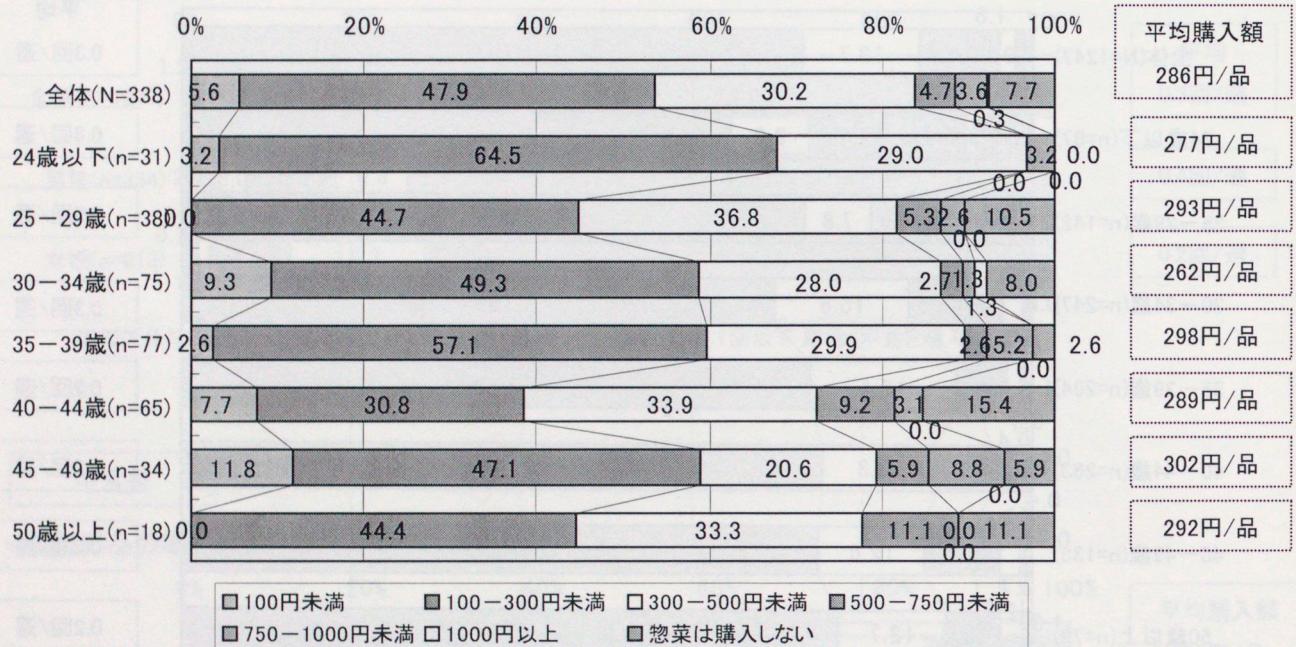
## 2-4-1(1) 中食の利用状況と中食費ー朝食 つづき

○金額について[年齢別]に見ると、惣菜単品については、24歳以下で「100—300円未満」が64.5%と他の年代に比較し割合が多くなっている。平均購入額は45—49歳で302円と最も高くなっている。弁当については、惣菜単品の場合とは逆に、45—49歳で平均購入額が386円と最も安くなっている。

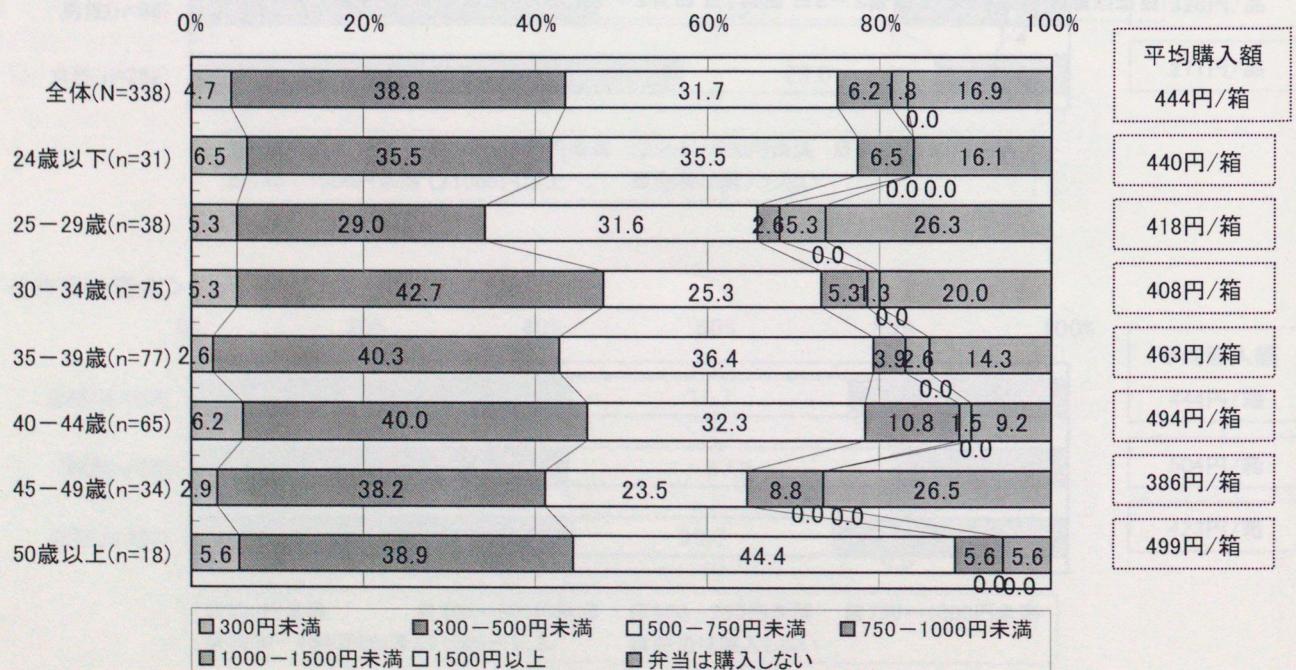
### 中食の利用状況と中食費ー朝食 [年齢別]

#### 中食費

##### <惣菜単品の場合>



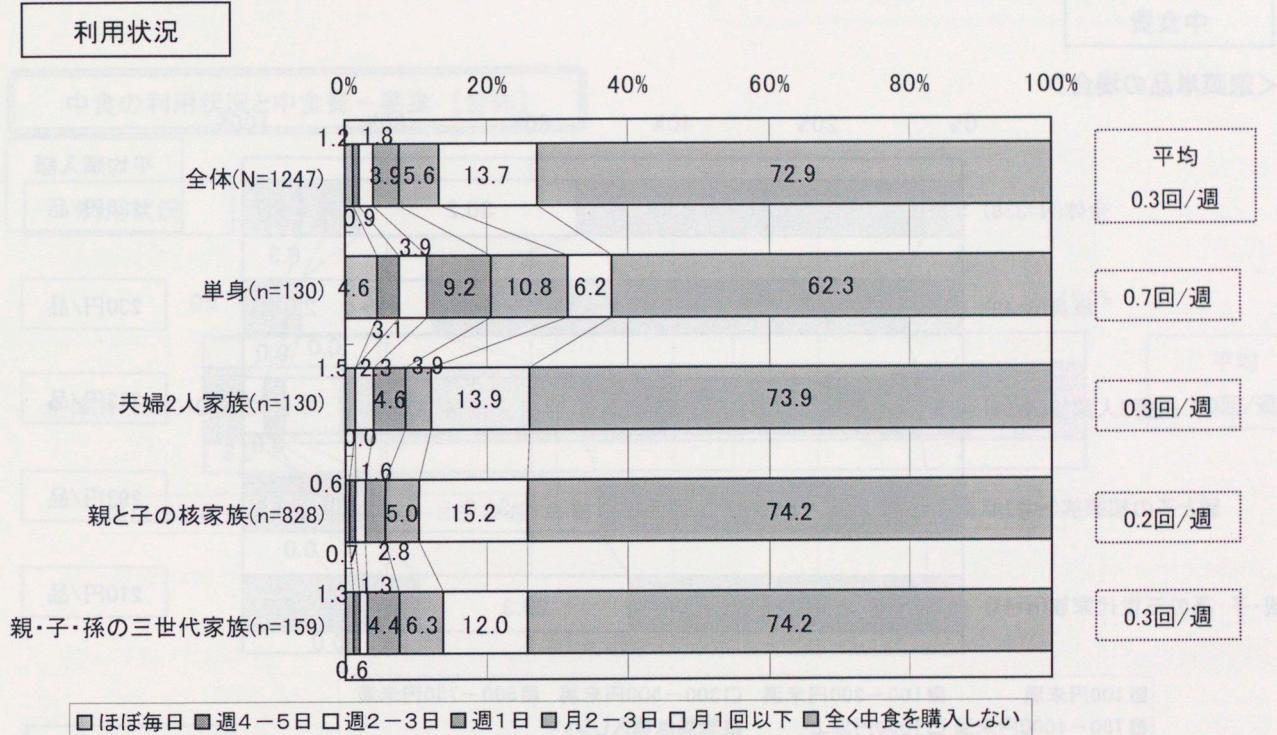
##### <弁当の場合>



## 2-4-1(1) 中食の利用状況と中食費－朝食 つづき

○[家族構成別]に見ると、単身者の朝食での中食利用が多く、平均回数が週あたり0.7回と、[全体]の平均の2倍以上になっている。その他においては特に大きな差異は見られない。

中食の利用状況と中食費－朝食 [家族構成別]



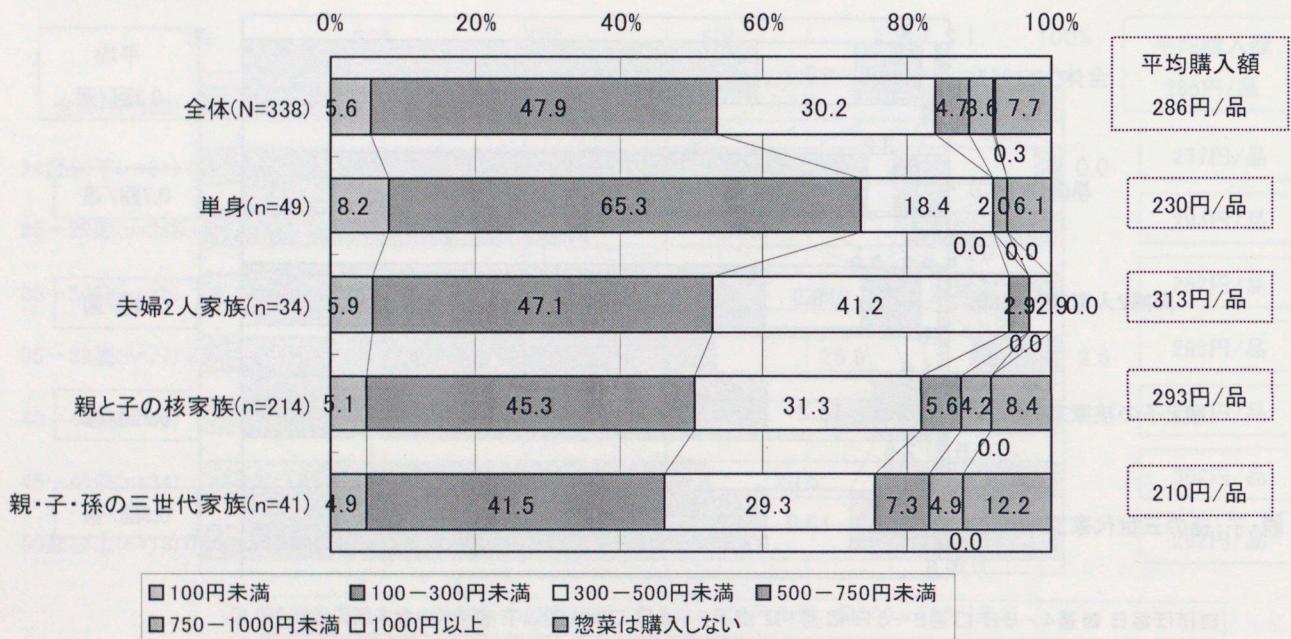
## 2-4-1(1) 中食の利用状況と中食費－朝食 つづき

○金額について[家族構成別]に見ると、惣菜単品については、単身者では「100－300円未満」が65.3%と安価なものを購入している人が多く、親・子・孫の三世代家族では「惣菜は購入しない」が他と比較し12.2%と多くなっている。また、単身者では「弁当は購入しない」が28.6%と他と比較し多くなっている。単身者は、朝食で中食を利用する頻度は高いが、比較的価格の高い弁当ではなく惣菜単品を利用する傾向にあるとわかる。

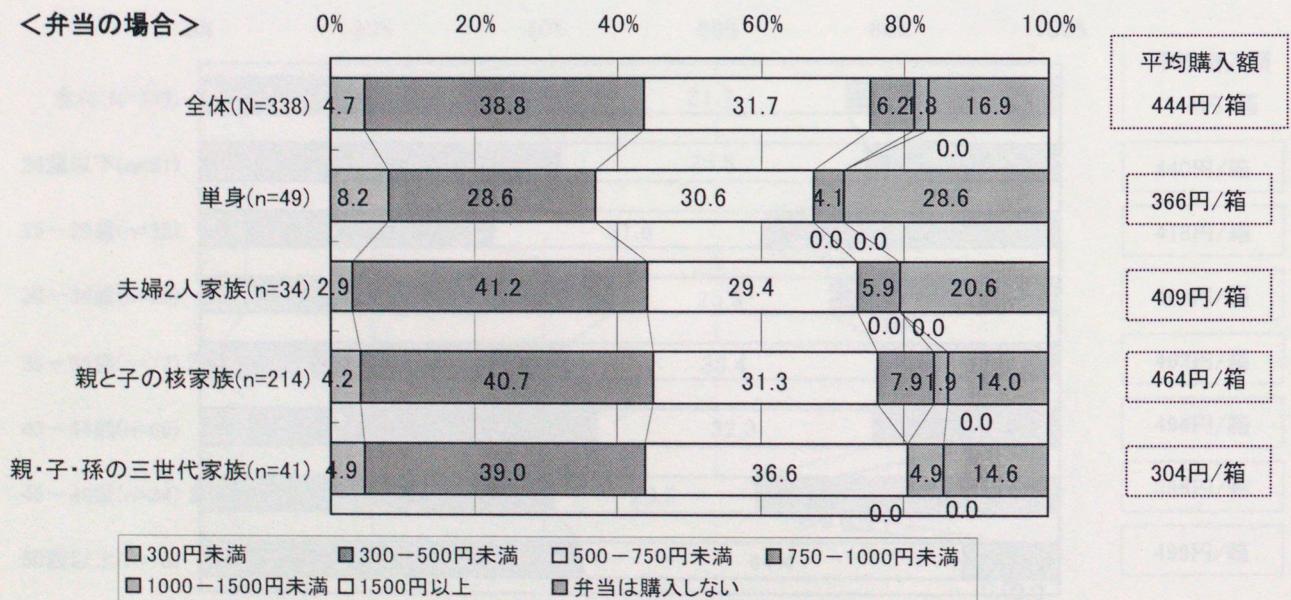
### 中食の利用状況と中食費－朝食 [家族構成別]

#### 中食費

##### <惣菜単品の場合>



##### <弁当の場合>



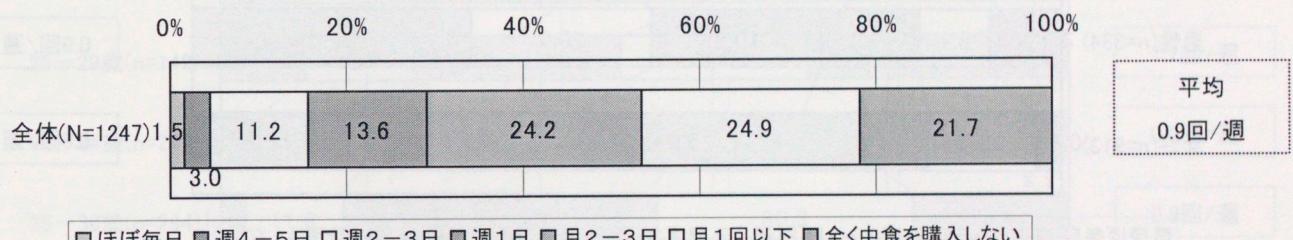
## 2-4-1(2) 中食の利用状況と中食費一昼食

○昼食での中食利用は、平均回数が週あたり0.9回と三食のなかで最も多い。また、「全く中食を購入しない」が21.7%と、朝・夕食に比較して少なくなっている。

○昼食で中食を利用する場合の金額については、惣菜単品・弁当とともに、朝食より平均購入額が高くなっている。なお、惣菜単品の場合は500円未満、弁当の場合は750円未満が大半を占めることは、朝食と同様である。

### 中食の利用状況と中食費一昼食 [全体]

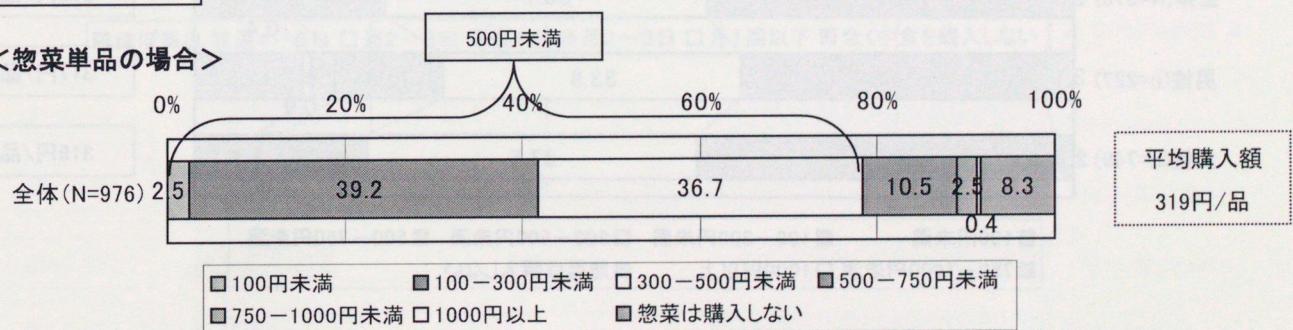
#### 利用状況



□ ほぼ毎日 ■ 週4-5日 □ 週2-3日 □ 週1日 □ 月2-3日 □ 月1回以下 □ 全く中食を購入しない

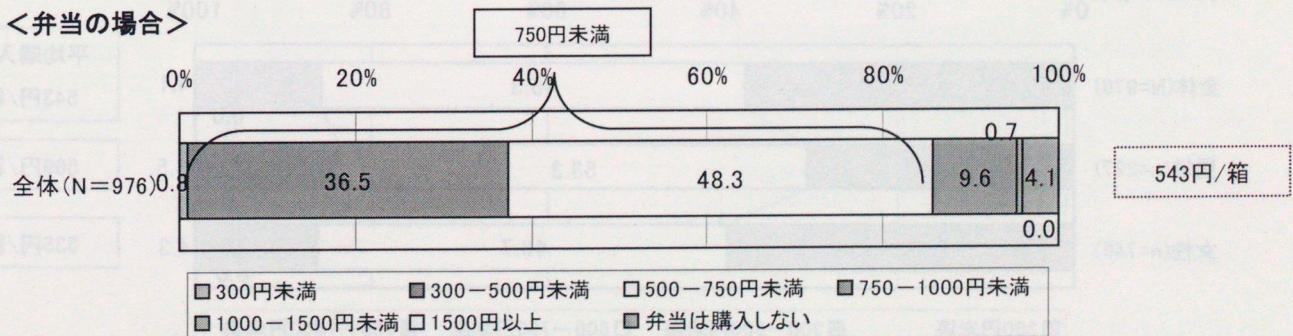
#### 中食費

##### <惣菜単品の場合>



□ 100円未満 ■ 100-300円未満 □ 300-500円未満 ■ 500-750円未満  
■ 750-1000円未満 □ 1000円以上 ■ 惣菜は購入しない

##### <弁当の場合>



□ 300円未満 ■ 300-500円未満 □ 500-750円未満 ■ 750-1000円未満  
■ 1000-1500円未満 □ 1500円以上 ■ 弁当は購入しない

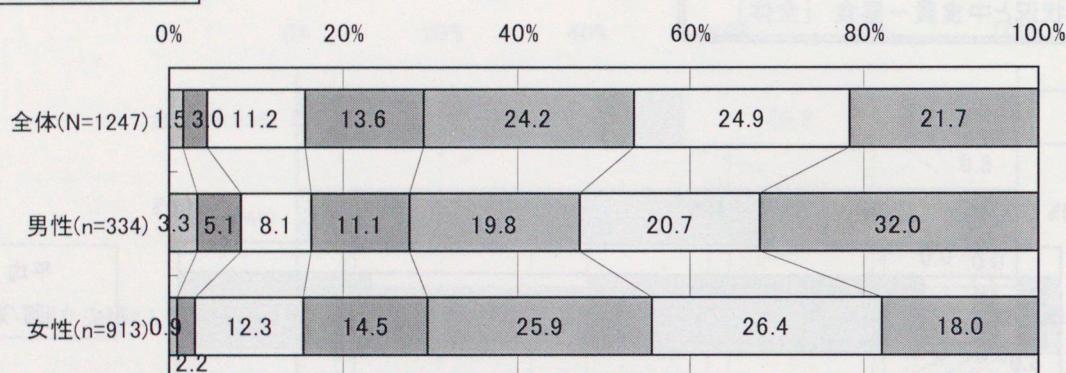
## 2-4-1(2) 中食の利用状況と中食費－昼食 つづき

○[性別]に見ると、平均回数では昼食での中食利用は男性が0.9回と女性と比較し若干多く、「ほぼ毎日」と「週4-5回」の合計が女性の2倍以上。その一方、男性は「全く中食を購入しない」が32.0%であり女性と比較し多くなっており、男性は昼食のパターンがある程度決まっていると考えられる。

○金額について[性別]に見ると、惣菜単品については、男性は「惣菜は全く購入しない」が12.3%と女性と比較し多い。弁当については、男性の方が平均購入額が高く、「500-750円未満」が53.3%と半数以上を占めている。

### 中食の利用状況と中食費－昼食 [性別]

#### 利用状況



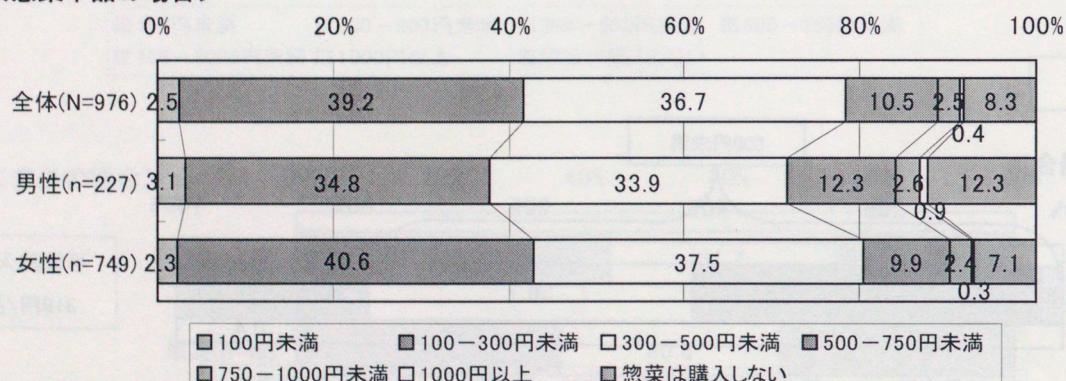
平均  
0.9回/週

0.9回/週

0.8回/週

#### 中食費

##### <惣菜単品の場合>

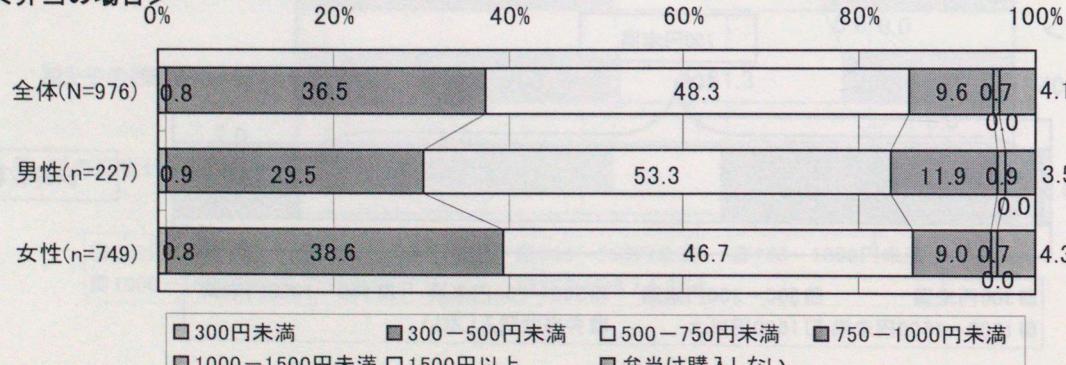


平均購入額  
319円/品

317円/品

319円/品

##### <弁当の場合>



平均購入額  
543円/箱

569円/箱

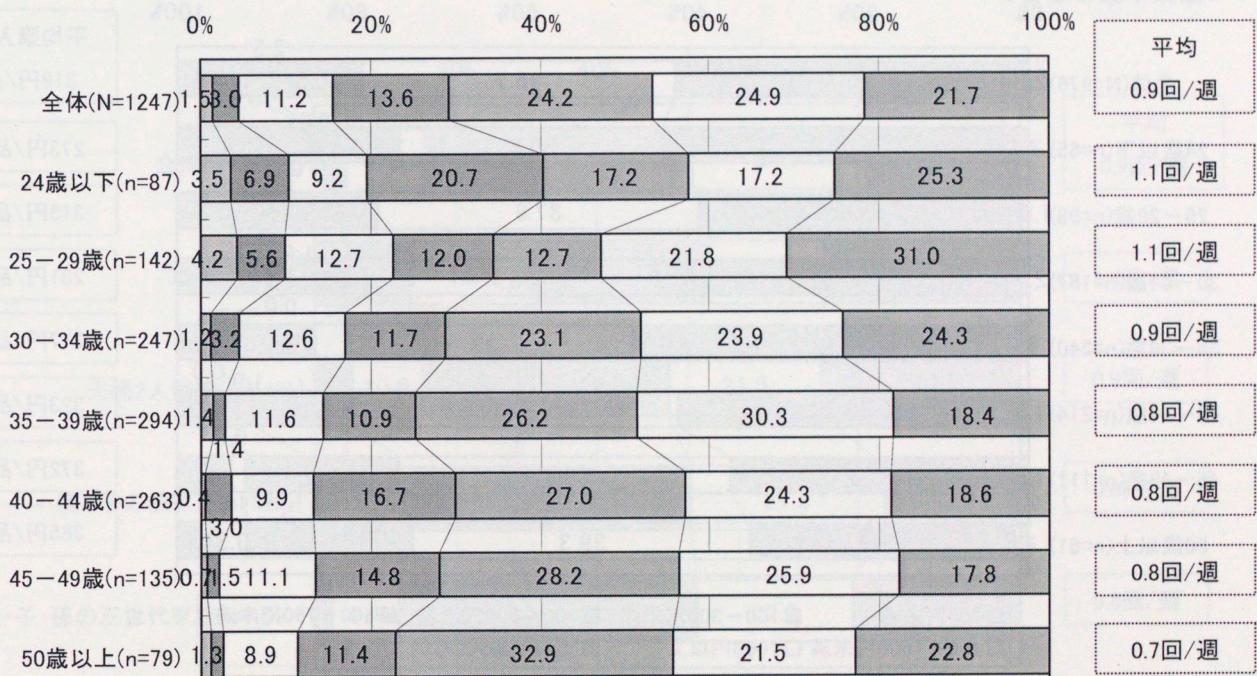
535円/箱

## 2-4-1(2) 中食の利用状況と中食費一昼食 つづき

○[年齢別]に見ると、年齢が上がるにつれて、昼食での中食利用は減る傾向にあり、これは朝食の場合と同様である。

中食の利用状況と中食費一昼食 [年齢別]

利用状況



□ほぼ毎日 ■週4~5日 □週2~3日 □週1日 □月2~3日 □月1回以下 □全く中食を購入しない

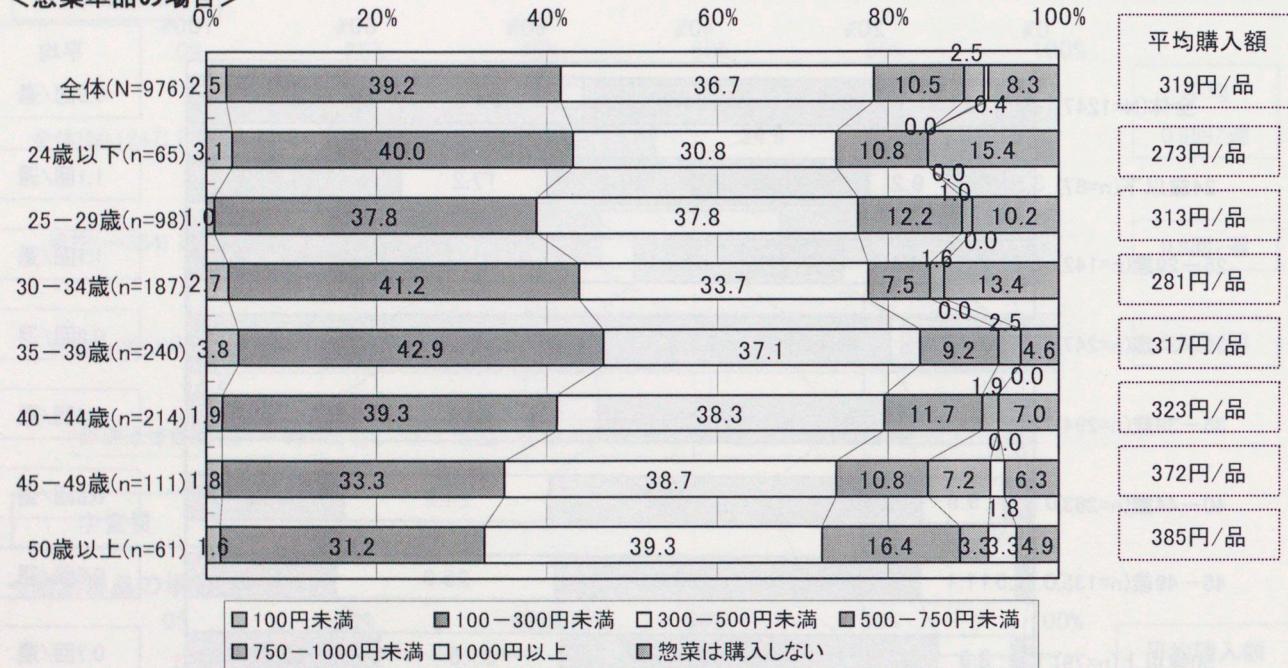
## 2-4-1(2) 中食の利用状況と中食費一昼食 つづき

○金額について[年齢別]に見ると、惣菜単品については、24歳以下で「惣菜は購入しない」が15.4%と他の年代と比較し多い。なお、いずれの年代においても500円未満が大半を占めている。弁当については、24歳以下で平均購入額が495円と最も安く、50歳以上で599円と最も高くなっているが、いずれの年代においても、750円未満が大半を占めることに変わりはない。

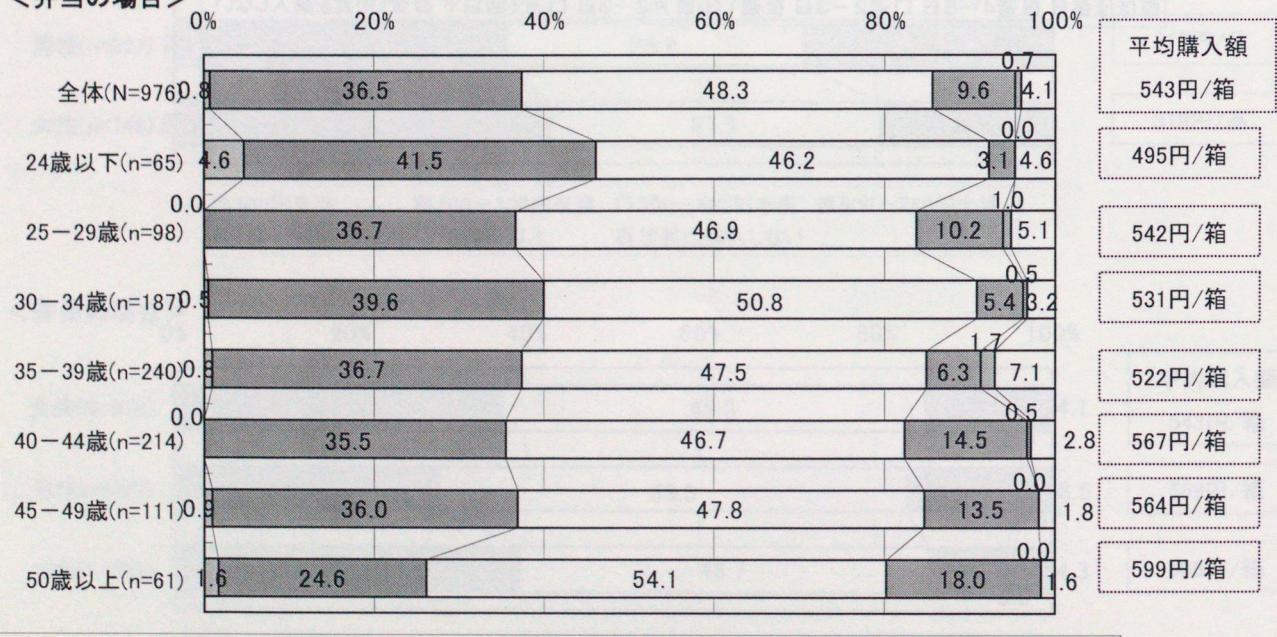
中食の利用状況と中食費一昼食 [年齢別]

### 中食費

#### <惣菜単品の場合>



#### <弁当の場合>

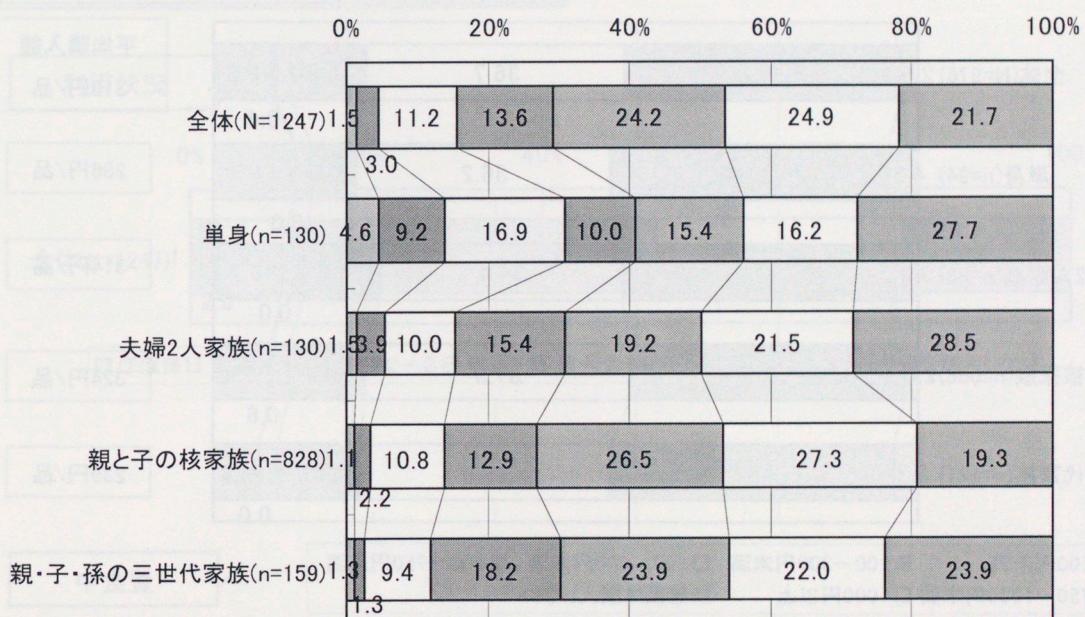


## 2-4-1(2) 中食の利用状況と中食費一昼食 つづき

○[家族構成別]に見ると、単身者で平均回数が週あたり1.4回と最も多い。ただし、外食利用と比較すると(P67参照)、各層の差はさほど大きくないことがわかる。

中食の利用状況と中食費一昼食 [家族構成別]

利用状況



□ほぼ毎日 ■週4-5日 □週2-3日 □週1日 □月2-3日 □月1回以下 □全く中食を購入しない

平均  
0.9回/週

1.4回/週

0.9回/週

0.8回/週

0.8回/週

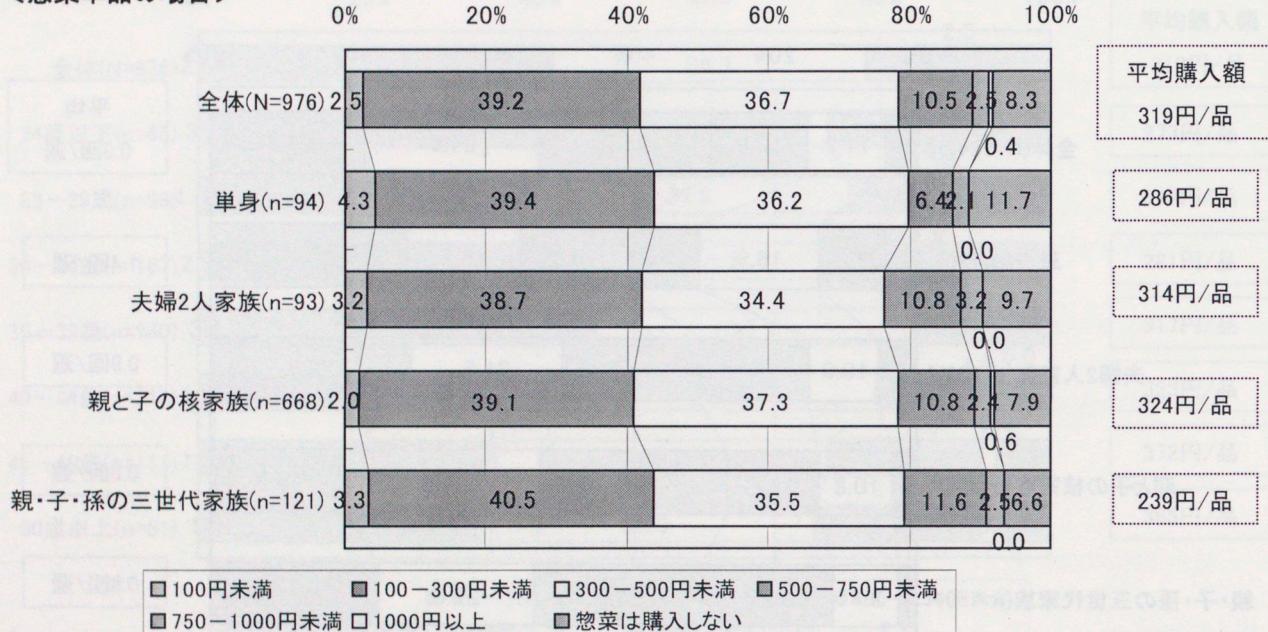
## 2-4-1(2) 中食の利用状況と中食費一昼食 つづき

○金額について[家族構成別]に見ると、惣菜単品については、単身者と親・子・孫の三世代家族が200円台と安くなっている。弁当は、親・子・孫の三世代で平均購入額が367円と、他と比較し安い。

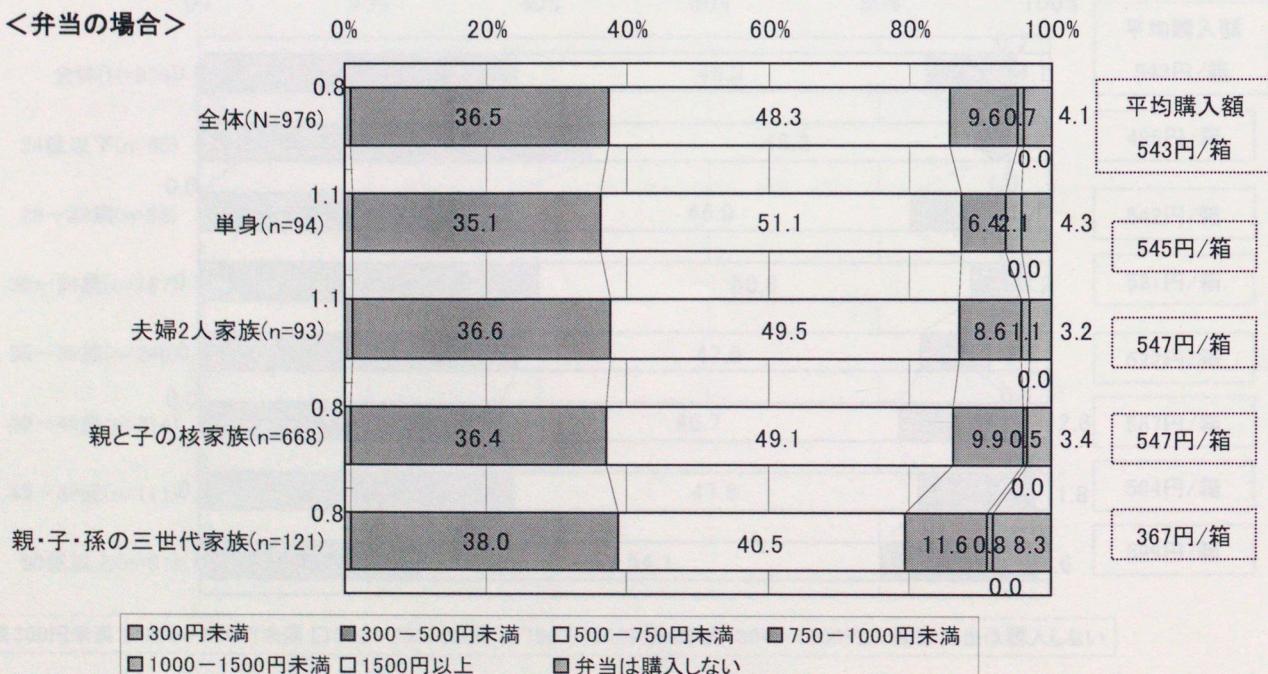
### 中食の利用状況と中食費一昼食 [家族構成別]

#### 中食費

##### <惣菜単品の場合>



##### <弁当の場合>



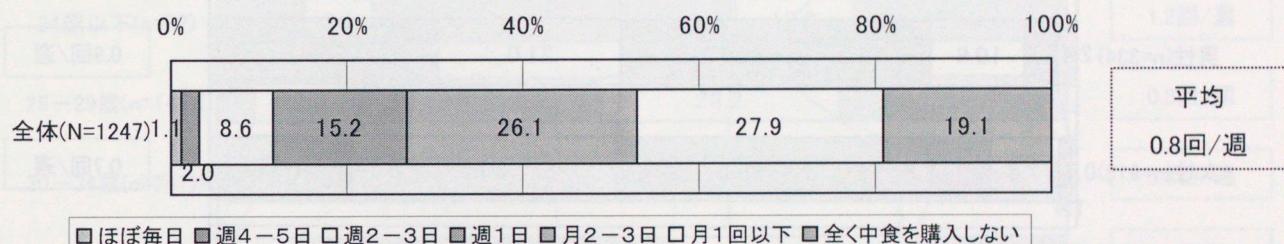
### 2-4-1(3) 中食の利用状況と中食費－夕食

○夕食での中食利用は、平均回数が週あたり0.8回であり、朝食の0.3回と比較すると多いが、昼食の0.9回よりも少ない（それぞれP101、P107参照）。しかし、「全く中食を購入しない」は、朝・昼食よりも少なく、夕食用に中食を利用する人が多い。

○夕食で中食を利用する場合の金額については、惣菜単品・弁当ともに、平均購入額が朝・昼食と比較し最も高くなっている。惣菜単品については、朝・昼食では500円未満が8割以上を占めていたが、夕食では7割強となっている。弁当についても、朝・昼食では750円未満が7～8割を占めていたが、夕食では6割強に下がっている。

#### 中食の利用状況と中食費－夕食 [全体]

##### 利用状況

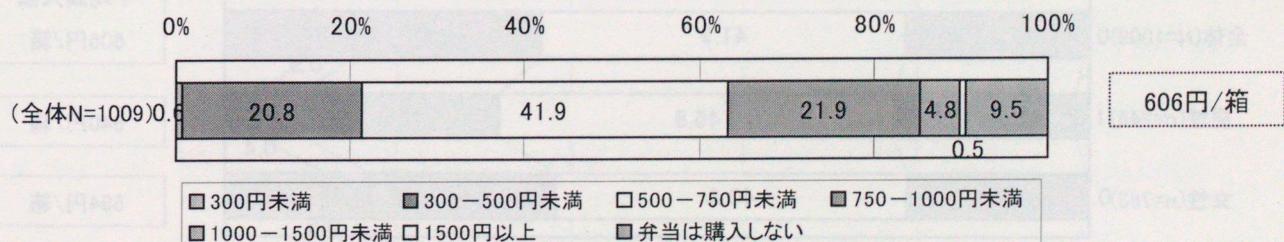


##### 中食費

#### <惣菜単品の場合>



#### <弁当の場合>



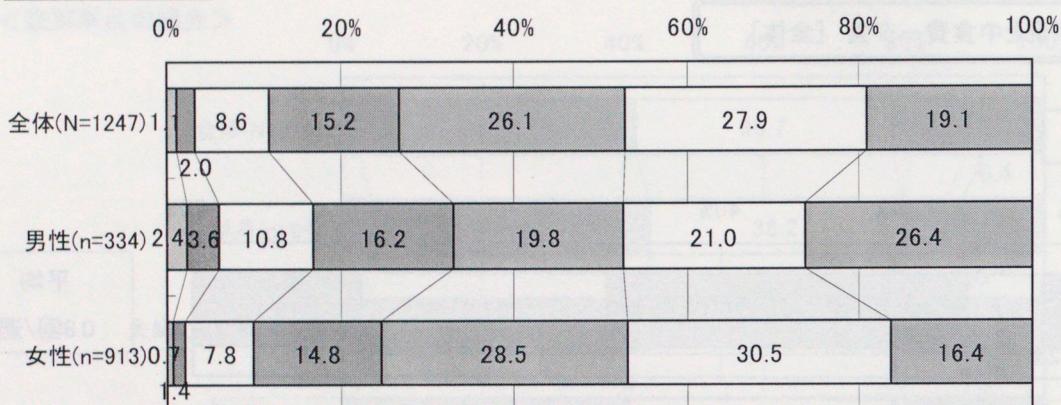
### 2-4-1(3) 中食の利用状況と中食費－夕食 つづき

○[性別]に見ると、男性の方が夕食での中食利用の平均回数が0.9回と多い。その一方で「全く中食を購入しない」も26.4%と男性の方が多いが、男性は夕食での外食利用者が平均回数で女性の2倍近くに達しており(P69参照)、中食ではなく外食を利用する人が多いと考えられる。

○金額については、惣菜単品の場合は女性の方が平均購入額が高く、弁当の場合は男性の方が平均購入額が高い。女性は「弁当は購入しない」が11.4%と男性の2倍以上いる。

#### 中食の利用状況と中食費－夕食 [性別]

##### 利用状況



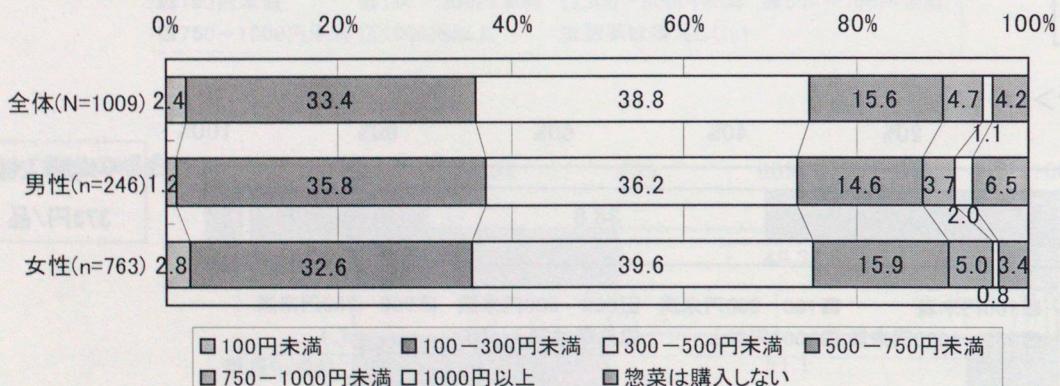
平均  
0.8回/週

0.9回/週

0.7回/週

##### 中食費

#### <惣菜単品の場合>

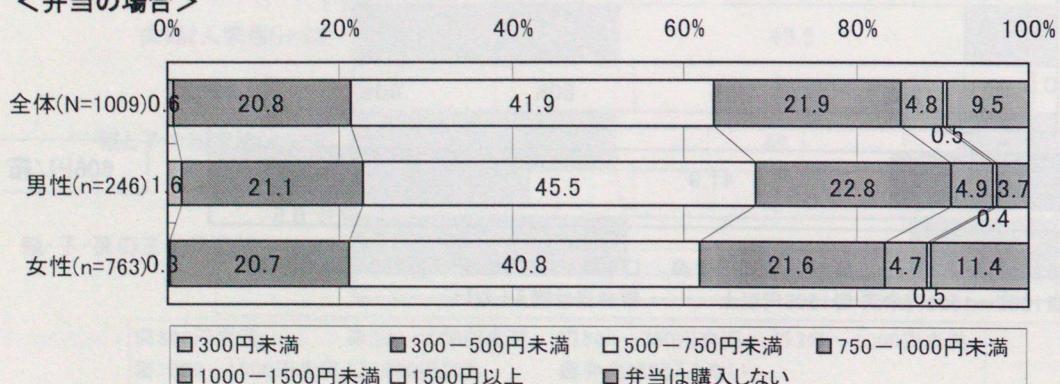


平均購入額  
373円/品

361円/品

377円/品

#### <弁当の場合>



平均購入額  
606円/箱

640円/箱

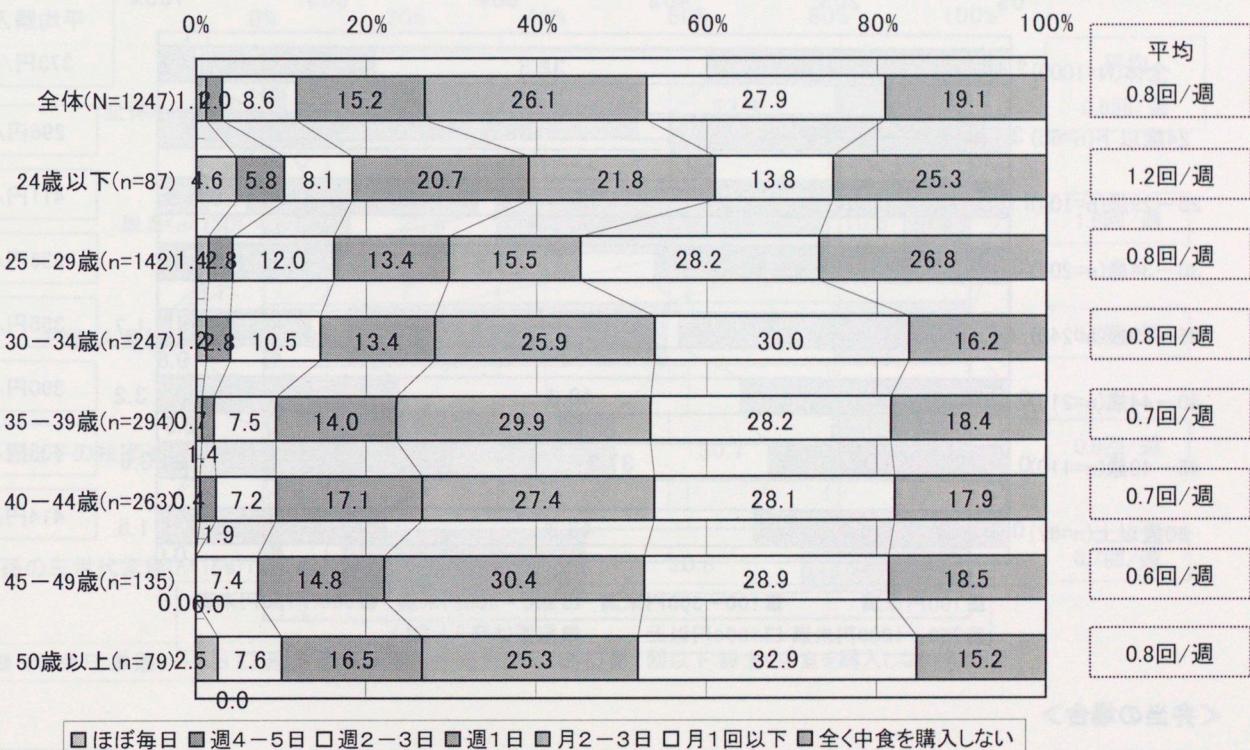
594円/箱

### 2-4-1(3) 中食の利用状況と中食費－夕食 つづき

○[年齢別]に見ると、平均回数は朝・昼食と同様に夕食においても24歳以下が週あたり1.2回と最も多い。また、50歳以上で「全く中食を購入しない」が15.2%と最も少なく、朝・昼食とは異なる傾向となっている(それぞれP103、P109参照)。

中食の利用状況と中食費－夕食 [年齢別]

利用状況



平均  
0.8回/週

1.2回/週

0.8回/週

0.8回/週

0.7回/週

0.7回/週

0.6回/週

0.8回/週

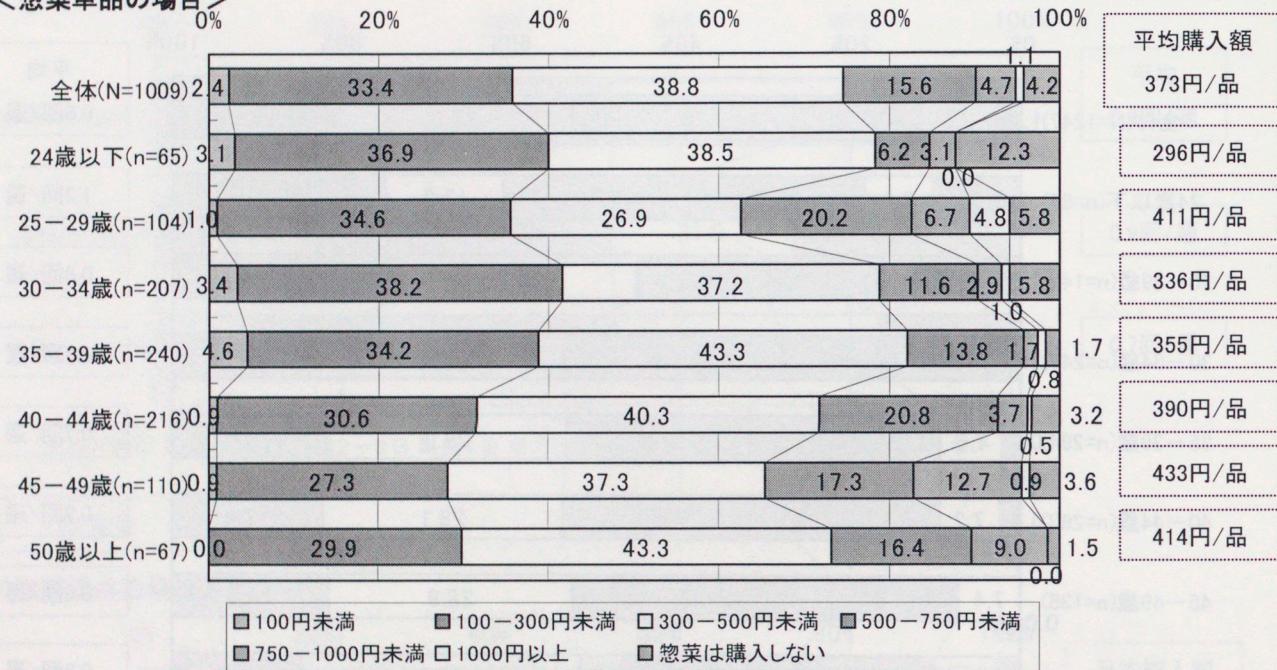
### 2-4-1(3) 中食の利用状況と中食費－タ食 つづき

○金額について[年齢別]に見ると、惣菜単品については、24歳以下で平均購入額が296円と最も安く、「惣菜は購入しない」が12.3%と他の年代と比較し多い。また、45-49歳において、「750-1000円未満」が12.7%と他と比較し多くなっている。弁当については、概ね年齢が上がるにつれて平均購入額が高くなっている。50歳以上では721円と24歳以下より200円弱高い額となっている。

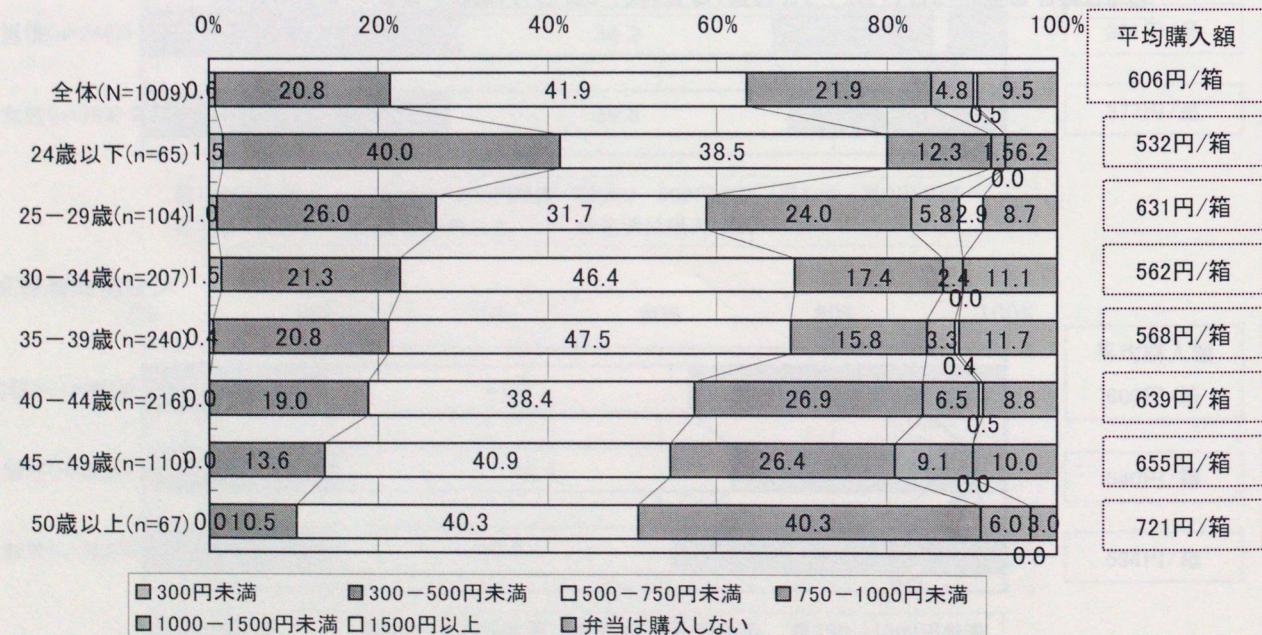
#### 中食の利用状況と中食費－タ食 [年齢別]

##### 中食費

###### <惣菜単品の場合>



###### <弁当の場合>

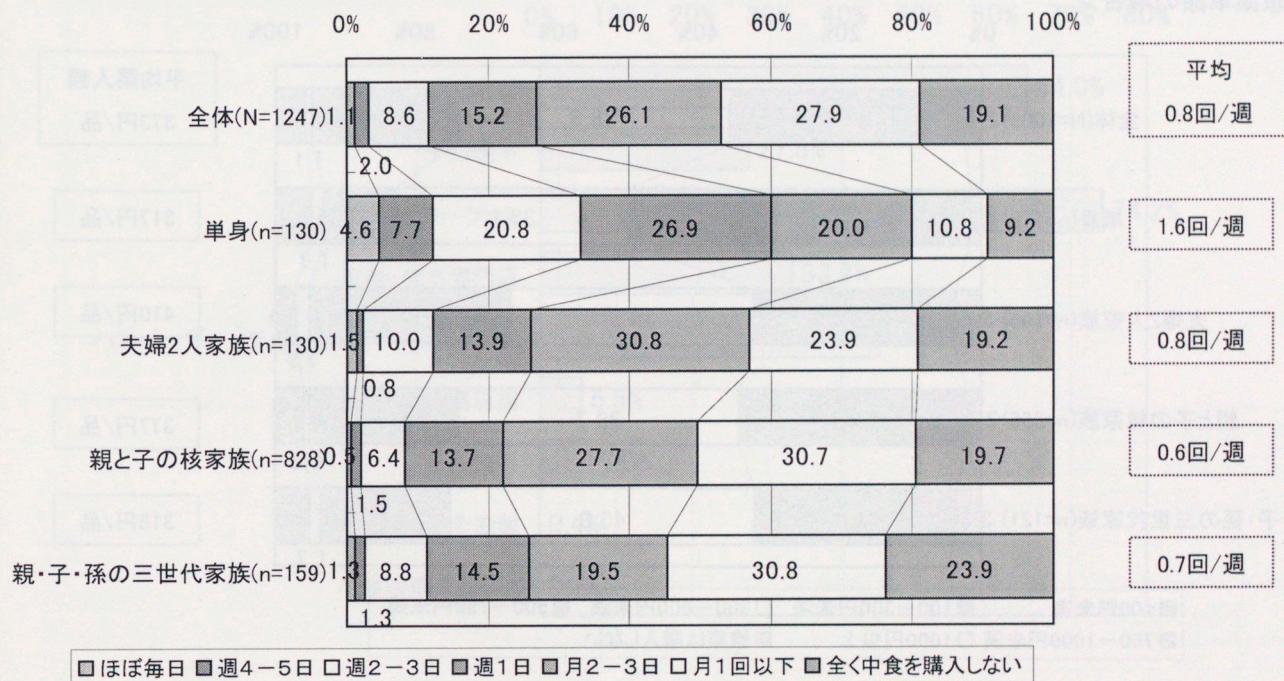


## 2-4-1(3) 中食の利用状況と中食費－夕食 つづき

○[家族構成別]に見ると、単身者は、平均回数が週あたり1.6回と[全体]平均の2倍となっており、「全く中食を購入しない」9.2%は他の層と比較して2分の1以下の割合となっている。単身者の夕食での中食利用は非常に多く、朝・昼食と比較しても顕著である(P105、P111参照)。また、親と子の核家族と親・子・孫の三世代家族とを比較すると、平均回数では親・子・孫の三世代家族の方が多い。

### 中食の利用状況と中食費－夕食 [家族構成別]

#### 利用状況



□ほぼ毎日 ■週4-5日 □週2-3日 □週1日 □月2-3日 □月1回以下 □全く中食を購入しない

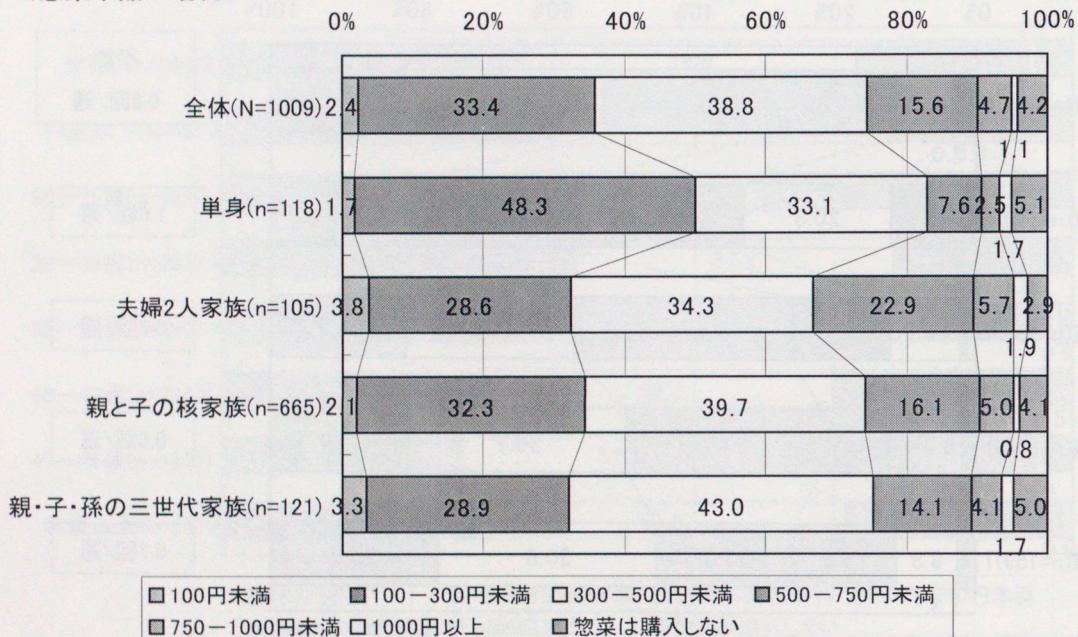
## 2-4-1(3) 中食の利用状況と中食費ー夕食 つづき

○金額について[家族構成別]に見ると、惣菜については、単身者では500円未満が8割を超えており、弁当については、親・子・孫の三世代家族では「弁当は購入しない」が18.2%と他と比較して多くなっている。

### 中食の利用状況と中食費ー夕食 [家族構成別]

#### 中食費

##### <惣菜単品の場合>



平均購入額  
373円/品

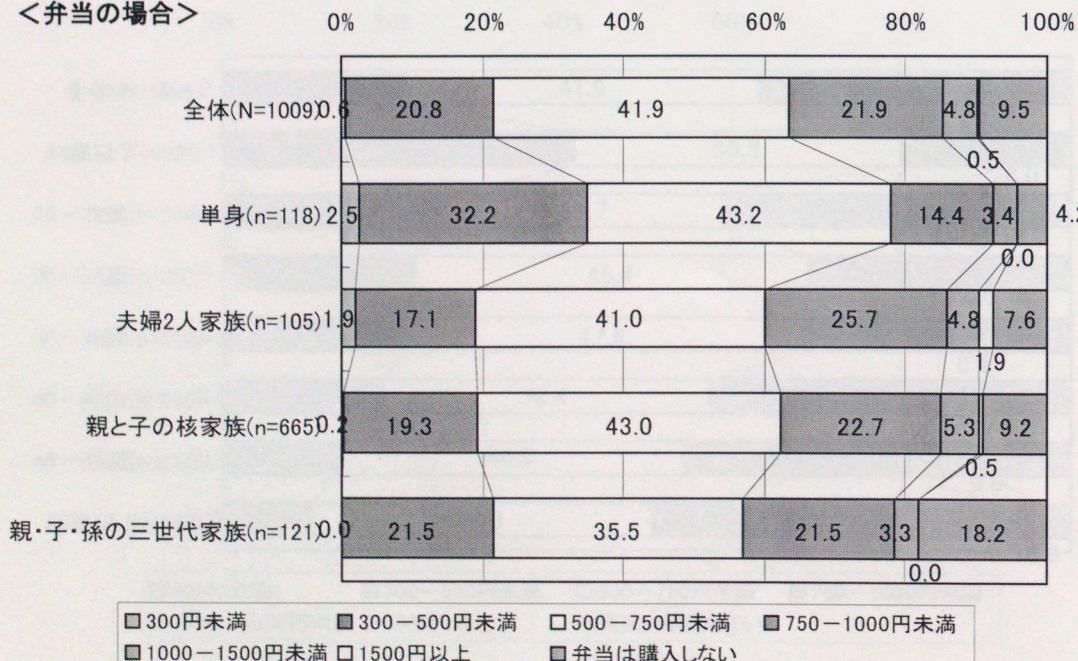
317円/品

410円/品

377円/品

316円/品

##### <弁当の場合>



平均購入額  
606円/箱

575円/箱

643円/箱

617円/箱

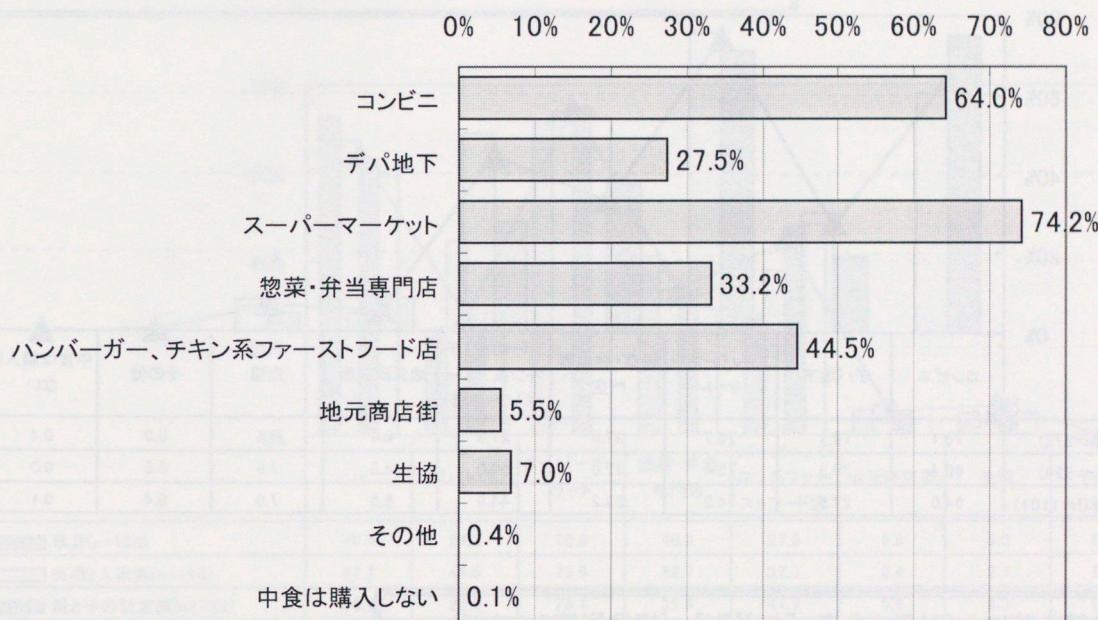
451円/箱

## 2-4-2 中食の購入時によく利用する店

○中食を購入する際、よく利用する店について尋ねた。1位「スーパーマーケット」74.2%と、2位「コンビニ」64.0%が6割を超える。中食の購入によく利用されていることがわかる。その一方で「惣菜・弁当専門店」が33.2%にとどまっており、「ハンバーガー、チキン系ファーストフード」44.5%よりも回答率が低くなっている。

中食の購入時によく利用する店 [全体] (複数回答3つまで)

(N=1101)

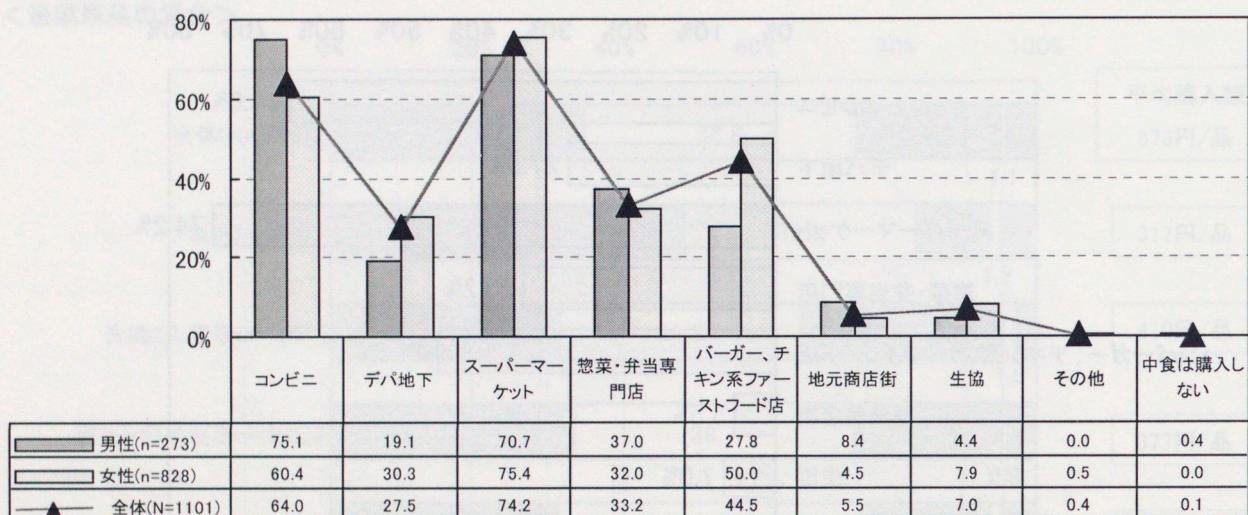


## 2-4-2 中食の購入時によく利用する店 つづき

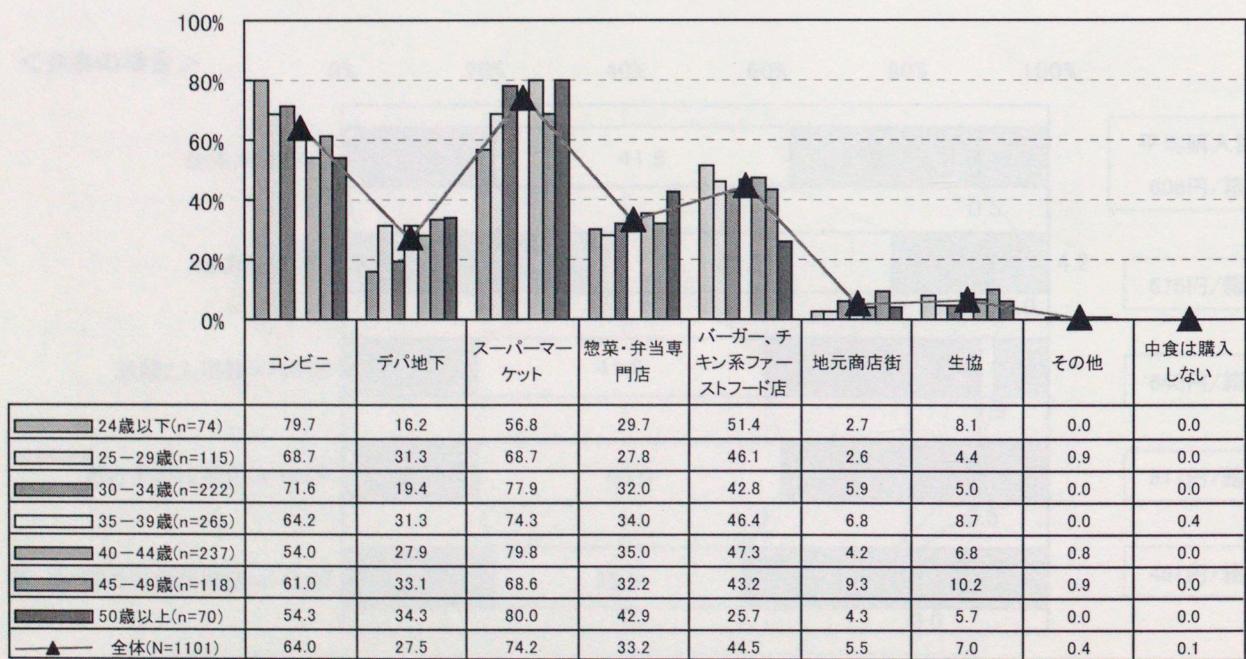
○[性別]に見ると、男性は1位「コンビニ」、2位「スーパーマーケット」であり、女性はその逆となっている。

○[年齢別]に見ると、24歳以下の1位「コンビニ」、2位「スーパーマーケット」となっており、「ハンバーガー、チキン系ファーストフード店」の回答率も他の年代より高く、25~29歳では「コンビニ」と「スーパーマーケット」が同数である。概ね若年層ほど、「コンビニ」で中食を購入する傾向があることがわかる。

中食の購入時によく利用する店 [性別] (複数回答3つまで)



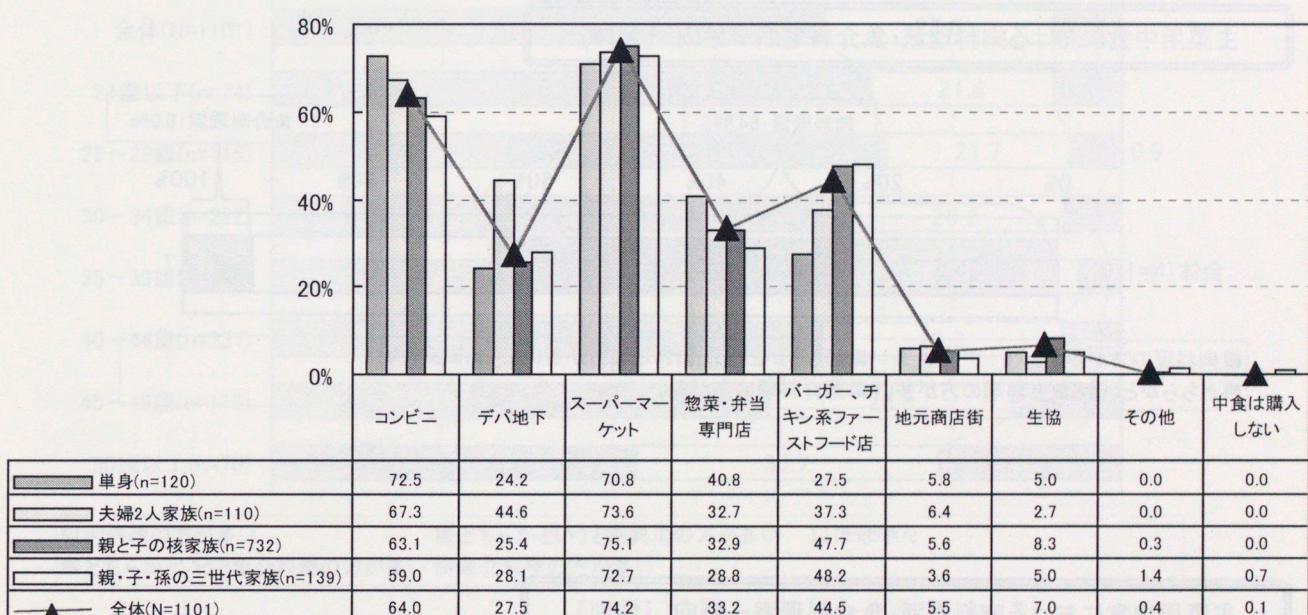
中食の購入時によく利用する店 [年齢別] (複数回答3つまで)



## 2-4-2 中食の購入時によく利用する店 つづき

○[家族構成別]に見ると、単身者のみ1位「コンビニ」、2位「スーパーマーケット」であり、他の層と1位・2位が逆転している。夫婦2人家族では「デパ地下」が44.6%と他と比較し回答率が高くなっている。また、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族の子どものいる世帯では、「ハンバーガー、チキン系のファーストフード店」がいずれも4割以上に達しており、子どもの好みが影響していると考えられる。

中食の購入時によく利用する店 [家族構成別] (複数回答3つまで)



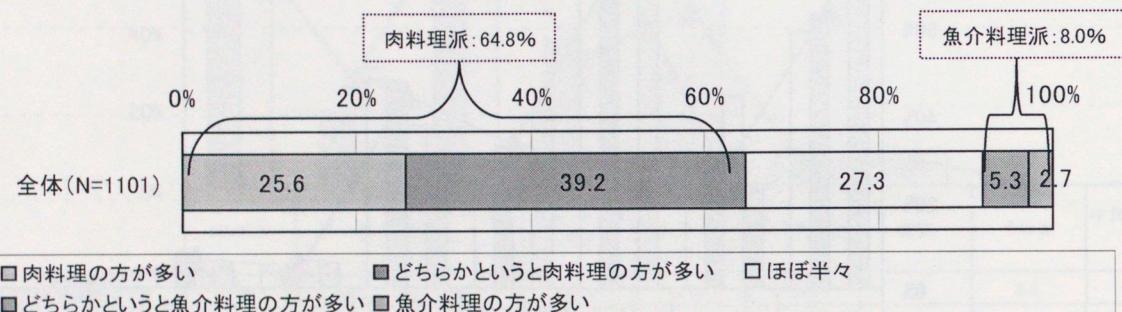
## 2-4-3 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派

### 2-4-3(1) 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-傾向

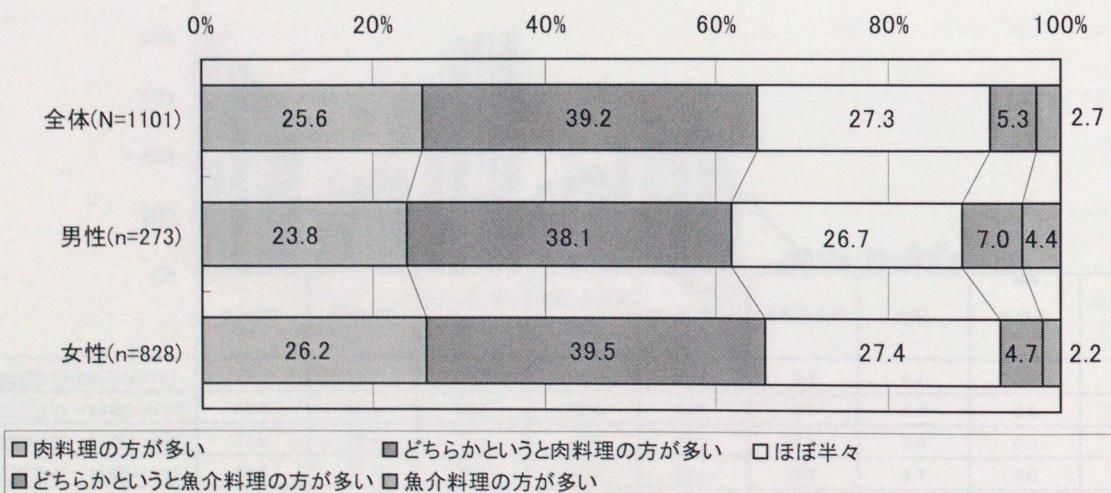
○主菜用に購入する中食について、肉料理と魚介料理のどちらが多いかを尋ねた。魚介料理派（「どちらか」というと魚介料理の方が多い」と「魚介料理の方が多い」の合計）は、8.0%にとどまっている。日ごろの食生活と外食（夕食）では魚介料理派はともに11.2%だったため（それぞれP33、P76参照）、中食において最も魚介料理派が少ないことがわかる。

○[性別]に見ると、ここでも男性の方が魚介料理派が多いことがわかる。ただし、男性の場合も、日ごろの食生活や外食（夕食）と比較し魚介料理派が低い割合にとどまっている。

#### 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-傾向 [全体]



#### 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-傾向 [性別]

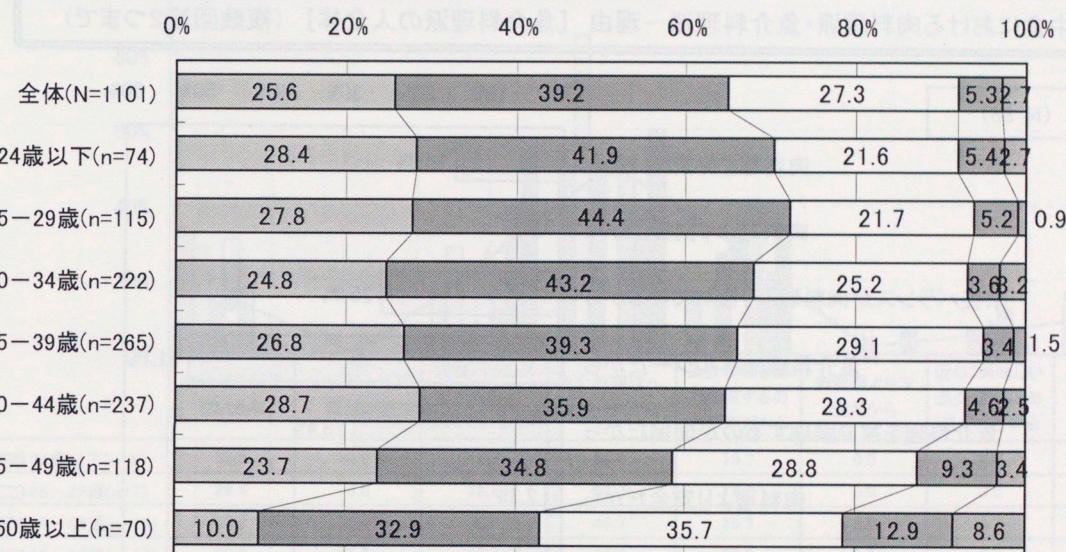


## 2-4-3(1) 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-傾向 つづき

○[年齢別]に見ると、若年層ほど「肉料理派」が多い傾向にあると言える。これには、若年層ほどよく利用する「コンビニ」や「ハンバーガー、チキン系ファーストフード店」などの店で魚介料理をあまり扱っていないことも影響していると考えられる。

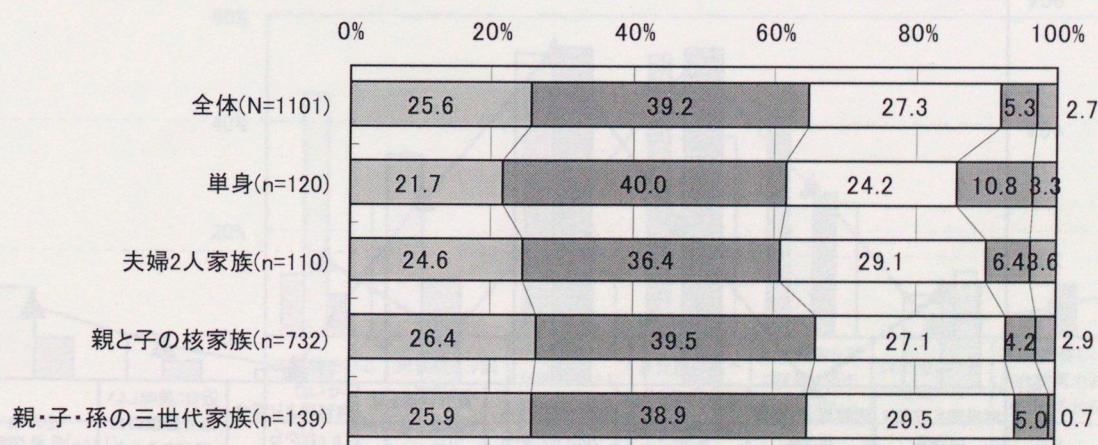
○[家族構成別]に見ると、単身者および夫婦2人家族ほど、「魚介料理派」が多い傾向にあり、これは日々の食生活および外食(夕食)における実態と同じ傾向であった(それぞれP35、P77参照)。

### 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-傾向 [年齢別]



□ 肉料理の方が多い ■ どちらかというと肉料理の方が多い □ ほぼ半々  
 ■ どちらかというと魚介料理の方が多い □ 魚介料理の方が多い

### 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-傾向 [家族構成別]



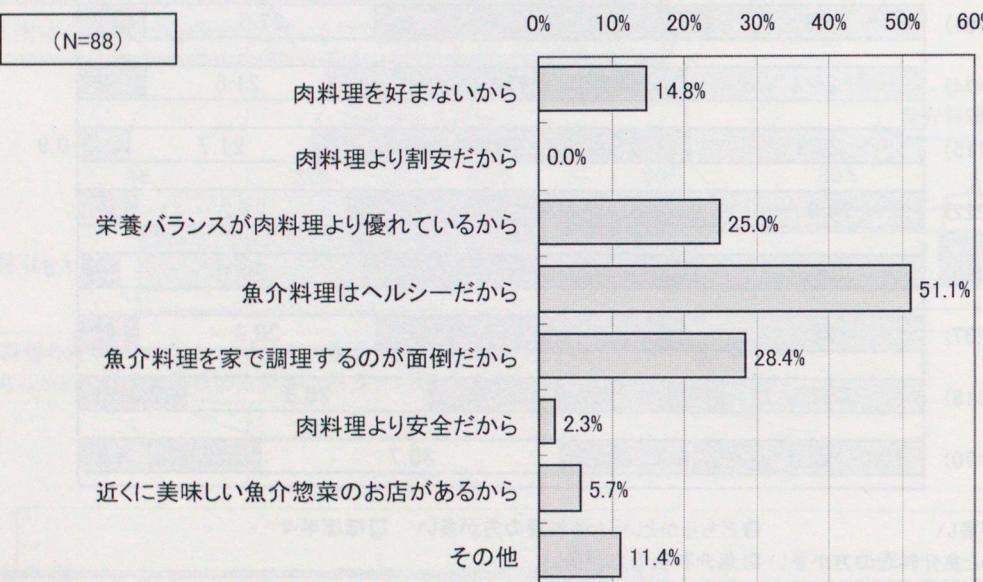
□ 肉料理の方が多い ■ どちらかというと肉料理の方が多い □ ほぼ半々  
 ■ どちらかというと魚介料理の方が多い □ 魚介料理の方が多い

## 2-4-3(2) 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-理由

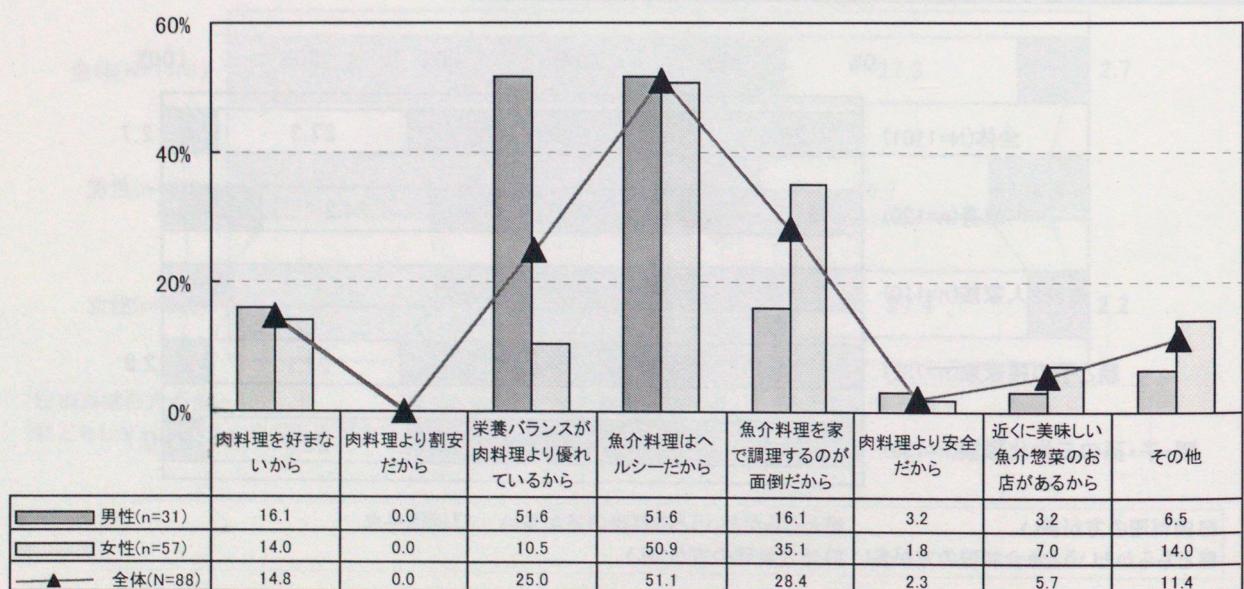
○主菜用中食の購入における魚介料理派（「魚介料理の方が多い」または「どちらかというと魚介料理の方が多い」の合計）にその理由を尋ねた。1位は「魚介料理はヘルシーだから」51.1%、2位は「魚介料理を家で調理するのが面倒だから」28.4%であった。外食（夕食）の魚介料理派の理由と比較すると（P79参照）、外食では1位「魚介料理はヘルシーだから」、2位「栄養のバランスが肉料理より優れているから」であった。調理の手間が省けるという利便性で、魚介料理の中食を利用している人が多いことがわかる。

○[性別]に見ると、外食と同様、男性では「栄養バランスが肉料理より優れているから」の回答率が女性よりも高く、一方女性は、「魚介料理を家で調理するのが面倒だから」の回答率が男性よりも高く、調理の手間を気にしていることがわかる。また、女性の「魚介料理を家で調理するのが面倒だから」は外食の魚介料理派の理由よりも高い率に達している（P79参照）。

### 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-理由 [魚介料理派の人全体] (複数回答2つまで)



### 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-理由 [性別] (複数回答2つまで)

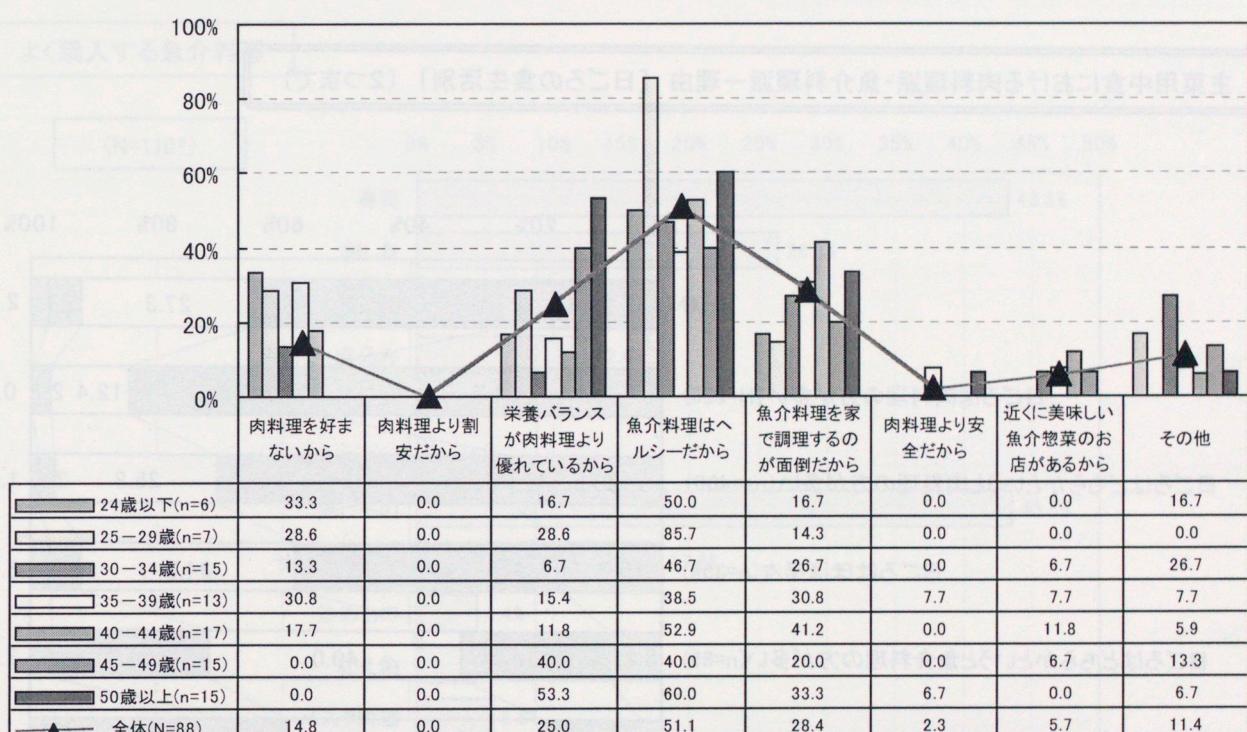


## 2-4-3(2) 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-理由 つづき

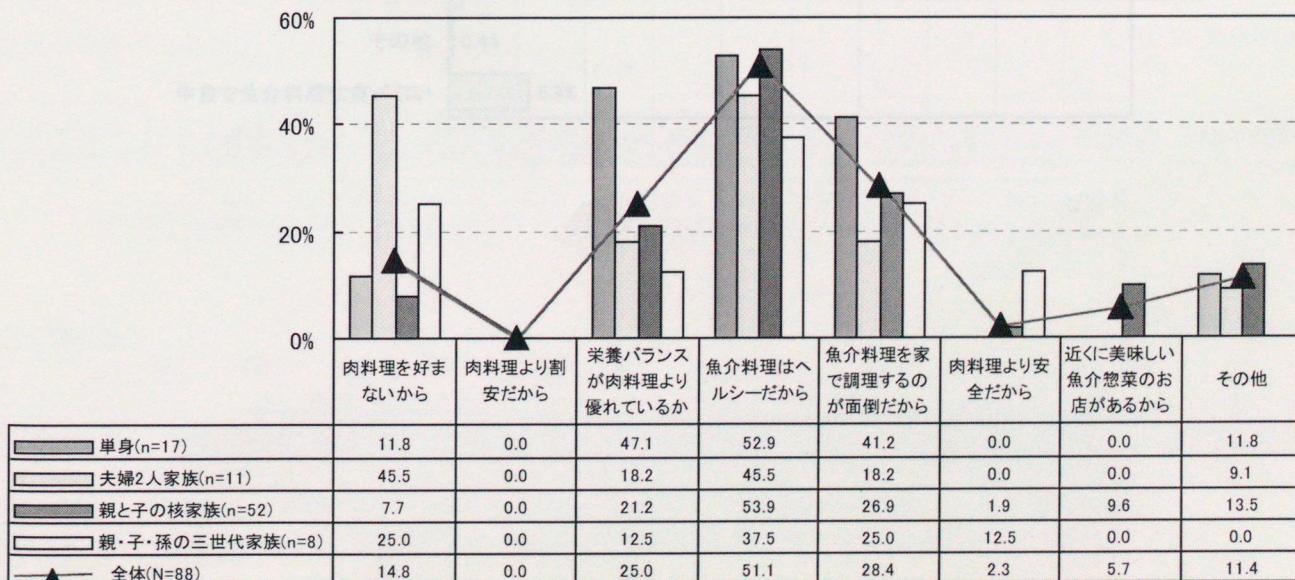
○[年齢別]に見ると、25-29歳で「魚介料理はヘルシーだから」が85.7%と高い率になっている。また、45-49歳、50歳以上においては、「栄養バランスが肉料理より優れているから」が他の年代に比較して高い。「魚介料理を家で調理するのが面倒だから」は、40-44歳で4割を超える。

○[家族構成別]に見ると、単身者では「栄養バランスが肉料理より優れているから」と、「魚介料理を家で調理するのが面倒だから」が他よりも高くなっている。

主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-理由 [年齢別] (複数回答2つまで)



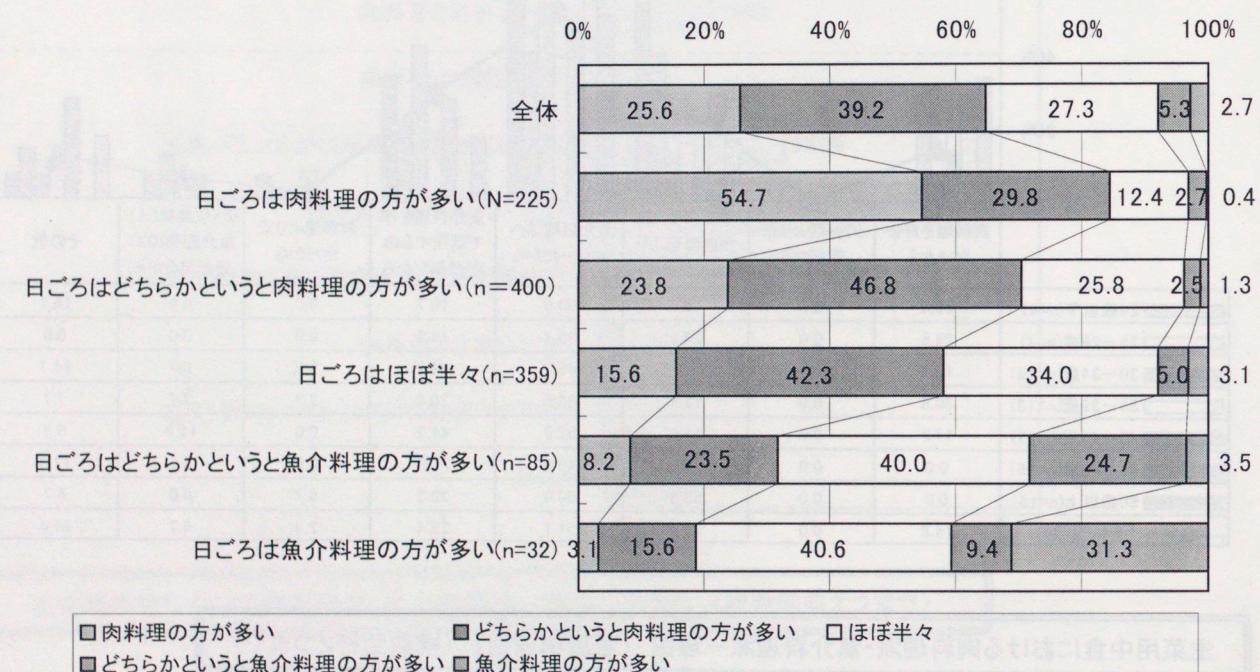
主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-理由 [家族構成別] (複数回答2つまで)



## 2-4-3(2) 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-理由 つづき

○[日ごろの食生活別]に見ると、日ごろの食生活における肉料理派（「日ごろは肉料理の方が多い」および「日ごろはどちらかというと肉料理の方がが多い」）は、中食においても肉料理を好む傾向にあり、また、日ごろはほぼ半々である人も、中食では「どちらかというと肉料理が多い」が42.3%となっており、外食以上に肉料理の利用が増加する傾向にある（P78参照）。また、日ごろの食生活における魚介料理派（「日ごろは魚介料理の方が多い」または「日ごろはどちらかというと魚介料理の方がが多い」）において、外食と比較すると中食では魚介料理派が減少している。

### 主菜用中食における肉料理派・魚介料理派-理由 [日ごろの食生活別] (2つまで)



## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額

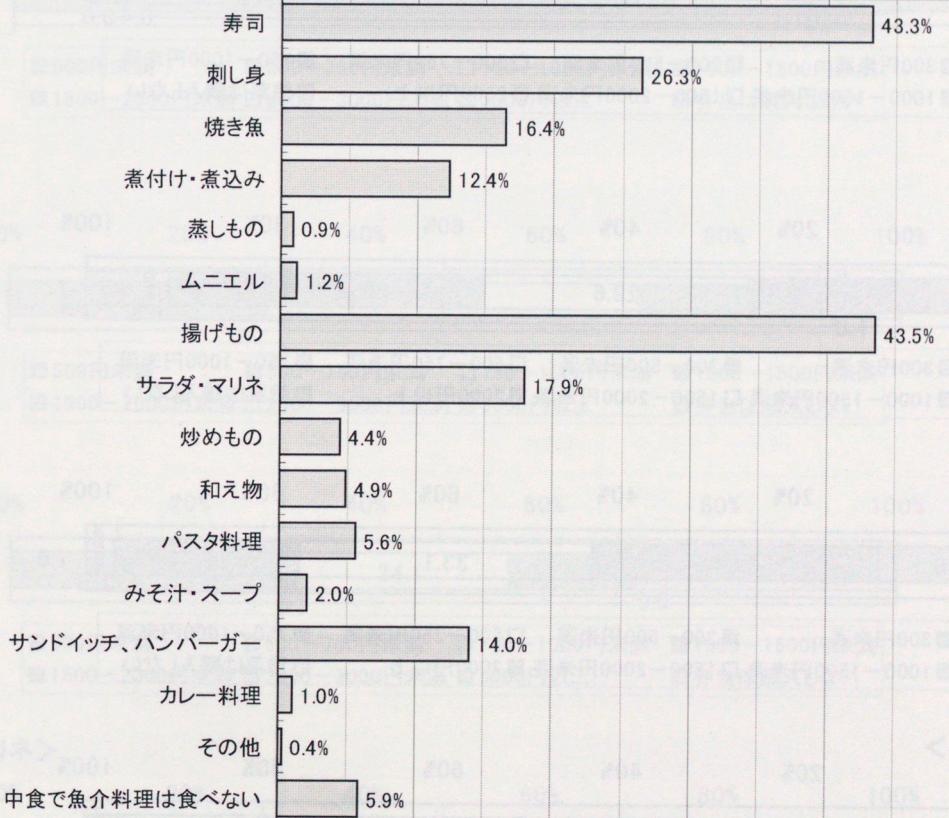
○主菜用に購入する中食において、よく購入する魚介料理を尋ねたところ、「揚げ物」が1位であった。外食（夕食）でよく食べる魚介料理では5位（18.3%）だった「揚げ物」が、中食では43.5%という高い回答率を得た。次いで、2位「寿司」、3位「刺し身」となっており、この2つは外食ではそれぞれ1位、2位であった（P81参照）。「揚げ物」は自宅で調理すると片づけが面倒であるため、中食でのニーズがあると考えられる。

### 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [全体] (複数回答3つまで)

#### よく購入する魚介料理

(N=1101)

0% 5% 10% 15% 20% 25% 30% 35% 40% 45% 50%



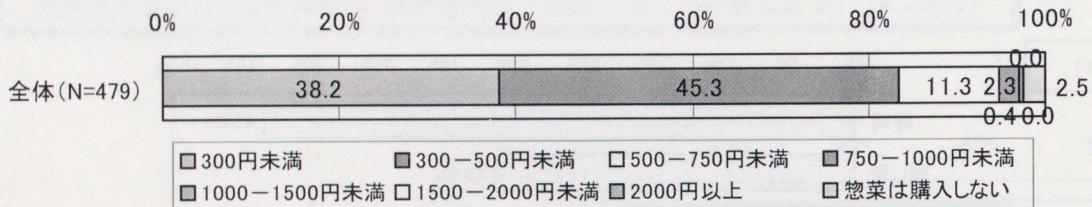
## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○主菜用中食でよく購入する魚介料理上位5位までについて、惣菜单品の場合について金額を尋ねた。「揚げ物」は、500円未満が8割を超え、平均購入額は392円であった。外食での平均支払い額と比較して平均購入額の単価が半分以下となっている料理が多い。

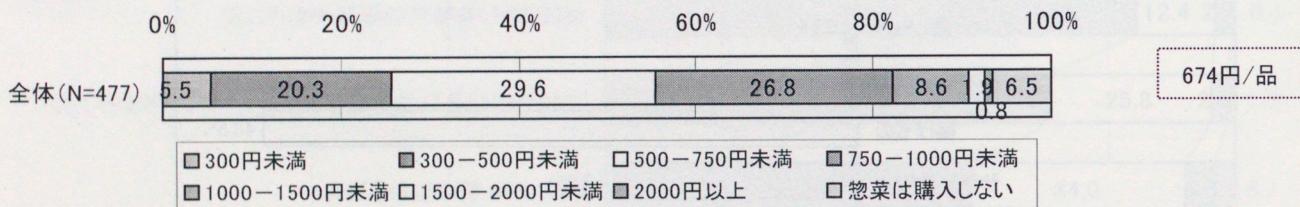
### 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [全体] (複数回答3つまで)

#### 上位5位までの金額 <惣菜单品の場合>

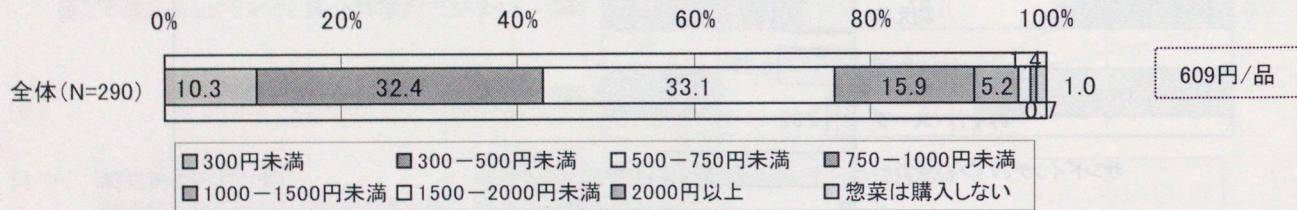
##### 1位<揚げ物>



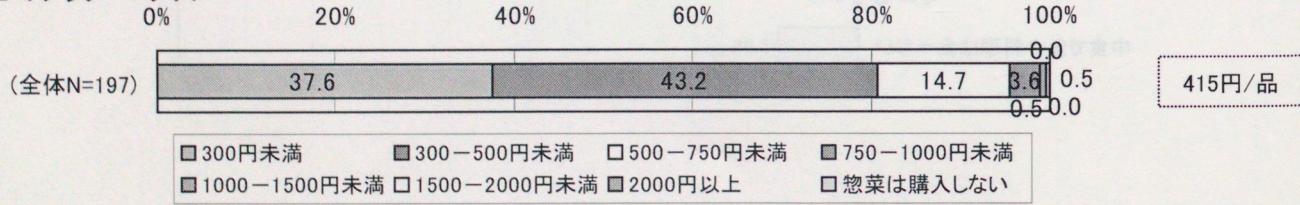
##### 2位<寿司>



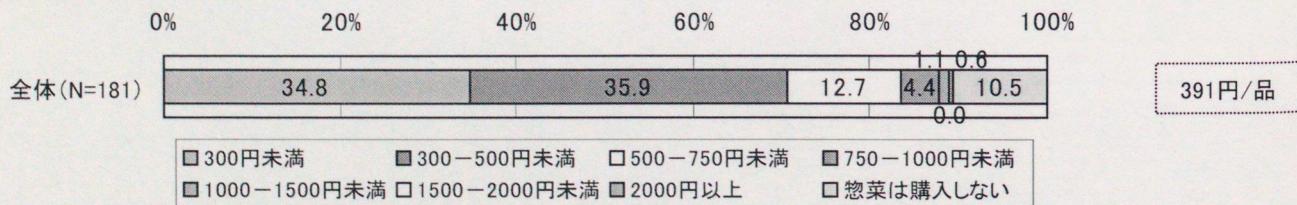
##### 3位<刺し身>



##### 4位<サラダ・マリネ>



##### 5位<焼き魚>



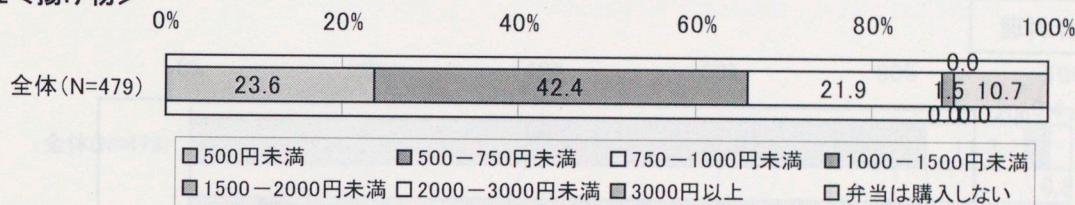
## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○主菜用中食でよく購入する魚介料理上位5位までについて、「弁当」の場合について金額を尋ねた。惣菜単品の場合と比較するといずれも平均購入額が高くなっているが、「刺し身」のみほぼ同額であった。

### 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [全体] (複数回答3つまで)

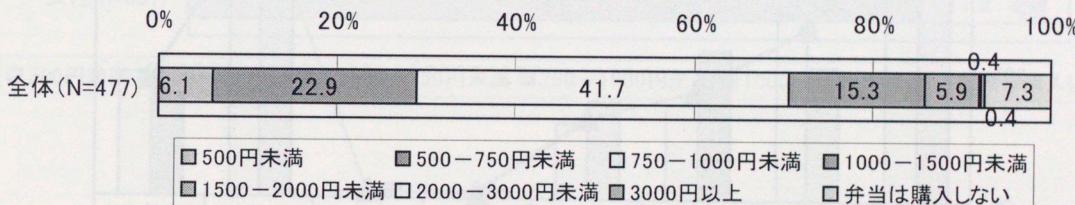
#### 上位5位までの金額 <弁当の場合>

##### 1位<揚げ物>



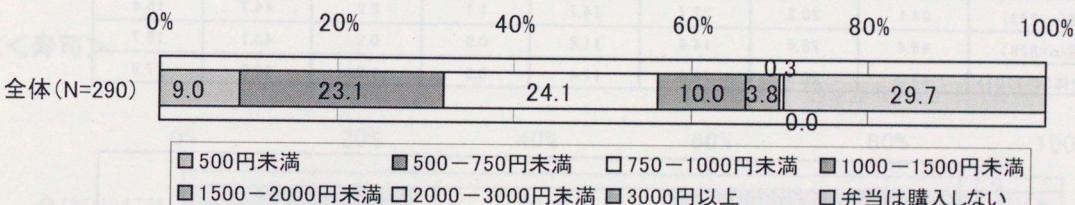
平均購入額  
593円/箱

##### 2位<寿司>



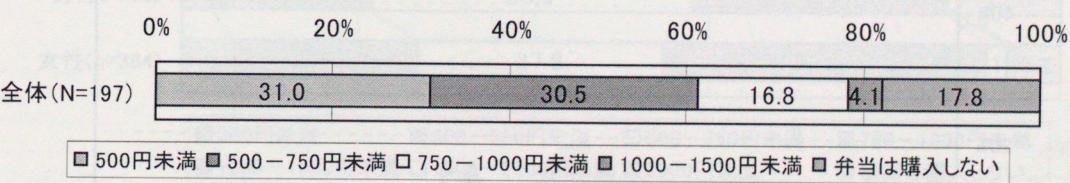
855円/箱

##### 3位<刺し身>



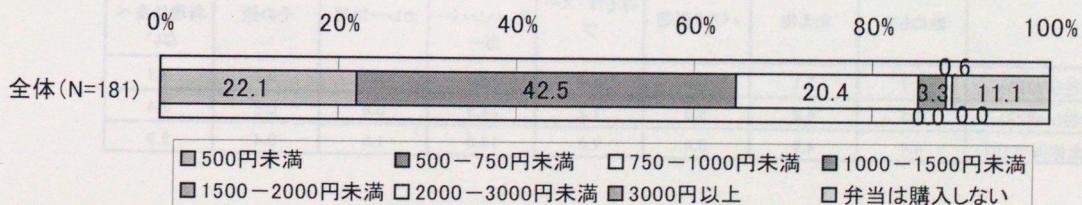
600円/箱

##### 4位<サラダ・マリネ>



543円/箱

##### 5位<焼き魚>



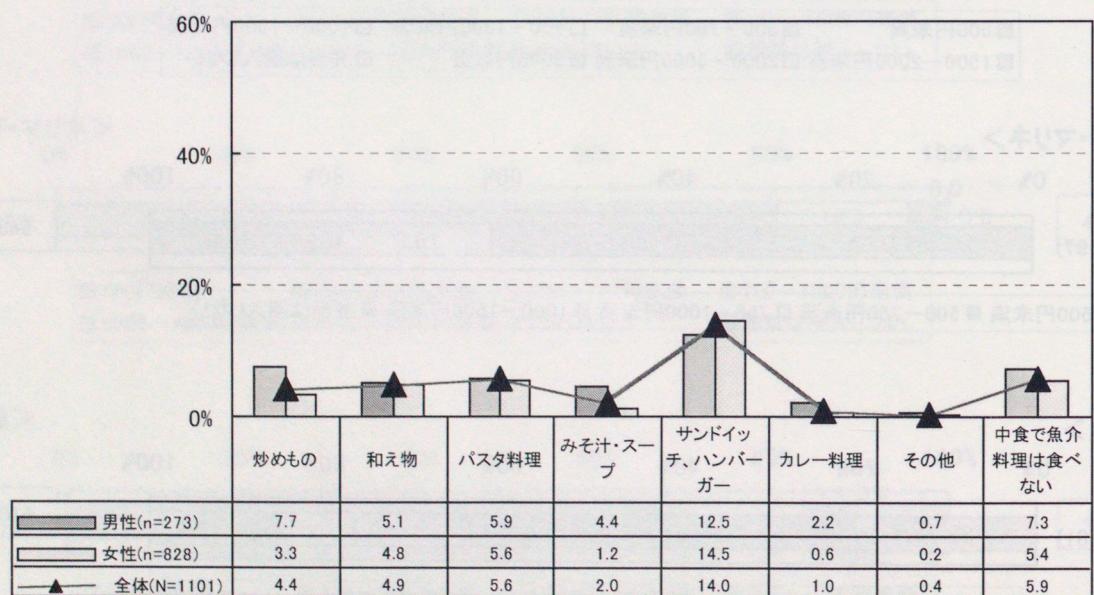
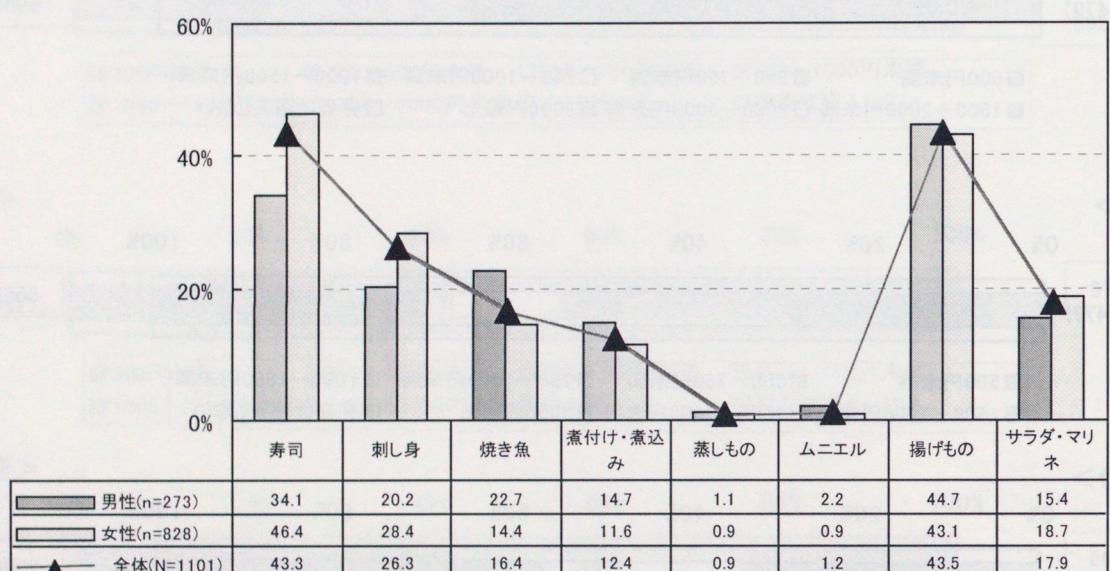
610円/箱

## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○[性別]に見ると、女性は「寿司」および「刺し身」の回答率が男性よりも高い。一方、男性は「焼き魚」の回答率が女性よりも高く、これは外食(夕食)での傾向と同じである(P83参照)。

主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [性別] (複数回答3つまで)

よく購入する魚介料理



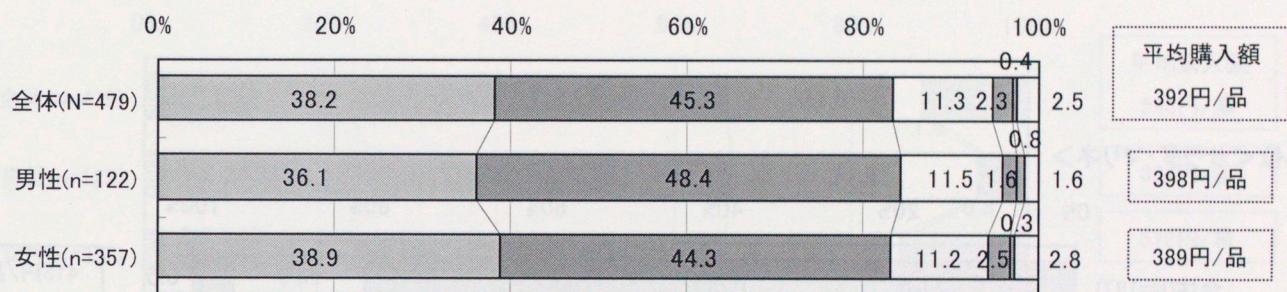
## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○主菜用中食でよく購入する魚介料理上位5位までについて、金額を[性別]に見ると、惣菜単品については、2位「寿司」で女性の方が平均購入額が100円以上高くなっている。また、2位「寿司」については、男性は「惣菜は購入しない」が11.8%と、女性の2倍以上になっている。

### 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [性別] (複数回答3つまで)

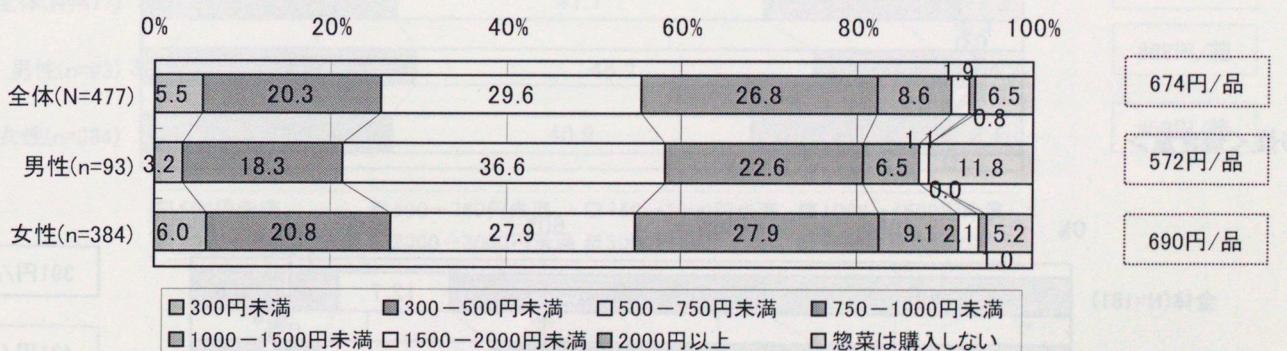
#### 上位5位までの金額 <惣菜单品の場合>

##### 1位<揚げ物>



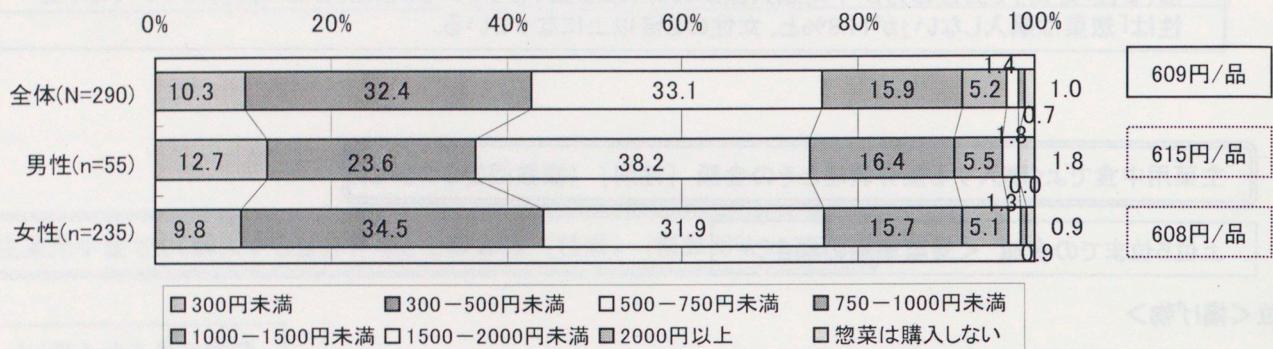
□ 300円未満 ■ 300~500円未満 □ 500~750円未満 ■ 750~1000円未満 □ 1000~1500円未満 □ 惣菜は購入しない

##### 2位<寿司>

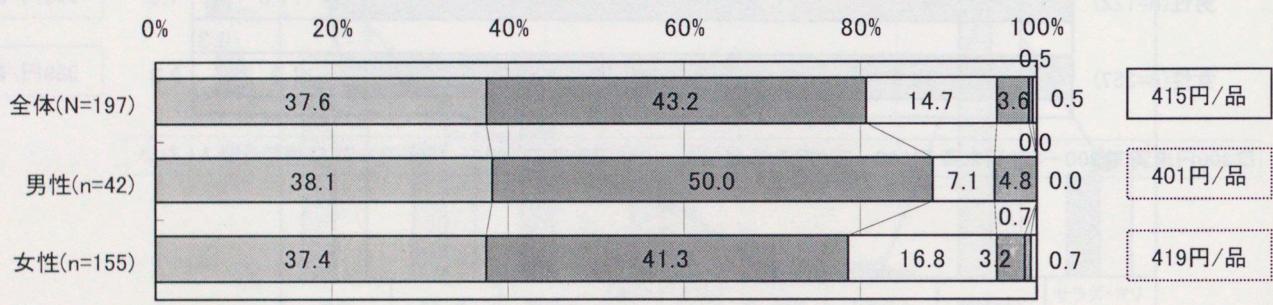


□ 300円未満 ■ 300~500円未満 □ 500~750円未満 ■ 750~1000円未満  
 □ 1000~1500円未満 □ 1500~2000円未満 □ 2000円以上 □ 惣菜は購入しない

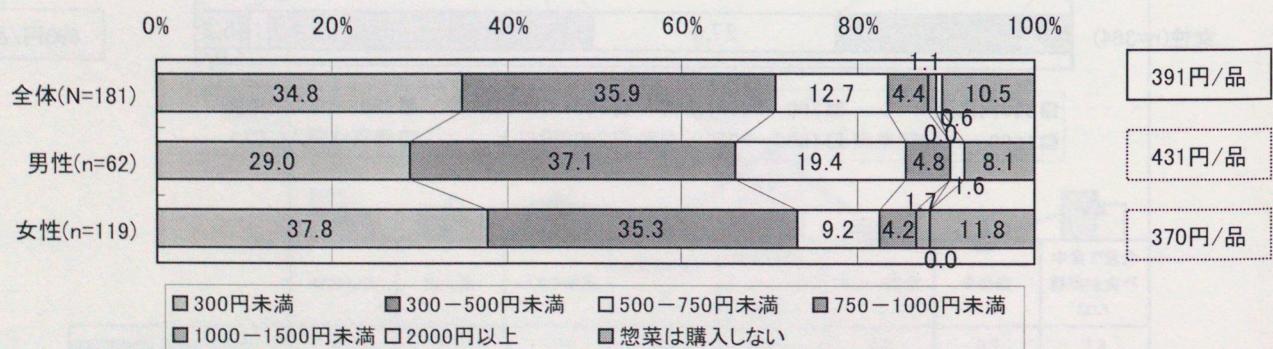
### 3位<刺し身>



### 4位<サラダ・マリネ>



### 5位<焼き魚>



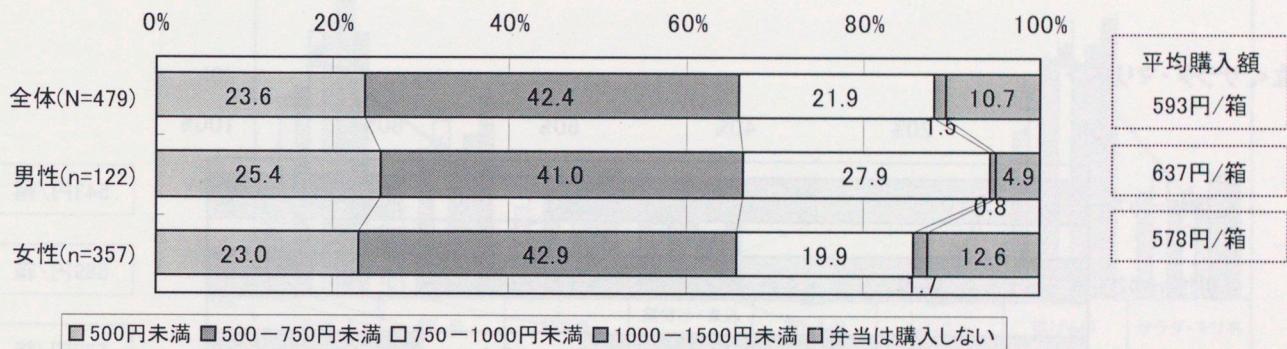
## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○主菜用中食でよく購入する魚介料理上位5位までについて金額を[性別]に見ると、「弁当」については、1位「揚げ物」から5位「焼き魚」までいずれにおいても男性の方が平均購入額が高くなっている。また、いずれにおいても、「弁当は購入しない」が女性の方が多く、女性は中食を購入する際、弁当よりも惣菜単品で購入するケースが多いとわかる。

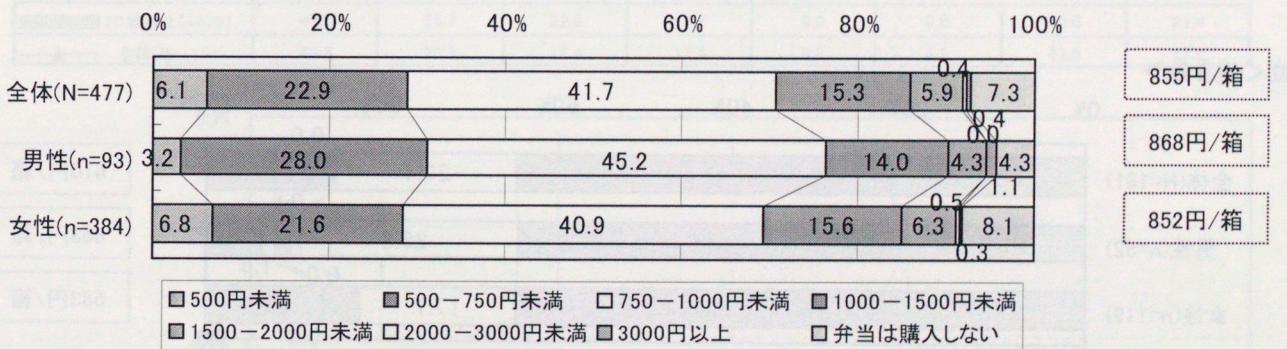
### 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [性別] (複数回答3つまで)

#### 上位5位までの金額 <弁当の場合>

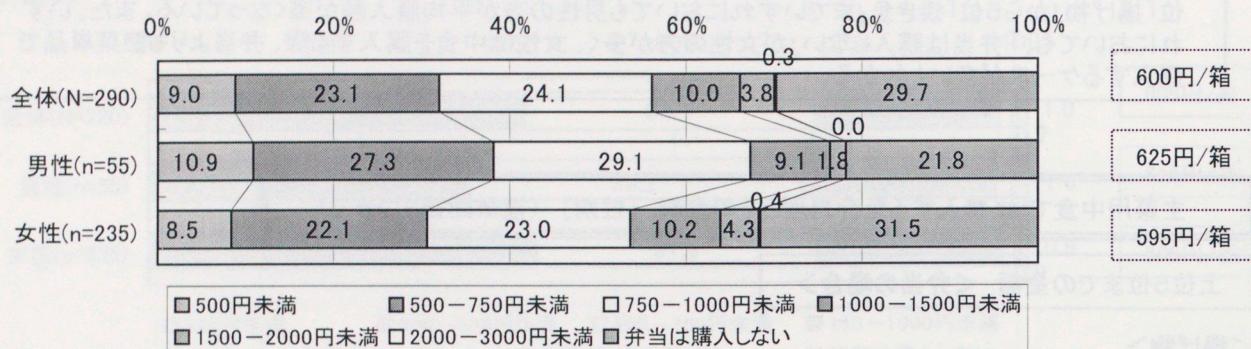
##### 1位<揚げ物>



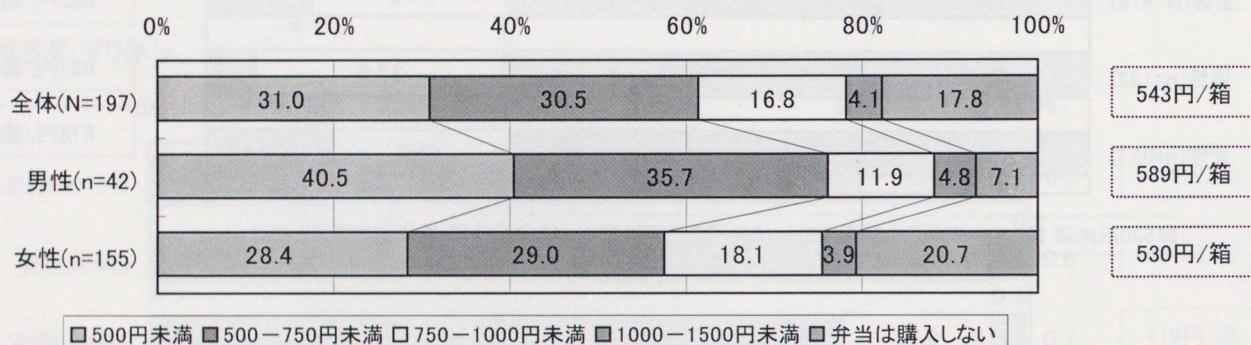
##### 2位<寿司>



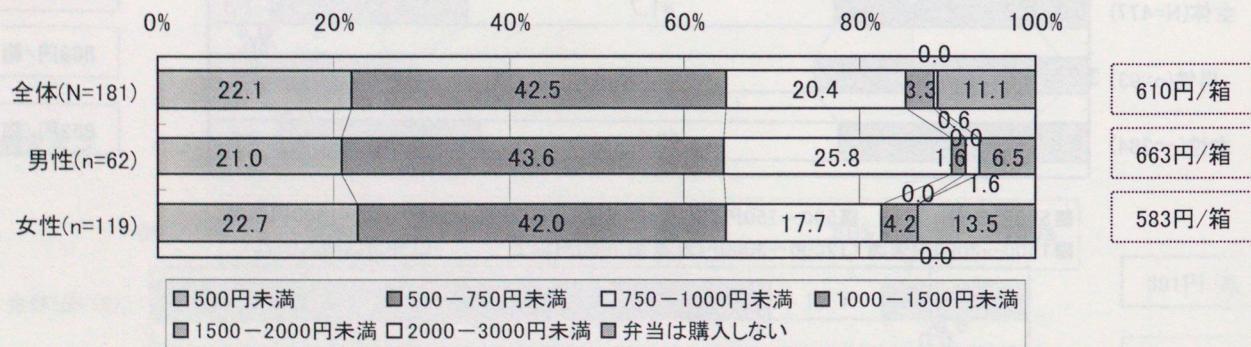
### 3位<刺し身>



### 4位<サラダ・マリネ>



### 5位<焼き魚>

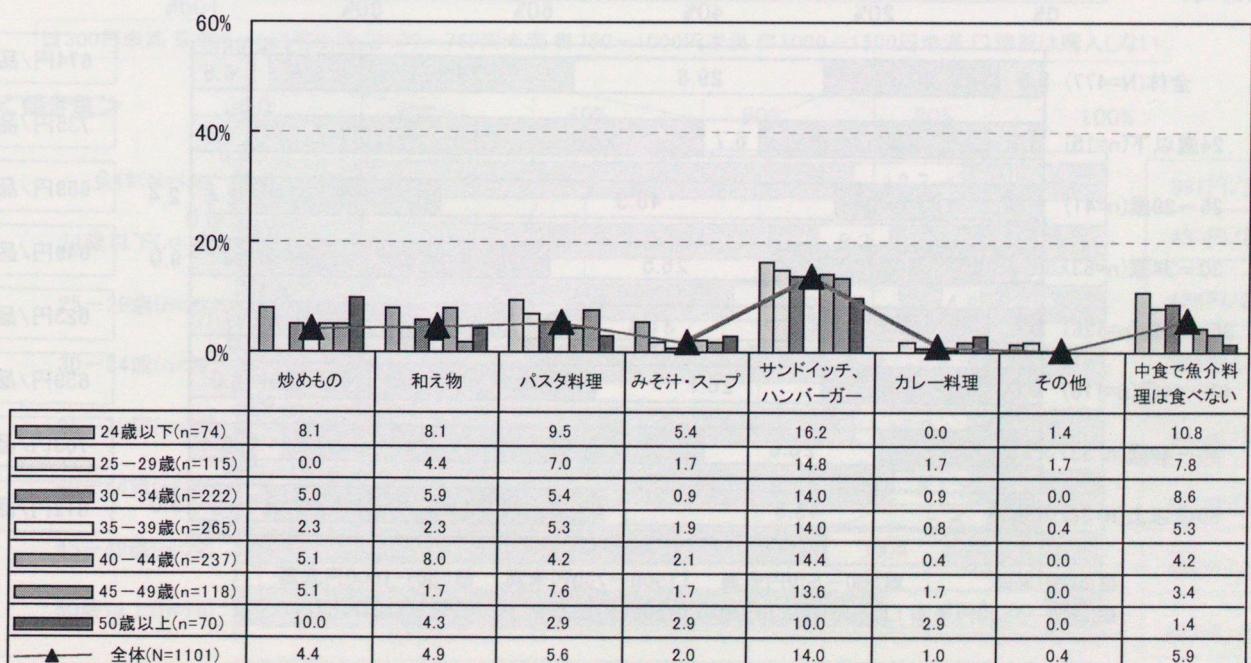
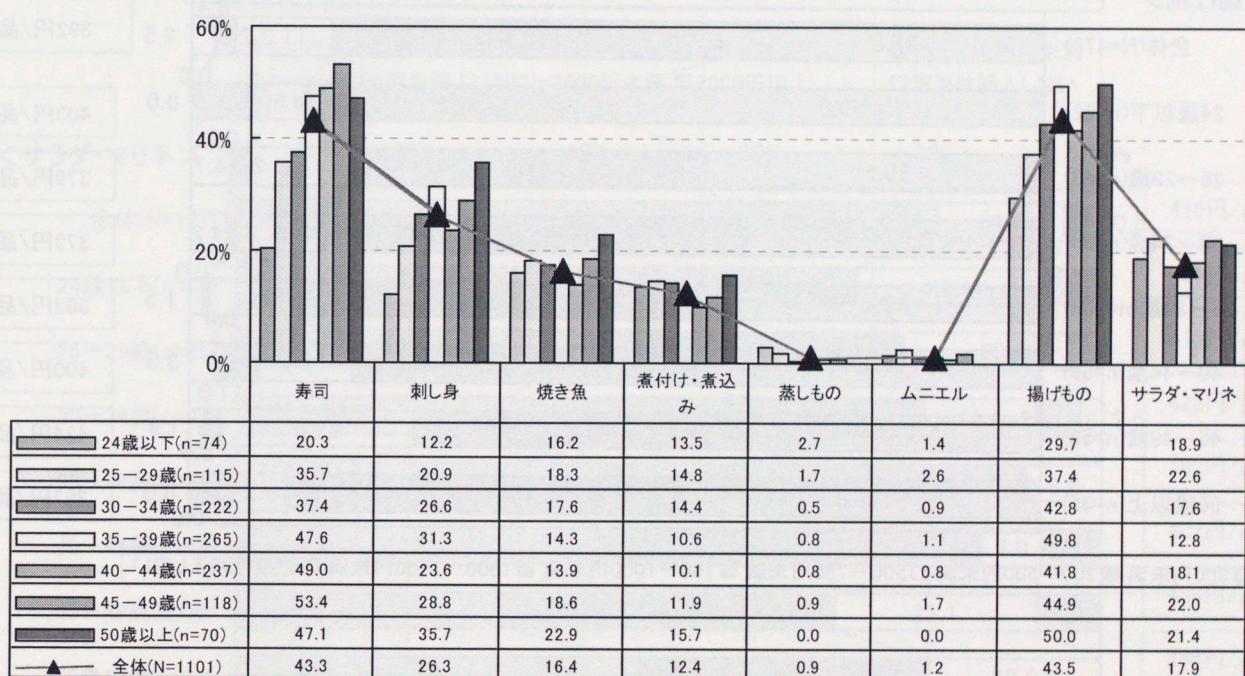


## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○[年齢別]に見ると、「寿司」は、50歳以上では減少するが、概ね年齢が上がるにつれて購入が増える傾向にある。また、24歳以下では、他の年代と比較し、中食で購入する料理の種類に偏りが少なく、これは、外食での傾向と同じである(P85参照)。[全体]で1位の「揚げ物」については、30歳以上の層では4割を超える回答率になっている。なお、40-44歳と45-49歳では、「寿司」と「揚げ物」の順位が他の年代と逆転している。

主採用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [年齢別] (複数回答3つまで)

よく購入する魚介料理



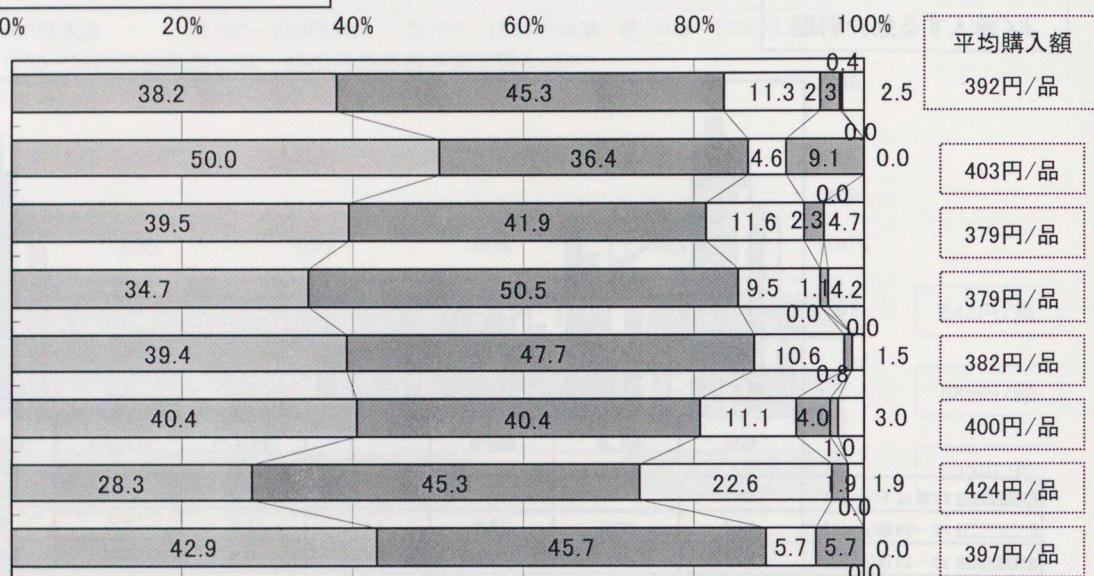
## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○主菜用中食でよく購入する魚介料理上位5位までについて金額を[年齢別]に見ると、惣菜单品については、1位の「揚げ物」は年代による差は小さい。2位の「寿司」は、50歳以上で平均購入額が812円と、他の年代よりも高くなっている。

主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [年齢別] (複数回答3つまで)

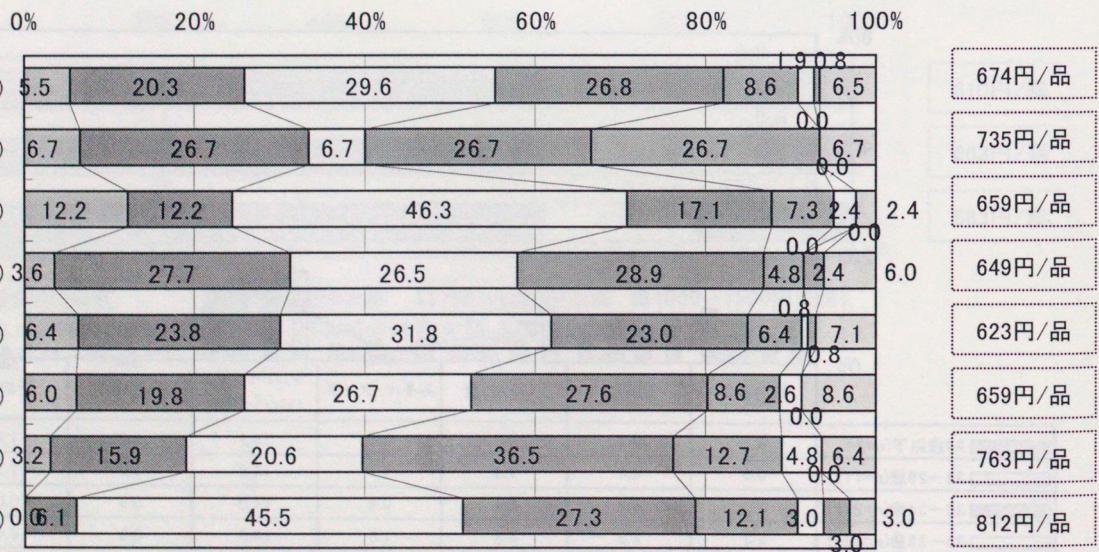
上位5位までの金額 <惣菜单品の場合>

### 1位<揚げ物>



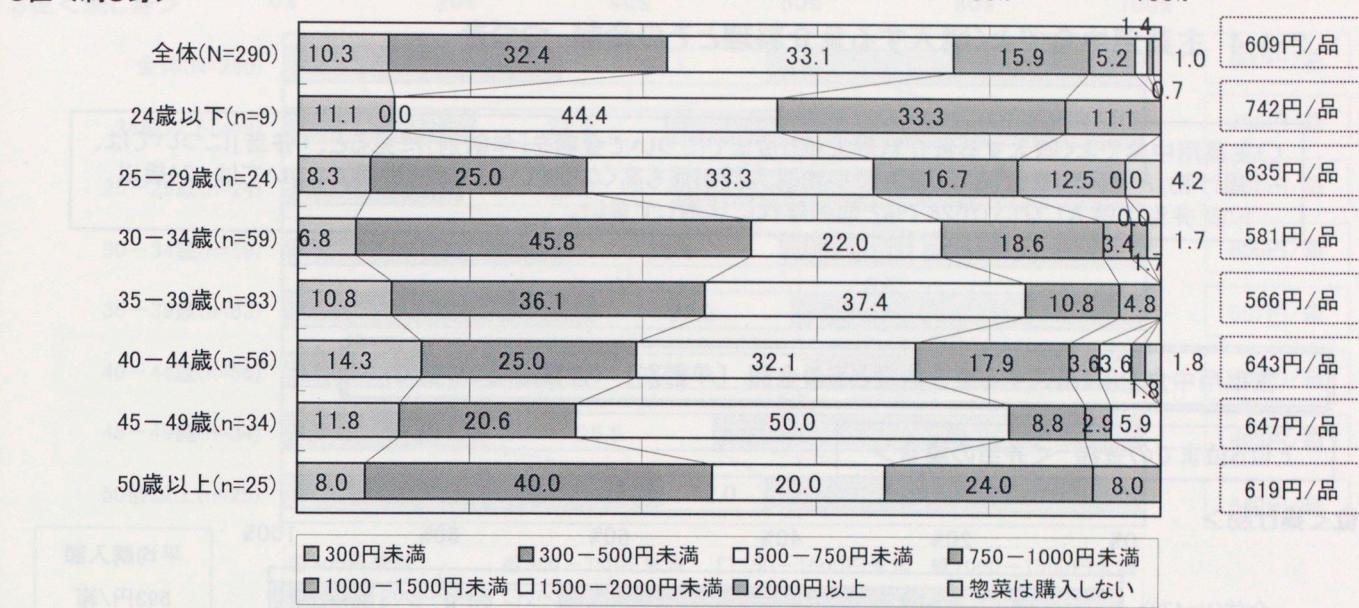
□300円未満 ■300~500円未満 □500~750円未満 ■750~1000円未満 □1000~1500円未満 □惣菜は購入しない

### 2位<寿司>

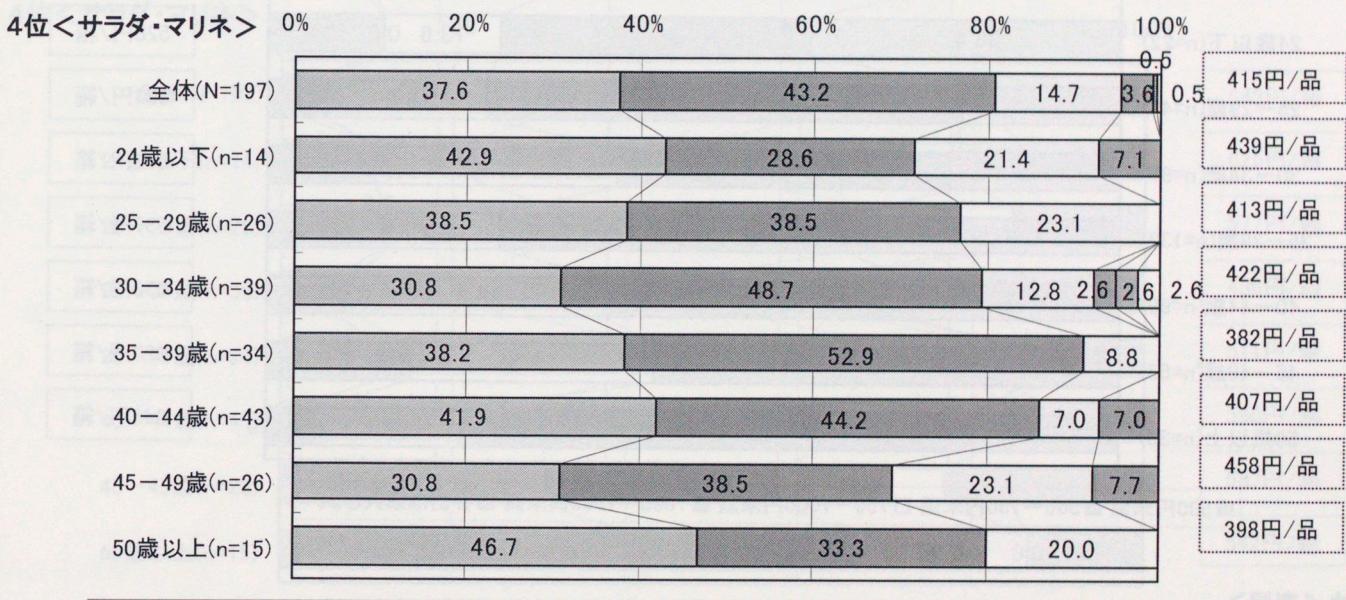


□300円未満 ■300~500円未満 □500~750円未満 ■750~1000円未満  
□1000~1500円未満 □1500~2000円未満 □2000円以上 □惣菜は購入しない

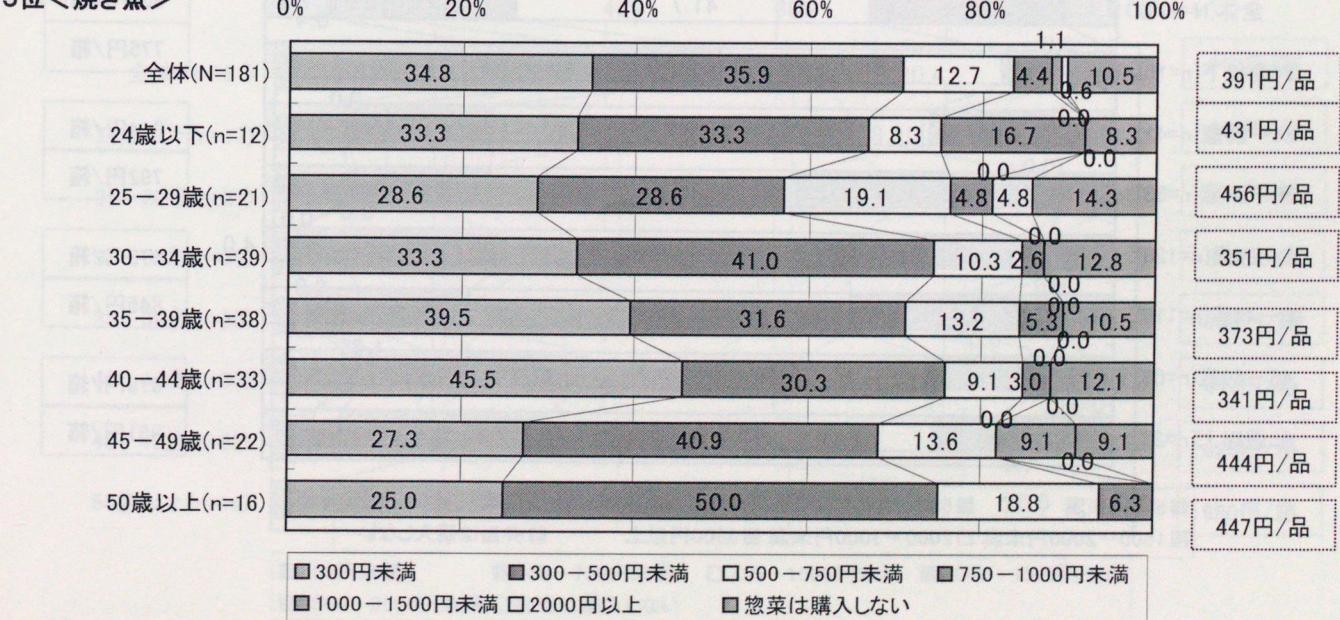
### 3位<刺し身>



### 4位<サラダ・マリネ>



### 5位<焼き魚>



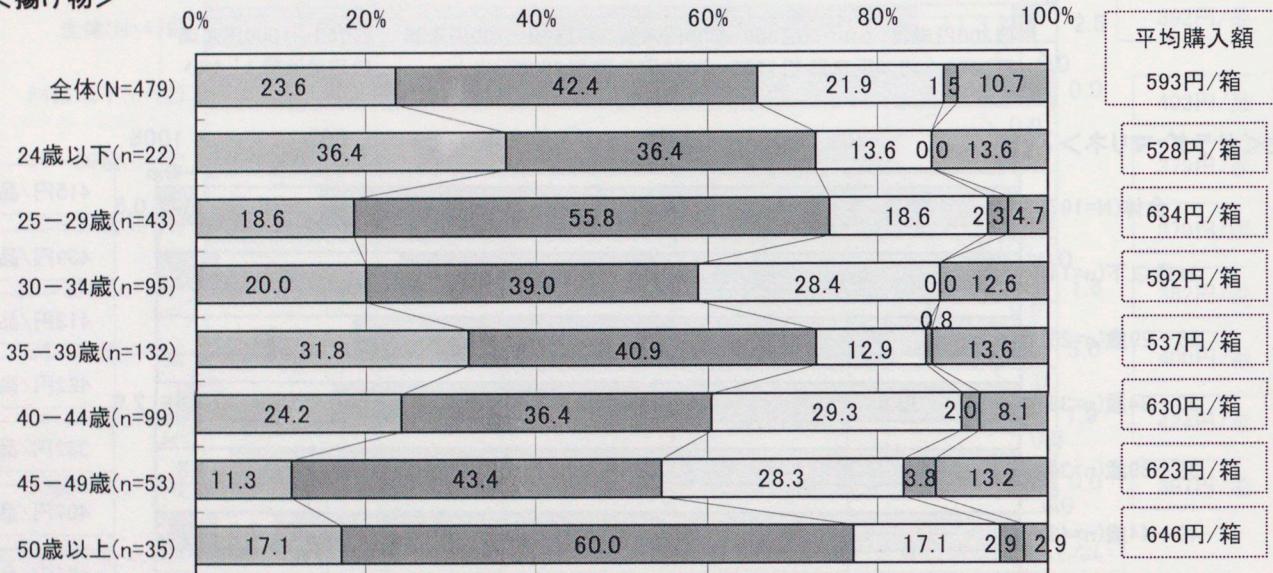
## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○主菜用中食でよく購入する魚介料理上位5位までについて金額を[年齢別]に見ると、「弁当」については、「揚げ物」と「寿司」では、50歳以上が平均購入額が最も高くなっている。また「寿司」については、24歳以下で「弁当は購入しない」が26.7%と他の年代に比較して多い。

### 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [年齢別] (複数回答3つまで)

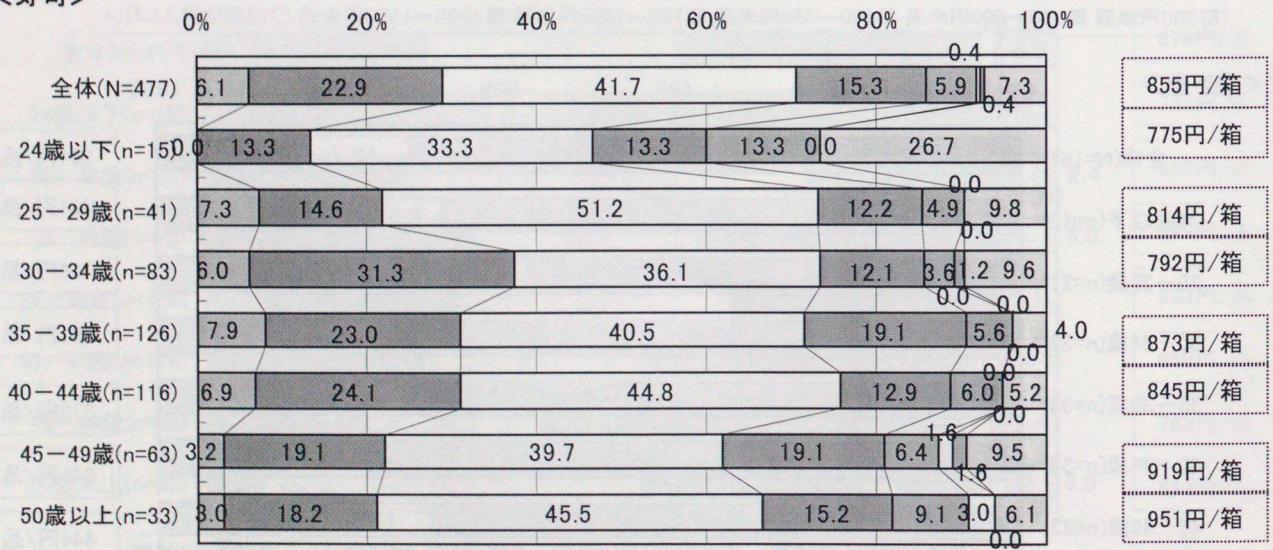
#### 上位5位までの金額 <弁当の場合>

##### 1位<揚げ物>



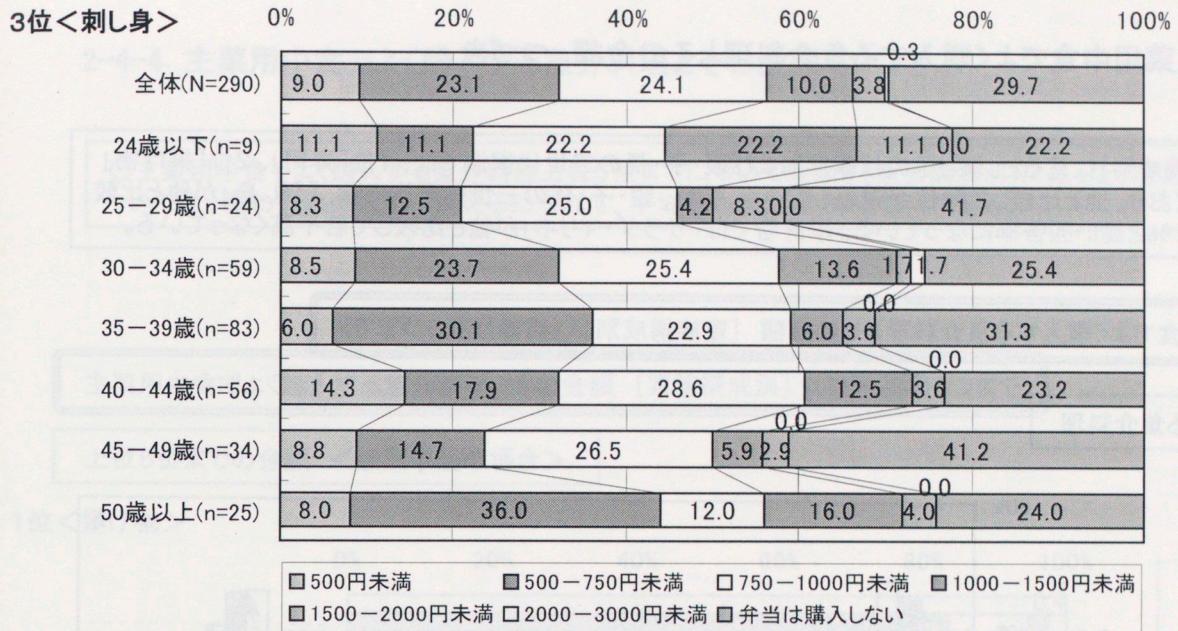
□ 500円未満 ■ 500-750円未満 □ 750-1000円未満 ■ 1000-1500円未満 □ 弁当は購入しない

##### 2位<寿司>

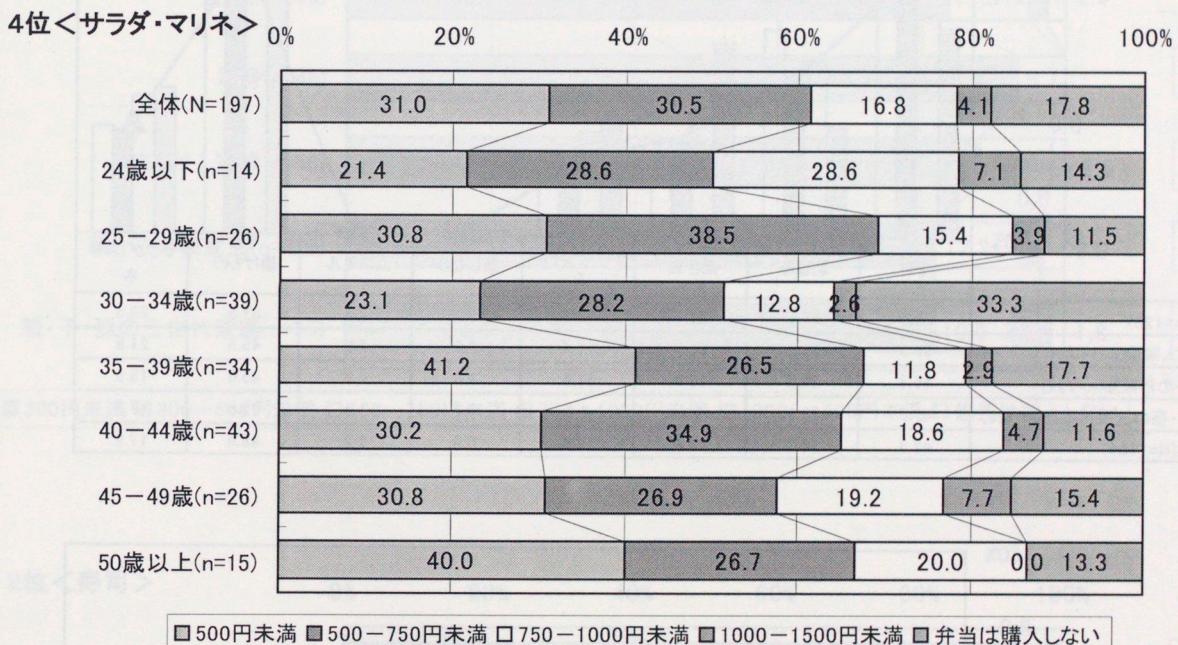


□ 500円未満 ■ 500-750円未満 □ 750-1000円未満 ■ 1000-1500円未満  
■ 1500-2000円未満 □ 2000-3000円未満 ■ 3000円以上 □ 弁当は購入しない

### 3位<刺し身>

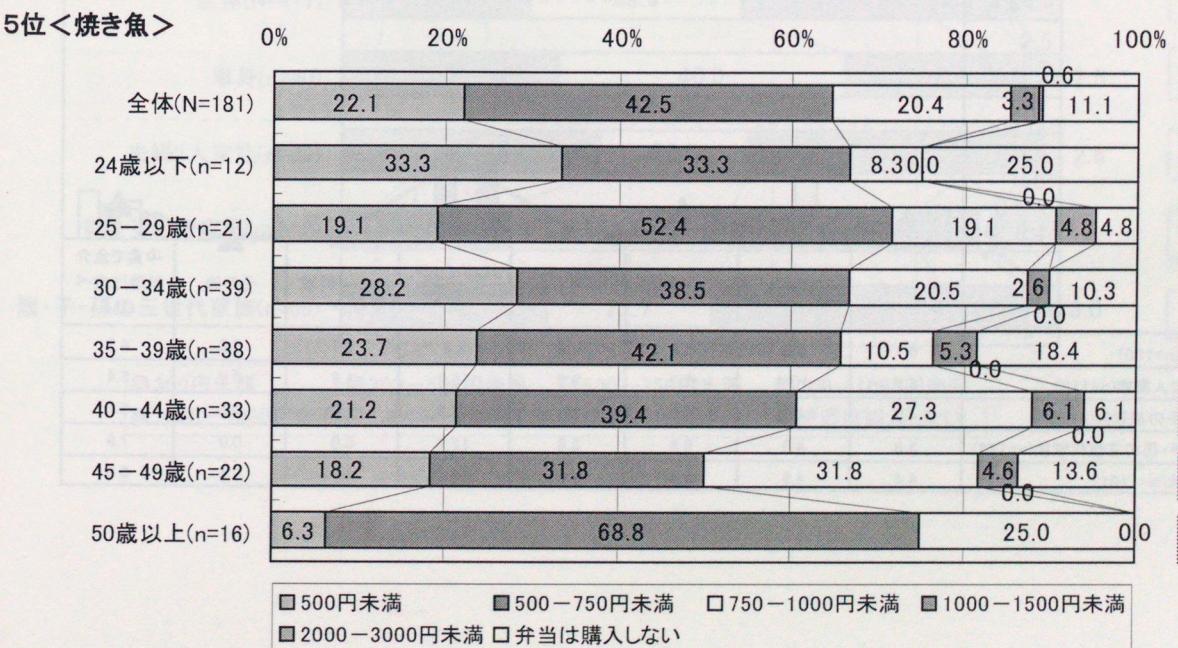


### 4位<サラダ・マリネ>



□ 500円未満 ■ 500-750円未満 □ 750-1000円未満 ■ 1000-1500円未満 □ 弁当は購入しない

### 5位<焼き魚>



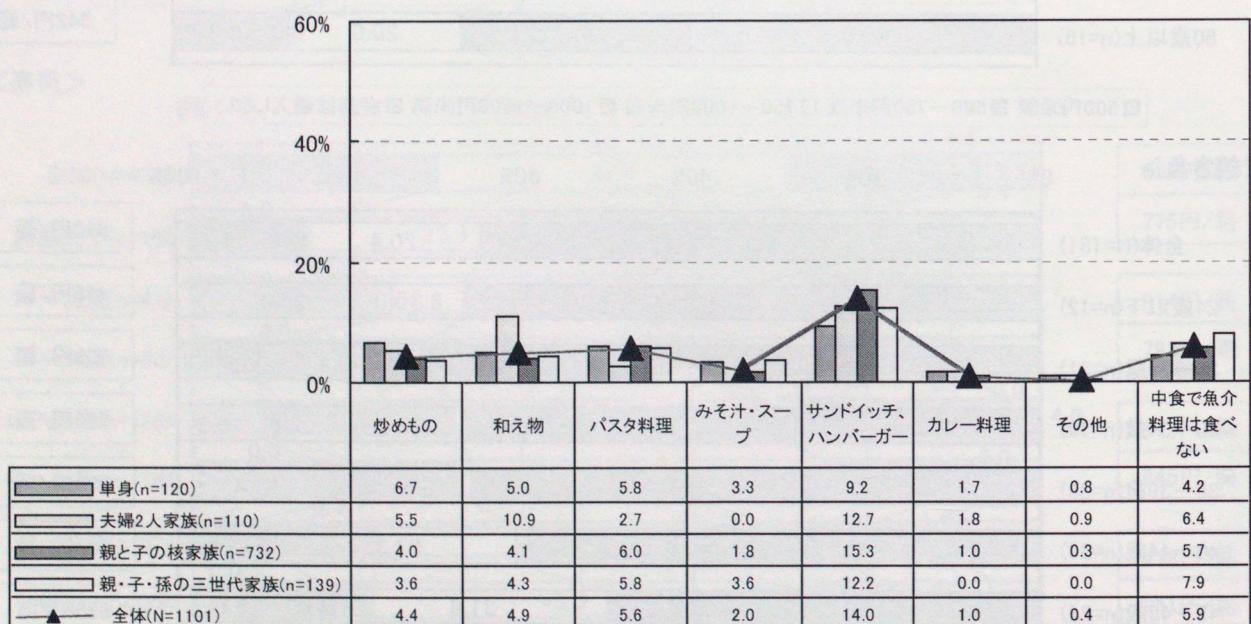
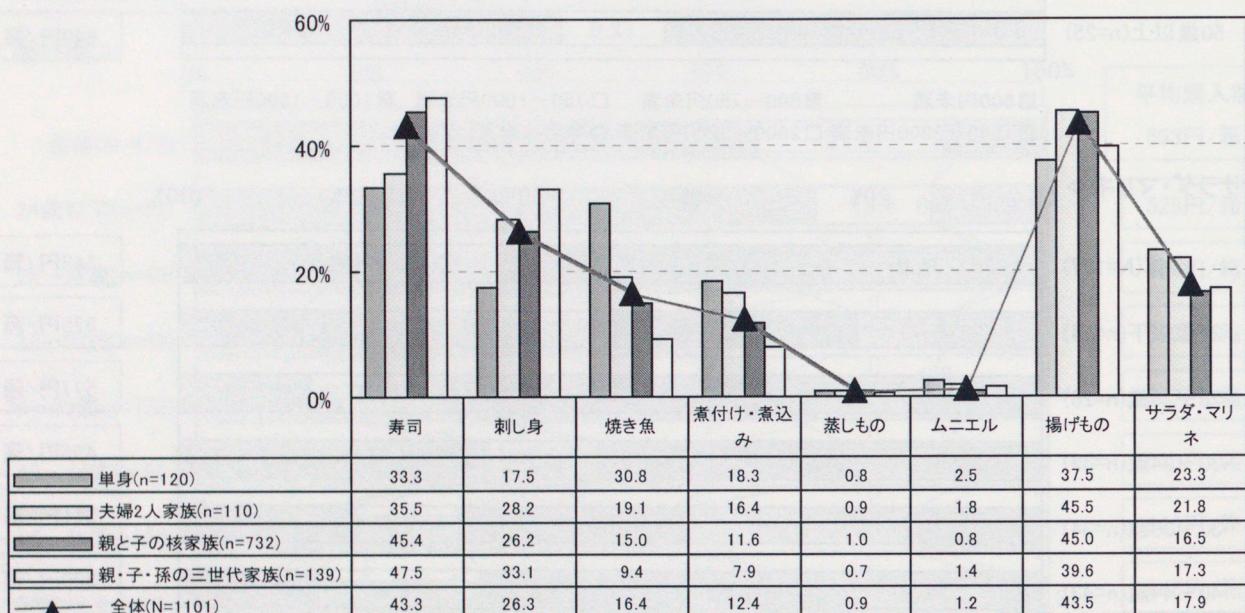
□ 500円未満 ■ 500-750円未満 □ 750-1000円未満 ■ 1000-1500円未満  
■ 1500-2000円未満 □ 弁当は購入しない

## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○[家族構成別]に見ると、親と子の核家族および親・子・孫の三世代家族では、1位「寿司」、2位「揚げ物」となっており、他と比較して順位が逆転している。また、親・子・孫の三世代家族では、「刺し身」が他と比較して33.1%と高い回答率になっている。単身者では「サラダ・マリネ」が他と比較して若干高くなっている。

主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [家族構成別] (複数回答3つまで)

よく購入する魚介料理



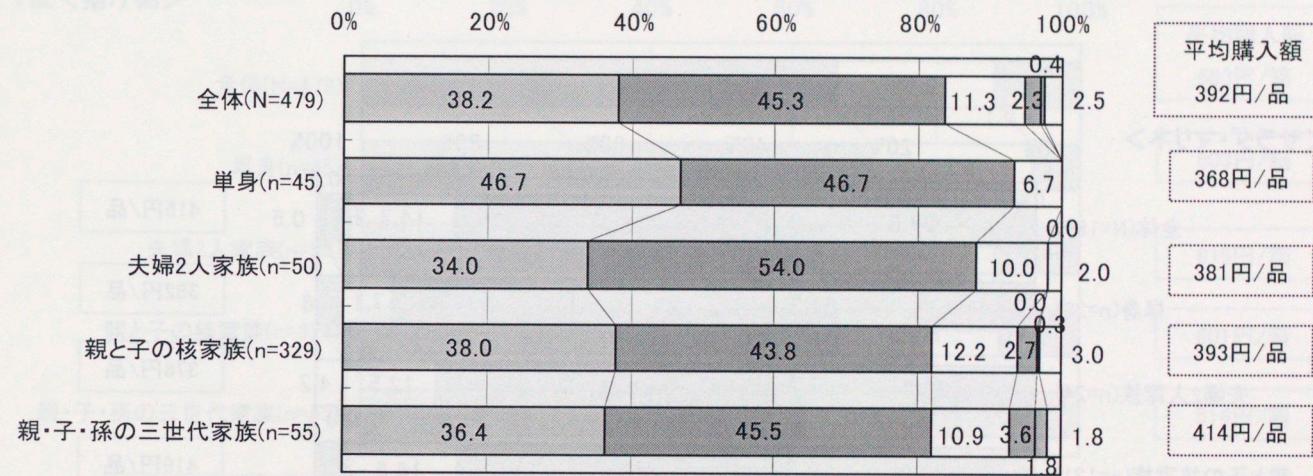
## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○主菜用中食でよく購入する魚介料理上位5位までについて金額を[家族構成別]に見ると、惣菜单品については、概ね家族の人数が増えるにつれて、平均購入額が高くなる傾向にある。

### 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [家族構成別] (複数回答3つまで)

#### 上位5位までの金額 <惣菜单品の場合>

##### 1位<揚げ物>



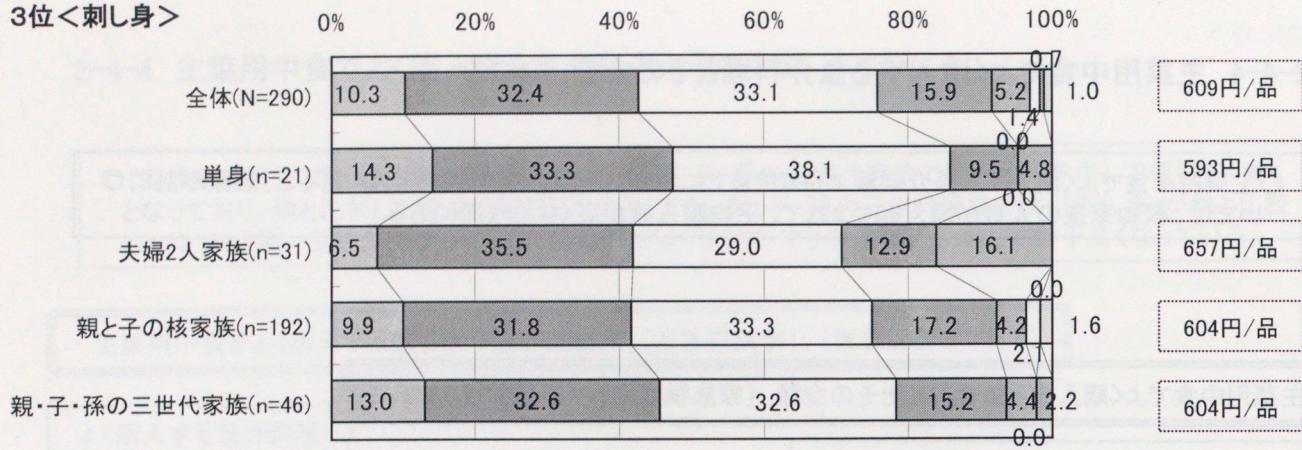
□300円未満 ■300-500円未満 □500-750円未満 ■750-1000円未満 □1000-1500円未満 □2000円以上 □惣菜は購入しない

##### 2位<寿司>



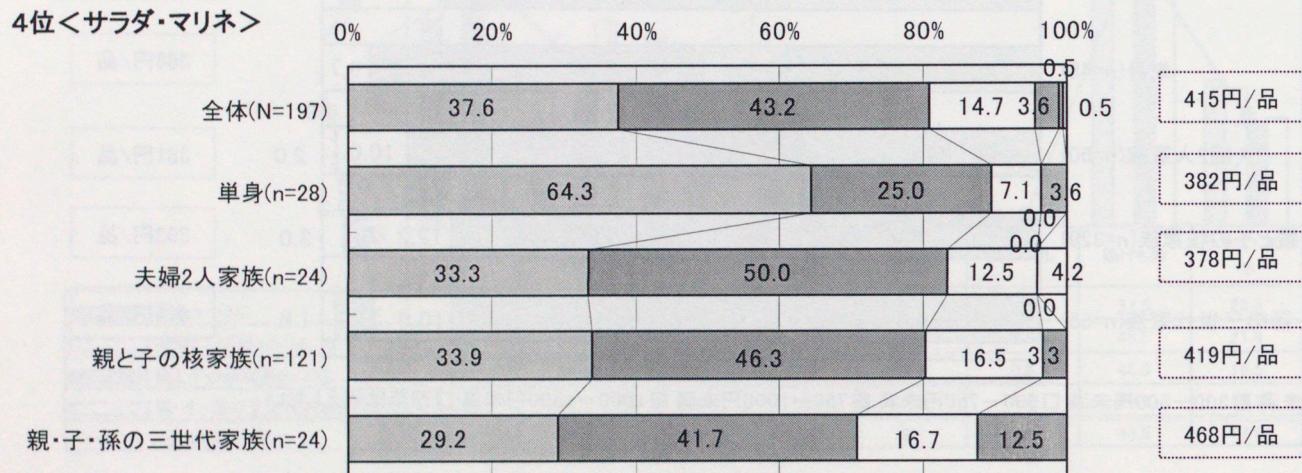
□300円未満 ■300-500円未満 □500-750円未満 ■750-1000円未満  
■1000-1500円未満 □1500-2000円未満 □2000円以上 □惣菜は購入しない

### 3位<刺し身>



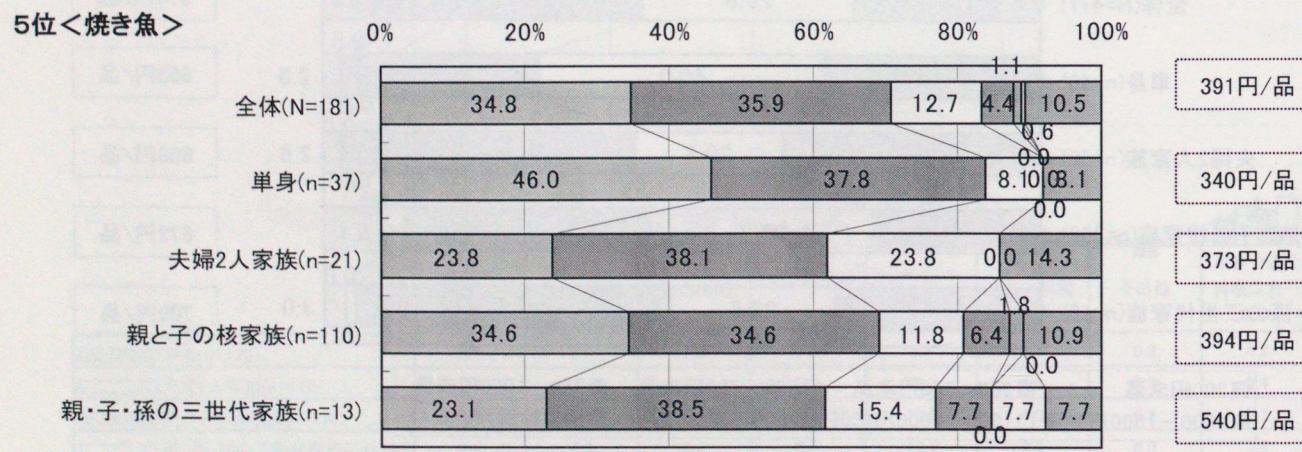
□300円未満 ■300~500円未満 □500~750円未満 ■750~1000円未満  
■1000~1500円未満 □1500~2000円未満 ■2000円以上 □惣菜は購入しない

### 4位<サラダ・マリネ>



□300円未満 ■300~500円未満 □500~750円未満 ■750~1000円未満 ■1000~1500円未満 □惣菜は購入しない

### 5位<焼き魚>



□300円未満 ■300~500円未満 □500~750円未満 ■750~1000円未満  
■1000~1500円未満 □2000円以上 □惣菜は購入しない

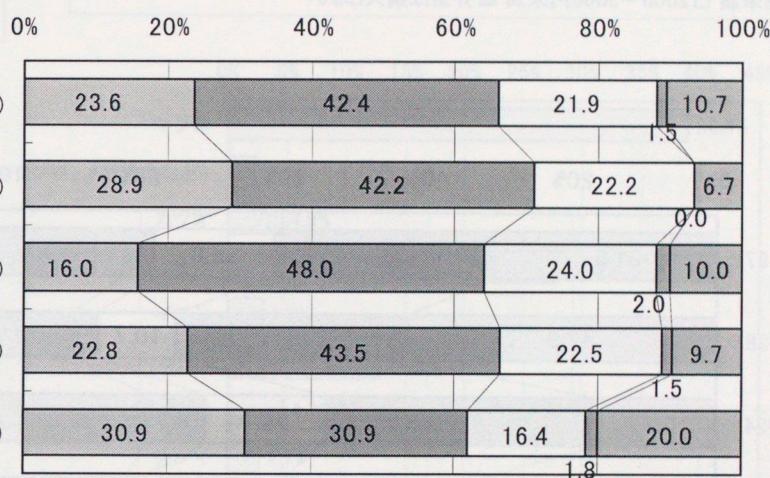
## 2-4-4 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 つづき

○主菜用中食でよく購入する魚介料理上位5位までについて「弁当」の金額を[家族構成別]に見ると、1位の「揚げ物」では、親・子・孫の三世代において「弁当は購入しない」が20.0%と他と比較し高い率になっている。なお、いずれの料理においても概ね惣菜単品の場合と比較して「購入しない」の回答率がどの層でも高くなっている。

### 主菜用中食でよく購入する魚介料理とその金額 [家族構成別] (複数回答3つまで)

#### 上位5位までの金額 <弁当の場合>

##### 1位<揚げ物>



平均購入額  
593円/箱

603円/箱

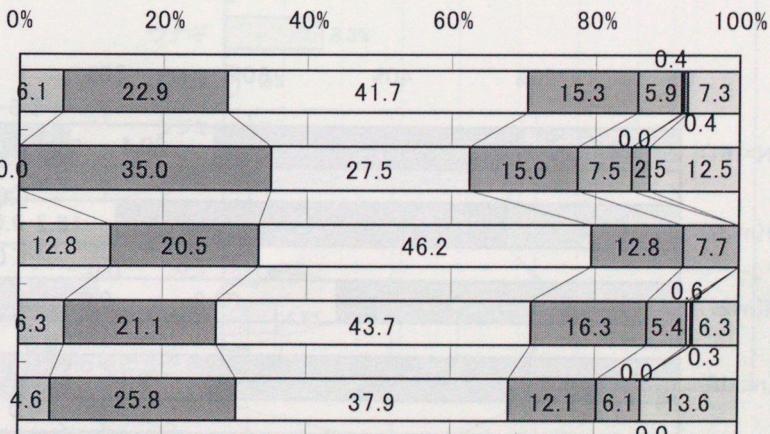
615円/箱

601円/箱

514円/箱

□500円未満 ■500-750円未満 □750-1000円未満 ■1000-1500円未満 □弁当は購入しない

##### 2位<寿司>



855円/箱

853円/箱

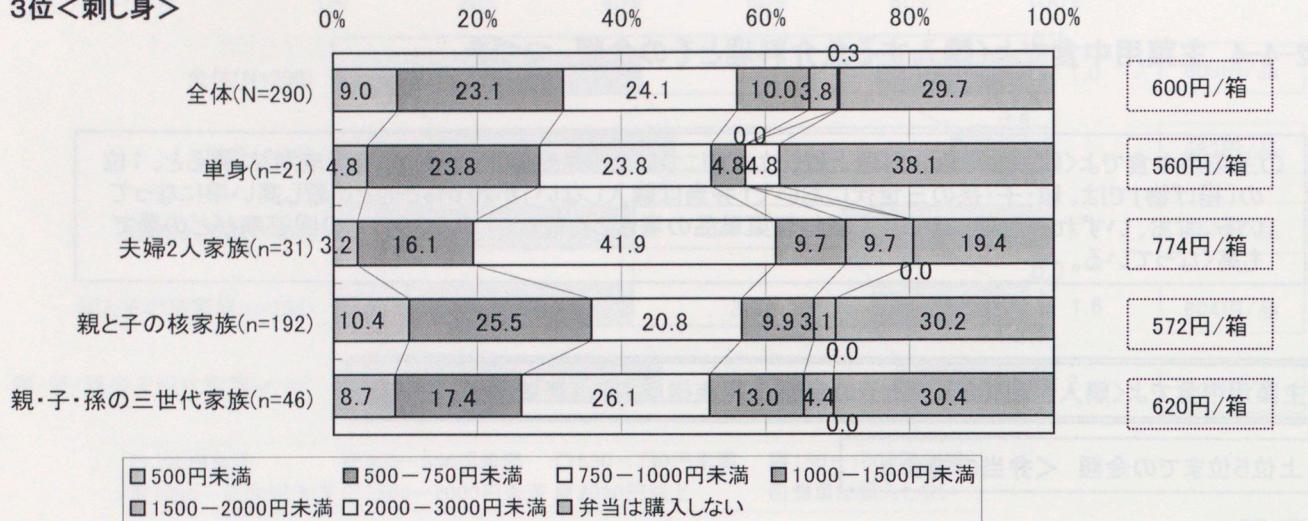
891円/箱

868円/箱

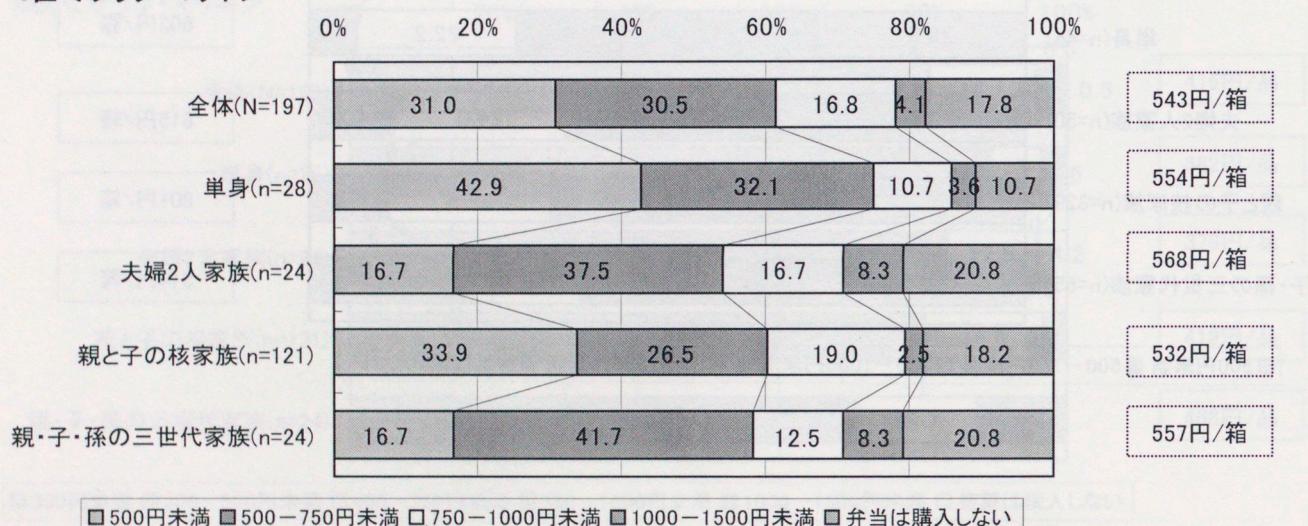
773円/箱

□500円未満 ■500-750円未満 □750-1000円未満 ■1000-1500円未満  
 □1500-2000円未満 □2000-3000円未満 ■3000円以上 □弁当は購入しない

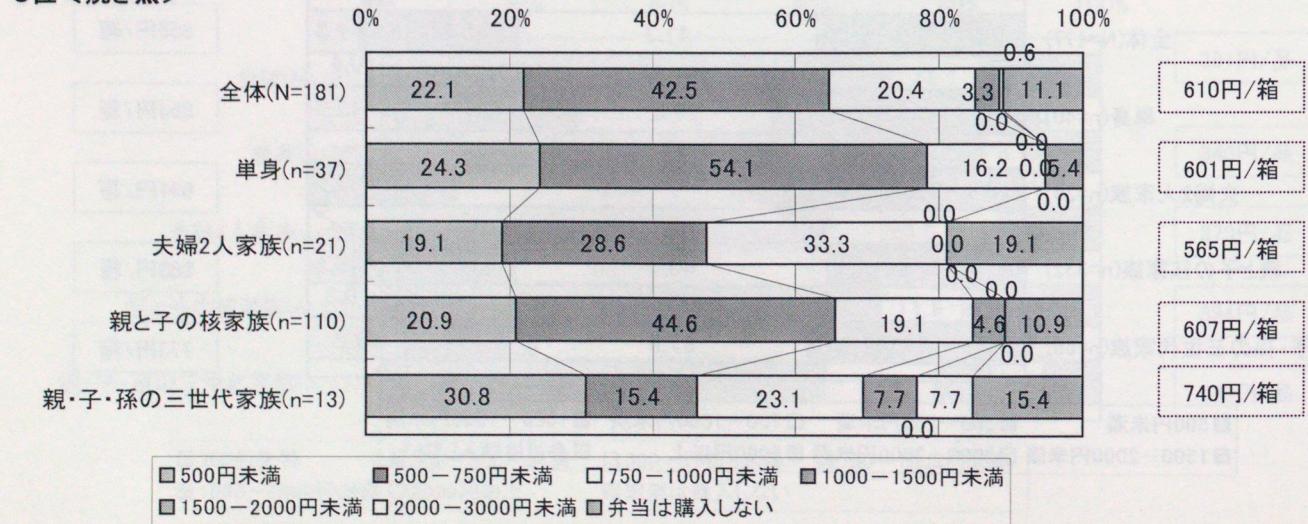
### 3位<刺し身>



### 4位<サラダ・マリネ>



### 5位<焼き魚>



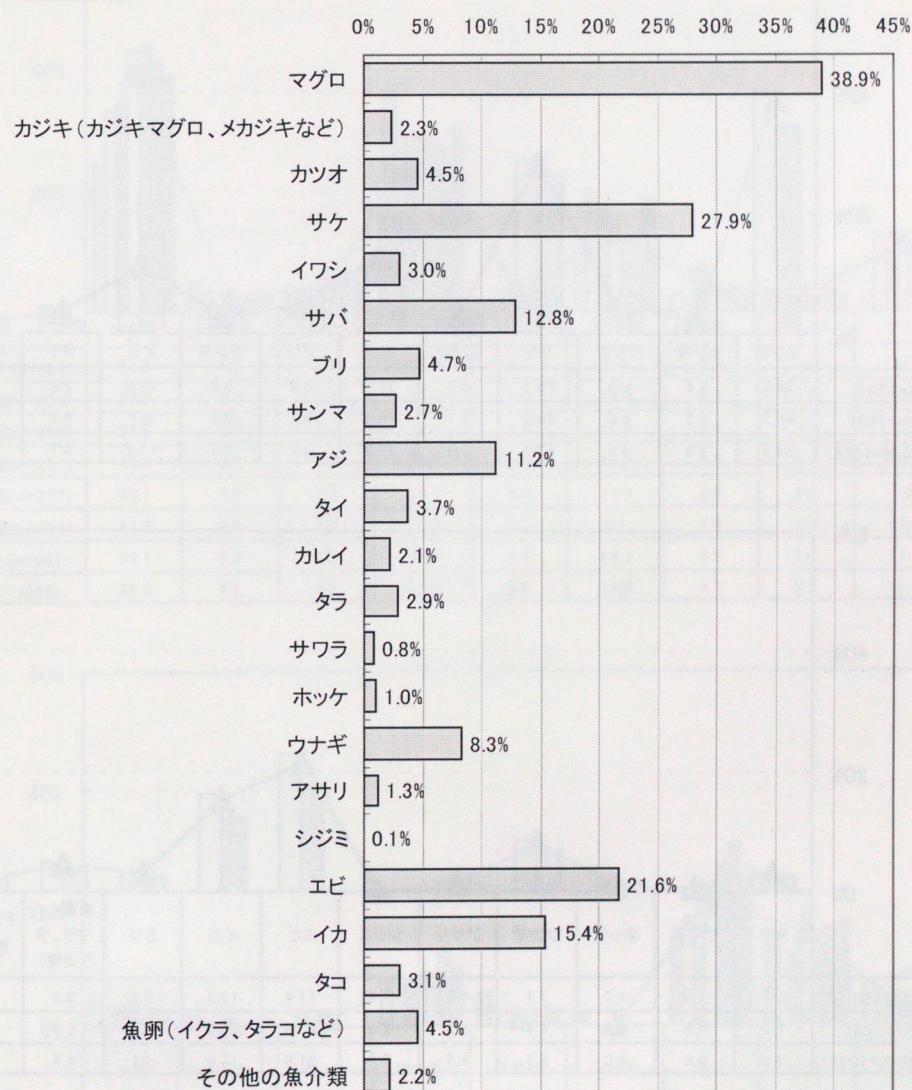
## 2-4-5 中食でよく食べる魚介の種類

○中食でよく食べる魚介の種類について尋ねると、1位「マグロ」から、2位「サケ」、3位「エビ」、4位「イカ」、5位「サバ」、6位「アジ」までが10%を超える回答率であった。外食(夕食)でよく食べる魚介の種類と比較すると(P91参照)、外食においては、1位「マグロ」が突出していたが、中食では外食ほどの偏りはない。

中食でよく食べる魚介の種類 [全体] (複数回答2つまで)

### よく食べる魚介の種類

(N=1036)

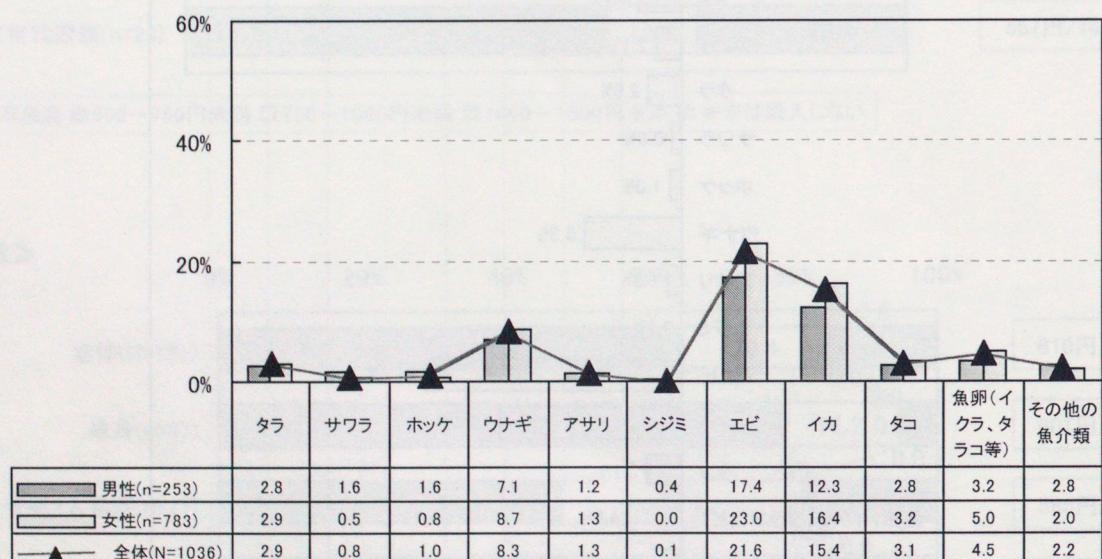
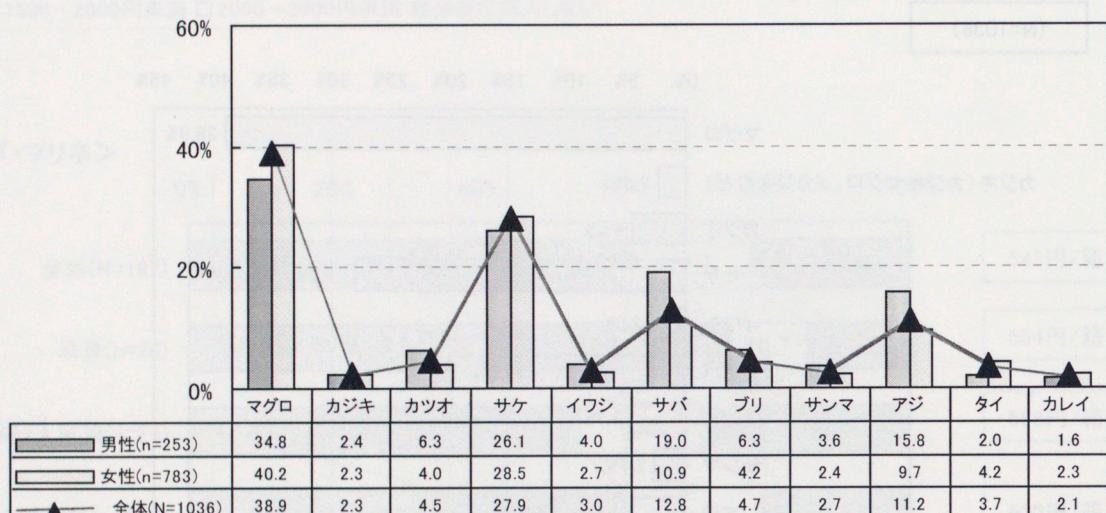


## 2-4-5 中食でよく食べる魚介の種類 つづき

○[性別]に見ると、女性の方が魚介の種類の偏りが大きい。男性の方が様々な種類の魚を食べていることがわかる。[全体]で5位だった「サバ」は、男性では19.0%であるが、一方女性は10.9%にとどまった。女性では、「エビ」が23.0%と高くなっている。

中食でよく食べる魚介の種類 [性別] (複数回答2つまで)

よく食べる魚介の種類

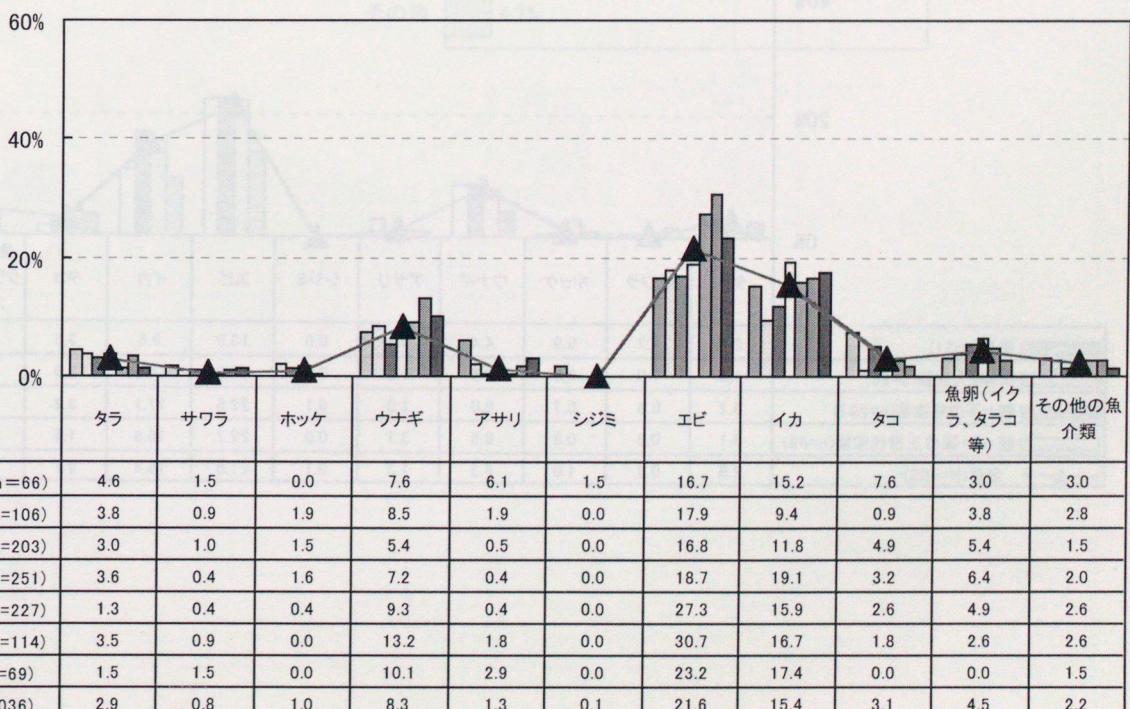
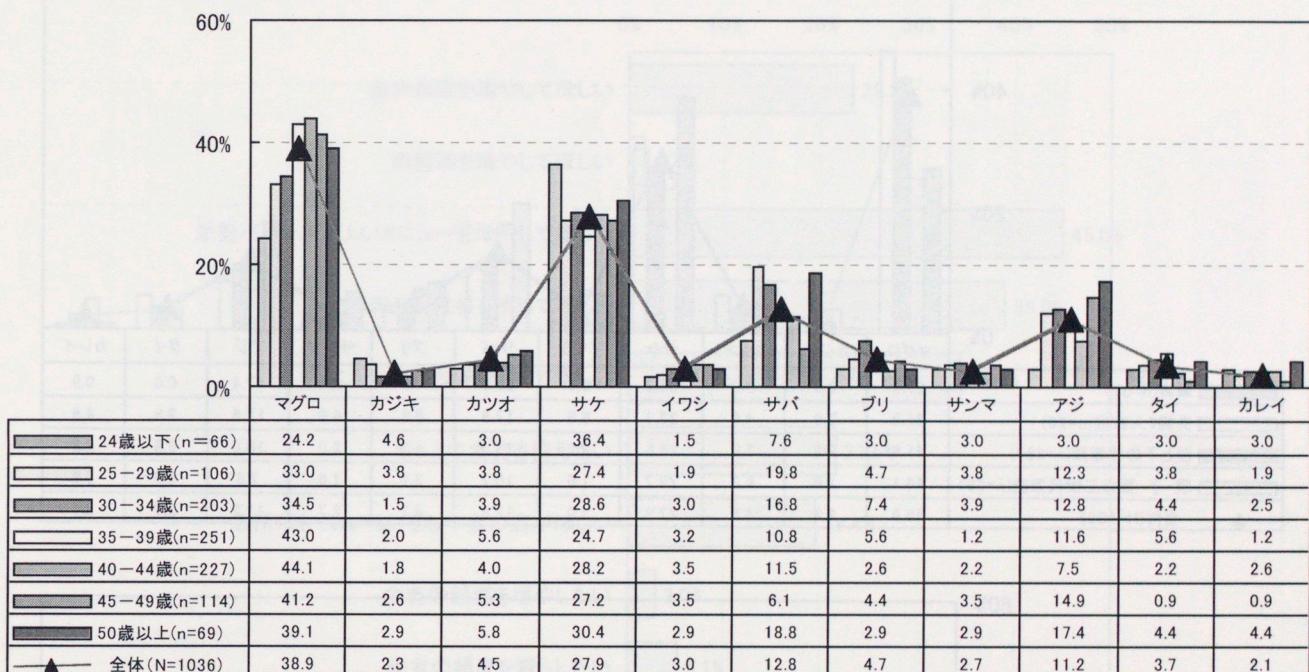


## 2-4-5 中食でよく食べる魚介の種類 つづき

○[年齢別]に見ると、24歳以下では、「サケ」が1位となっており、他の年代と比較して高い回答率になっている。これは外食においても同様の傾向であったが、中食においては、1位「サケ」、2位「マグロ」と順位も逆転している。なお、中食においては、概ね年齢が上がるにつれて、様々な種類の魚介を食べている。

中食でよく食べる魚介の種類 [年齢別] (複数回答2つまで)

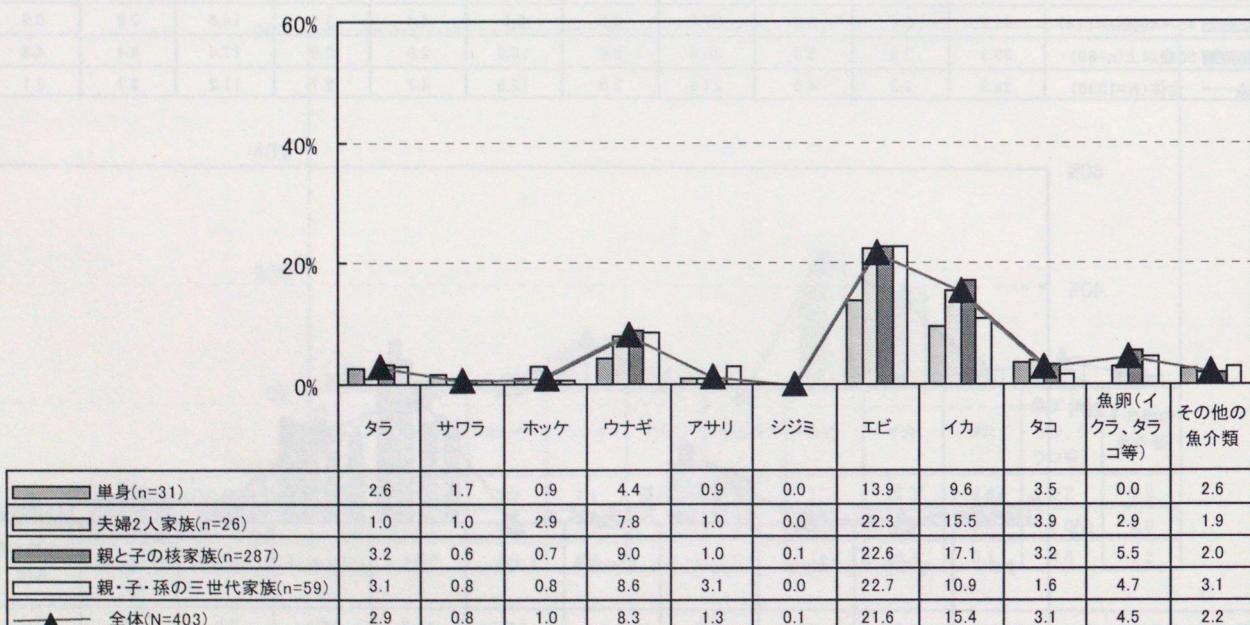
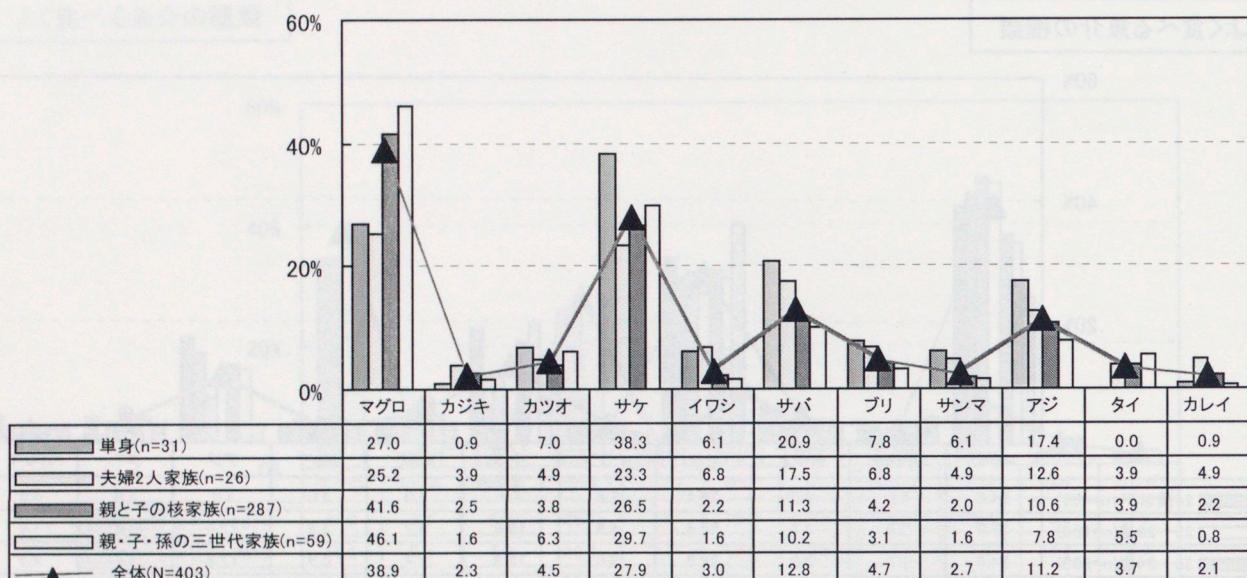
よく食べる魚介の種類



## 2-4-5 中食でよく食べる魚介の種類 つづき

○[家族構成別]に見ると、どの層も、食べる魚介の種類に外食ほどの偏りはなく、とりわけ親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族で偏りが緩和されている。また、単身者では「サケ」が1位となっており、それ以外の層では、「エビ」の消費が高い率になっている。

中食でよく食べる魚介の種類 [家族構成別] (複数回答2つまで)

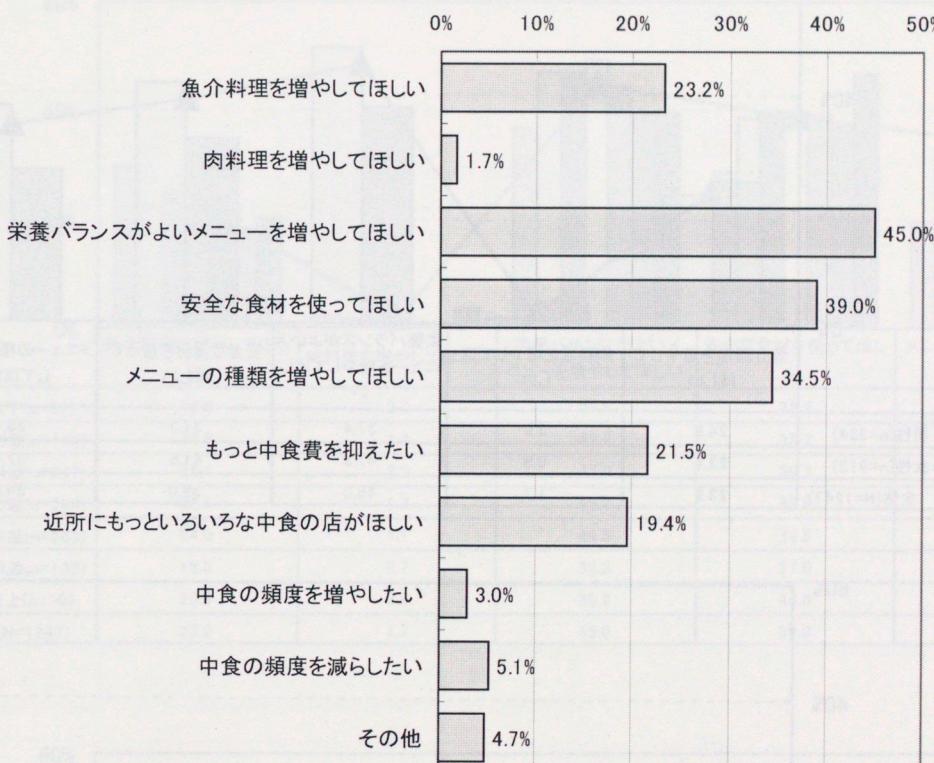


## 2-4-6 中食についての不満・要望

○中食についての不満・要望を尋ねてみると、1位の「栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい」と、2位の「安全な食材を使ってほしい」は、外食と同様であった。しかし、中食の場合は、「メニューの種類を増やしてほしい」(34.5%)が3位に入り、外食の28.4%と比較して高い回答率となっている(P95参照)。なお、「魚介料理を増やしてほしい」は23.2%であり、外食の24.9%と大差はない。

中食についての不満・要望 [全体] (複数回答)

(N=1247)

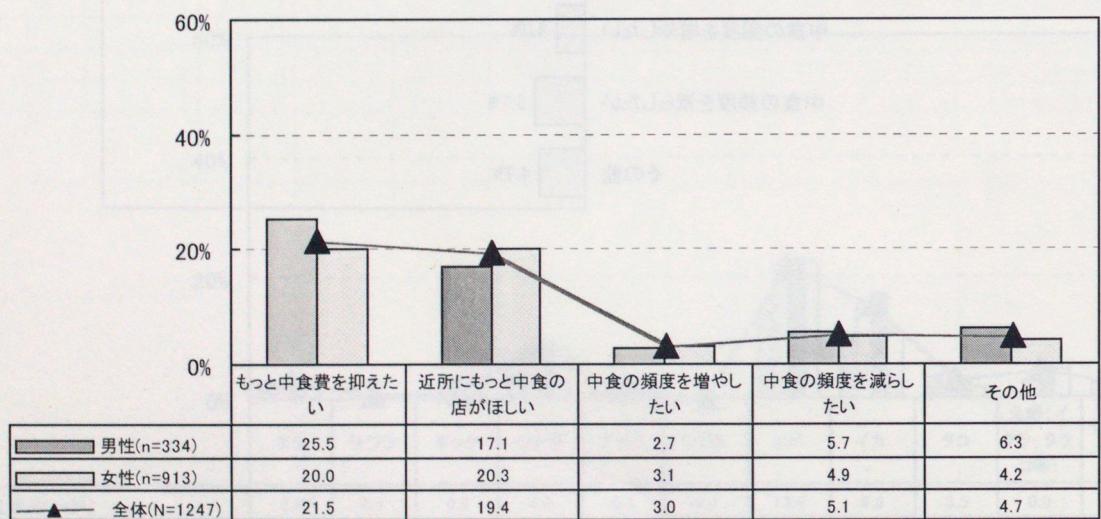
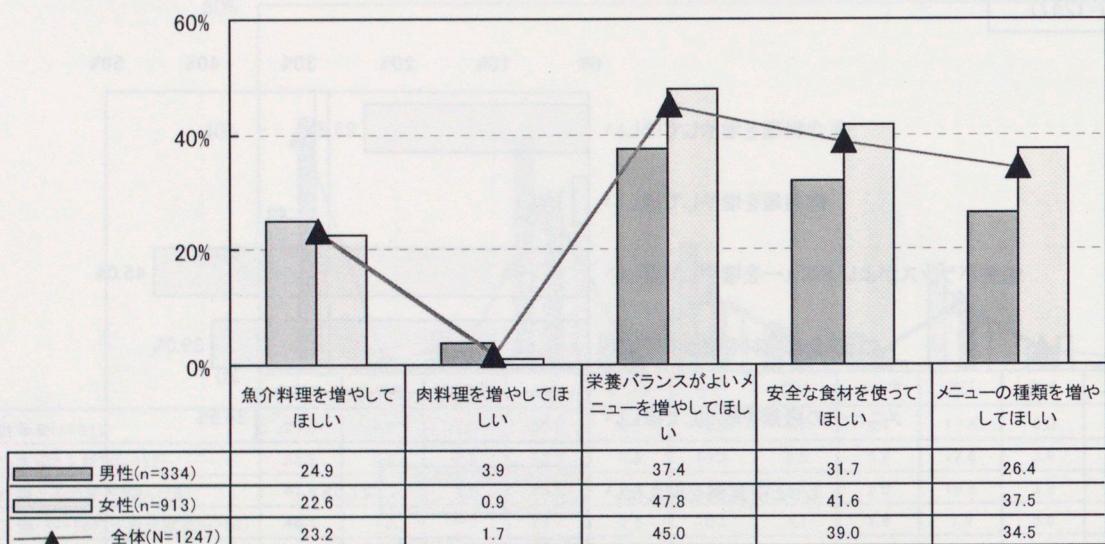


## 2-4-6 中食についての不満・要望 つづき

結果・概不のアフロ食中 9-1-9

○[性別]に見ると、女性の方が「栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい」、「安全な食材を使ってほしい」、「メニューの種類を増やしてほしい」の回答率がやや高いが、性別による差は大きくないといえる。また「魚介料理を増やしてほしい」については、男性・女性ともに、外食の方が若干ではあるが高かった(P96 参照)。

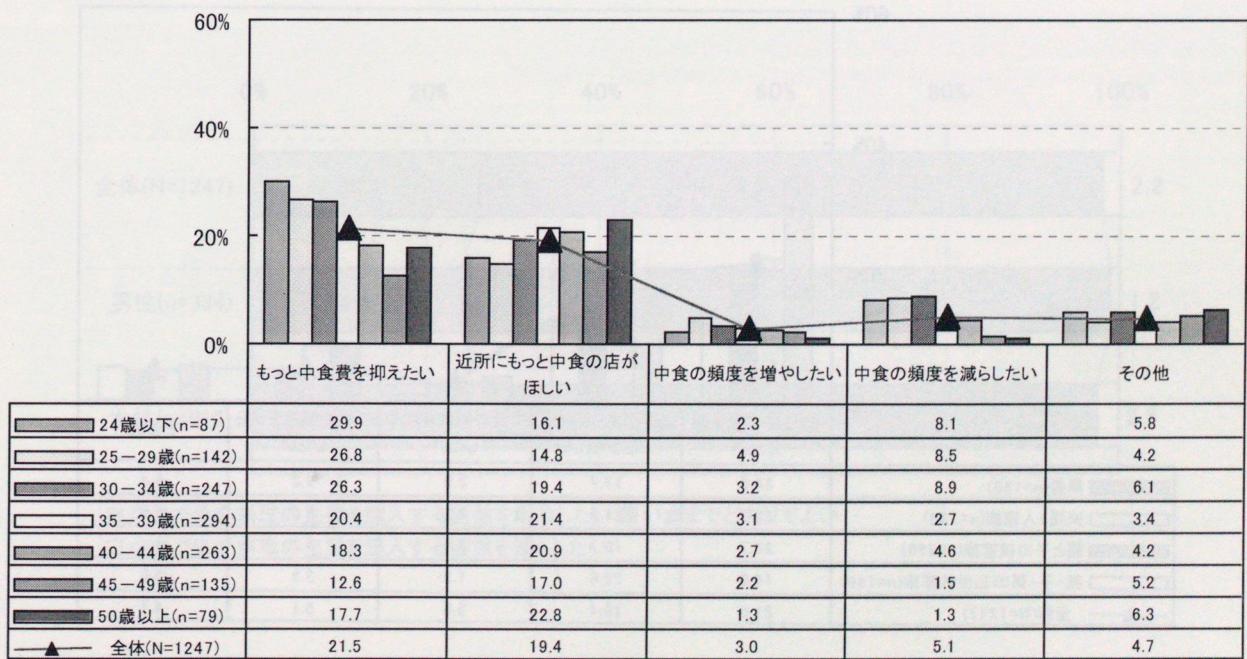
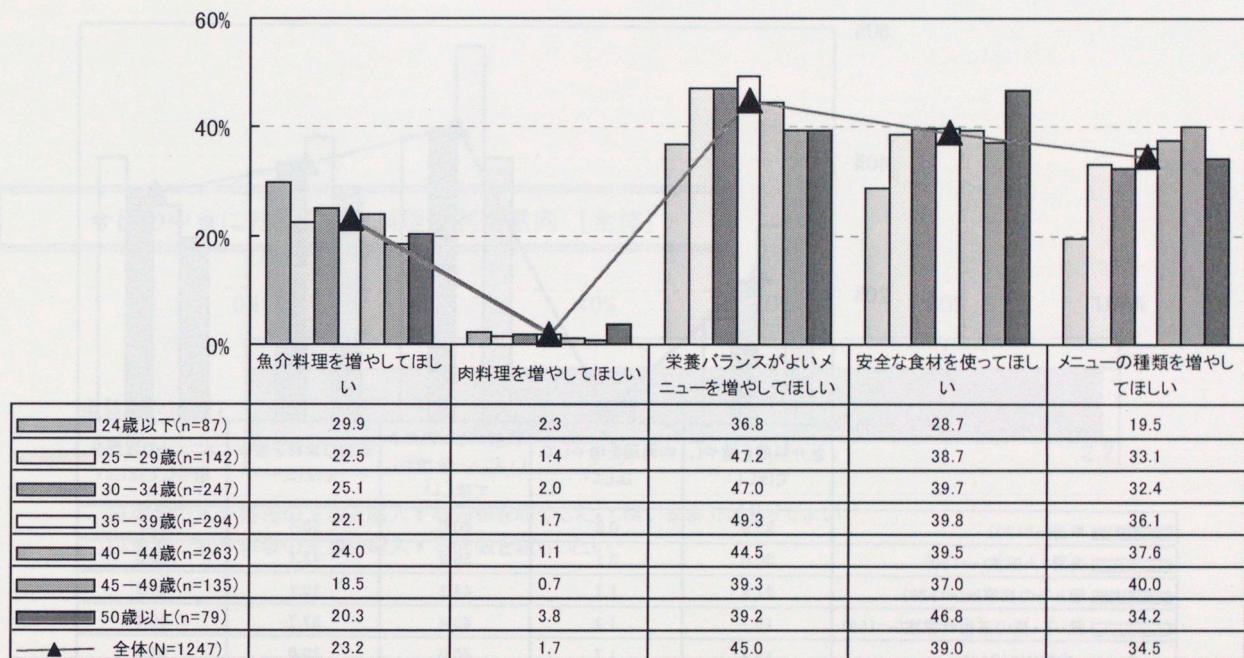
中食についての不満・要望 [性別] (複数回答)



## 2-4-6 中食についての不満・要望 つづき

○[年齢別]に見ると、若年層ほど「もっと中食費を抑えたい」の回答率が高い傾向にある。また、50歳以上では、他の年代と異なり「安全な食材を使ってほしい」が1位となっており、これは外食における不満・要望と同じ傾向である(P97参照)。

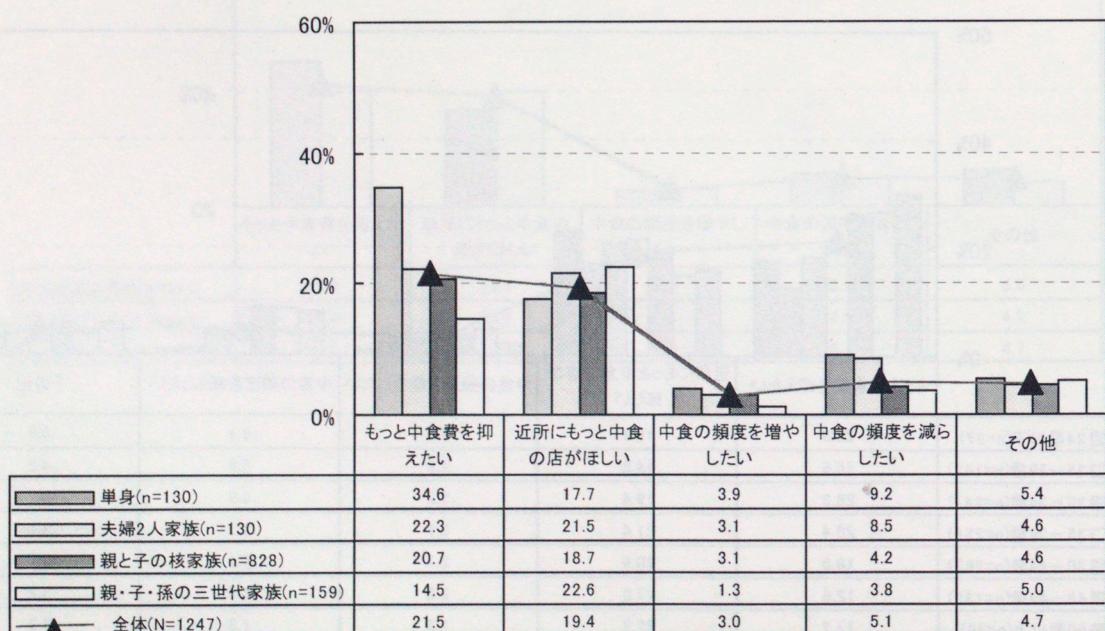
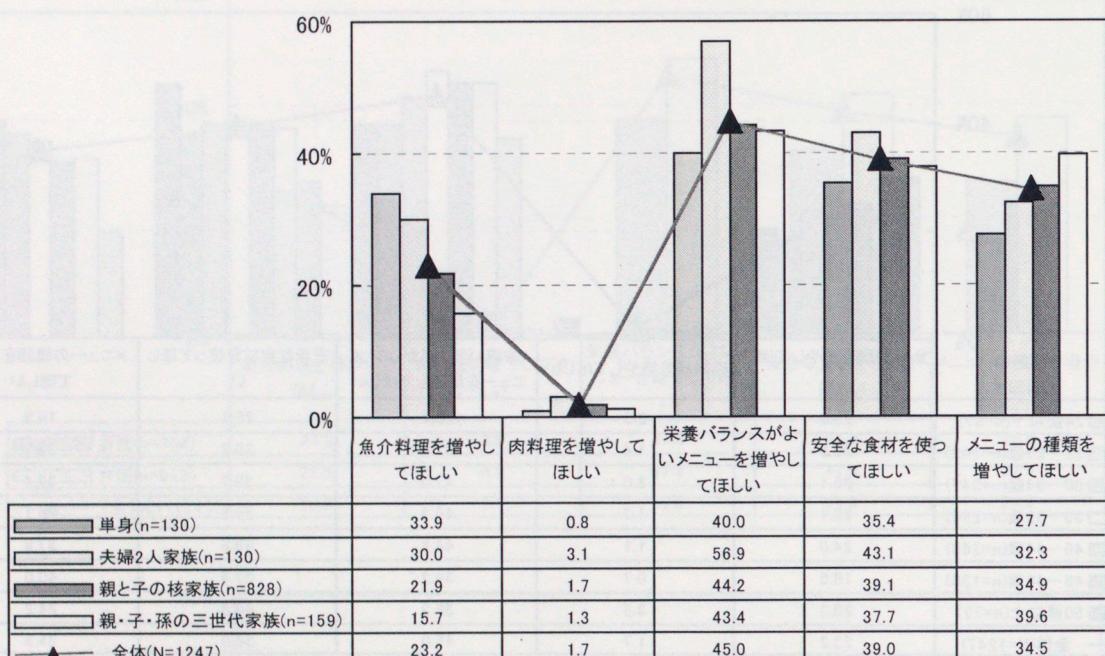
中食についての不満・要望 [年齢別] (複数回答)



## 2-4-6 中食についての不満・要望 つづき

○[家族構成別]に見ると、単身者では「もっと中食費を抑えたい」が他と比較して高くなっている。また、「メニューの種類をもっと増やしてほしい」は親・子・孫の三世代家族で最も高い回答率であった。「魚介料理を増やしてほしい」は、単身者・夫婦2人家族の方が、親と子の核家族、および親・子・孫の三世代家族よりも高くなってしまい、これは外食における不満・要望と同様の傾向であった(P98参照)。

中食についての不満・要望 [家族構成別] (いくつでも)

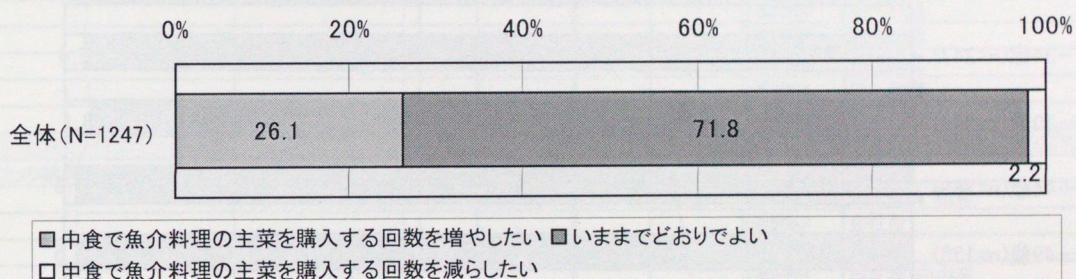


## 2-4-7 今後の中食における魚介料理の利用意向

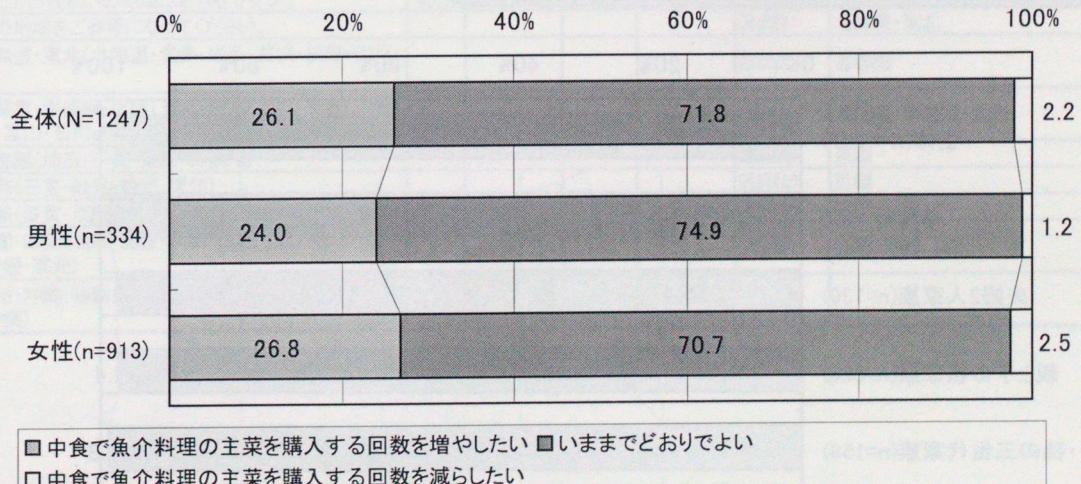
○今後、主菜用中食として魚介料理を購入する回数を増やしたいかどうかを尋ねた。[全体]では、26.1%が「中食で魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたい」と回答しているが、日ごろの食生活および外食と比較すると、最も低い割合となっている(P59、P99参照)。また、「今までどおりでよい」の割合は、日ごろの食生活・外食と比較して中食が最も高く、7割を超える。今後の中食市場における魚介料理のニーズは、内食や外食ほど高いとは言えない。

○[性別]に見ると、男性・女性ともに、外食と比較すると「中食で魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたい」の割合は少なくなっている、とりわけ女性では、外食においては35.1%だった魚介料理の利用意向が、1割弱少なくなっている。

### 今後の中食における魚介料理の利用意向 [全体]



### 今後の中食における魚介料理の利用意向 [性別]

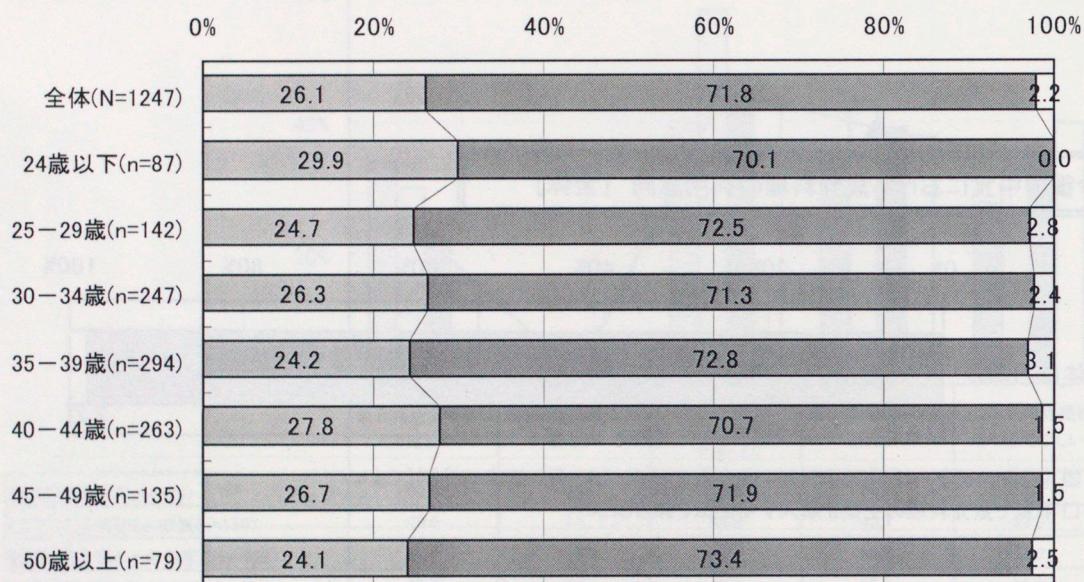


## 2-4-7 今後の中食における魚介料理の利用意向 つづき

○[年齢別]に見ると、24歳以下で「中食で魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたい」の割合が最も多いが、外食での魚介料理の利用意向と比較すると少なくなっており、他のいずれの年代についても同様である(P100参照)。

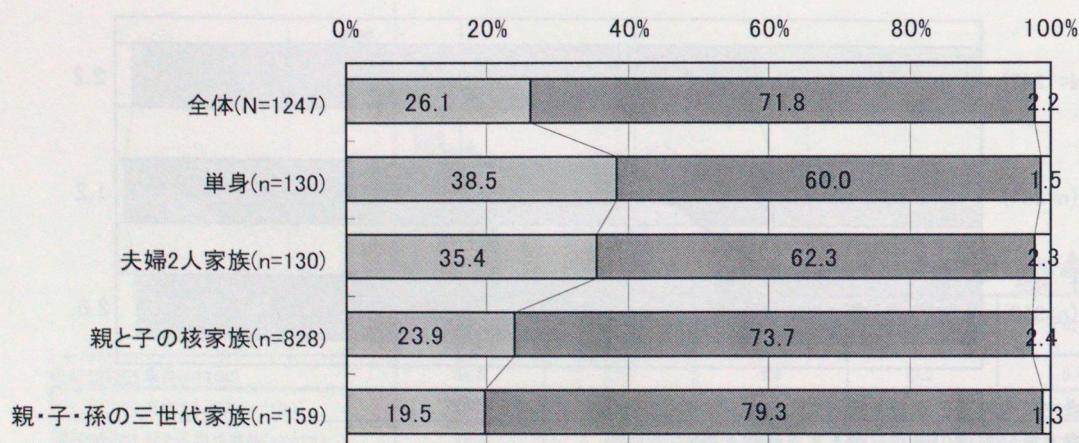
○[家族構成別]に見ると、単身者と夫婦2人家族で「中食で魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたい」が3割を超えるが、とりわけ親・子・孫の三世代家族では2割を切る少ない割合となっている。また、外食の場合は、今後、回数を増やしたいの比率は夫婦2人世帯が最も高かったが、中食の場合は単身者の比率が最も高くなっている(P100参照)。

### 今後の中食における魚介料理の利用意向 [年齢別]



□ 中食で魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたい ■ 今までどおりでよい  
□ 中食で魚介料理の主菜を購入する回数を減らしたい

### 今後の中食における魚介料理の利用意向 [家族構成別]



□ 中食で魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたい ■ 今までどおりでよい  
□ 中食で魚介料理の主菜を購入する回数を減らしたい

### 3. 資料: アンケート調査票

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
	このアンケートは18歳(大学生)以上の方を対象にしています。							
	このアンケートでは、 ※水産物とは、魚介類・海藻類・水産加工品(練り物、缶詰、BIN詰、エビシューーマイなど、原形をとどめない加工品)をすべて含みます。 ※魚介類とは魚と貝類のみを指し、海藻類と水産加工品は含みません。							
	まず、あなたご自身についてお伺いします。							
F1	あなたの性別をお答えください。	必須	単一選択					
					選択肢1	男性	F3にリンク	
					選択肢2	女性	F2にリンク	
F2	あなたには、小学生または中学生のお子さんがいますか。	必須	単一選択					
					選択肢1	いる		
					選択肢2	いない		
F3	あなたの年齢をお答えください。	必須	単一選択					
					選択肢1	24歳以下		
					選択肢2	25~29歳		
					選択肢3	30~34歳		
					選択肢4	35~39歳		
					選択肢5	40~44歳		
					選択肢6	45~49歳		
					選択肢7	50歳以上		
F4	あなたの職業をお答えください。	必須	単一選択					
					選択肢1	会社役員・経営		
					選択肢2	会社員		
					選択肢3	公務員		
					選択肢4	自営業・自由業		
					選択肢5	派遣社員		
					選択肢6	パート・アルバイト		
					選択肢7	専業主婦・主夫		
					選択肢8	学生		
					選択肢9	その他		
					選択肢10	無職(専業主婦・主夫を除く)		
F4FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
F5	あなたのお住まいの地域はどちらですか。	必須	単一選択					
	以下の地域をご参考になってください。				選択肢1	北海道・東北		
	■北海道・東北(北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)				選択肢2	首都圏		
	■北関東・甲信越・北陸(茨城・栃木・群馬・長野・山梨・新潟・富山・石川・福井)				選択肢3	北関東・甲信越・北陸		
	■首都圏(埼玉・千葉・東京・神奈川)				選択肢4	東海		
	■東海(三重・岐阜・静岡・愛知)				選択肢5	近畿		
	■近畿(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)				選択肢6	中国・四国		
	■中国・四国(鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知)				選択肢7	九州・沖縄		
	■九州・沖縄(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)							

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
F6	同居しているご家族(自分を含めて)は合計何人ですか。	必須	単一選択					
						選択肢1	1人	
						選択肢2	2人	
						選択肢3	3人	
						選択肢4	4人	
						選択肢5	5人	
						選択肢6	6人以上	
F7	あなたのご家族の構成(自分を含めて)をお答えください。	必須	単一選択					
						選択肢1	単身	
						選択肢2	夫婦2人家族	
						選択肢3	親と子の核家族	
						選択肢4	親・子・孫の三世代家族	
						選択肢5	その他	
F7FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
F8	あなたの家庭の税込み年収(世帯年収)はおおよそどれくらいですか。	任意	単一選択					
						選択肢1	200万円未満	
						選択肢2	200万円～300万円未満	
						選択肢3	300万円～400万円未満	
						選択肢4	400万円～500万円未満	
						選択肢5	500万円～600万円未満	
						選択肢6	600万円～700万円未満	
						選択肢7	700万円～800万円未満	
						選択肢8	800万円～900万円未満	
						選択肢9	900万円～1000万円未満	
						選択肢10	1000万円以上	
問1	あなたの日ごろの食生活についてお伺いします。 日ごろ、食事の主菜は、魚介料理と肉料理のどちらが多いですか。(1つだけ)	必須	単一選択					
						選択肢1	肉料理の方が多い	問2にリンク
						選択肢2	どちらかというと肉料理の方が多い	問2にリンク
						選択肢3	ほぼ半々	問4にリンク
						選択肢4	どちらかというと魚介料理の方が多い	問4にリンク
						選択肢5	魚介料理の方が多い	問4にリンク
問2	問1で「肉料理の方が多い」または「どちらかというと肉料理の方が多い」を選んだ方にうかがいます。	必須	複数選択					
						選択肢1	自分が魚介類を好まないから	問4にリンク
						選択肢2	同居の家族が魚介類を好まないから	問3にリンク
						選択肢3	魚の骨を取り除くのが面倒だから	
						選択肢4	近くに信頼できる鮮魚販売店がないから	
						選択肢5	魚介料理は調理が面倒だから	
						選択肢6	魚介の調理法を知らないから	
						選択肢7	魚焼きグリルを洗うのが大変だから	
						選択肢8	近くに美味しい魚介料理の店がないから	
						選択肢9	肉より割高だから	
						選択肢10	魚介料理は満腹感を得られないから	
						選択肢11	近くに魚介を使った惣菜を売る店がないから	
						選択肢12	その他	
問2FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
	問2にて「同居の家族が魚介類を好まないから」と答えた方にお聞きします。							
問3	どなたが魚介類を好まないのですか。(いくつでも)	必須	複数選択			選択肢1	子ども	
						選択肢2	夫または妻	
						選択肢3	父	
						選択肢4	母	
						選択肢5	その他	
問3FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問4	日ごろ、 <b>水産物</b> をどれくらい食べていますか。朝・昼・夕の各食事別に水産物を使った料理を食べる回数を、次のの中から選んでください。(それぞれ1つずつ)	必須	単一選択					
				項目1	朝食	選択肢1	[ほぼ毎日]	・全て選択肢7を選択→問6へ ・それ以外→問5へ
				項目2	昼食	選択肢2	週4~5日	
				項目3	夕食	選択肢3	週2~3日	
						選択肢4	週1日	
						選択肢5	月2~3回	
						選択肢6	月1回以下	
						選択肢7	全く食べない	
問5	日ごろ、よく購入する水産物を選んでください。(魚介類・海藻類・水産加工品の中から合計5つまで)	必須	複数選択					
	<魚介類(一尾もの・切り身・干物を含む)>					選択肢1	マグロ	
						選択肢2	カジキ(カジキマグロ、メカジキなど)	
						選択肢3	カツオ	
						選択肢4	サケ	
						選択肢5	イワシ	
						選択肢6	サバ	
						選択肢7	ブリ	
						選択肢8	サンマ	
						選択肢9	アジ	
						選択肢10	タイ	
						選択肢11	カレイ	
						選択肢12	タラ	
						選択肢13	サワラ	
						選択肢14	ホッケ	
						選択肢15	ウナギ	
						選択肢16	アサリ	
						選択肢17	シジミ	
						選択肢18	エビ	
						選択肢19	イカ	
						選択肢20	タコ	
						選択肢21	魚卵(イクラ、タラコなど)	
						選択肢22	その他の魚介類	
	<海藻類>					選択肢23	コンブ	
						選択肢24	ワカメ	
						選択肢25	ヒジキ	
						選択肢26	その他の海藻類	
	<水産加工品>					選択肢27	かまぼこ・ちくわ・さつまあげ等の練り製品	
						選択肢28	缶詰・びん詰	
						選択肢29	佃煮	
						選択肢30	冷凍食品・インスタント食品・レトルト食品	
						選択肢31	その他の水産加工品	
						選択肢32	水産物はほとんど買わない	
問5FA1	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問5FA2	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問5FA3	その他自由記述	条件必須	自由記述					

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
問6	あなたの1か月の食費は、平均いくらくらいですか。「食品購入費(食材・食料品・調理食品の購入費)」と「外食」に分けてお答えください。(それぞれ1つずつ)	必須	単一選択					
	※2人以上の家庭の場合は、一人あたりに換算してください。また、詳細が不明の場合は概算で算出してください。			項目1	食品購入費	選択肢1	3000円未満	
				項目2	外食費	選択肢2	3000円～5000円未満	
						選択肢3	5000円～7500円未満	
						選択肢4	7500円～1万円未満	
						選択肢5	1万円～1万5000円未満	
						選択肢6	1万5000円～2万円未満	
						選択肢7	2万円以上	
	※食品購入費には、食材・食料品・調味料・調理食品・惣菜・コンビニの弁当・駅弁を含み、飲み物は除く。							
	※外食費には、コンパ・宴会費、出前利用、社員食堂利用、学校給食費を含む。ただし飲み物は除く。							
問7	日ごろの食生活について、不満に感じていることや改善したいことは何ですか。特に強く感じていることをいくつでも選んでください。	必須	複数選択					
						選択肢1	自分で調理する回数を増やしたい	
						選択肢2	三食を決まった時間にきちんと食べたい	
						選択肢3	栄養バランスがよいメニューを知りたい	
						選択肢4	店頭で、食材の調理法や適したメニューを教えてほしい	
						選択肢5	ふだん使わない食材を料理に使ってみたい	
						選択肢6	安全な食材を使いたい	
						選択肢7	好き嫌いを減らしたい	
						選択肢8	食事の時間がバラバラなので家族一緒に食事をする回数を増やしたい	
						選択肢9	もっと便利なインスタント食品やレトルト食品がほしい	
						選択肢10	満足できる食料品店が近所にならない	
						選択肢11	外食の頻度を増やしたい	
						選択肢12	近所にもっといろいろな外食の店がほしい	
						選択肢13	中食(惣菜や弁当を買ってきて家で食べる)の頻度を増やしたい	
						選択肢14	店で売っている惣菜・弁当の種類を増やしてほしい	
						選択肢15	その他(食生活について不満に感じていることや改善したいことを自由に記入してください)	
						選択肢16	特になし	
問7FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問8	あなたは今後(も)、日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を増やしたいと思いますか。(1つだけ)	必須	単一選択					
						選択肢1	日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を増やしたい	
						選択肢2	いままでどおりでよい	
						選択肢3	日ごろの食事で魚介料理を食べる回数を減らしたい	

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
	外食での水産物の消費状況について伺います。							
問9	あなたは日ごろ、朝・昼・夕の各食事別にどのくらい外食をしていますか。(それぞれ1つずつ)	必須	単一選択					
	※外食には、コンパ・宴会、出前利用、社員食堂利用、学校給食利用を含む。ただし飲み物は除く。			項目1	朝食	選択肢1	ほぼ毎日	・項目1にて選択肢1～6 →問10 ・項目2にて選択肢1～6 →問11 ・項目3にて選択肢1～6 →問12 ・項目1～3全て選択肢7→問13
				項目2	昼食	選択肢2	週4～5日	
				項目3	夕食	選択肢3	週2～3日	
						選択肢4	週1日	
						選択肢5	月2～3日	
						選択肢6	月1回以下	
						選択肢7	全く外食しない	
問10	朝食時に外食する場合の1人分1回あたりの平均支払う金額を選んでください。(1つだけ)	必須	単一選択					
	※外食には、コンパ・宴会、出前利用、社員食堂利用、学校給食利用を含む。ただし飲み物は除く。					選択肢1	300円未満	問9において ・項目2にて選択肢1～6 →問11 ・項目3にて選択肢1～6 →問12 ・項目2～3全て選択肢7→問13
						選択肢2	300～500円未満	
						選択肢3	500～750円未満	
						選択肢4	750～1000円未満	
						選択肢5	1000～1500円未満	
						選択肢6	1500円以上	
問11	昼食時に外食する場合の1人分1回あたりの平均支払う金額を選んでください。(1つだけ)	必須	単一選択					
	※外食には、コンパ・宴会、出前利用、社員食堂利用、学校給食利用を含む。ただし飲み物は除く。					選択肢1	500円未満	問9において ・項目3にて選択肢1～6 →問12 ・項目3にて選択肢7→問13
						選択肢2	500～750円未満	
						選択肢3	750～1000円未満	
						選択肢4	1000～1500円未満	
						選択肢5	1500～2000円未満	
						選択肢6	2000～3000円未満	
						選択肢7	3000円以上	
問12	夕食時に外食する場合の1人分1回あたりの平均支払う金額を選んでください。(1つだけ)	必須	単一選択					
	※外食には、コンパ・宴会、出前利用、社員食堂利用、学校給食利用を含む。ただし飲み物は除く。					選択肢1	750円未満	
						選択肢2	750～1000円未満	
						選択肢3	1000～2000円未満	
						選択肢4	2000～3000円未満	
						選択肢5	3000～4000円未満	
						選択肢6	4000～5000円未満	
						選択肢7	5000円以上	

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
	問13 あなたが夕食で外食をするときによく利用する飲食店はどこですか。(5つまで)そのうち最もよく利用する飲食店はどこですか。(ひとつだけ)							
問13-1	よく利用(5つまで)	必須	複数選択			選択肢1	社員食堂・学食	
						選択肢2	ファミリーレストラン	
						選択肢3	居酒屋	
						選択肢4	定食屋	
						選択肢5	回転寿司	
						選択肢6	焼き鳥屋・串焼き店	
						選択肢7	和食・寿司(回転寿司以外)・日本料理店	
						選択肢8	焼肉・韓国料理	
						選択肢9	中華料理店	
						選択肢10	フレンチ、イタリアンなど洋食店	
						選択肢11	アジア料理、エスニック料理店	
						選択肢12	ラーメン店	
						選択肢13	そば・うどん店	
						選択肢14	パスタ専門店	
						選択肢15	ハンバーガー、チキン系ファーストフード	
						選択肢16	カフェ・喫茶店	
						選択肢17	カレー専門店	
						選択肢18	食べ放題の店	
						選択肢19	その他	
問13FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問13-2	最も利用(1つだけ)	必須	単一選択			選択肢1	社員食堂・学食	
						選択肢2	ファミリーレストラン	
						選択肢3	居酒屋	
						選択肢4	定食屋	
						選択肢5	回転寿司	
						選択肢6	焼き鳥屋・串焼き店	
						選択肢7	和食・寿司(回転寿司以外)・日本料理店	
						選択肢8	焼肉・韓国料理	
						選択肢9	中華料理店	
						選択肢10	フレンチ、イタリアンなど洋食店	
						選択肢11	アジア料理、エスニック料理店	
						選択肢12	ラーメン店	
						選択肢13	そば・うどん店	
						選択肢14	パスタ専門店	
						選択肢15	ハンバーガー、チキン系ファーストフード	
						選択肢16	カフェ・喫茶店	
						選択肢17	カレー専門店	
						選択肢18	食べ放題の店	
						選択肢19	その他	

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
問14	あなたが夕食で外食するときは、魚介料理と肉料理のどちらが多いですか。(1つだけ)	必須	単一選択					
						選択肢1	肉料理の方が多い	問16にリンク
						選択肢2	どちらかというと肉料理の方が多い	問16にリンク
						選択肢3	ほぼ半々	問16にリンク
						選択肢4	どちらかというと魚介料理の方が多い	問15にリンク
						選択肢5	魚介料理の方が多い	問15にリンク
	問14で「魚介料理の方が多い」または「どちらかというと魚介料理の方が多い」と回答した方に伺います。							
問15	それは何故ですか。主な理由を選んでください。(2つまで)	必須	複数選択					
						選択肢1	肉料理を好まないから	
						選択肢2	肉料理より割安だから	
						選択肢3	栄養バランスが肉料理より優れているから	
						選択肢4	魚介料理はヘルシーだから	
						選択肢5	魚介料理は家で調理するのが面倒だから	
						選択肢6	肉料理より安全だから	
						選択肢7	近くに美味しい魚介料理のお店があるから	
						選択肢8	その他	
問15FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問16	夕食で外食するときに、よく食べる魚介料理は何ですか。(3つまで)	必須	複数選択					
						選択肢1	寿司	
						選択肢2	刺し身	
						選択肢3	焼き魚	
						選択肢4	煮付け・煮込み	
						選択肢5	蒸しもの	
						選択肢6	ムニエル	
						選択肢7	揚げもの	
						選択肢8	サラダ・マリネ	
						選択肢9	炒めもの	
						選択肢10	和え物	
						選択肢11	パスタ料理	
						選択肢12	みそ汁・スープ	
						選択肢13	サンドイッチ、ハンバーガー	
						選択肢14	カレー・料理	
						選択肢15	その他	
						選択肢16	夕食で魚介料理は食べない	問19にリンク
問16FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
問17	その外食(夕食)で魚介料理を食べるときの、各料理別の1人分1回あたりの平均支払い金額もお答えください。(それぞれ1つずつ)	必須	単一選択					
				項目1	寿司	選択肢1	750円未満	
				項目2	刺し身	選択肢2	750~1000円未満	
				項目3	焼き魚	選択肢3	1000~2000円未満	
				項目4	煮付け・煮込み	選択肢4	2000~3000円未満	
				項目5	蒸しもの	選択肢5	3000~4000円未満	
				項目6	ムニエル	選択肢6	4000~5000円未満	
				項目7	揚げもの	選択肢7	5000円以上	
				項目8	サラダ・マリネ			
				項目9	炒めもの			
				項目10	和え物			
				項目11	パスタ料理			
				項目12	みそ汁・スープ			
				項目13	サンドイッチ・パン・バーガー			
				項目14	カレー料理			
				項目15	その他			
問18	また、夕食の外食でよく食べる魚介の種類は何ですか。(2つまで)	必須	複数選択					
					選択肢1	マグロ		
					選択肢2	カジキ(カジキマグロ、メカジキなど)		
					選択肢3	カツオ		
					選択肢4	サケ		
					選択肢5	イワシ		
					選択肢6	サバ		
					選択肢7	ブリ		
					選択肢8	サンマ		
					選択肢9	アジ		
					選択肢10	タイ		
					選択肢11	カレイ		
					選択肢12	タラ		
					選択肢13	サワラ		
					選択肢14	ホッケ		
					選択肢15	ウナギ		
					選択肢16	アサリ		
					選択肢17	シジミ		
					選択肢18	エビ		
					選択肢19	イカ		
					選択肢20	タコ		
					選択肢21	魚卵(イクラ、タラコなど)		
					選択肢22	その他の魚介類		
問18FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
問19	外食全般について、不満に感じていることや改善したいことは何ですか。特に強く感じていることをいくつでも選んでください。	必須	複数選択					
						選択肢1	魚介料理を増やしてほしい	
						選択肢2	肉料理を増やしてほしい	
						選択肢3	栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい	
						選択肢4	安全な食材を使ってほしい	
						選択肢5	メニューの種類を増やしてほしい	
						選択肢6	もっと外食費を抑えたい	
						選択肢7	近所にもっといろいろな外食の店がほしい	
						選択肢8	外食の頻度を増やしたい	
						選択肢9	外食の頻度を減らしたい	
						選択肢10	その他(外食について不満に感じていることや改善したいことを自由に記入してください)	
問19FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問20	あなたは今後(も)、外食で、魚介料理の主菜を食べる回数を増やしたいと思いますか。(1つだけ)	必須	単一選択					
						選択肢1	外食で魚介料理の主菜を食べる回数を増やしたい	
						選択肢2	いままでどおりでよい	
						選択肢3	外食で魚介料理の主菜を食べる回数を減らしたい	
	中食での水産物の消費状況について伺います。							
問21	あなたは日ごろ、どのくらい中食を利用していますか。 朝・昼・夕の各食事別に中食の回数をお答えください。 (それぞれ1つずつ)	必須	単一選択					
	※中食とは、惣菜や持ち帰り弁当、ファーストフードなどそのまま食事として食べられるように調理されたものを買ってきて家で食べること(下ごしらえされた切り身フライ等を家で調理する場合は含まない)。ホームパーティなどでの利用を含む。ただし飲み物は除く			項目1	朝食	選択肢1	ほぼ毎日	・項目1にて 選択肢1～6 →問22-1 ・項目2にて 選択肢1～6 →問23-1 ・項目3にて 選択肢1～6 →問24-1 ・項目1～3全て選択肢7→ 問25
				項目2	昼食	選択肢2	週4～5日	
				項目3	夕食	選択肢3	週2～3日	
						選択肢4	週1日	
						選択肢5	月2～3日	
						選択肢6	月1回以下	
						選択肢7	全く中食を購入しない	
問22	朝食時に、中食を利用する場合の1人分1回あたりの平均支払い金額を選んでください。「惣菜単品」と「弁当(まるごと1個の金額)」の場合とそれぞれお答えください。	必須	単一選択			選択肢1	100円未満	
問22-1	<惣菜単品の場合>	必須	単一選択			選択肢2	100～300円未満	
						選択肢3	300～500円未満	
						選択肢4	500～750円未満	
						選択肢5	750～1000円未満	
						選択肢6	1000円以上	
						選択肢7	惣菜は購入しない	
問22-2	<弁当(まるごと1個の金額)の場合>	必須	単一選択			選択肢1	300円未満	問21にて ・項目2にて 選択肢1～6 →問23-1 ・項目3にて 選択肢1～6 →問24-1 ・項目1～3全て選択肢7→ 問25
						選択肢2	300～500円未満	
						選択肢3	500～750円未満	
						選択肢4	750～1000円未満	
						選択肢5	1000～1500円未満	
						選択肢6	1500円以上	
						選択肢7	弁当は購入しない	

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
	問23 昼食時に、中食を利用する場合の1人分1回あたりの平均支払い金額を選んでください。「惣菜単品」と「弁当(まるごと1個の金額)」の場合とそれぞれお答えください。							
問23-1	<惣菜単品の場合>	必須	単一選択			選択肢1	100円未満	
						選択肢2	100～300円未満	
						選択肢3	300～500円未満	
						選択肢4	500～750円未満	
						選択肢5	750～1000円未満	
						選択肢6	1000円以上	
						選択肢7	惣菜は購入しない	
問23-2	<弁当(まるごと1個の金額)の場合>	必須	単一選択			選択肢1	300円未満	問21にて ・項目3にて 選択肢1～6 →問24-1 ・項目1～3全て選択肢7→ 問25
						選択肢2	300～500円未満	
						選択肢3	500～750円未満	
						選択肢4	750～1000円未満	
						選択肢5	1000～1500円未満	
						選択肢6	1500円以上	
						選択肢7	弁当は購入しない	
	問24 夕食時に、中食を利用する場合の1人分1回あたりの平均支払い金額を選んでください。「惣菜単品」と「弁当(まるごと1個の金額)」の場合とそれぞれお答えください。							
問24-1	<惣菜単品の場合>	必須	単一選択			選択肢1	100円未満	
						選択肢2	100～300円未満	
						選択肢3	300～500円未満	
						選択肢4	500～750円未満	
						選択肢5	750～1000円未満	
						選択肢6	1000円以上	
						選択肢7	惣菜は購入しない	
問24-2	<弁当(まるごと1個の金額)の場合>	必須	単一選択			選択肢1	300円未満	
						選択肢2	300～500円未満	
						選択肢3	500～750円未満	
						選択肢4	750～1000円未満	
						選択肢5	1000～1500円未満	
						選択肢6	1500円以上	
						選択肢7	弁当は購入しない	

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
	問25 あなたが中食を購入するときによく利用する店はどこですか。(3つまで)そのうち最もよく利用する店はどこですか。(ひとつだけ)							
問25-1	よく利用する(3つまで)	必須	複数選択		選択肢1	コンビニ		
					選択肢2	デパ地下		
					選択肢3	スーパーマーケット		
					選択肢4	惣菜・弁当専門店		
					選択肢5	ハンバーガー、チキン系ファーストフード店		
					選択肢6	地元商店街		
					選択肢7	生協		
					選択肢8	その他		
					選択肢9	中食は購入しない		
問25FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問25-2	最も利用する(1つだけ)	必須	単一選択		選択肢1	コンビニ		
					選択肢2	デパ地下		
					選択肢3	スーパーマーケット		
					選択肢4	惣菜・弁当専門店		
					選択肢5	ハンバーガー、チキン系ファーストフード店		
					選択肢6	地元商店街		
					選択肢7	生協		
					選択肢8	その他		
問26	あなたが主菜用の中食を購入するときは、魚介料理と肉料理のどちらが多いですか。(1つだけ)	必須	単一選択		選択肢1	肉料理の方が多い	問28にリンク	
					選択肢2	どちらかというと肉料理の方が多い	問28にリンク	
					選択肢3	ほぼ半々	問28にリンク	
					選択肢4	どちらかというと魚介料理の方が多い	問27にリンク	
					選択肢5	魚介料理の方が多い	問27にリンク	
	問26で「魚介料理の方が多い」または「どちらかというと魚介料理の方が多い」と回答した方にうかがいます。							
問27	それは何故ですか。主な理由を選んでください。(2つまで)	必須	複数選択		選択肢1	肉料理を好まないから		
					選択肢2	肉料理より割安だから		
					選択肢3	栄養バランスが肉料理より優れているから		
					選択肢4	魚介料理はヘルシーだから		
					選択肢5	魚介料理を家で調理するのが面倒だから		
					選択肢6	肉料理より安全だから		
					選択肢7	近くに美味しい魚介惣菜のお店があるから		
					選択肢8	その他		
問27FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
問28	主菜用の中食でよく購入する魚介料理は何ですか。(3つまで)	必須	複数選択					
					選択肢1	寿司		
					選択肢2	刺し身		
					選択肢3	焼き魚		
					選択肢4	煮付け・煮込み		
					選択肢5	蒸しもの		
					選択肢6	ムニエル		
					選択肢7	揚げもの		
					選択肢8	サラダ・マリネ		
					選択肢9	炒めもの		
					選択肢10	和え物		
					選択肢11	パスタ料理		
					選択肢12	みそ汁・スープ		
					選択肢13	サンドイッチ、ハンバーガー		
					選択肢14	カレー料理		
					選択肢15	その他		
					選択肢16	中食で魚介料理は食べない	問31にリンク	
問28FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問29-1	<惣菜単品の場合>	必須	単一選択	項目1	寿司	選択肢1	300円未満	
				項目2	刺し身	選択肢2	300~500円未満	
				項目3	焼き魚	選択肢3	500~750円未満	
				項目4	煮付け・煮込み	選択肢4	750~1000円未満	
				項目5	蒸しもの	選択肢5	1000~1500円未満	
				項目6	ムニエル	選択肢6	1500~2000円未満	
				項目7	揚げもの	選択肢7	2000円以上	
				項目8	サラダ・マリネ	選択肢8	惣菜は購入しない	
				項目9	炒めもの			
				項目10	和え物			
				項目11	パスタ料理			
				項目12	みそ汁・スープ			
				項目13	サンドイッチ、ハンバーガー			
				項目14	カレー料理			
				項目15	その他			
問29-2	<弁当(まるごと1個の金額)の場合>	必須	単一選択					
				項目1	寿司	選択肢1	500円未満	
				項目2	刺し身	選択肢2	500~750円未満	
				項目3	焼き魚	選択肢3	750~1000円未満	
				項目4	煮付け・煮込み	選択肢4	1000~1500円未満	
				項目5	蒸しもの	選択肢5	1500~2000円未満	
				項目6	ムニエル	選択肢6	2000~3000円未満	
				項目7	揚げもの	選択肢7	3000円以上	
				項目8	サラダ・マリネ	選択肢8	弁当(まるごと1個の金額)は購入しない	
				項目9	炒めもの			
				項目10	和え物			
				項目11	パスタ料理			
				項目12	みそ汁・スープ			
				項目13	サンドイッチ、ハンバーガー			
				項目14	カレー料理			
				項目15	その他			

問題番号	設問	必須・任意	選択形式	表行番号	表行項目	選択肢番号	選択肢	リンク先指定
問30	また、中食でよく食べる魚介の種類は何ですか。(2つまで)	必須	複数選択			選択肢1	マグロ	
						選択肢2	カジキ(カジキマグロ、メカジキなど)	
						選択肢3	カツオ	
						選択肢4	サケ	
						選択肢5	イワシ	
						選択肢6	サバ	
						選択肢7	ブリ	
						選択肢8	サンマ	
						選択肢9	アジ	
						選択肢10	タイ	
						選択肢11	カレイ	
						選択肢12	タラ	
						選択肢13	サワラ	
						選択肢14	ホッケ	
						選択肢15	ウナギ	
						選択肢16	アサリ	
						選択肢17	シジミ	
						選択肢18	エビ	
						選択肢19	イカ	
						選択肢20	タコ	
						選択肢21	魚卵(イクラ、タラコなど)	
						選択肢22	その他の魚介類	
問30FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問31	中食の利用に関して、不満に感じていることや改善したいことは何ですか。特に強く感じていることをいくつでも選んでください。	必須	複数選択			選択肢1	魚介料理を増やしてほしい	
						選択肢2	肉料理を増やしてほしい	
						選択肢3	栄養バランスがよいメニューを増やしてほしい	
						選択肢4	安全な食材を使ってほしい	
						選択肢5	メニューの種類を増やしてほしい	
						選択肢6	もっと中食費を抑えたい	
						選択肢7	近所にもっといろいろな中食の店がほしい	
						選択肢8	中食の頻度を増やしたい	
						選択肢9	中食の頻度を減らしたい	
						選択肢10	その他(中食について不満に感じていることや改善したいことを自由に記入してください。)	
問31FA	その他自由記述	条件必須	自由記述					
問32	あなたは今後(も)、中食を利用するときに、魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたいと思いますか。(1つだけ)	必須	単一選択			選択肢1	中食で魚介料理の主菜を購入する回数を増やしたい	
						選択肢2	いままでどおりでよい	
						選択肢3	中食で魚介料理の主菜を購入する回数を減らしたい	
	(ご協力ありがとうございました。)							

平成17年度 水産庁補助事業  
水産物安全・安心消費推進対策事業  
(水産物消費嗜好動向調査)

水産物を中心とした消費に関する調査  
(内食・外食・中食における消費実態とニーズ)

平成18年3月発行

発行 社団法人 大日本水産会

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目9番13号  
三会堂ビル8階  
電話 (03)3585-6681 (代表)

